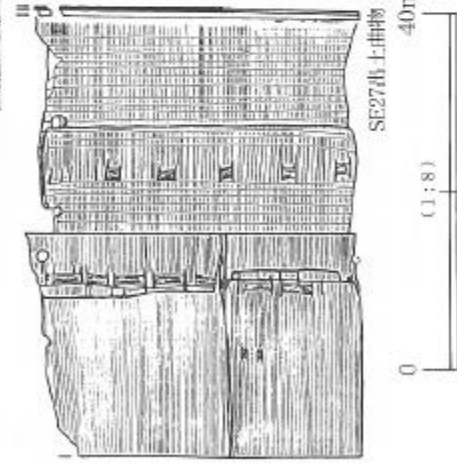
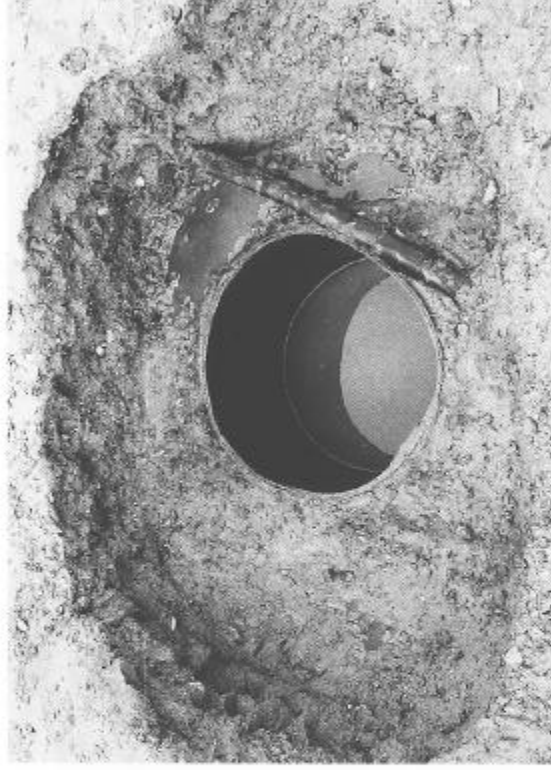
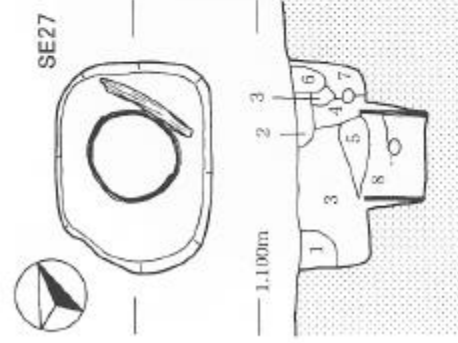


第4節 検出遺構



SE27全景(東→)

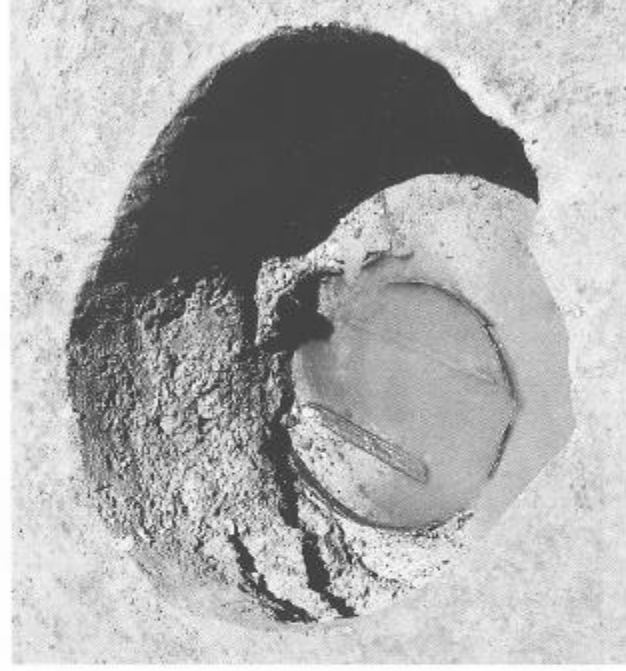
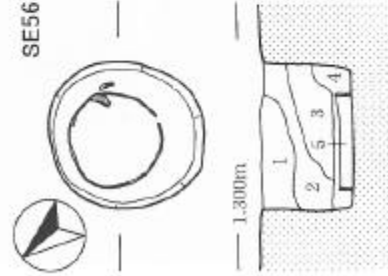
曲物筋の材は樹皮付の自然木、桶状であったか否か不明、他に部材は未検出

SE27

- 1.褐色(1.0YR4/6)砂層、雫・小礫5%含む、人為堆積か、地山と同じ
- 2.暗褐色(1.0YR3/4)砂層、小礫5%・炭化物1%・砂1%含む
- 3.暗褐色(1.0YR3/3)砂層、炭化物3%・砂をプロック状に2%・小礫1%含む
- 4.黒褐色(1.0YR3/2)砂層、炭化物1%・小礫1%含む
- 5.黒褐色(1.0YR3/1)砂層、砂をプロック状に5%・炭化物1%・小礫1%含む
- 6.黒褐色(1.0YR3/2)砂層、炭化物2%・砂をプロック状に2%含む
- 7.暗褐色(1.0YR3/4)砂層、砂をプロック状に15%・炭化物5%含む
- 8.黒褐色(1.0YR3/2)砂層、炭化物2%・砂をプロック状に1%含む

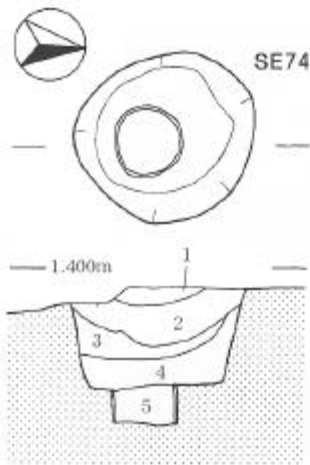
SE56

- 1.黒褐色(1.0YR3/2)シルト層、褐色地山を頂状に10%・炭化物1%・小礫少量含む
- 2.黒褐色(1.0YR3/1)シルト層、地山15%・炭化物1%・小礫微量含む
- 3.黒褐色(1.0YR3/2)シルト層、地山67%・7%・小礫1%含む
- 4.黒色(7.5Y2/1)シルト層、しまり胡、暗緑灰色地山30%・炭化物1%・小礫少量含む
- 5.褐色土(1.0YR4/4)砂層



SE56全景(西→)

第161図 井戸跡E型(1) SE27・56



SE74

- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層,しまり強,小礫5%・炭化物2%含む
- 2.黒褐色(10YR3/2)シルト層,地山を筋状に15%・泥炭土を斑状に10%含む
- 3.黒褐色(10YR3/2)砂層,小礫5%・地山を斑状に3%・炭化物1%含む
- 4.暗灰黄色(2.5Y4/2)砂層,しまり弱,炭化物少量・小礫少量含む
- 5.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層,しまり弱,小礫5%・黒色土の泥炭土を斑状に5%含む

SE168

- 1.褐色(10YR4/4)砂層[裏込土],しまり弱,黒色土2%含む
- 2.黒色(N2/0)シルト層,グライ化地山を斑状に10%含む
- 3.オリーブ黒色土(7.5Y3/1)砂層,地山を斑状に20%含む
- 4.黒色(N2/0)シルト層,地山を斑状に2%含む
- 5.灰オリーブ色(7.5Y4/2)砂層,地山

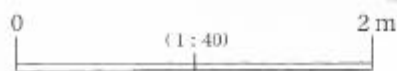
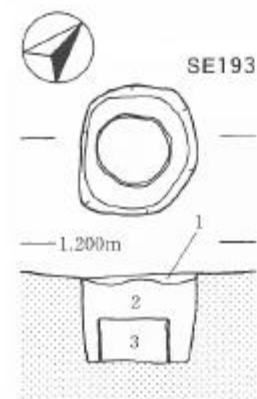
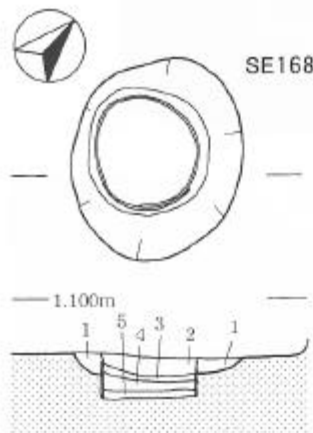
SE193

- 1.暗オリーブ灰色(2.5GY3/D)砂層,しまり強,地山10%・炭化物2%含む
- 2.暗褐色(10YR3/3)砂層,オリーブ黒色土を筋状に15%・灰オリーブ色粘土質シルト3%含む
- 3.曲物内埋土

写真1: SE168全景(南東→)

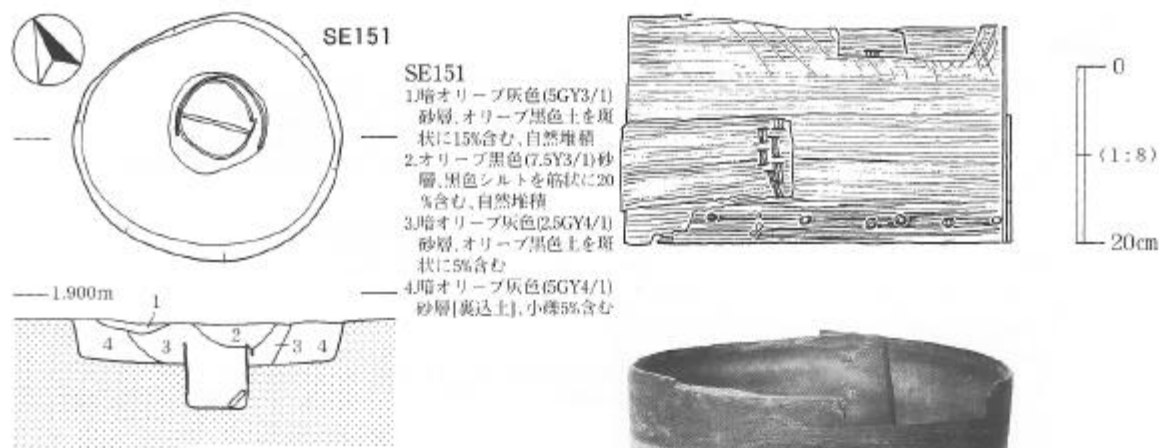


写真2: SE193全景(南東→)



第162図 井戸跡E型(2) SE74・168・193

第4節 検出遺構



SE151  
 1.暗オリーブ灰色(5GY3/1)砂層,オリーブ黒色土を斑状に15%含む,自然堆積  
 2.オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂層,黒色シルトを斑状に20%含む,自然堆積  
 3.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層,オリーブ黒色土を斑状に5%含む  
 4.暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂層[裏込土],小礫5%含む

SE167  
 1.オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂層,グライ化地山を斑状に30%・炭化物1%含む,人為堆積か  
 2.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層,人為堆積か  
 3.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層,黒色シルト質土を斑状に5%含む,人為堆積か  
 4.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層,黒色シルト質土を斑状に30%含む,自然堆積  
 5.暗オリーブ灰色(5GY4/1)[裏込土]砂層

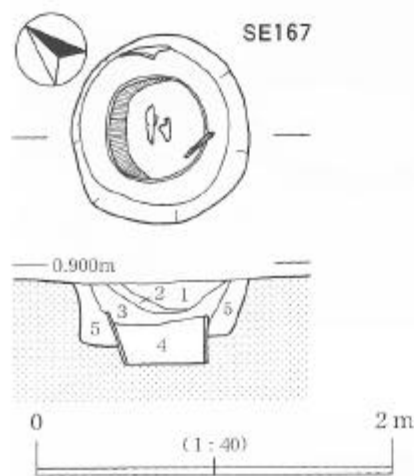
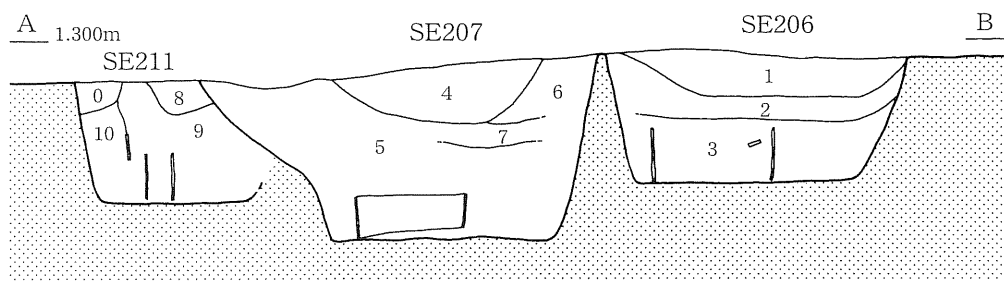
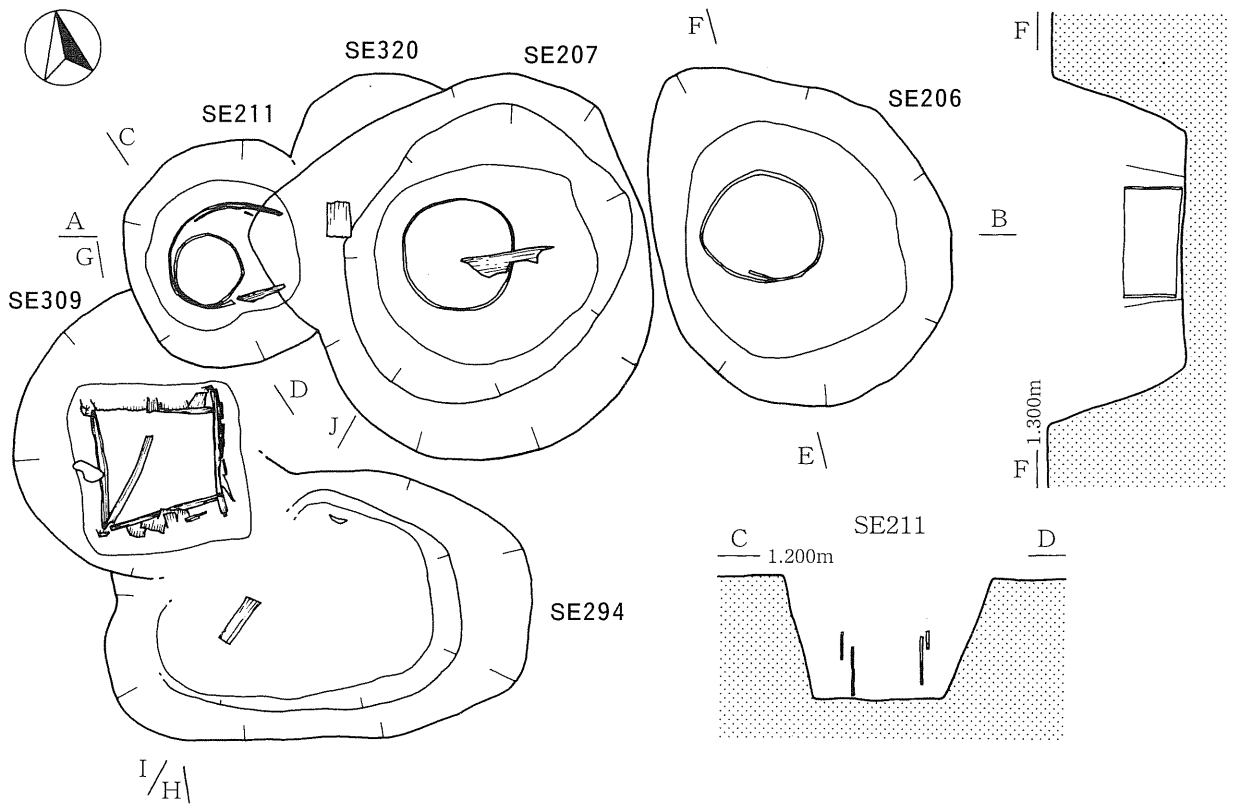


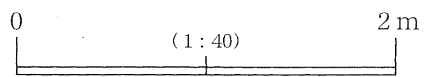
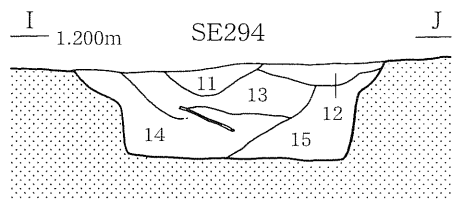
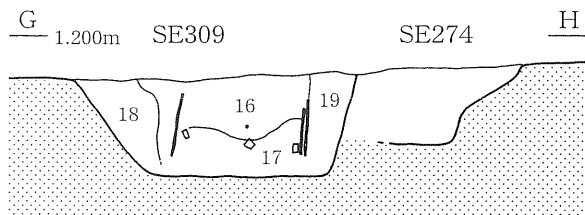
写真1: SE151水溜に使用の曲物(上:実測図)  
 2: 同上全景(南東→)  
 3: SE167全景(南東→)  
 曲物を包んでいたであろう葎のみが、円形に残る(4:葎部分写真)



第163図 井戸跡E型(3) SE151・167



SE206・207・211:E型  
SE309:C型  
SE294・320:F型

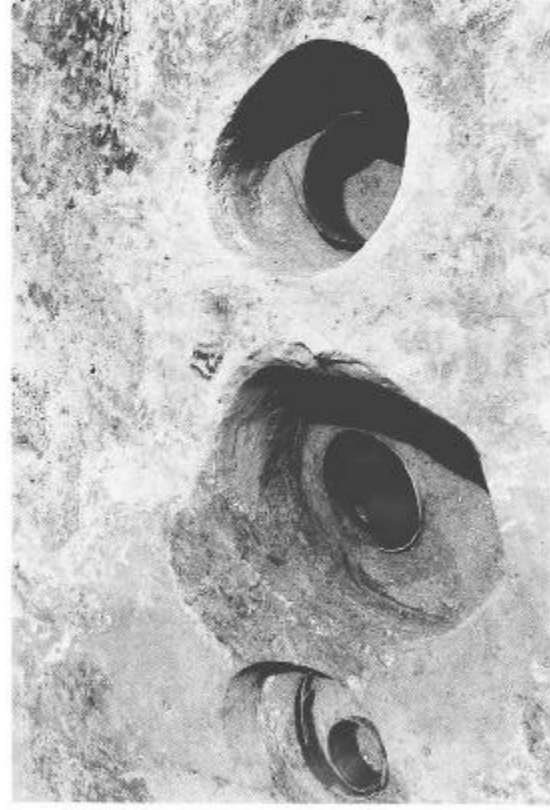


- SE206**  
 1.暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂層、しまり強、オリーブ黒色土を斑状に15%・炭化物5%含む  
 2.暗褐色(10YR3/4)砂層、オリーブ黒色土を斑状に5%・炭化物3%含む  
 3.暗褐色(10YR3/4)砂層、オリーブ黒色土を斑状に20%・炭化物5%含む  
**SE207**  
 4.黒色(7.5Y2/1)細砂層、しまり強、地山を斑状に10%含む  
 5.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山を斑状に20%・炭化物5%含む  
 6.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、炭化物1%含む  
 7.黒褐色(2.5Y3/2)細砂層、炭化物1%含む  
**SE211**  
 8.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山10%・炭化物2%含む、人為堆積  
 9.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、地山20%・炭化物3%含む、人為堆積  
 10.黒褐色(2.5Y3/2)砂層[裏込土]、地山15%・炭化物2%含む  
**SE294**  
 11.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、しまり強、地山を斑状に5%含む、人為堆積か  
 12.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強、地山を斑状に10%・炭化物2%・小礫1%含む、人為堆積か  
 13.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・黒色土を斑状に10%・小礫1%含む、人為堆積か  
 14.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を筋状に20%及び斑状に10%・炭化物2%含む、人為堆積か  
 15.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、炭化物3%含む、人為堆積か  
**SE309**  
 16.黒色(5Y2/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物2%・小礫2%含む  
 17.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色土を筋状に10%及び斑状に3%含む  
 18.黒褐色(10YR3/2)砂層[裏込土]、黒色土を斑状に10%・炭化物3%含む  
 19.暗褐色(10YR3/2)砂層[裏込土]、黒色土を斑状に5%・小礫3%含む

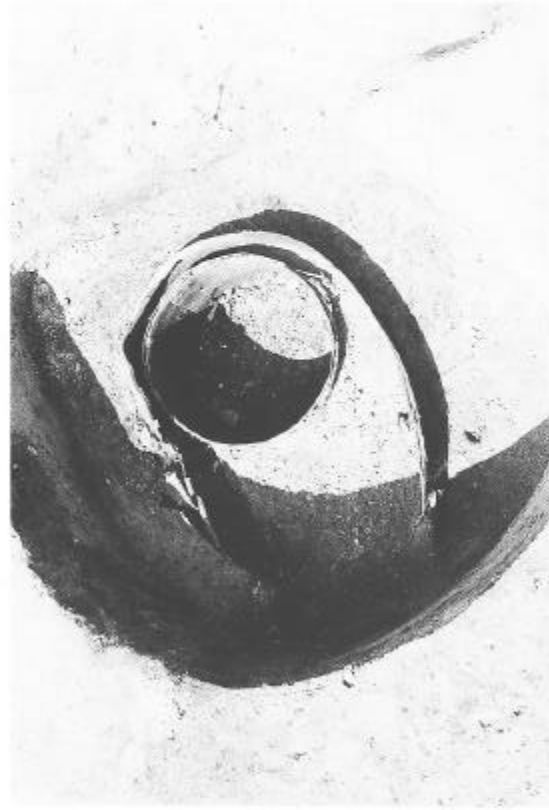
第164図 井戸跡E型(4) SE206・207・211・294・309・320(1)全体図



第4節 検出遺構



SE206・207・211全景(南→)



SE211全景(北→)



SE309全景(南西→)

第165図 井戸跡E型 (5) SE206・207・211・294・309・320 (2) 井戸跡写真

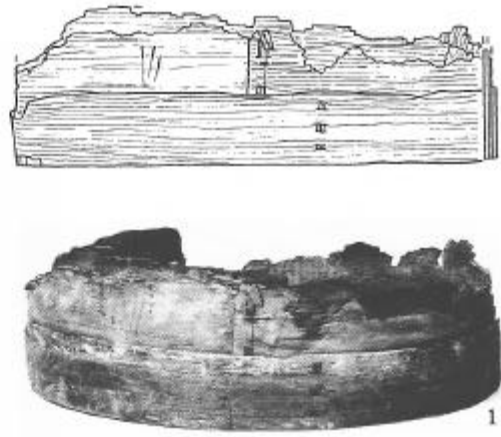
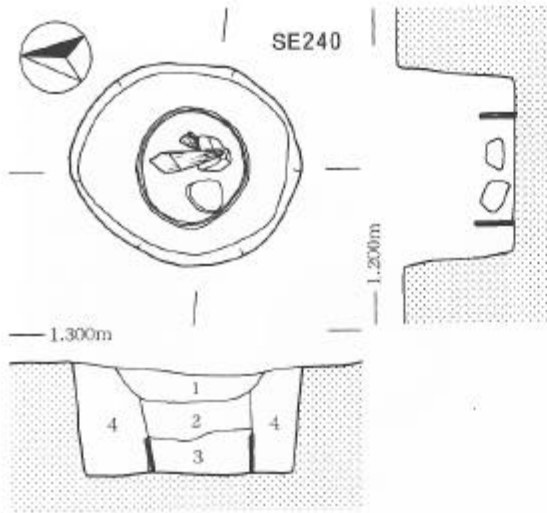


写真1：SE240検出の曲物、2：SE240全景(西→)

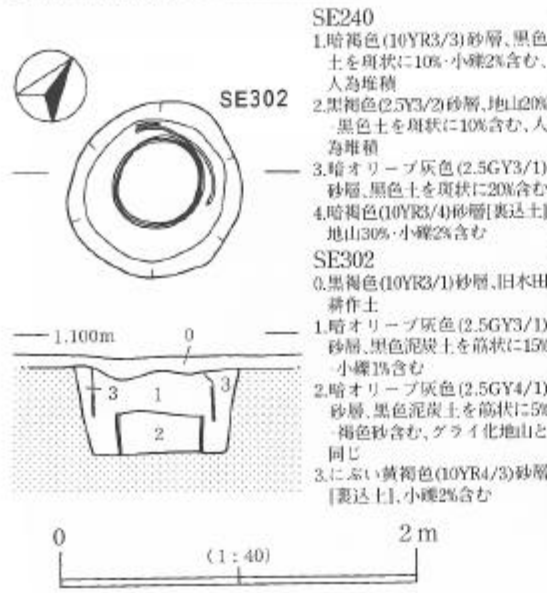
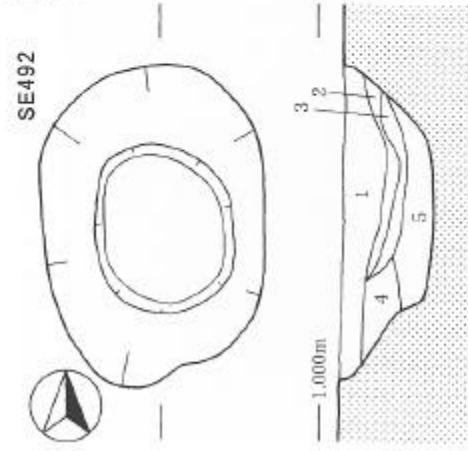
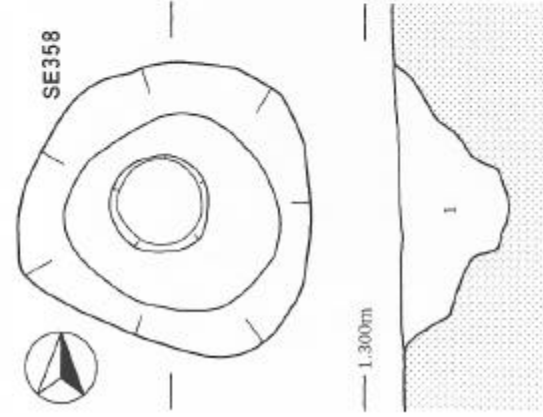
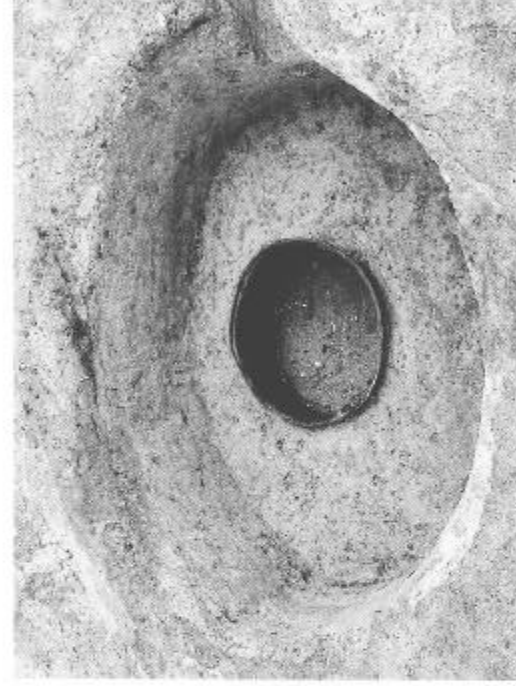
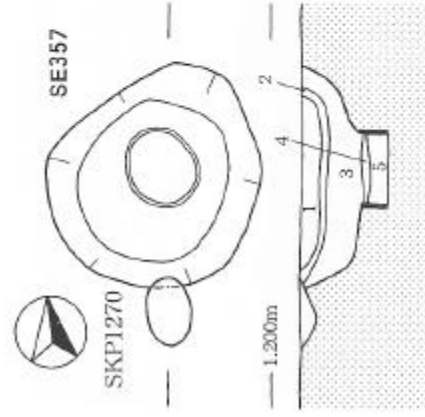


写真3：SE302検出の曲物、4：SE302全景(南→)



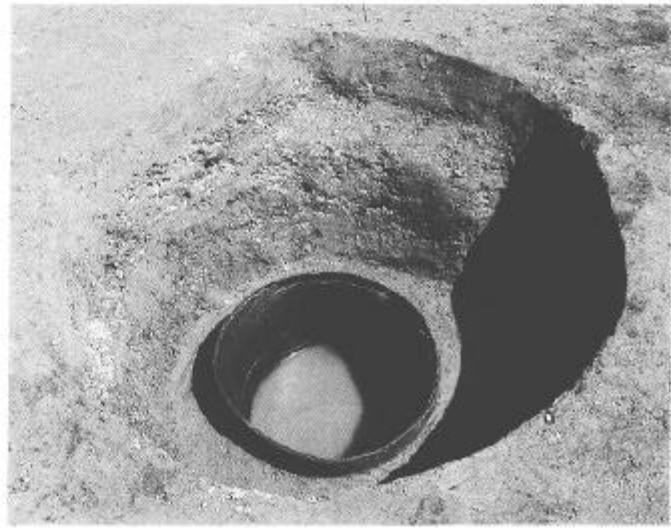
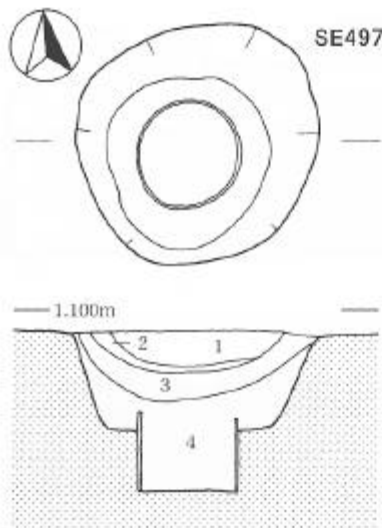
第166図 井戸跡E型(6) SE240・302

第4節 検出遺構



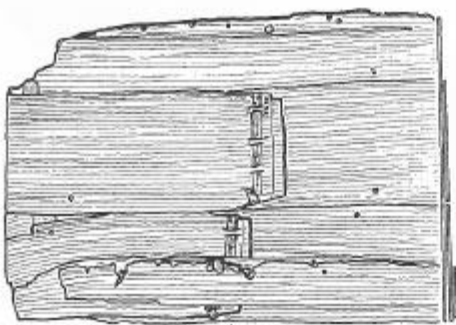
\*SE357・358・492の上層土記は196頁に収録  
0 2m  
(1:40)

第167図 井戸跡E型(7) SE357・358・492



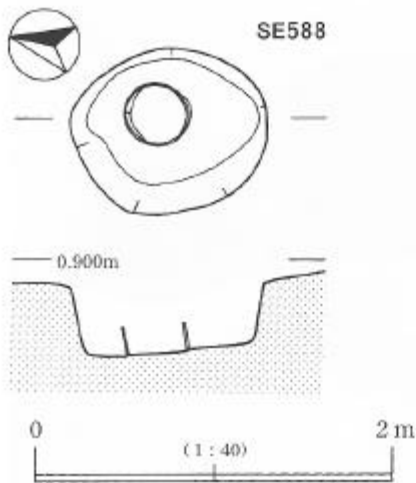
SE497  
 1.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山をブロック状に10% 炭化物微量含む、人為堆積  
 2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を塊状に5%含む、人為堆積  
 3.暗褐色(10YR3/4)砂層、小礫2%、黒褐色土を塊状に2%含む、人為堆積  
 4.褐色(10YR4/4)砂層、人為堆積

SE497全景(南→)



SE497  
 0 50cm  
 (1:10)

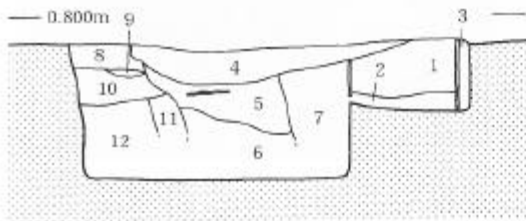
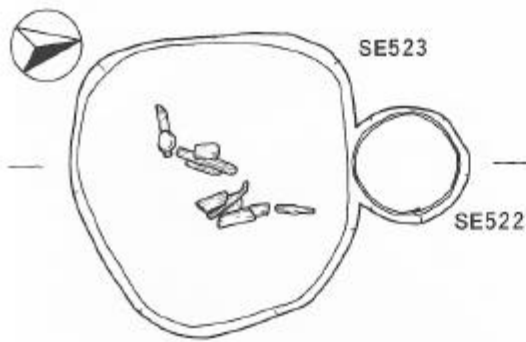
SE588全景(南→)



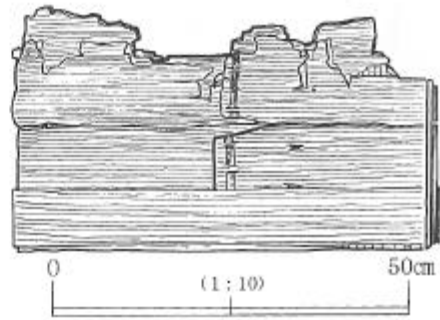
SE588  
 0 2m  
 (1:40)

第168図 井戸跡E型(8) SE497・588

第4節 検出遺構



曲物1  
(上:実測図)  
はSE522出土

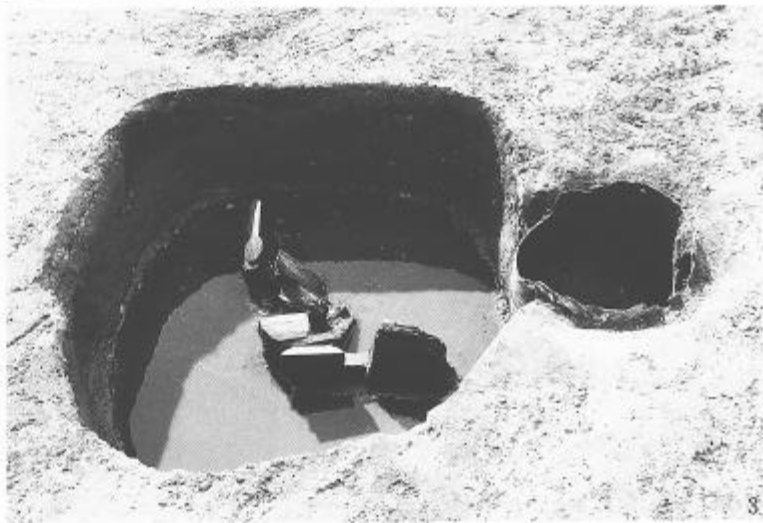


SE522

- 1.黒褐色(10YR3/1)細砂層、グライ化地山を筋状に20%含む、木炭堆積
- 2.オリーブ黒色(5Y3/1)シルト層、グライ化地山を筋状に5%含む、木炭堆積
- 3.にぶい黄褐色(10YR4/3)[裏込土]粗砂層、小礫15%含む

SE523

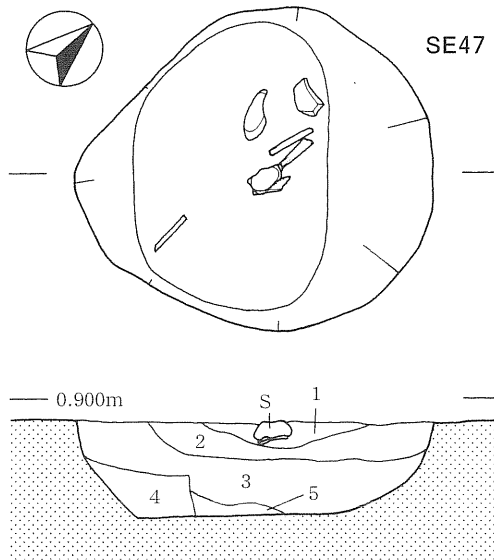
- 4.褐色(10YR4/4)砂層、黒色土をブロック状に10%・小礫5%含む
- 5.オリーブ黒色(5Y3/1)シルト層、グライ化地山を筋状に5%含む、木炭堆積
- 6.黒色(5Y2/1)粘土質シルト層、グライ化地山2%含む、木炭堆積
- 7.オリーブ黒色(5Y3/1)[裏込土]砂質シルト層、グライ化地山30%・小礫1%含む
- 8.黒色(2.5Y2/1)シルト層、グライ化地山2%・小礫1%含む
- 9.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、オリーブ黒色土を塊状に30%含む、ブロック状の地山
- 10.オリーブ黒色(5Y3/1)[裏込土]シルト層、グライ化地山5%・小礫2%含む
- 11.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層[裏込土]、黒色土50%含む
- 12.黒色(5Y2/1)[裏込土]粘土質シルト層、しまり器、3とほぼ同じ



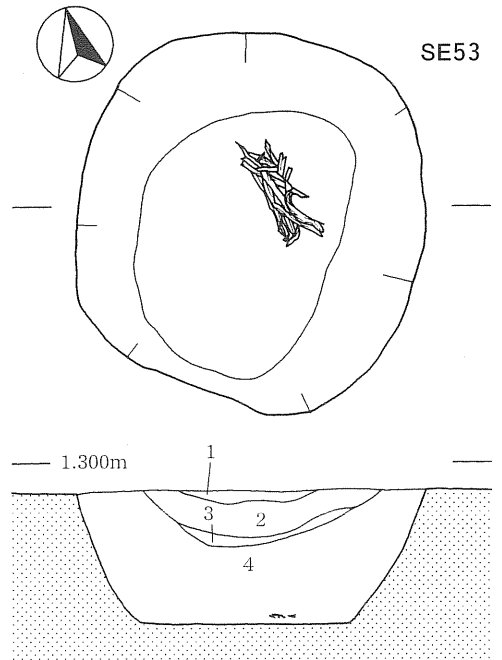
2: SE522全景(南東→)  
3: SE522・523全景(東→)

第169図 井戸跡E型(9) SE522、SE523(F型)

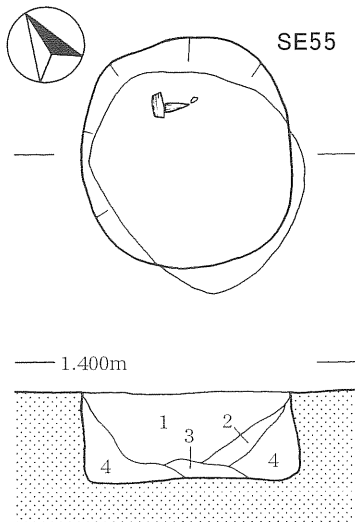




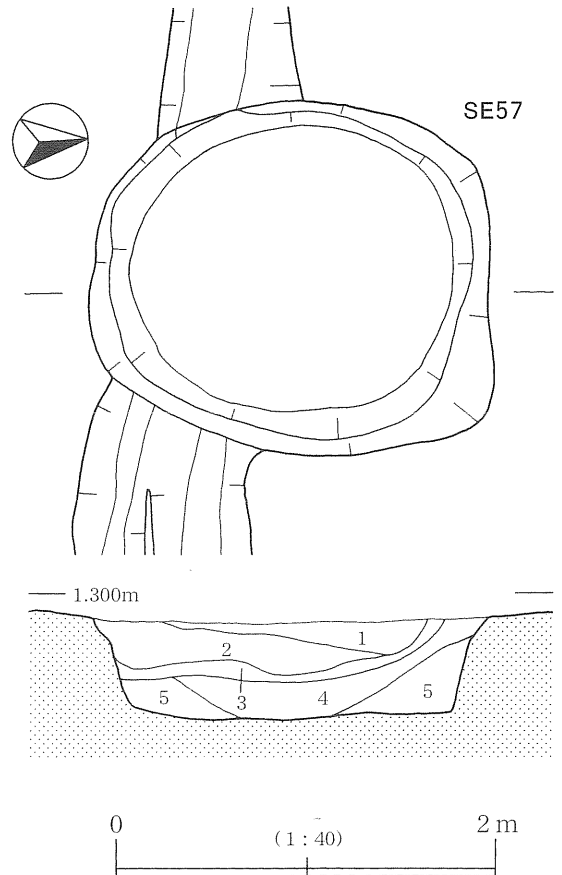
- SE47
- 1.黒色(5Y2/1)砂層、地山10%含む、人為堆積
  - 2.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色土を斑状に20%・地山5%含む、人為堆積
  - 3.灰オリーブ色(7.5Y4/2)砂層、黒色土を斑状に10%・小礫3%含む、人為堆積
  - 4.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層、褐色地山50%・黒色土2%含む、人為堆積
  - 5.黒色(7.5Y2/1)シルト層、しまり弱



- SE53
- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、炭化物2%・地山2%含む、人為堆積
  - 2.黒褐色(10YR3/2)砂質シルト層、炭化物少量含む、人為堆積
  - 3.黒褐色(10YR3/1)シルト層、地山を斑状に10%・炭化物3%含む、人為堆積
  - 4.黒色(N2/0)泥炭シルト層、地山少量・水成堆積の砂を筋状に含む



- SE55
- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、地山を斑状に2%・炭化物1%・小礫少量含む
  - 2.黒褐色(2.5Y3/1)シルト層、地山2%・小礫微量含む
  - 3.黒色(7.5Y2/1)シルト層、しまり弱
  - 4.黒褐色(10YR3/2)砂層、小礫多量・褐色土50%・地山を斑状に5%含む

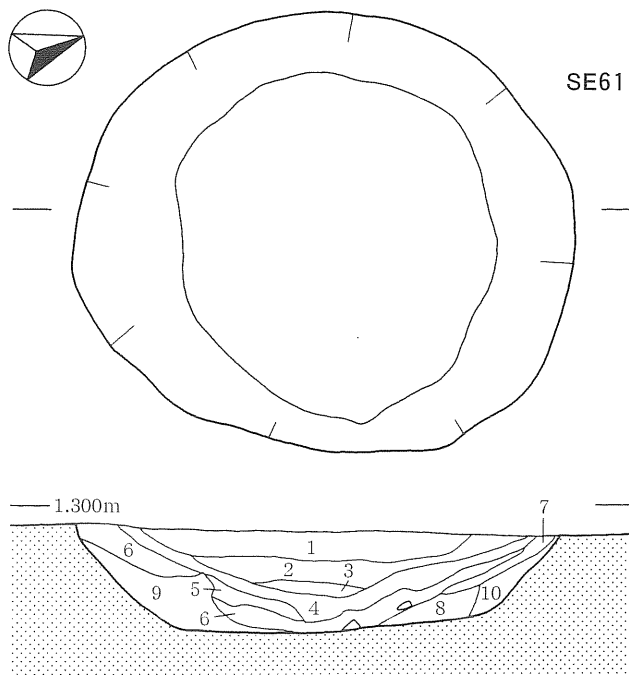


- SE57
- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、褐色地山を斑状に20%含む
  - 2.黒褐色(10YR3/1)シルト層
  - 3.黒褐色(7.5YR3/1)シルト層
  - 4.黒色(7.5Y2/1)泥炭シルト層、小礫少量含む
  - 5.褐色(10YR4/4)砂層、小礫少量・黒褐色土を筋状に少量含む

第170図 井戸跡F型(1) SE47・53・55・57

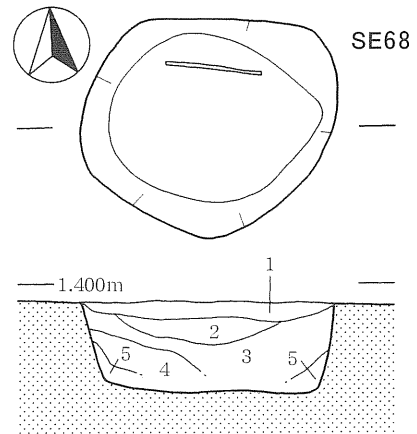


第4節 検出遺構



SE61

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物微量含む
- 2.黒褐色(7.5YR3/1)砂層、地山1%・炭化物少量含む
- 3.黒褐色(10YR3/1)シルト層、しまり弱、炭化物を斑状に5%含む
- 4.暗褐色(10YR3/4)砂層
- 5.黒褐色(10YR3/1)シルト層、しまり弱、炭化物を斑状に5%含む
- 6.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山に黒褐色土及び黒褐色土を斑状に10%含む
- 7.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、地山の自然堆積か
- 8.暗緑灰色(10GY4/1)砂層、しまり弱、炭化物を斑状に3%含む
- 9.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、しまり弱
- 10.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、炭化物1%、地山の自然堆積

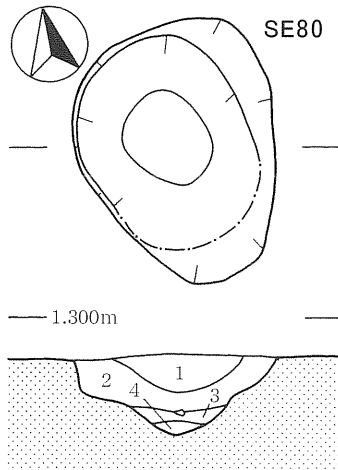
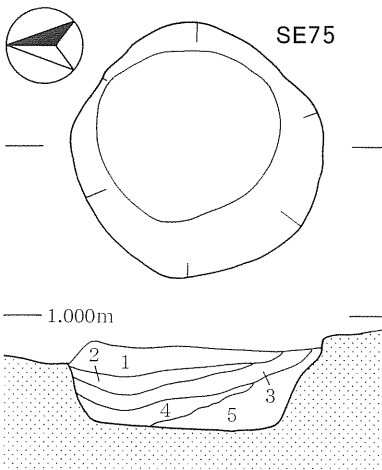


SE68

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、しまり強、地山10%・炭化物1%含む
- 2.黒褐色(10YR3/2)シルト層、しまり強、地山を斑状に20%・小礫5%含む
- 3.暗褐色(10YR3/3)砂層、黒褐色土を斑状に5%含む
- 4.黒褐色(10YR3/2)シルト層、地山を斑状に10%・黒褐色土を斑状に10%含む
- 5.褐色(10YR4/4)砂層、地山の二次堆積

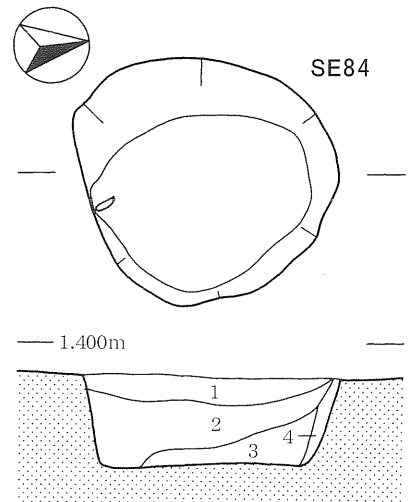
SE75

- 1.黒褐色(10YR3/2)シルト層、地山20%・炭化物を斑状に10%・小礫5%含む
- 2.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山50%・泥炭土を斑状に5%・小礫少量含む
- 3.黒褐色(10YR3/1)シルト層、泥炭土50%・地山5%含む
- 4.黒褐色(2.5Y3/1)シルト層、しまり弱い、小礫微量含む
- 5.褐色(10YR4/4)砂層



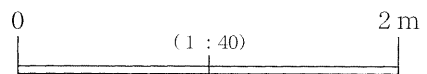
SE80

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、地山を斑状に10%・小礫1%含む
- 2.黒褐色(2.5Y3/1)シルト層、炭化物1%含む、地山と互層を成す
- 3.オリブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト層、しまり弱
- 4.オリブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト層、しまり弱、3の土にグライ化地山を斑状に3%含む

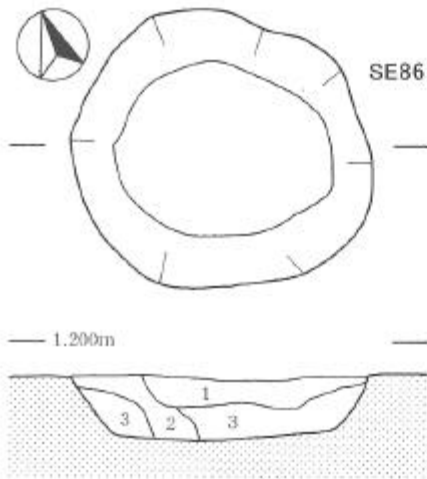


SE84

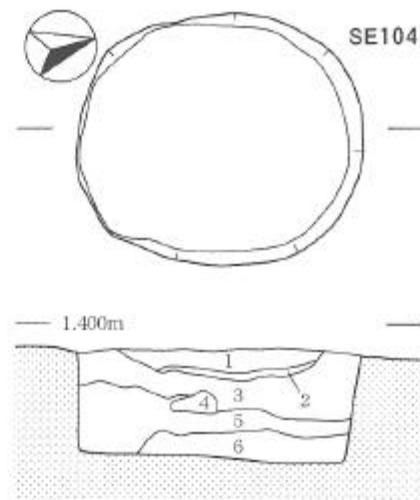
- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、しまり強、地山10%・炭化物1%・小礫少量含む
- 2.黒褐色(10YR3/2)細砂層、地山5%含む
- 3.黒褐色(2.5Y3/2)シルト層、小礫少量・地山をブロック状に含む
- 4.褐色(10YR4/4)砂層、黒褐色土を斑状に20%含む



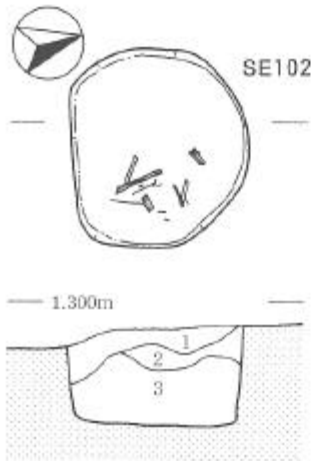
第171図 井戸跡F型(2) SE61・68・75・80・84



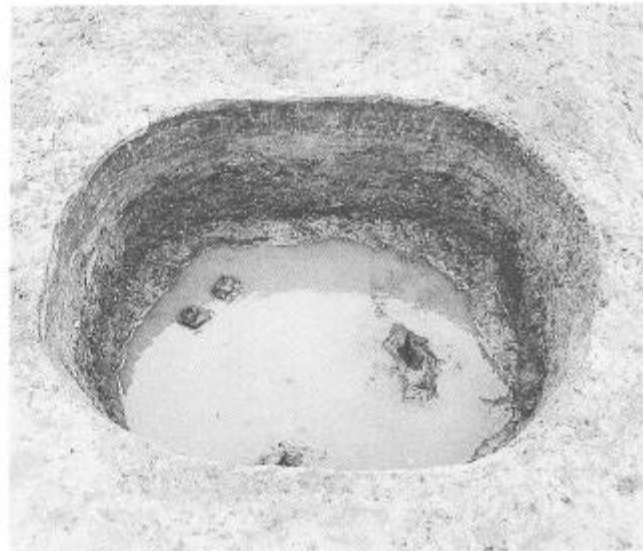
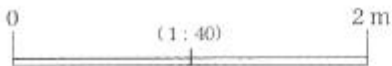
SE86  
 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、小礫少量含む  
 2.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、小礫微量含む  
 3.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%含む



SE104  
 1.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山10%・炭化物3%・小礫少量含む  
 2.黒褐色(10YR3/1)シルト層、炭化物5%含む  
 3.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、地山30%・炭化物3%・小礫3%含む  
 4.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、しまり弱、地山10%・炭化物2%含む  
 5.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、黒色泥炭土を筋状に10%・炭化物5%含む  
 6.暗オリーブ灰色(5GY4/1)粗砂層、しまり弱、炭化物1%・小礫少量含む



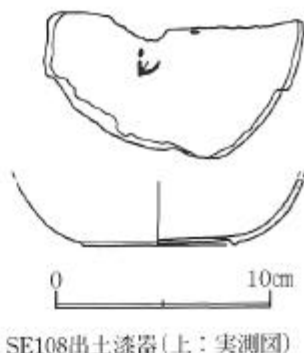
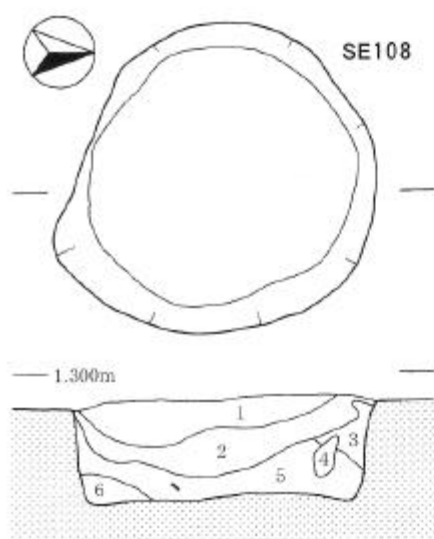
SE102  
 1.黒褐色(10YR3/1)粗砂層、地山を斑状に5%・炭化物3%含む  
 2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、酸化地山含む、地山と同じ  
 3.暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂層、小礫2%・黒色土のグライ化地山を筋状に含む



SE104全景(東→)

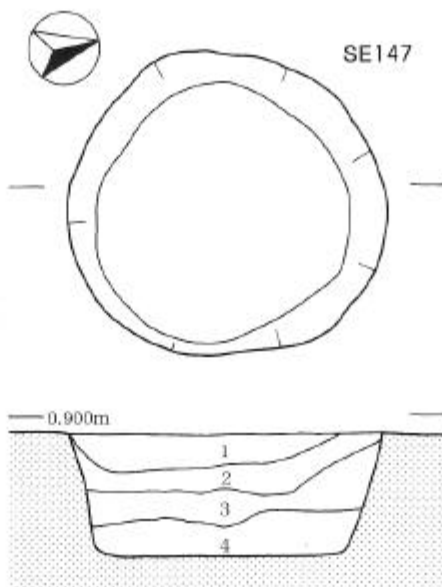
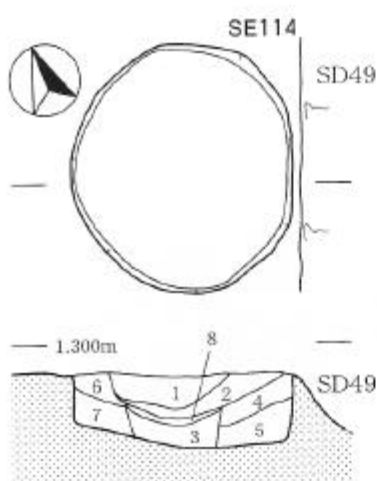
第172図 井戸跡F型(3) SE86・102・104

第4節 検出遺構



SE108

- 1.オリーブ黒色(5Y3/1)シルト層、小礫3%・炭化物2%・酸化地山を筋状に含む、自然堆積か
- 2.黒色(N2/0)シルト層、しまり弱、グライ化地山を筋状に含む、自然堆積か
- 3.暗褐色(10YR3/4)砂層、オリーブ黒色土5%・小礫少量含む
- 4.黒色(N2/0)シルト層、しまり弱、グライ化地山5%・炭化物1%含む
- 5.暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂層、しまり弱、黒色泥炭土3%含む
- 6.暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂層、しまり弱、黒褐色シルト質土と互層を成す

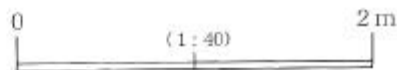


SE114

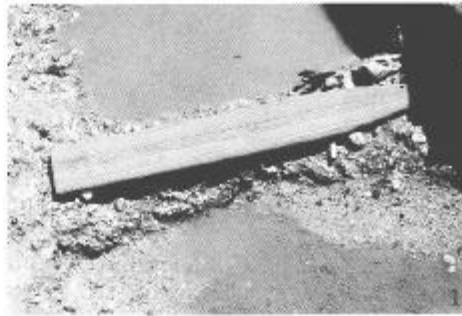
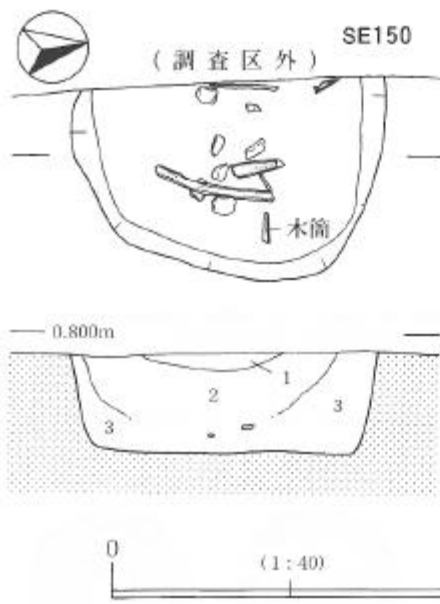
- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強
- 2.黒色(N2/0)泥炭シルト層、しまり弱
- 3.オリーブ黒色(5Y3/1)シルト層、しまり弱、炭化物1%含む
- 4.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、地山20%・小礫5%含む
- 5.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山5%・小礫3%含む
- 6.暗褐色(10YR3/4)砂層、オリーブ黒色土を塊状に3%含む
- 7.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、オリーブ黒色土を筋状に20%含む
- 8.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、小礫3%含む

SE147

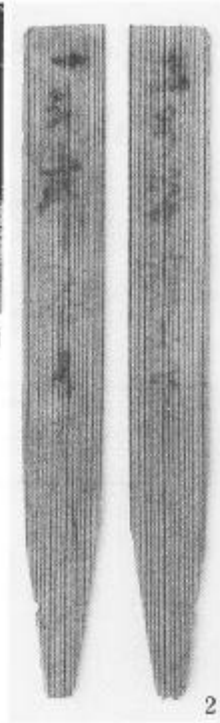
- 1.オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂層、地山5%・小礫3%含む
- 2.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色土を塊状に20%含む
- 3.オリーブ黒色(5Y3/2)砂層、地山20%・黒色土5%含む
- 4.黒色(7.5Y2/1)シルト層、しまり弱、地山5%含む



第173図 井戸跡F型(4) SE108・114・147



1: 最下層出土の木筒、2: 木筒



SE150

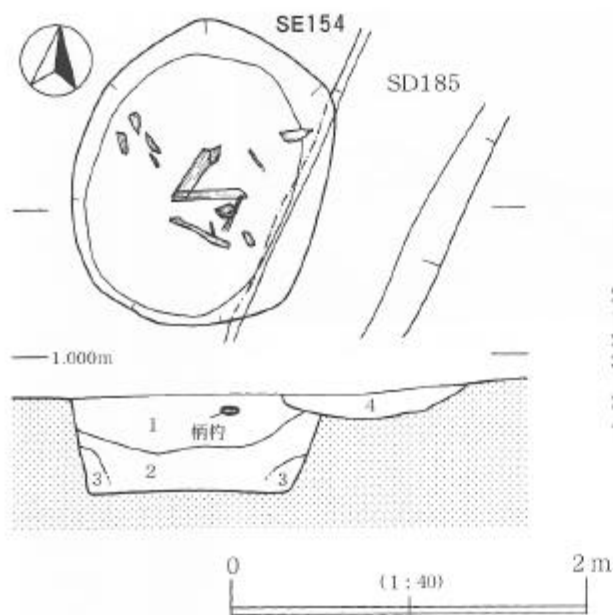
1. オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、しまり強、オリーブ黒色土を現状に20%含む
2. オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂層、黒色泥炭シルトを現状に50%・小礫5%含む
3. 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、小礫多量・黒色泥炭土を筋状に20%含む

3: SE150全景・部材出土状況(東→)



第174図 井戸跡F型(5) SE150

第4節 検出遺構

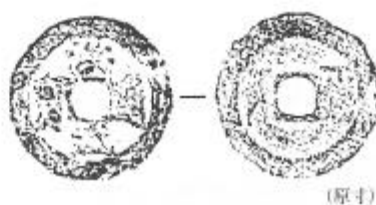


SE154

1. 黒色(5Y2/1)砂層、地山を斑状に20%・小礫3%・炭化物2%含む
2. 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色土20%含む
3. 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層、黒色土5%・炭化物1%含む

SD185

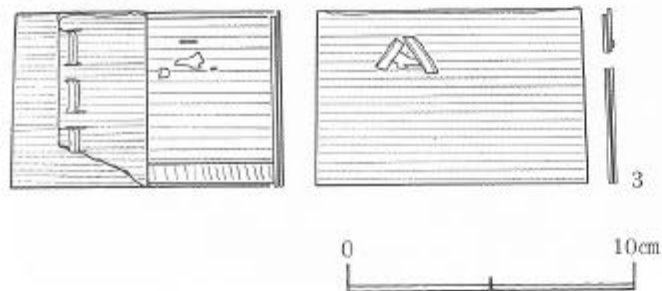
4. オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物微量含む



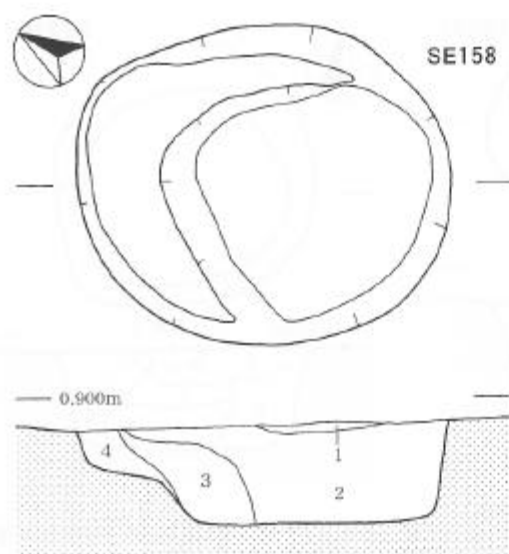
(原寸)



- 1: SE154全景・部材出土状況(北東→)、2: 1層出土の柄杓、  
(横倒しの状態で検出、中に銭貨が入られていた)  
3・4: 柄杓



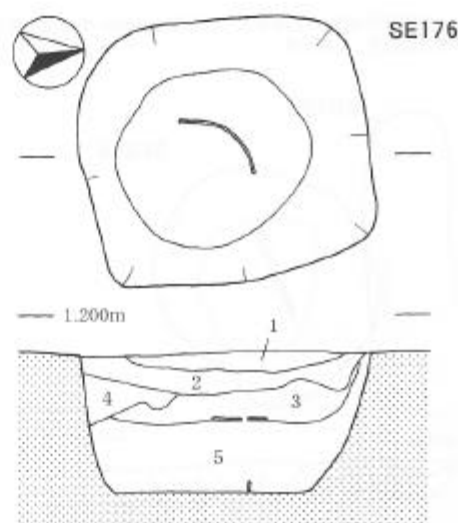
第175図 井戸跡F型(6) SE154



SE158全景(東→)

SE158

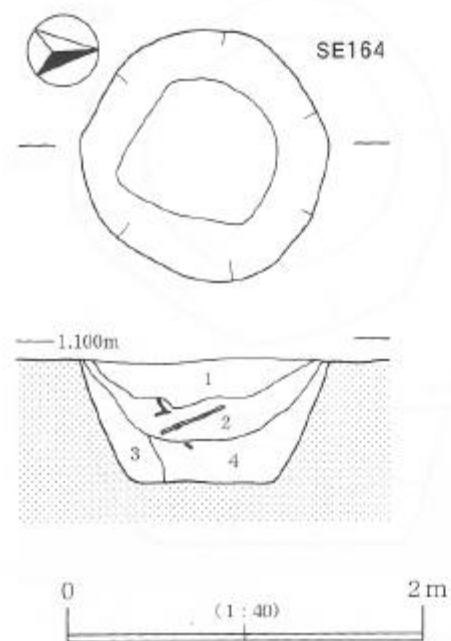
- 1.黒褐色(2.5Y3/1)シルト層、地山2%・炭化物1%含む
- 2.黒褐色(3.0YR3/1)砂層、オリーブ黒色シルト質土を斑状に10%・小礫3%含む
- 3.オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂層、オリーブ黒色シルト質土30%・小礫2%含む
- 4.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、オリーブ黒色土3%含む



SE176

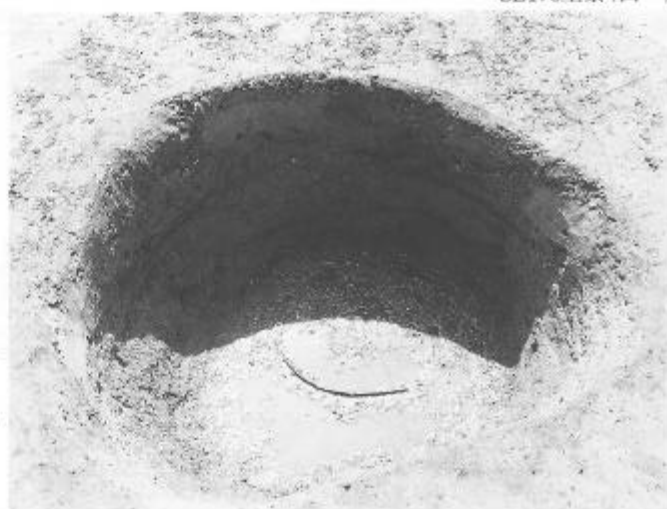
- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり塗、地山15%・黒色土を斑状に10%含む
- 2.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層、黒色土を斑状に5%含む
- 3.暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘土層、しまり塗、黒色シルト10%・地山5%・炭化物2%含む
- 4.褐色(10YR4/4)砂層、炭化物2%含む
- 5.黒色(7.5Y2/1)シルト層、しまり塗、腐食した木片15%含む

SE176全景(西→)



SE164

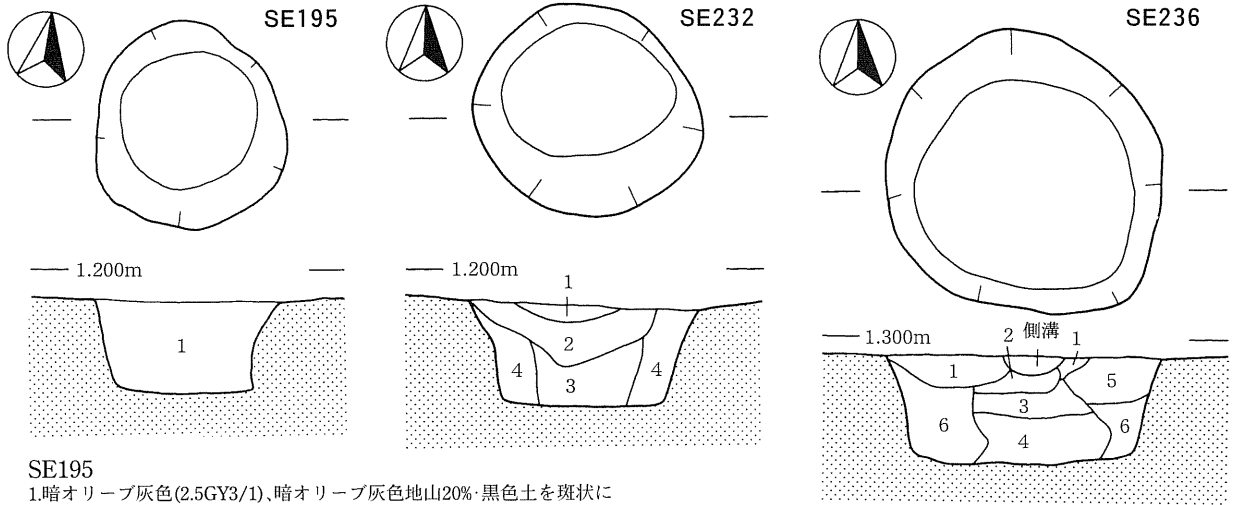
- 1.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、しまり塗、緑黒色土を斑状に20%・炭化物3%含む
- 2.黒色(7.5Y2/1)シルト層、地山5%含む、人為堆積
- 3.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層、緑黒色土を斑状に10%含む、裏込土か
- 4.黒色(5Y2/1)砂層、地山を斑状に30%含む、人為堆積



第176図 井戸跡F型(7) SE158・164・176



第4節 検出遺構

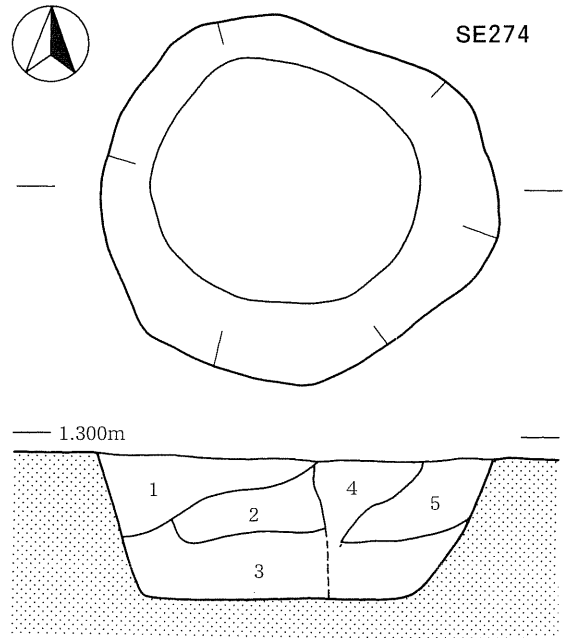
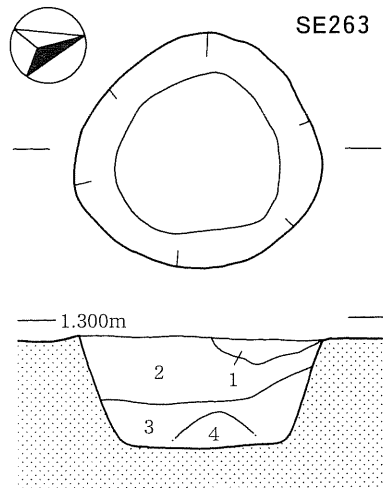
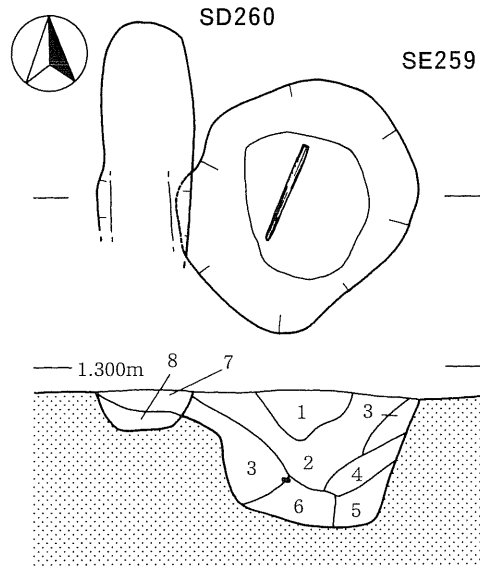


SE195

1. 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)、暗オリーブ灰色地山20%・黒色土を斑状に15%・炭化物2%含む、人為堆積

SE232

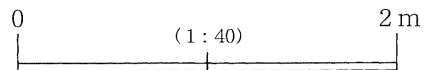
1. 黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり強、小礫多量・地山5%・炭化物2%・小礫1%含む、人為堆積  
 2. 黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山10%・炭化物2%含む、人為堆積  
 3. オリーブ褐色(5Y4/3)砂層、オリーブ黒色シルト質土を筋状に5%含む  
 4. オリーブ褐色(2.5Y4/3)[裏込土]砂層



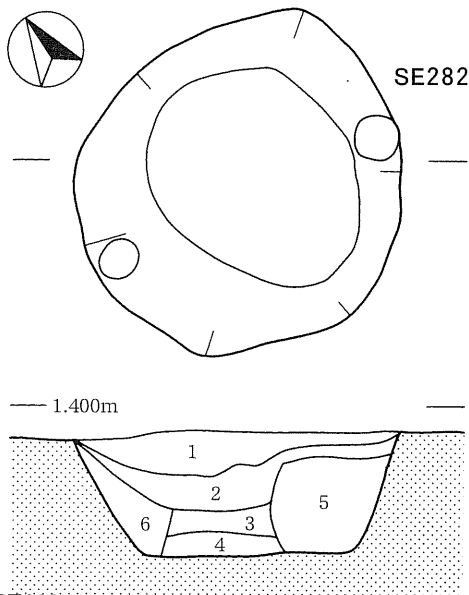
SE274

1. 黒褐色(10YR2/3)砂層、地山10%・炭化物2%含む  
 2. 暗褐色(10YR3/4)砂層、黒色泥炭土を斑状に3%含む  
 3. 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色泥炭土を斑状に10%含む  
 4. 褐色(10YR4/4)砂層[裏込土]、黒色土を斑状に20%含む  
 5. 黒色(5Y2/1)[裏込土]シルト層、地山3%含む

※SE236・259・263・SD260の土層註記は196頁に収録

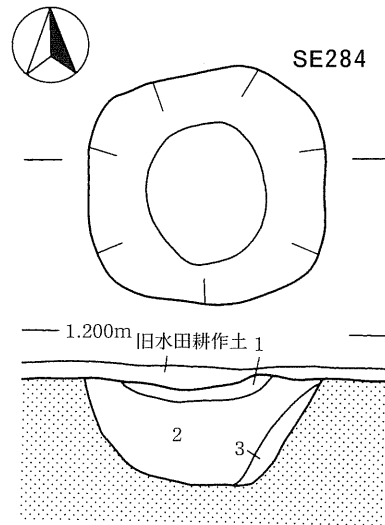


第177図 井戸跡F型(8) SE195・232・236・259・263・274



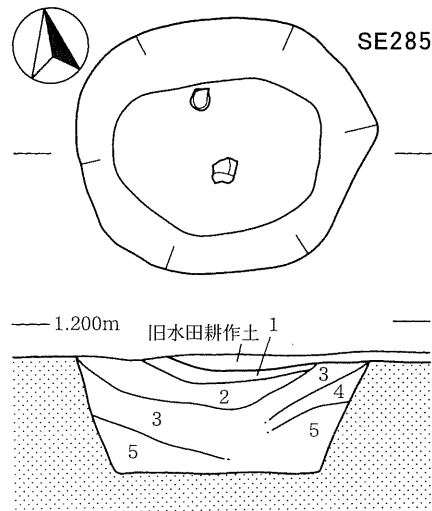
SE282

- 1.暗褐色(10YR3/4)砂層、黒褐色土を斑状に30%・小礫5%・炭化物3%含む、人為堆積
- 2.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山15%・炭化物2%含む、人為堆積
- 3.オリーブ黒色(5Y3/1)細砂層、地山30%含む、人為堆積
- 4.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層、グライ化地山と同じ、人為堆積
- 5.暗褐色(10YR3/3)砂層[裏込土]、地山30%・オリーブ黒色土20%・小礫3%含む
- 6.黒褐色(10YR3/1)砂層[裏込土]、地山3%含む



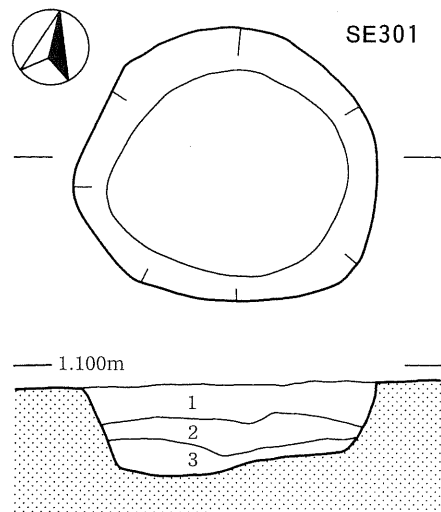
SE284

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、オリーブ黒色土を斑状に20%・地山5%含む、人為堆積
- 2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、オリーブ黒色土を斑状に5%含む、地山に近い、人為堆積
- 3.褐色(10YR4/4)粗砂層、小礫5%含む、ボソボソする、人為堆積



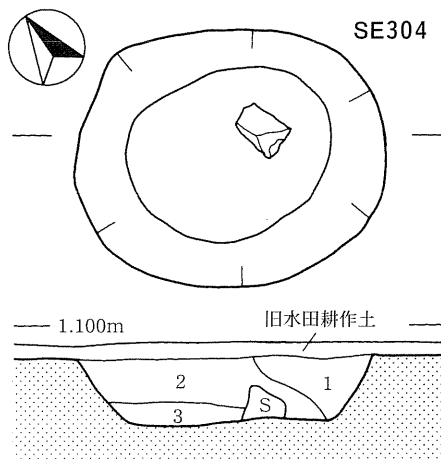
SE285

- 1.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、黒色シルトを筋状に20%・地山をブロック状に10%含む、自然堆積か
- 2.黒色(N2/0)シルト層、地山を斑状に10%含む、自然堆積か
- 3.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・小礫2%・炭化物1%含む、人為堆積
- 4.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山20%・黒色土を斑状に20%含む、人為堆積
- 5.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、黒色土を斑状に10%含む、人為堆積



SE301

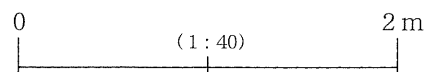
- 1.褐色(10YR4/4)砂層、小礫3%含む、一括埋土か
- 2.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、小礫5%・黒色土を斑状に5%・炭化物2%含む、一括埋土か
- 3.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層、炭化物3%・小礫2%含む、一括埋土か



SE304

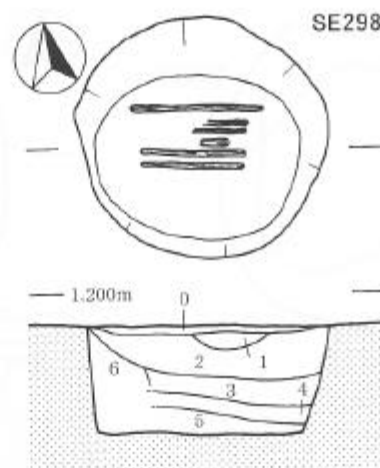
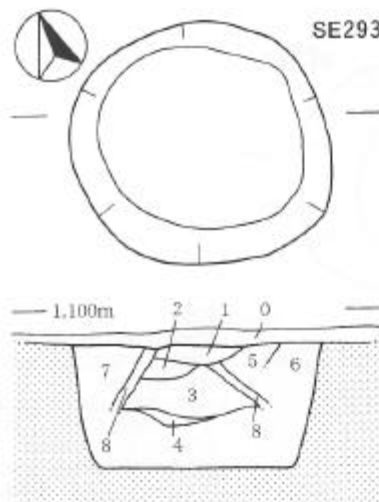
SE304

- 1.オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂層、黒褐色砂層、地山5%・炭化物3%含む、人為堆積
- 2.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、地山5%・炭化物3%含む、人為堆積
- 3.オリーブ黒色(5Y3/2)砂層、グライ化地山を斑状に10%・大礫1個含む、人為堆積



第178図 井戸跡F型(9) SE282・284・285・301・304

第4節 検出遺構

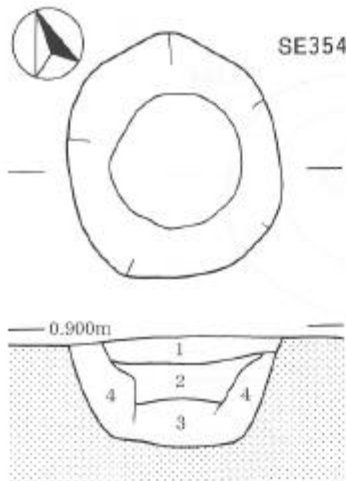


SE293

- 0.旧水田耕作土  
 1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に5%炭化物2%含む、人為堆積  
 2.暗褐色(10YR3/3)砂層、オリブ黒色土を斑状に10%含む、人為堆積  
 3.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、地山を斑状に10%炭化物3%含む、人為堆積  
 4.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、しまり弱、グライ化地山を斑状に20%含む、自然堆積か  
 5.オリブ褐色(5Y4/3)砂層、地山15%・小礫5%含む、[裏込土]か  
 6.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、小礫10%・黒褐色土5%含む、[裏込土]か  
 7.暗褐色(10YR3/4)砂層、黒褐色土5%含む、[裏込土]か  
 8.酸化砂礫層が1,2,3,4と5,6,7を区切る



SE298全景(東→)  
横棧等を意図的に並べている

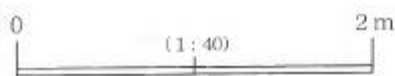


SE298

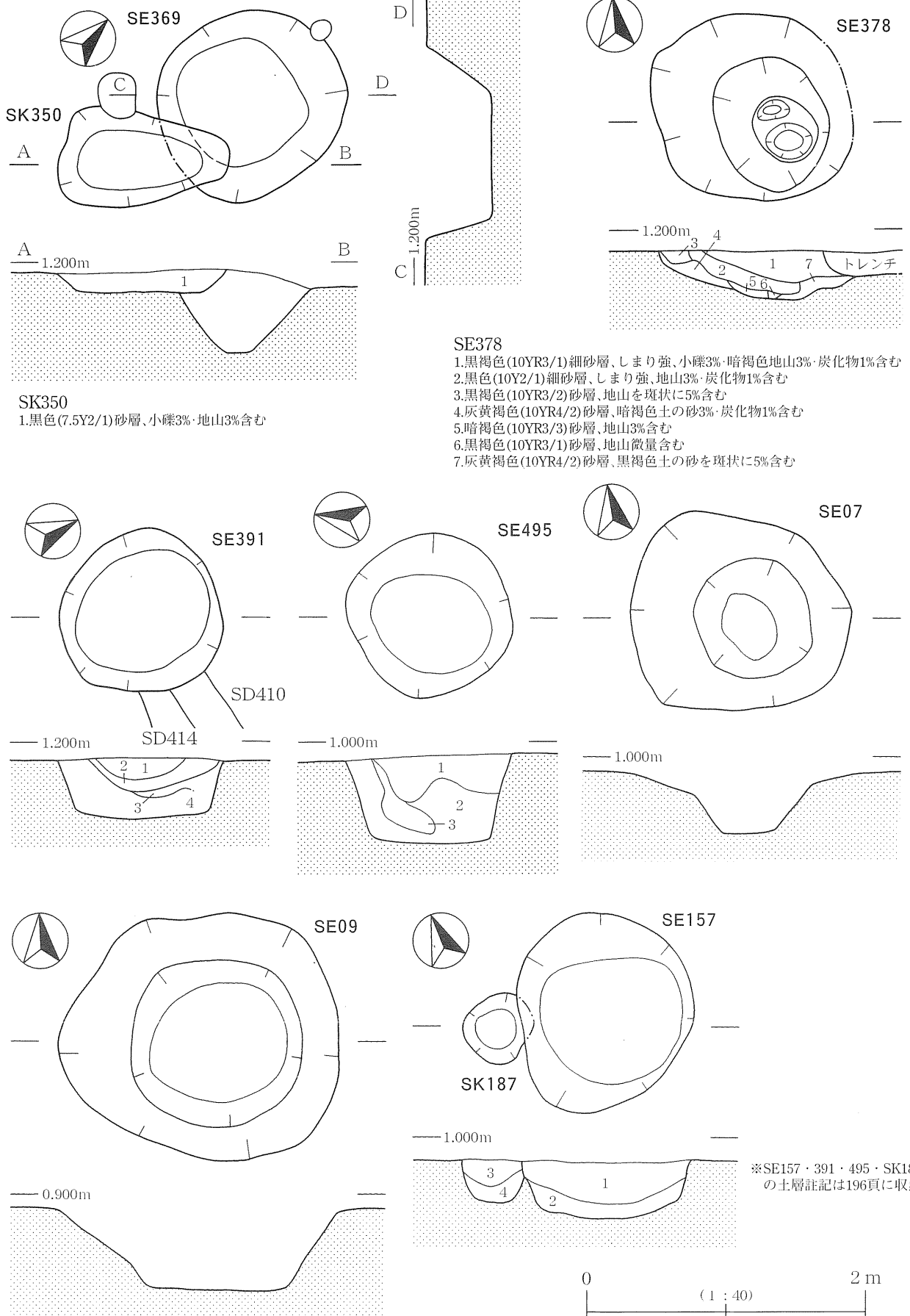
- 0.旧水田耕作土  
 1.黒色(10YR2/1)砂層、地山を斑状に3%炭化物2%含む  
 2.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を斑状に5%炭化物2%・小礫2%含む  
 3.オリブ黒色(5Y3/2)砂層、地山20%・黒色土を斑状に10%・筋状に5%含む  
 4.オリブ黒色(5Y3/1)シルト層、地山を斑状に5%含む  
 5.暗オリブ灰色(2.5GY3/1)砂層  
 6.黒褐色(10YR3/1)砂層[裏込土]、地山を斑状に15%含む

SE354

- 1.オリブ黒色(5Y3/2)砂層、黒色土を斑状に15%・地山10%含む、人為堆積か  
 2.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山20%・黒色土5%含む、人為堆積か  
 3.オリブ黒色(5Y3/1)細砂層、黒色土を斑状に20%・グライ化地山5%含む、自然堆積  
 4.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層[裏込土]、オリブ黒色土10%・小礫5%含む

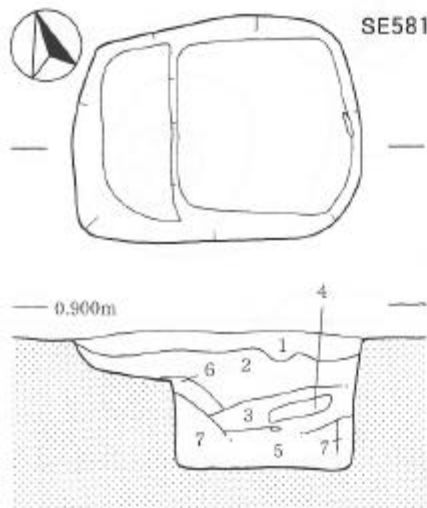


第179図 井戸跡F型(10) SE293・298・354



第180図 井戸跡F型(11) SE07・09・157・369・378・391・495、SK187・350

第4節 検出遺構



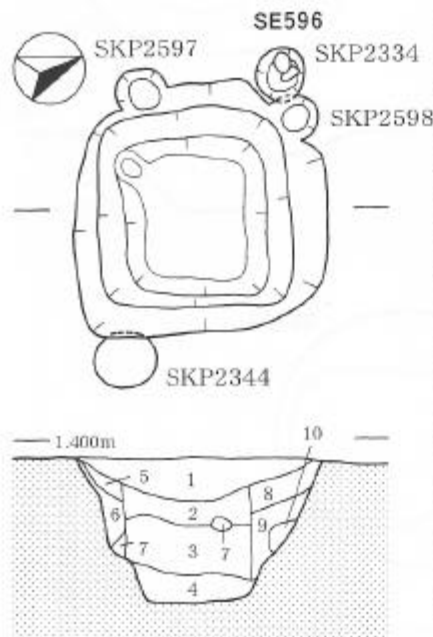
SE581全景(西→)  
東面中央に縦板が1枚のみ残されている

SE581

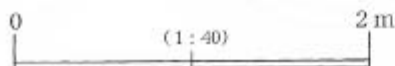
- 1.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、しまり強、地山を斑状に15%・炭化物2%含む
- 2.黒色(5Y2/1)砂層、地山を斑状に25%及びブロック状に5%・炭化物3%含む
- 3.オリーブ黒色(5Y3/1)シルト層、葦多量に含む
- 4.黒色(5Y2/1)粘土層、地山を斑状に3%含む
- 5.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色シルト質土を斑状に5%含む
- 6.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色シルト質土を斑状に30%含む
- 7.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層

SE596

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色地山を斑状に5%・炭化物1%・小礫1%含む
- 2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山1%含む
- 3.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色土及び灰黄褐色土を斑状に10%・炭化物5%含む
- 4.黒褐色(10YR3/1)シルト層、しまり強、褐灰色砂をブロック状に5%含む
- 5.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、黄褐色地山をブロック状に5%・炭化物1%含む



SE596全景(東→)



- 6.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物3%・黄褐色地山をブロック状に3%含む
- 7.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、しまり強、炭化物1%含む
- 8.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物を斑状に5%・黄褐色土及び灰黄褐色土を斑状に5%含む
- 9.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、灰黄褐色土を斑状に10%・炭化物をブロック状に5%含む
- 10.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物をブロック状に10%含む

第181図 井戸跡F型(12) SE581・596

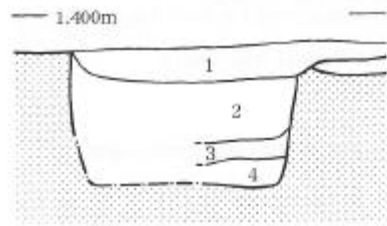
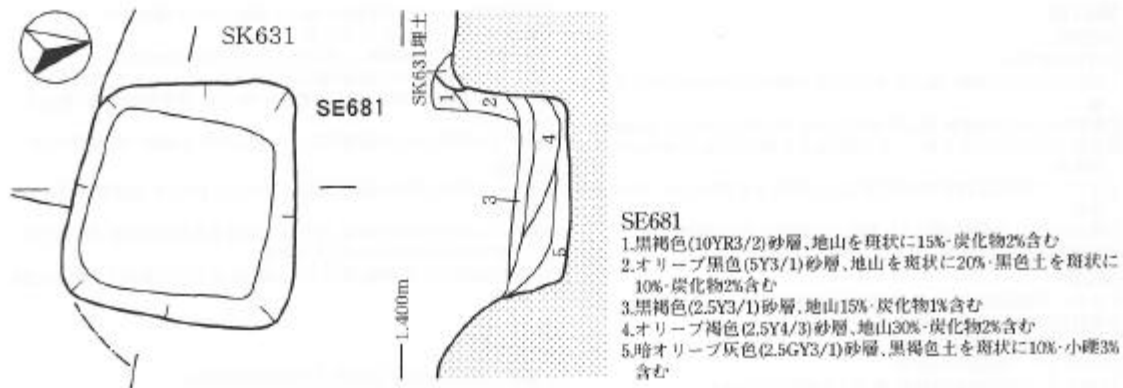
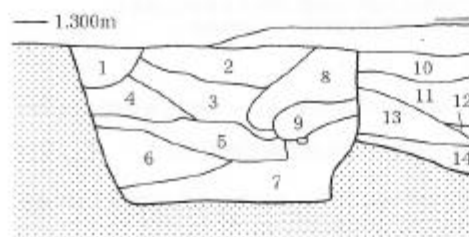
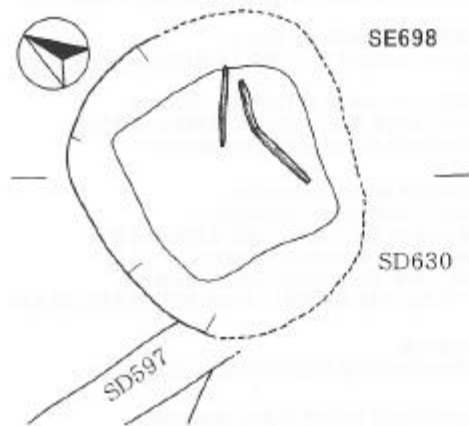
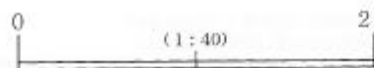


写真1: SE681全景(東→)  
2: SE698全景(南西→)



SE698

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層,地山を斑状に10%・炭化物1%含む
- 2.黒褐色(2.5Y3/2)砂層,地山を斑状に15%・小礫2%含む
- 3.黒色(5Y2/1)シルト層,地山3%・炭化物2%含む
- 4.暗褐色(10YR3/4)砂層,地山を斑状に30%・小礫1%含む
- 5.暗褐色(10YR3/3)砂層,黒褐色土を斑状に15%・炭化物1%含む
- 6.褐色(10YR4/4)砂層,黒褐色土を斑状に5%・炭化物1%含む
- 7.オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂層,グライ化地山を斑状に20%・炭化物1%含む
- 8.黒褐色(10YR3/2)砂層,地山を斑状に10%含む
- 9.黒褐色(10YR3/1)細砂層,地山15%・炭化物1%含む
- 10-14はSD630埋土,SD630土層は第241図に収録



第182図 井戸跡F型(13) SE681・698



## 第4節 検出遺構

### 第87図

SE289

0.旧水田耕作土

- 1.黒色(10YR2/1)砂層、地山を斑状に5%・小礫3%・炭化物2%含む、人為堆積
- 2.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を斑状に20%・炭化物3%含む、人為堆積
- 3.黒色(7.5Y2/1)シルト層、しまり弱、地山を斑状に5%・小礫2%含む、人為堆積
- 4.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層[裏込土]、黒色土を斑状に5%・炭化物1%含む
- 5.褐色(10YR4/4)砂層[裏込土]、黒色土を斑状に3%・小礫2%含む
- 6.暗褐色(10YR3/4)砂層[裏込土]、黒色土を筋状に50%含む

SE299

- 7.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層、黒色土を斑状に5%・炭化物2%含む
- 8.褐色(10YR4/4)砂層、小礫2%含む
- 9.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層
- 10.灰オリーブ色(5Y4/2)砂層
- 11.暗オリーブ色(5Y4/3)砂層、黒色土を斑状に10%含む
- 12.褐色(10YR4/4)砂層、しまり弱

### 第108図

SE491

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に3%・炭化物1%含む、一括埋土
- 2.オリーブ黒色(5Y3/1)細砂層、地山5%・炭化物2%含む、一括埋土
- 3.黒褐色(10YR3/2)砂層、暗褐色土を斑状に20%・小礫1%含む、一括埋土
- 4.黒色(5Y2/1)シルト層、暗褐色土を斑状に10%・炭化物2%・小礫2%含む、一括埋土
- 5.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山15%・小礫3%含む、一括埋土
- 6.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%含む、一括埋土
- 7.黒褐色(10YR3/2)砂層[裏込土]、地山を斑状に15%・炭化物2%・小礫2%含む
- 8.黒褐色(10YR3/2)砂層[裏込土]、黒褐色土を斑状に15%・地山10%・小礫1%・炭化物微量含む
- 9.暗褐色(10YR3/3)砂層[裏込土]、黒褐色土を斑状に20%・炭化物2%含む、

SD504

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%・小礫1%含む

SE580

- 1.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に20%・炭化物2%含む
- 2.暗オリーブ灰色(5GY3/1)砂層、地山を斑状に10%・炭化物1%・小礫少量含む
- 3.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に5%含む
- 4.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、地山を斑状に20%・炭化物2%含む
- 5.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層、オリーブ黒色土を斑状に5%含む
- 6.暗オリーブ灰色(5GY3/1)砂層、しまり強、地山を斑状に30%・小礫2%含む
- 7.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)シルト層、地山20%・オリーブ黒色土を筋状に10%含む
- 8.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、グライ化地山を筋状に10%含む

### 第133図

SE112

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、黒色土を斑状に20%・地山3%・炭化物1%含む、人為堆積か
- 2.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山に黒色土5%含む、人為堆積か
- 3.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、しまり弱、黒色泥炭土を筋状に含む、自然堆積

SE116

- 1.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、黒色泥炭土を斑状に10%・小礫3%含む、人為堆積
- 2.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、黒色泥炭土3%含む、人為堆積
- 3.黒色(5Y2/1)泥炭シルト層、グライ化地山を斑状に20%含む
- 4.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、炭化物3%含む
- 5.黒褐色(10YR3/1)シルト層、黒色泥炭土を斑状に20%含む、[裏込土]か

### 第138図

SE261

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、小礫15%・地山を斑状に5%・炭化物1%含む、人為堆積
- 2.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に20%・小礫5%含む、人為堆積
- 3.オリーブ黒色(5Y3/1)細砂層、しまり弱い、地山を斑状に10%・小礫5%含む、人為堆積
- 4.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、しまり弱い、小礫多量・オリーブ黒色土(5Y3/1)を斑状に10%含む、人為堆積
- 5.褐色(10YR4/4)砂層、しまりあり、小礫10%・炭化物1%含む
- 6.暗褐色(10YR3/3)砂層、小礫多量・オリーブ黒色土を斑状に10%含む、5~8[裏込土]
- 7.暗褐色(10YR3/4)砂層、オリーブ黒色土(5Y3/1)を斑状に5%含む
- 8.暗褐色(10YR3/3)粗砂層

### 第147図

SE287

- 1.黒色(7.5Y2/1)シルト層、地山少量含む

- 2.黒色(5Y2/1)砂層、炭化物2%・地山を斑状に2%・小礫1%含む

3.黒色(N2/0)シルト層、しまり弱

4.黒色(2.5GY2/1)細砂層、しまり弱、グライ化地山20%含む

5.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層[裏込土]、地山をブロック状に5%含む

6.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、小礫10%・地山5%・炭化物2%含む、裏込土・崩落土か

7.暗オリーブ色(5Y4/4)砂層[裏込土]、地山20%・小礫5%・炭化物3%含む

SE288

8.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山をブロック状に5%・炭化物3%含む、人為堆積

9.灰オリーブ色(5Y4/2)砂層、オリーブ黒色土を斑状に15%・地山をブロック状に5%・炭化物5%含む、人為堆積

10.暗褐色(10YR3/3)砂層[裏込土]、小礫3%・オリーブ黒色土を斑状に3%含む

### 第167図

SE357

1.褐色(10YR4/4)砂層、黒褐色土を斑状に5%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を筋状に15%含む

3.褐色(10YR4/4)砂層、炭化物及び黒色土をブロック状に5%・黒色土を斑状に5%含む

4.黒色(5Y2/1)砂層、しまり弱、地山を斑状に20%含む

5.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層

6.SK1270の埋土

SE358

1.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層、炭化物1%・小礫1%含む、一括埋土か

SE492

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山5%・炭化物3%含む

2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、オリーブ黒色土を斑状に10%含む

3.黒色(5Y2/1)シルト層、しまり弱、地山10%含む

4.暗褐色(10YR3/3)砂層、オリーブ黒色土15%・炭化物2%・小礫1%含む

5.オリーブ黒色(5Y3/1)粗砂層、グライ化地山10%・炭化物2%含む

### 第177図

SE236

1.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山を斑状に20%・炭化物10%・小礫5%含む、人為堆積

2.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層、炭化物3%含む

3.暗灰黄色(2.5Y4/2)砂層、オリーブ黒色土を筋状に15%・炭化物3%含む、自然堆積

4.オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂層、炭化物1%含む、人為堆積

5.暗褐色(10YR3/4)砂層[裏込土]、地山30%・炭化物5%・小礫2%含む

6.褐色(10YR4/4)砂層[裏込土]、炭化物3%・小礫1%含む

SE259

1.黒色(N2/0)細砂層、地山3%・炭化物1%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山5%・炭化物1%含む

3.褐色(10YR4/4)砂層、黒色土を斑状に20%・炭化物3%・小礫2%

4.黒色(N2/0)シルト層、地山を斑状に10%含む

5.褐色(10YR4/4)砂層、黒色土を斑状に15%・小礫少量含む

6.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)細砂層、しまり弱、黒色土を斑状に20%含む

SD260

7.黒色(N2/0)細砂層

8.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物1%含む

SE263

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山10%・小礫2%・炭化物1%含む

2.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山20%・黒色土を斑状に15%・炭化物3%含む

3.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層、黒色土を斑状に2%含む

4.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、黒色泥炭シルト50%含む

### 第180図

SE157

1.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、オリーブ黒色土を斑状に10%・炭化物1%含む

2.褐色(10YR4/4)砂層、小礫5%・地山[酸化砂礫]5%含む

SK187

3.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、しまり強い、オリーブ黒色土10%・酸化地山10%・グライ化地山10%含む

4.暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂層、オリーブ黒色土15%含む

SE391

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物3%含む

2.黒色(10Y2/1)砂層、黄褐色砂1%含む

3.黒褐色(10YR2/2)砂層、褐灰色地山を斑状に10%・炭化物1%含む

4.黒褐色(10YR3/1)砂層、黄褐色砂3%含む

SE495

1.暗褐色(10YR3/4)砂層、暗褐色土を斑状に50%・小礫1%・炭化物少量含む

2.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層、しまり強、オリーブ黒色土を筋状に15%・炭化物1%含む、水成堆積

3.暗褐色(10YR3/4)砂層、流入土

第2表 井戸跡属性表

<p>SE01【検出位置】NC76【挿図】34【分類】C4【廃棄時行為】縦板あるいは葦簾全て抜き取り→人為堆積か(3層)→水成堆積か(1・2層)【掘形平面/規模】隅丸方形/145×140【深さ/レベル】84/−0.060m【井戸側規模】68×63【遺物】陶器(珠洲播鉢261-5)、木製品(箸)【備考】隅柱・横棧各4本完存(楔なし)。隅柱にはほぞ穴全て貫通し、下端部は平坦に加工。隅柱上部2本、後世鋸により切断される。</p>
<p>SE02【検出位置】NC77【挿図】34【分類】C1【廃棄時行為】(抜き取りなし)→人為堆積か【掘形平面/規模】隅丸方形/165×55【深さ/レベル】84/−0.260m【井戸側規模】78×58【遺物】木製品(箸)、陶器(珠洲甕)【備考】調査時における土砂崩落で縦板も原位置を離れ、堆積状況も不明確となってしまった。東・西の横棧は貫通する南・北の横棧端部の上に乗る構造をとる。隅柱下端部は平坦に加工。</p>
<p>SE03A【検出位置】NC63【挿図】35【重複】&gt;SE03B【分類】C1【廃棄時行為】北東隅柱・北面横棧各1本、縦板ほぼ全数抜き取り→部材投げ込み→人為堆積か(5・6層)【掘形平面/規模】楕円形/220×155【深さ/レベル】65/0.250m【井戸側規模】72×70【遺物】陶器(珠洲甕265-13)、木製品(箸・棒状・曲物底板293-6、9・柄振314-3・箱294-8~10・障子格子307-9、10・用途不明具322-13)、土錘、礫石器333-1【備考】隅柱にはほぞ穴全て貫通している。隅柱下端部は平坦に加工。</p>
<p>SE03B【検出位置】NC63【挿図】35【重複】&lt;SE03A【分類】F2【廃棄時行為】部材抜き取り→人為堆積(2層、葦簾の一部のみ残る)→SE03A構築【掘形平面/規模】隅丸方形/145×90~【深さ/レベル】54/0.400m【遺物】なし</p>
<p>SE04【検出位置】MK79【挿図】14【分類】A【廃棄時行為】(抜き取りなし)→礫多数(10数個)投入(5層)→人為堆積(2~4層)【掘形平面/規模】楕円形/270×240【深さ/レベル】162/−0.710m【井戸側規模】115×94【水溜施設】曲物(φ56×44)【遺物】陶器(珠洲播鉢259-7裏込、261-3、263-10・珠洲甕267-4~6、12、14)、木製品(箸・棒状・砥石台313-8)、土錘335-34、石製品(砥石332-11)、須恵器甕12-14【時期・備考】丸木舟転用の井戸跡。井戸側での規模は本遺跡で最大となる。出土陶器から14世紀代の構築か。</p>
<p>SE05【検出位置】MP81【挿図】36【分類】C4【廃棄時行為】縦板(あるいは葦簾)全数抜き取り→人為堆積か【掘形平面/規模】略円形/220×205【深さ/レベル】90/−0.140m【井戸側規模】80×80【遺物】木製品(板状)【備考】隅柱・横棧各4本完存(楔なし)。隅柱は全て樹皮付の加工木(スギ)を使用、その下端部は尖る。完全に接合はできなかったが、同一材をみかん割にしていた可能性あり。東・西の横棧は貫通する南・北の横棧端部の上に乗る構造をとる。</p>
<p>SE06【検出位置】MM84【挿図】37【分類】C1【廃棄時行為】(抜き取りなし)→人為堆積(1・2層)【掘形平面/規模】隅丸方形/135×130【深さ/レベル】106/−0.360m【井戸側規模】68×66【遺物】なし【備考】縦板は4重に立て並べている。縦板下部には一辺・径1~1.5cm方形・円形の貫通孔をもつもの5例あり。隅柱下端部は平坦であるが、切れ込み等の加工もあり他部材からの転用も含まれる。</p>
<p>SE07【検出位置】MN76【挿図】180【分類】F【廃棄時行為】部材抜き取り(曲物か)→人為堆積か【掘形平面/規模】略円形/155×135【深さ/レベル】37/0.460m【遺物】なし</p>
<p>SE08【検出位置】ML85【挿図】128【分類】D1【廃棄時行為】横棧・縦板の半数抜き取り→人為堆積(3層)→部材(横棧)を井戸側内に斜めに置く【掘形平面/規模】隅丸方形/155×155【深さ/レベル】108/−0.540m【井戸側規模】一辺80前後か【水溜施設】曲物(φ57×43)【遺物】陶器(珠洲播鉢264-3)、木製品(箸・棒状・漆塗り皿274-3)、土師器坏12-2【時期・備考】曲物内に炭化物が多量に入れている。出土陶器から14世紀代の構築か。</p>
<p>SE09【検出位置】MM85【挿図】180【分類】F【廃棄時行為】不明【掘形平面/規模】略円形200×</p>

180【深さ／レベル】48／0.210m【遺物】木製品（板杓子282-1・用途不明具319-5）

SE11【検出位置】MN70【挿図】38【重複】>SE15【分類】C2【廃棄時行為】北東隅柱1本抜き取り→人為堆積→礎を最上位（確認面上）に置く【掘形平面／規模】略円形／135×130【深さ／レベル】76／-0.070m【井戸側規模】一辺65前後か【遺物】陶器（珠洲甕265-10、16）、木製品（箸）、土錘【備考】横棧は2段以上あり、南面の横棧のみ自然木使用。

SE12A【検出位置】ML76【挿図】40【重複】<SE12B【分類】C1【廃棄時行為】北・南面縦板と南西隅柱を抜き取り（あるいは破壊か）→SE12B構築。12Aの中に納まるように12Bが位置する。【掘形平面／規模】隅丸方形／210×200【井戸側規模】一辺85～90【遺物】なし【備考】隅柱下端部は北西が平坦、北東・南東は尖る。

SE12B【検出位置】ML76【挿図】40【重複】>SE12A【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→人為堆積か（1層）【掘形平面／規模】隅丸方形／210×200【深さ／レベル】123／-0.350m【井戸側規模】67×65【水溜施設】曲物（φ70×54）、外面に家形の弱い線刻あり【遺物】陶器（珠洲壺265-5）【時期・備考】曲物（2箇所）を年輪年代測定した結果、1138年・1275年の数値が、また東面縦板の測定では1296年の数値がそれぞれ示された。年輪年代測定数値から14世紀代の構築か。隅柱下端部は平坦、ほぞ穴は全て未貫通、北東隅柱には楔が残る。南面を除く3面の縦板のうち、一部は火を受け黒化している。

SE15【検出位置】MN70【挿図】38【重複】SE591<SE15<SE11【分類】C1【廃棄時行為】SE11構築に伴う抜き取り、あるいは破壊か→礎（人頭大～拳大）多数投入（底面直上から出土）→部材投入→人為堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／165×150【深さ／レベル】68／0.100m【井戸側規模】76×76【遺物】木製品（棒状）、土錘【備考】縦板のうち少なくとも10枚には、その下部に一辺1～1.5cmの方形の貫通孔が穿たれる。

SE16【検出位置】NI75【挿図】42【重複】>SE522【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→人為堆積（3層、葦が多量に含まれる）→下駄・部材残置（投入）→2層堆積（人為か）【掘形平面／規模】略円形／190×170【深さ／レベル】122／-0.500m【井戸側規模】60×60【遺物】陶器（越前播鉢269-9）、木製品（箸・折敷285-7・曲物底板292-17・下駄301-3、302-2・板状325-7）、砥石332-15、土錘【時期・備考】出土陶器から16世紀代構築の可能性あり。隅柱（ほぞ穴全て貫通）と横棧の結合部には全て楔残る、隅柱の下端部尖る。東面縦板の1枚には木葉状の線刻、北・南面の縦板にも線刻あり。

SE17【検出位置】MM78【挿図】45【分類】C4【廃棄時行為】？→部材投入・人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／150×135【井戸側規模】70×70【遺物】木製品（箸）【備考】盛土保存区域にあたるため、部材（隅柱・横棧）確認・平面図作成のみ。

SE18【検出位置】ML83【挿図】付図1【分類】C1【掘形平面／規模】隅丸方形120×115【井戸側規模】70×45か【備考】プラン検出→部材一部確認→平面図作成→埋め戻し

SE19【検出位置】MO79【挿図】付図1【分類】C1【掘形平面／規模】隅丸方形／175×165【井戸側規模】90×70か【遺物】陶器（珠洲播鉢264-6、確認面最上層出土）【備考】6の播鉢は再生した口縁部をもつ。プラン検出→部材一部確認→平面図作成→埋め戻し。

SE20【検出位置】MQ78【挿図】付図1【分類】C1【掘形平面／規模】略円形／200×200【井戸側規模】80×70か【備考】プラン検出→部材一部確認→平面図作成→埋め戻し

SE21【検出位置】MQ72【挿図】46【分類】C1【廃棄時行為】縦板一部抜き取り→人為堆積（2層）→東面横棧を井戸側内に斜めに置く→礎（河原石）を詰める【掘形平面／規模】隅丸方形／115×115【深さ／レベル】70／0.210m【井戸側規模】70×65【遺物】なし【備考】隅柱の下端部は平坦であり、南東・北東柱には楔が残る。東面縦板（長74×幅26×厚4.7cm）は1枚のみ残る。

S E 22【検出位置】NG74【挿図】129【分類】D1【廃棄時行為】縦板北・西面の一部を除き抜き取り→青砂で充填（2層、人為堆積）→部材投入（横棧を意図的に中央に置く）【掘形平面／規模】隅丸方形／120×110【深さ／レベル】38／0.230m【井戸側規模】74×60【遺物】木製品(箸・下駄298-2、300-2)、土錘334-4【備考】南・東面横棧は自然木使用。確認した横棧は四方とも原位置を保つ、中央に意図的に置かれた横棧（自然木）は上位段の横棧か。

S E 23【検出位置】MN72【挿図】47【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなし）→部材・礫（20～30個）投入→人為堆積（5層）→水成堆積（3・4層）【掘形平面／規模】楕円形／190×145【深さ／レベル】82／0.030m【井戸側規模】72×68【遺物】木製品(曲物底板292-9・棒状)【備考】隅柱下端部は平坦である。北・南の横棧は貫通する東・西の横棧端部の上に乗る構造をとる。各面の縦板は焼けて黒化しているものあり、また下部に一辺1.5～2cm方形の貫通孔あるものあり。北面縦板の1枚は長84×幅69×厚4.3cm、×状の線刻あり。

S E 25【検出位置】MR72【挿図】付図1【掘形平面／規模】隅丸方形／100×100【井戸側規模】65×60【備考】プラン検出→部材一部確認→平面図作成→埋め戻し

S E 26【検出位置】NC82【挿図】45【分類】C1【廃棄時行為】縦板一部抜き取りか→人為堆積か（4層）【掘形平面／規模】隅丸方形か／150×140【深さ／レベル】102／-0.050m【井戸側規模】88×70【水溜施設】曲物（φ49×36）【遺物】木製品(曲物290-6・箸)、土錘【時期・備考】曲物（2箇所）を年輪年代測定した結果、1175年・1218年の数値が示された。隅柱下端部は全て平坦、縦板のうち一部には、切り取り・穿孔等の加工あり、他部材からの転用か。

S E 27【検出位置】NC82【挿図】161【分類】E【廃棄時行為】部材全て抜き取りか（水溜の曲物のみ残る）→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／120×90【深さ／レベル】77／0.140m【水溜施設】曲物（φ51×37）【遺物】木製品(箸・ささら287-9・曲物290-5)、ささらは曲物内中位出土（286図下に出土状況の写真あり）【時期・備考】曲物（2箇所）を年輪年代測定した結果、1136年・1203年の数値が示された。曲物に隣接して自然木1本あり、これが横棧の一部になるとすればD型であった可能性がある。

S E 28【検出位置】ND82【挿図】48【分類】F【廃棄時行為】部材全て抜き取りか→最下層に礫3個→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／125×110【深さ／レベル】80／0.160m【遺物】陶器(珠洲播鉢)

S E 29【検出位置】ND81【挿図】48【重複】SE30・31【分類】F1【廃棄時行為】抜き取り→部材・曲物・礫投入→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／190×175【深さ／レベル】72／0.140m【遺物】木製品(曲物290-3・曲物底板291-9・箸・棒状・板状)、土錘335-23、37【備考】縦板の一部のみ残存。曲物は水溜に使用したものかどうか不明。SE29～32埋土最上位から元豊通寶337-1出土。

S E 30【検出位置】ND82【挿図】48【重複】SE29・31・33【分類】D2【廃棄時行為】（抜き取りなし）→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形か／一辺120～130【深さ／レベル】84／0.070m【井戸側規模】58×58【遺物】木製品(箸)【備考】横棧は加工材であるが全て樹皮が残る。

S E 31【検出位置】ND82【挿図】48【重複】<SE30、SE32・33【分類】C1【廃棄時行為】（北・東面はSE30構築に伴う抜き取り・破壊）→西面縦板の一部抜き取り→砂で埋立（人為堆積）【掘形平面／規模】不明／一辺150前後【深さ／レベル】95／-0.040m【井戸側規模】一辺78【水溜施設】曲物（φ45×35、内部には漆状の付着物あり）、曲物内にも青砂が充填【遺物】木製品(箸)【時期・備考】曲物（2箇所）を年輪年代測定した結果、1300年・1303年の数値が示された。残る隅柱（下端部平坦）にはほぞ穴貫通、痕跡から使用した鑿の幅は2cm程か。

S E 32【検出位置】ND81【挿図】48【重複】SE31【分類】D1【廃棄時行為】縦板一部抜き取り→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形か／一辺160前後【深さ／レベル】103／-0.130m【井戸側規模】70×

70【遺物】なし【備考】横棧は太くて丈夫な角材を使用。東面は長83×幅10×厚3.4cm。

S E 33【検出位置】ND82【挿図】48【重複】SE30・31【分類】C2【廃棄時行為】隅柱3本抜き取り（南東隅柱のみ残）→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／130×120【深さ／レベル】80／0.240m【井戸側規模】一辺50前後か【遺物】陶器(珠洲甕)、銭貨（元豊通寶337-2、埋土最上位）【備考】横棧は3段以上（南面）。

S E 47【検出位置】OA52【挿図】170【重複】<SV43【分類】F【廃棄時行為】部材全て抜き取り→人為堆積（2・3層）→確認面上中央に人頭大の礫（この下に板あり）を置く（1層）【掘形平面／規模】隅丸方形か／190×175【深さ／レベル】50／0.270m【遺物】木製品(箸・棒状)

S E 50【検出位置】LS54【挿図】52【分類】C1【廃棄時行為】縦板一部抜き取りか→人為堆積→部材（縦板等）投入→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】略円形／180×165【深さ／レベル】115／0.070m【井戸側規模】78×78【遺物】陶器(珠洲甕265-17)、木製品(箸)、土錘

S E 53【検出位置】LS59【挿図】170【分類】F【廃棄時行為】部材抜き取り→水成堆積（4層）→人為堆積（1～3層）【掘形平面／規模】隅丸方形か／210×185【深さ／レベル】72／0.430m【遺物】木製品(箸・棒状・板状)【備考】底面直上に削りくず状の薄い木片の束あり（平面図に図示）

S E 55【検出位置】LR58【挿図】170【分類】F【廃棄時行為】部材抜き取り→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／120×110【深さ／レベル】48／0.750m【遺物】土師器甕

S E 56【検出位置】LR58【挿図】161【分類】E【廃棄時行為】曲物上部破壊か(現存高8cm)→人為堆積【掘形平面／規模】略円形／90×82【深さ／レベル】54／0.640m【水溜施設】曲物（φ55×8）【遺物】陶器（珠洲甕265-15）、木製品(箸・棒状)

S E 57【検出位置】MB57【挿図】170【重複】>SD89【分類】F【廃棄時行為】部材全て抜き取り→自然堆積（4層）→人為堆積か（1～3層）【掘形平面／規模】隅丸方形／210×190【深さ／レベル】58／0.630m【遺物】木製品(箸・棒状・板状)、土錘

S E 58【検出位置】MC48【挿図】130【重複】<SK928【分類】D1【廃棄時行為】部材（横棧2本含む）大部分抜き取り→人為堆積（3層、青砂主）→部材投入→人為堆積（2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／110×110【深さ／レベル】72／0.410m【遺物】陶器(珠洲播鉢260-2)、木製品(箸・棒状)【備考】横棧は北・南面の2本のみ、縦板は北面2枚、東・南面各1枚残る。

S E 60【検出位置】LQ56【挿図】130【分類】D1【廃棄時行為】部材一部（南面横棧等）抜き取り→礫・部材投入→人為堆積（2層）【掘形平面／規模】略円形／140×125【深さ／レベル】75／0.310m【井戸側規模】推定65×55【遺物】陶器(瀬戸257-7)、木製品(漆塗り椀275-8、箸・棒状)、土錘、近世磁器271-10【備考】土圧の影響で縦板が変形している。近世磁器は埋土最上位であり、本井戸に伴うものか不明。【時期・備考】出土陶器から15世紀代の構築か。

S E 61【検出位置】MB60【挿図】171【分類】F3【廃棄時行為】部材全て抜き取り→水成堆積か（レンズ状堆積を示す）【掘形平面／規模】略円形／265×235【深さ／レベル】55×0.630m【遺物】木製品(箸・棒状320-5、322-12)

S E 62【検出位置】MA49【挿図】53【分類】C1【廃棄時行為】隅柱2本（南東・南西）・縦板の一部抜き取り→曲物容器残置→人為堆積か【掘形平面／規模】略円形／115×100【深さ／レベル】90／0.300m【井戸側規模】72×58【遺物】陶器（珠洲播鉢259-4）、木製品(曲物容器、棒状)、土錘【時期・備考】出土陶器から14世紀代の構築か。隅柱下端部は2本とも尖る。縦板は少なくとも2重となっており、その多くは下端部が尖状を示す。

S E 66【検出位置】LT48【挿図】131【分類】D1【廃棄時行為】横棧・縦板大部分抜き取り→水成堆積

(2~4層) →人為堆積(1層) 【掘形平面/規模】隅丸方形/120×115 【深さ/レベル】114/0.320m 【井戸側規模】66×50 【遺物】木製品(箸)、土錘

SE68 【検出位置】MF55 【挿図】171 【分類】F 【廃棄時行為】部材ほぼ全数抜き取り→板材(縦板か)一枚のみ残置→人為堆積(1~4層) 【掘形平面/規模】略円形/130×120 【深さ/レベル】49/0.820m 【遺物】陶器(珠洲播鉢)

SE74 【検出位置】LR57 【挿図】162 【分類】E 【廃棄時行為】井戸側全て抜き取りか→人為堆積(3・4層)→水成堆積(2層)か 【掘形平面/規模】略円形/105×100 【深さ/レベル】78/0.510m 【水溜施設】曲物(φ37×23) 【遺物】木製品(箸・棒状)

SE75 【検出位置】MF57 【挿図】171 【分類】F 【廃棄時行為】全て抜き取り→水成堆積 【掘形平面/規模】略円形/130×125 【深さ/レベル】51/0.790m 【遺物】自然遺物(モモ)

SE80 【検出位置】ME57 【挿図】171 【分類】F 【廃棄時行為】抜き取り後(曲物抜き取りか)→水成堆積(2層)→人為堆積(1層)か 【掘形平面/規模】楕円形/140×110 【深さ/レベル】44/0.660m 【遺物】なし

SE84 【検出位置】MG61 【挿図】171 【分類】F 【廃棄時行為】全て抜き取り→人為堆積(1~3層) 【掘形平面/規模】隅丸方形/135×130 【深さ/レベル】50/0.740m 【遺物】なし

SE85 【検出位置】MF62 【挿図】131 【分類】D2 【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)→人為堆積(2層) 【掘形平面/規模】隅丸方形/145×130 【深さ/レベル】88/0.330m 【井戸側規模】一辺60前後か 【遺物】なし 【備考】横棧は2段分あり。

SE86 【検出位置】MF63 【挿図】172 【分類】F 【廃棄時行為】全て抜き取り→人為堆積(3層) 【掘形平面/規模】楕円形/170×160 【深さ/レベル】36/0.650m 【遺物】なし

SE102 【検出位置】MD52 【挿図】172 【分類】F 【廃棄時行為】全て抜き取り→部材投入→水成堆積(3層)→人為堆積(1・2層) 【掘形平面/規模】隅丸方形か/115×100 【深さ/レベル】56/0.590m 【遺物】木製品(箸・棒状322-11)、土錘

SE103 【検出位置】MD52 【挿図】132 【分類】D1 【廃棄時行為】ほぼ全数抜き取り→水成堆積(3層)→部材流入(投入)→人為堆積(1層) 【掘形平面/規模】略円形/130×125 【深さ/レベル】48/0.630m 【井戸側規模】一辺60前後か 【遺物】木製品(箸・棒状)

SE104 【検出位置】MD57 【挿図】172 【分類】F 【廃棄時行為】部材ほぼ全て抜き取り→水成堆積(5層)か→人為堆積(3層)か 【掘形平面/規模】略円形/160×140 【深さ/レベル】64/0.610m 【遺物】木製品(箸)、土錘334-8、砥石332-1

SE105 【検出位置】LP59 【挿図】132 【分類】D1 【廃棄時行為】縦板一部抜き取り→人為堆積(7層)→部材投入→人為堆積(1~3層) 【掘形平面/規模】略円形/145×120 【深さ/レベル】92/0.330m 【井戸側規模】45×45 【遺物】砥石332-10

SE106 【検出位置】LP58 【挿図】54 【分類】C1 【廃棄時行為】縦板一部抜き取り→横棧を枠内中央に置く、部材投入→人為堆積(3層)→水成堆積(1・2層) 【掘形平面/規模】隅丸方形/105×100 【深さ/レベル】77/0.510m 【井戸側規模】64×60 【水溜施設】曲物(φ39×15) 【遺物】木製品(箸・棒状・板状) 【備考】隅柱下端部は平坦、南面横棧のみ自然木。

SE107 【検出位置】LP58 【挿図】54 【分類】Cか 【廃棄時行為】部材ほとんど抜き取りか→人為堆積(礎含む) 【掘形平面/規模】隅丸方形/85×70 【深さ/レベル】40/0.880m 【遺物】なし 【備考】北東隅柱(?) 1本のみ残る。

SE108 【検出位置】LM51 【挿図】173 【分類】F 【廃棄時行為】部材ほぼ全数抜き取り→人為堆積(5層)



→水成堆積(1・2層)【掘形平面/規模】略円形/180×170【深さ/レベル】60/0.560m【遺物】木製品(箸・漆塗り椀277-3、280-4)

S E 109【検出位置】LN50【挿図】55【分類】C4【廃棄時行為】隅柱3本含む部材の大部分抜き取り→水成堆積(2~4層)→人為堆積(1層)か【掘形平面/規模】楕円形か/90×70【深さ/レベル】53/0.680m【水溜施設】曲物(推定φ45)【遺物】陶器(瀬戸255-1)、木製品(箸)【時期・備考】出土陶器から15世紀代の構築か。南東隅柱1本と曲物の一部のみ残存。

S E 112【検出位置】MD51【挿図】133【分類】D1【廃棄時行為】横棧1本・縦板抜き取り→水成堆積(3層)→部材投入→人為堆積(1・2層)か【掘形平面/規模】隅丸方形/100×95【深さ/レベル】50/0.560m【井戸側規模】推定60×60【遺物】なし【備考】東・西横棧は自然木。

S E 114【検出位置】LO57【挿図】173【分類】F【廃棄時行為】部材全て抜き取り→人為堆積(3層)か→水成堆積(1・2層)【掘形平面/規模】略円形/145×125【深さ/レベル】42/0.710m【水溜施設】曲物か(φ50前後か)【遺物】なし【備考】土層断面に曲物抜き取り痕跡残る。

S E 116【検出位置】MC53【挿図】133【分類】D4【廃棄時行為】縦板あるいは葦簾全数抜き取りか→人為堆積(1・2・4層)か【掘形平面/規模】略円形/145×130【深さ/レベル】64/0.510m【水溜施設】曲物(φ36×21)【遺物】なし【時期・備考】曲物を年輪年代測定した結果、1328年の数値が示された。横棧4本確認したが、冠水により原位置を離れ、図示できなかった。

S E 117【検出位置】ME62【挿図】55【分類】C4【廃棄時行為】隅柱3本・縦板あるいは葦簾抜き取り→水成堆積(3層)→人為堆積(1・2層)か【掘形平面/規模】隅丸方形か/180×175【深さ/レベル】90/0.310m【井戸側規模】一辺65~70【遺物】【時期・備考】隅柱は北東部のみ残る。

S E 118【検出位置】MD62【挿図】134【分類】D1【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→部材投入→水成堆積(1~7層)【掘形平面/規模】隅丸方形/120×110【深さ/レベル】65/0.610m【遺物】木製品(箸・棒状)、土錘【備考】北面に縦板10枚のみ残る。

S E 119【検出位置】MD56【挿図】55【分類】C4【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→人為堆積(2・3層)【掘形平面/規模】略円形/135×120【深さ/レベル】100/0.260m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】なし【備考】残る部材は、北西・南東隅柱、西面横棧のみ、いずれも自然木。

S E 120【検出位置】ME61【挿図】56【分類】C1【廃棄時行為】隅柱3本・縦板抜き取り→礫投入→人為堆積(2層)【掘形平面/規模】隅丸方形/110×100【深さ/レベル】64/0.560m【井戸側規模】一辺50前後か【遺物】礫石器333-2【時期・備考】隅柱は南西隅部のみ。横棧のうち東面のみ自然木使用。

S E 121【検出位置】MF58【挿図】29【重複】SKI83【分類】B【廃棄時行為】縦板一部(南西面)のみ抜き取りか→人為堆積(1層)【掘形平面/規模】略円形/径140前後か【深さ/レベル】117/0.140m【井戸側規模】65×58【水溜施設】曲物(φ58×57)【遺物】陶器(越前播鉢269-4、12)、木製品(漆塗り蓋274-8・把手287-8・下駄298-1・用途不明具326-18)、土師器坏【時期・備考】出土陶器から16世紀代の構築か。縦板を五角形様に立て並べた形状を示し、隅柱・横棧は一切ない。

S E 123【検出位置】MH53【挿図】57【重複】<SD64【分類】C1【廃棄時行為】隅柱1本・縦板の大部分抜き取り→人為堆積か【掘形平面/規模】略円形/180×160【深さ/レベル】124/0.070m【井戸側規模】62×62【水溜施設】曲物(φ59×55)【遺物】木製品(箸・棒状)【備考】隅柱・横棧は曲物に接する位置に配されており、曲物外径と井戸側内法寸法はほぼ同一となる。西面横棧のみ自然木使用。

S E 125【検出位置】MI50【挿図】56【分類】C4【廃棄時行為】隅柱2本・横棧抜き取り→材(横棧)を斜めに再配置→礫残置→人為堆積(3層)→水成堆積(1・2層)【掘形平面/規模】隅丸方形/130×115【深さ/レベル】53/0.740m【井戸側規模】一辺65前後か【遺物】なし【備考】隅柱は南東・北西部が残る。

横棧にも貫通孔等あり、他部材からの転用か。

S E 127【検出位置】LT50【挿図】58【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなし）→水成堆積（3・4層）→礫・部材投入→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】略円形／340×320【深さ／レベル】115／0.060m【井戸側規模】78×76【遺物】木製品(下駄298-3・箸・棒状)【時期・備考】南面縦板4枚を年輪年代測定した結果、1153年・1171年・1200年・1201年の数値が示された。隅柱下端部は平坦。南西・南東隅柱は加工痕あり転用材か。横棧は四方とも2段残る。縦板は北面29枚、南面15枚、東面17枚、西面19枚。

S E 146【検出位置】OC50【挿図】134【分類】D1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→部材投入→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】略円形／195×165【深さ／レベル】45／0.200m【井戸側規模】一辺80前後か【遺物】木製品(栓295-7、箸・棒状・板状)【備考】北面横棧のみ自然木。

S E 147【検出位置】OB50【挿図】173【分類】F【廃棄時行為】全数抜き取り→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】略円形／180×175【深さ／レベル】71／0.100m【遺物】木製品(楔・棒状)

S E 148【検出位置】OB50【挿図】59【分類】C1【廃棄時行為】横棧・縦板大部分抜き取り→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】略円形／115×100【深さ／レベル】43／0.370m【井戸側規模】推定58×56【水溜施設】曲物（φ50×25）【遺物】木製品(箸)【備考】隅柱は4本残るが、横棧は1本もなし。

S E 149【検出位置】OC49【挿図】60【分類】C1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→礫（河原石）・部材・木箱等投入→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】隅丸方形／125×120【深さ／レベル】62／0.160m【井戸側規模】70×70【水溜施設】方形組物（一辺45×高43cm）【遺物】木製品（箱294-4）、礫石器333-10、11【備考】隅柱下端部は平坦であり、角柱・丸柱・半割の丸柱・1/4割の丸柱を使用。

S E 150【検出位置】OE57【挿図】174【分類】F1【廃棄時行為】部材大部分抜き取り（縦板の一部のみ残）→部材・自然木・礫投入→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】隅丸方形か／180×110～【深さ／レベル】57／0.110m【遺物】土器(瓦質播鉢269-14)、木製品(木筒273-4、6)礫石器333-4、5、6【備考】縦板使用の井戸か、井戸の西半分は調査区外に及ぶ。

S E 151【検出位置】OE51【挿図】163【分類】E【廃棄時行為】井戸側部材抜き取りか→青砂で埋立（人為堆積・3層）【掘形平面／規模】円形／150×140【深さ／レベル】48／0.250m【水溜施設】曲物（φ42×25）【遺物】なし

S E 152【検出位置】NT49【挿図】59【分類】C4【廃棄時行為】曲物・隅柱3本・横棧抜き取り→水成堆積（2・4層）か【掘形平面／規模】略円形／125×100【深さ／レベル】48／0.280m【井戸側規模】一辺55前後か【水溜施設】曲物か【遺物】なし【備考】北東隅柱は炭化している。

S E 153【検出位置】NS50【挿図】61【分類】C1+2【廃棄時行為】隅柱2本（北西・南東）と縦板の大部分抜き取り→人為堆積（2層）か【掘形平面／規模】略円形／165×160【深さ／レベル】62／0.140m【井戸側規模】一辺70前後か【遺物】木製品(箸・折敷・板状)【備考】縦板の外側に葦簾を使用、南東隅部の葦の長さ41cm。

S E 154【検出位置】NS50【挿図】175【重複】<SD185【分類】F1か【廃棄時行為】部材抜き取り→部材投入→人為堆積（2層）→銭貨入りの柄杓埋置・人為堆積（1層）【掘形平面／規模】楕円形／170×140【深さ／レベル】55／0.230m【遺物】木製品（曲物柄杓289-2）、銭貨（洪武通寶337-3）【時期・備考】銭貨初鑄年より井戸廃棄の上限年代は1368年となる。

S E 155【検出位置】NS50【挿図】61【分類】C4【廃棄時行為】隅柱3本・横棧1本抜き取り→人為堆積【掘形平面／規模】略円形／100×95【深さ／レベル】37／0.450m【井戸側規模】一辺55前後【遺物】なし

S E 157【検出位置】NP51【挿図】180【重複】>SK187【分類】F【廃棄時行為】部材抜き取り→人為堆積【掘形平面／規模】略円形／145×125【深さ／レベル】44／0.410m【遺物】なし

S E 158【検出位置】NQ50【挿図】176【分類】F【廃棄時行為】抜き取り→人為堆積か（2層）【掘形平面／規模】楕円形か／210×180【深さ／レベル】58／0.180m【遺物】木製品(折敷・板状)

S E 159【検出位置】NL48【挿図】61【分類】C1【廃棄時行為】隅柱2本・縦板半数抜き取り→人為堆積(7層)→曲物容器・部材投入→人為堆積(5層、葦・炭化材を多く含む)→水成堆積(4層、灰・泥炭質土が筋状に入る)→砂で一括埋立(2層)【掘形平面／規模】隅丸方形／150×140【深さ／レベル】64／0.290m【井戸側規模】一辺65前後【遺物】木製品(曲物容器290-2・障子格子307-13・棒状320-15)、自然遺物(モモ)【備考】西面縦板の1枚(北側)に×状の線刻あり。さらにその南側の縦板には、SE295側板(丸木舟)に見られるような長さ3.5cm×幅2cmの方形の割り抜きがあり、その形状と合わせ、丸木舟側板を転用した縦板であった可能性がある。

S E 160【検出位置】NS60【挿図】62【分類】C2【廃棄時行為】隅柱3本抜き取り→人為堆積(2層)【掘形平面／規模】略円形／130×120【深さ／レベル】56／0.050m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】木製品(箸)【備考】横棧は自然木主体で、2段分検出。隅柱は南東部のみ残る。

S E 161【検出位置】NL52【挿図】63【分類】C1【廃棄時行為】北面縦板全数・横棧3本抜き取り→曲物内に礫投入→人為堆積(1・2層)→確認面中央に礫残置【掘形平面／規模】略円形／230×225【深さ／レベル】82／0.120m【井戸側規模】66×66【水溜施設】曲物(φ36×21)【遺物】陶器(珠洲播鉢267-8)【備考】隅柱は4本とも下端部は平坦である。縦板下部に一辺1~1.5cm四方の貫通孔のあるもの、火を受け黒化しているものあり。

S E 162【検出位置】NK53【挿図】64【分類】C1+3【廃棄時行為】縦板一部抜き取りか→部材投入→人為堆積(1層)【掘形平面／規模】隅丸方形／190×180【深さ／レベル】60／0.320m【井戸側規模】90×85【遺物】木製品(箸・曲物底板・棒状)【備考】縦板を横板で押さえる構造(北面以外の3面で確認)をとる。横板には3ヶ所に貫通孔あり、他部材の転用と思われる。

S E 164【検出位置】NJ58【挿図】176【分類】F【廃棄時行為】部材ほぼ全数抜き取り→人為堆積(1・2・4層)【掘形平面／規模】隅丸方形／140×135【深さ／レベル】70／0.300m【遺物】木製品(箸)、土錘、陶器(珠洲播鉢)

S E 165【検出位置】NH63【挿図】62【分類】C1【廃棄時行為】隅柱1本(北西)・縦板半数以上抜き取り→人為堆積か(2層)→水成堆積(1層)【掘形平面／規模】略円形／150×130【深さ／レベル】72／0.260m【井戸側規模】64×62【水溜施設】曲物(φ64×35、内面に黒色の付着物あり)【遺物】木製品(箸・棒状)【備考】隅柱下端部は平坦であるが、残存する高さは20cm前後にすぎない。

S E 166【検出位置】NH62【挿図】65【分類】C1【廃棄時行為】部材一部抜き取りか→部材投入→人為堆積(3層)【掘形平面／規模】略円形／155×150【深さ／レベル】84／0.100m【井戸側規模】60×56【遺物】なし【備考】隅柱下端部は尖り、各ほぞ穴は貫通している。南面の横棧は2段確認。裏込土内に礫(縦板固定のためか)

S E 167【検出位置】OC49【挿図】163【分類】E【廃棄時行為】(井戸側部材抜き取りか)→水溜の曲物抜き取りか→水成堆積(4層)→人為堆積(1~3層)【掘形平面／規模】円形／110×100【深さ／レベル】38／0.410m【水溜施設】曲物(φ55前後か)【遺物】なし【備考】曲物を葦で包んで埋置したと思われるが、曲物はなく周囲の葦のみ残る。

S E 168【検出位置】NN52【挿図】162【分類】E【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)→人為堆積か【掘形平面／規模】略円形／115×95【深さ／レベル】25／0.540m【水溜施設】曲物(φ60×20)【遺物】土錘335-17【時期・備考】上部は後世の削平か。

S E 169【検出位置】NK61【挿図】65【重複】【分類】C2【廃棄時行為】北西・南西隅柱抜き取り→礫・

部材投入→人為堆積(2・3層)【掘形平面/規模】略円形/120×120【深さ/レベル】50/0.340m【井戸側規模】62×62【遺物】陶器(珠洲挿鉢)、土器(瓦器火鉢270-9)、木製品(用途不明具323-10)【備考】隅柱下端部は尖る。葦簾は北面のみに残る、他は腐食した?。

SE170【検出位置】NK61【挿図】66【重複】<SE171【分類】D4【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→人為堆積(5層)→水成堆積(3層)か【掘形平面/規模】隅丸方形か/225×130【深さ/レベル】64/0.240m【井戸側規模】一辺80前後か【遺物】なし【備考】横棧2本のみ残る。

SE171【検出位置】NK62【挿図】66【重複】>SE170【分類】C2【廃棄時行為】隅柱2本抜き取り→人為堆積【掘形平面/規模】隅丸方形か/165×140【深さ/レベル】60/0.280m【井戸側規模】72×68【遺物】木製品(板状)【備考】隅柱下端部は尖る。ほぞ穴なし。葦簾は北・東面に残る。

SE172【検出位置】NL62【挿図】135【重複】>SE190【分類】D1+2【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)→水成堆積(3層)→人為堆積(1・2層)か【掘形平面/規模】隅丸方形/140×130【深さ/レベル】76/0.110m【井戸側規模】60×60【遺物】なし【備考】西面が縦板(8枚)で他3面は葦簾。横棧はすべて自然木。

SE174【検出位置】NH61【挿図】67【重複】>SK175【分類】C2【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)→曲物内に部材投入→人為堆積(2層→1層)【掘形平面/規模】隅丸方形/150×140【深さ/レベル】82/0.170m【井戸側規模】58×55【水溜施設】曲物(φ50×50)【遺物】木製品(刀子柄297-2)、土錘【備考】曲物を葦で包んで埋置。隅柱(南西、下端部尖る)・横棧(2段分あり)は、井戸側を構成するというより、水溜の曲物を押さえるために設置されたものか。曲物には一辺2cm前後の方形の切れ込みあり。

SE176【検出位置】NI60【挿図】176【分類】F【廃棄時行為】部材大部分抜き取り(曲物の一部のみ残る)→人為堆積か(1~5層)【掘形平面/規模】隅丸方形/160×150【深さ/レベル】80/0.200m【水溜施設】曲物か【遺物】青磁251-9、陶器(珠洲甕)、木製品(草履芯305-7、14・箸)

SE177【検出位置】OA59【挿図】136【分類】D2【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)→水成堆積(3層)か→部材投入→人為堆積(1・2層)【掘形平面/規模】隅丸方形/165×155【深さ/レベル】50/0.110m【井戸側規模】72×62【遺物】木製品(箸・棒状・板状)【備考】葦簾は全周する。

SE178【検出位置】NK51【挿図】71【重複】<SE197【分類】F【廃棄時行為】部材全数抜き取りか→人為堆積【掘形平面/規模】隅丸方形/110×110【深さ/レベル】53/0.340m【遺物】なし

SE179【検出位置】NA54【挿図】68【分類】C1【廃棄時行為】部材一部抜き取り→曲物内部材投入→人為堆積(3層、部材投入→1層)【掘形平面/規模】略円形/125×115【深さ/レベル】75/0.170m【井戸側規模】一辺60前後か【水溜施設】曲物(φ51×40)【遺物】土錘

SE180【検出位置】NA54【挿図】66【分類】C1【廃棄時行為】隅柱1本(南西隅)以外抜き取り投入→人為堆積(1層→部材1枚(縦板)を中央部に意図的に置く)【掘形平面/規模】略円形/155×150【深さ/レベル】42/0.580m【遺物】なし

SE181【検出位置】NA53【挿図】68【分類】C1【廃棄時行為】(抜き取りなし)か→部材投入→人為堆積か(2層→1層)【掘形平面/規模】隅丸方形/200×170【深さ/レベル】70/0.330m【井戸側規模】66×66【遺物】木製品(板杓子282-4・曲物底板292-6・草履芯305-11・箸・棒状)【備考】隅柱下端部は平坦。板状の材を柱としている。

SE182【検出位置】NA54【挿図】69【分類】C1【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→水成堆積か(2~4層)【掘形平面/規模】隅丸方形か/120×115【深さ/レベル】52/0.480m【井戸側規模】一辺65前後か【水溜施設】曲物(φ40×30)【遺物】なし【備考】部材は北西・南西の隅柱と南面縦板1枚のみ。

SE188【検出位置】NJ58【挿図】30【分類】B【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→曲物内部材投入→

人為堆積（1層、礫混入）【掘形平面／規模】隅丸方形／200×165【深さ／レベル】82／0.160m【井戸側規模】60×50【水溜施設】曲物（φ53×39）【遺物】木製品（刀子柄297-7・箸、弥生土器10-6【備考】裏込土内にも礫あり。

SE189【検出位置】NF64【挿図】70【分類】C1【廃棄時行為】縦板一部のみ抜き取りか→曲物内に拳大の礫3個投入→礫・部材投入→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】方形／130×115【深さ／レベル】82／0.120m【井戸側規模】82×78【水溜施設】曲物（φ42×28）【遺物】陶器（珠洲甕265-9、12）、木製品（折敷283-2、284-5・箸・棒状・板状）、自然遺物（クルミ）【時期・備考】出土した折敷を年輪年代測定した結果、1286年の数値が示された。この数値と出土陶器から14世紀代の構築か。東面横棧2段、縦板は3～4重。

SE190【検出位置】NL62【挿図】135【重複】<SE172【分類】C2【廃棄時行為】隅柱3本抜き取り→人為堆積か（2層）【掘形平面／規模】略円形／140×135【深さ／レベル】70／0.110m【井戸側規模】70×60【遺物】なし【備考】隅柱は北東部（下端部平坦）のみ、西面横棧は3段残る

SE193【検出位置】NE51【挿図】162【分類】E【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→水成堆積（2・3層）【掘形平面／規模】略円形／75×65【深さ／レベル】52／0.510m【水溜施設】曲物（φ42×25）【遺物】なし

SE194【検出位置】NE50【挿図】136【分類】D2【廃棄時行為】部材抜き取り→水成堆積（3層）→礫・部材投入→人為堆積か（1・2層）【掘形平面／規模】隅丸方形か／170×130【深さ／レベル】62／0.400m【井戸側規模】一辺70前後か【遺物】なし

SE195【検出位置】NF49【挿図】177【分類】F【廃棄時行為】部材・曲物全て抜き取りか→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】略円形／110×100【深さ／レベル】48／0.540m【井戸側規模】一辺50前後か【遺物】なし

SE196【検出位置】NF51【挿図】31【分類】Bか【廃棄時行為】縦板抜き取りか→人為堆積【掘形平面／規模】楕円形か／150×105【深さ／レベル】56／0.470m【井戸側規模】一辺50前後か【遺物】なし【備考】井戸側形状不明。

SE197【検出位置】NL51【挿図】71【重複】>SE178【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→人為堆積か【掘形平面／規模】楕円形／230×160【深さ／レベル】60／-0.040m【井戸側規模】64×62【遺物】なし【備考】縦板は幅7cm前後、厚さは0.2～0.3cmと非常に薄く、内側に倒れ込んで検出。縦板の検出枚数は、東面17枚、西面32枚、南面18枚、北面17枚で最大値を示す現存長は66cmであった。隅柱は下端部が尖り、ほぞ穴は全て貫通する。

SE205【検出位置】MS50【挿図】72【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→曲物内に遺物（柄杓）・部材等投入→部材投入→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】略円形／145×145【深さ／レベル】122／0.000m【井戸側規模】62×58【水溜施設】曲物（φ52×40）【遺物】木製品（墨書板73・柄杓289-3・曲物底板291-3、293-10・箸・棒状）、弥生土器（10-17）【時期・備考】曲物（2箇所）を年輪年代測定した結果、1102年・1248年の数値が示された。この曲物は井戸側内の南端に寄る。曲物に接してこの北側を押さえるように板が東西方向に設置されている。この板に墨書が見られる。隅柱は下端部が平坦であり、南側を除きほぞ穴は貫通する。南側の横棧は南に突き出した東西横棧の上に乗る。

SE206【検出位置】MS54【挿図】164【分類】E【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→人為堆積（1～3層）【掘形平面／規模】略円形／190×160【深さ／レベル】72／0.520m【水溜施設】曲物（φ60×30）【遺物】なし

SE207【検出位置】MT54【挿図】164【重複】>SE211・320【分類】E【廃棄時行為】（抜き取りの有

無不明) →人為堆積 (5層) 【掘形平面/規模】隅丸方形/200×180 【深さ/レベル】98/0.230m 【水溜施設】曲物 (φ58×24) 【遺物】なし

S E 208 【検出位置】MT53 【挿図】69 【分類】C1 【廃棄時行為】部材一部 (横棧等) 抜き取り→礫投入→人為堆積 【掘形平面/規模】略円形/190×180 【深さ/レベル】82/0.460m 【井戸側規模】75×68 【水溜施設】曲物 (φ59×43) 【遺物】木製品 (漆塗り椀274-10・箸・用途不明具318-3、13、319-8、17) 【時期・備考】水溜に使用の曲物 (2箇所) を年輪年代測定した結果、1302年の数値が示された。隅柱にはほぞ穴なし、板状の材を使用。

S E 211 【検出位置】MT54 【挿図】164 【重複】SE320<SE211<SE207 【分類】E 【廃棄時行為】 (抜き取りの有無不明) →人為堆積 (8・9層) 【掘形平面/規模】隅丸方形/120×110 【深さ/レベル】65/0.430m 【水溜施設】曲物 (φ42×25) 【遺物】なし

S E 212 【検出位置】MS54 【挿図】74 【分類】C1 【廃棄時行為】縦板一部抜き取り→3層堆積→礫・部材投入→人為堆積 (1・2層) 【掘形平面/規模】略円形/200×165 【深さ/レベル】72/0.480m 【井戸側規模】58×56 【遺物】なし 【備考】隅柱下端部は平坦であり、ほぞ穴は全て貫通する。西面横棧は板を2枚重ねて1本の棧として使用。掘形外周に柱穴6本あり、上屋を支える柱跡か。

S E 213 【検出位置】MT51 【挿図】74 【分類】C2 【廃棄時行為】部材大部分抜き取り (北東隅柱1本、葦簾の一部のみ残る) 部材投入→人為堆積 【掘形平面/規模】略円形/150×140 【深さ/レベル】98/0.280m 【遺物】木製品 (棒状) 【備考】土層断面図は、帯水に伴う崩壊により作成できなかったが、事前の観察で堆積状況等を確認していた。

S E 214 【検出位置】MT50 【挿図】137 【分類】D2 【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→水成堆積 (3層) →人為堆積 (1・2層) 【掘形平面/規模】略円形か/170×150 【深さ/レベル】95/0.340m 【井戸側規模】一辺60前後か 【遺物】陶器 (珠洲播鉢) 【備考】南面の横棧は葦の束を使用、西面横棧は加工材。

S E 215 【検出位置】MS50 【挿図】137 【分類】D2 【廃棄時行為】 (部材抜き取りか) →遺物・部材投入→人為堆積 【掘形平面/規模】隅丸方形/180×155 【深さ/レベル】64/0.480m 【井戸側規模】70×65 【遺物】木製品 (敷居307-12) 【備考】土層断面図は土砂崩壊に伴い作成できなかった。

S E 216 【検出位置】MT53 【挿図】138 【重複】>SE217 【分類】F 【廃棄時行為】部材全数抜き取り→人為堆積 (1・2層) 【掘形平面/規模】隅丸方形/190×170 【深さ/レベル】55/0.530m 【遺物】木製品 (木筒273-9)

S E 217 【検出位置】MT53 【挿図】138 【重複】<SE216 【分類】D1 【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→部材投入→人為堆積 (4層) →水成堆積 (3層) 【掘形平面/規模】略円形/140×130 【深さ/レベル】49/0.540m 【井戸側規模】68×62 【遺物】木製品 (箸・板状・棒状) 【備考】横棧は2段確認。

S E 218 【検出位置】MR58 【挿図】139 【重複】>SE592 【分類】D1 【廃棄時行為】縦板一部・西面横棧抜き取り→同横棧を中央に移動させ東西方向に置く→部材投入 (4層) →人為堆積 (1・3層) 【掘形平面/規模】隅丸方形/220×200 【深さ/レベル】102/0.160m 【井戸側規模】一辺70前後か 【水溜施設】曲物 (φ57×39) 【遺物】木製品 (曲物底板291-4・箸・棒状320-10・板状324-14)、陶器 (珠洲播鉢) 【備考】曲物外面に線刻あり。

S E 219 【検出位置】MR61 【挿図】75 【分類】C1 【廃棄時行為】隅柱2本と西面以外の縦板抜き取り→底面直上に土錘一括 (42点) ・礫残置→人為堆積 (7→5→4→3→2層) →水成堆積 (1層) 【掘形平面/規模】略円形/300×270 【深さ/レベル】90/0.030m 【井戸側規模】58×58 【水溜施設】曲物 (φ54×48) 【遺物】木製品 (折敷285-4・箸)、土錘42点 (336-57~64) 【時期・備考】曲物を年輪年代測定した結果、1230年の数値が示された。隅柱下端部は尖る。



S E 220【検出位置】MR63【挿図】141【分類】D4【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→人為堆積【掘形平面／規模】円形／130×125【深さ／レベル】68／0.520m【井戸側規模】52×48【水溜施設】曲物（φ41×26）【遺物】陶器（越前播鉢269-3）、土錘【時期・備考】出土陶器から16世紀代の構築か。横棧は自然木を使用。

S E 221【検出位置】MS53【挿図】76【重複】>SE222・SD356【分類】D1【廃棄時行為】横棧3本・縦板大部分抜き取り→礫投入→人為堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／160×130～【深さ／レベル】62／0.460m【井戸側規模】一辺65前後か【水溜施設】曲物二重（外φ52×31，内φ39×23）【遺物】木製品（棒状）

S E 222【検出位置】MS53【挿図】76【重複】>SE221【分類】C2【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→部材・礫投入→人為堆積（10・11層）【掘形平面／規模】隅丸方形／155×155【深さ／レベル】68／0.440m【井戸側規模】78×76【遺物】木製品（箸）【備考】隅柱下端部は尖る。ほぞ穴は東西のみ貫通。東西の横棧は貫通する南北横棧両端の上に乗る。

S E 225【検出位置】MR61【挿図】78【分類】C1【廃棄時行為】縦板半数（北面・東面と西面の北側）抜き取り→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】略円形／165×165【深さ／レベル】83／0.330m【井戸側規模】78×78【遺物】陶器（珠洲播鉢264-11）、木製品（折敷283-6.284-7・板状325-10）、土錘、石器、自然遺物（クルミ・モモ）【備考】隅柱下端部は平坦、ほぞ穴は全て貫通する。横棧との結合部には楔が残る。東面縦板には屋号状の線刻あり。

S E 226【検出位置】MQ61【挿図】141【分類】D4【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→人為堆積（5→2→1層）【掘形平面／規模】略円形／155×150【深さ／レベル】70／0.430m【井戸側規模】55×50【遺物】なし【備考】横棧は2段以上。

S E 227【検出位置】MR59【挿図】142【分類】D1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→部材・礫投入→人為堆積（2～5層）【掘形平面／規模】円形／125×120【深さ／レベル】97／0.120m【井戸側規模】60×50【水溜施設】曲物（φ44×40）【遺物】なし【時期・備考】曲物を年輪年代測定した結果、1279年の数値が示された。

S E 228【検出位置】MS60【挿図】79【重複】>SK229【分類】C4【廃棄時行為】（北東隅部以外の隅柱抜き取り、あるいは腐食による消失か）→部材投入→人為堆積（5→4→1層）【掘形平面／規模】略円形／165×165【深さ／レベル】85／0.290m【井戸側規模】一辺80前後か【遺物】木製品（曲物底板・板状）【備考】横棧は2段分完存、下段は自然木、上段は加工材を使用。

S E 230【検出位置】MT60【挿図】79【重複】<SE231【分類】F【廃棄時行為】部材ほぼ全数抜き取り（横棧1本のみ残る）→人為堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／140×130【深さ／レベル】70／0.400m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】土錘

S E 231【検出位置】MT60【挿図】79【重複】>SE230【分類】C1+3【廃棄時行為】部材一部抜き取りか→部材投入→人為堆積（4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／150×140【深さ／レベル】100／0.040m【井戸側規模】55×50【遺物】木製品（折敷）、土錘【備考】北面を除く3面に横板あり。東面では縦板・横板が内側に倒れないようにするため（？）の杭状の細い柱が2本打ち込まれている。隅柱下端部は尖る。横棧は西面で3段分確認。

S E 232【検出位置】MT60【挿図】177【分類】F【廃棄時行為】部材（曲物か）全て抜き取り→水成堆積（3層）→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】略円形／120×115【深さ／レベル】55／0.640m【水溜施設】曲物抜き取りか【遺物】なし

S E 236【検出位置】MS55【挿図】177【分類】F【廃棄時行為】部材全て抜き取り→人為堆積か（4層）

- 水成堆積(3層)【掘形平面/規模】隅丸方形/150×145【深さ/レベル】58/0.630m【遺物】なし
- S E 237【検出位置】MP61【挿図】80【重複】<SE250【分類】C1【廃棄時行為】(抜き取りなし)か  
→礫投入→人為堆積(3層)【掘形平面/規模】隅丸方形/265×250【深さ/レベル】112/0.020m【井戸側規模】82×76【遺物】陶器(珠洲播鉢261-7裏込、262-2、263-2裏込・SE238出土資料と接合)、木製品(用途不明具327-3・折敷)、礫石器333-7【時期・備考】縦板4枚(北面3枚、西面1枚)を年輪年代測定した結果、1288年・1289年(2枚)・1304年の数値が示された。この数値と裏込土出土の陶器から本井戸の構築時期は14世紀代か。隅柱下端部は平坦。横棧は2段分残るが、ほぞ穴の位置から少なくとも3段は存在していた。
- S E 238【検出位置】MO60【挿図】143【重複】>SE239【分類】E【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)  
→曲物内に曲物容器・漆塗り椀残置→礫・椀形滓投入→人為堆積(2層)【掘形平面/規模】隅丸方形/120×115【深さ/レベル】100/0.150m【水溜施設】曲物(φ68×34)【遺物】陶器(珠洲播鉢263-2裏込)、木製品(曲物容器143、漆塗り椀275-1、櫛296-3、箸・棒状)、椀形滓330-11、土錘335-38【時期・備考】263-2はSE237出土資料と接合、本井戸の構築時期はS E 237と同時期。
- S E 239【検出位置】MP60【挿図】143【重複】<SE238【分類】D1【廃棄時行為】(曲物抜き取り)か  
→部材抜き取り→部材投入→人為堆積(1~3層)【掘形平面/規模】隅丸方形/170×160【深さ/レベル】116/0.000m【井戸側規模】一辺70前後か【水溜施設】曲物抜き取りか【遺物】木製品(折敷284-4)、銭貨(2層・元豊通寶337-4)
- S E 240【検出位置】MQ63【挿図】166【分類】E【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)→曲物内に礫・部材投入(3層)→人為堆積(1・2層)【掘形平面/規模】略円形/130×115【深さ/レベル】63/0.480m【水溜施設】曲物(φ63×32)【遺物】なし
- S E 241【検出位置】MQ62【挿図】74【分類】C2【廃棄時行為】部材一部抜き取りか→水成堆積(3層)→人為堆積(1・2層)か【掘形平面/規模】隅丸方形/200×185【深さ/レベル】88/0.170m【井戸側規模】一辺65前後か【遺物】木製品(折敷)【備考】隅柱・横棧とも自然木主体で構成。
- S E 242【検出位置】MS62【挿図】144【重複】<SE324【分類】D2【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)  
→部材投入→人為堆積か【掘形平面/規模】隅丸方形/310×260【深さ/レベル】74/0.370m【井戸側規模】一辺85前後か【遺物】白磁252-5、土錘335-21、31
- S E 243【検出位置】MR59【挿図】32【分類】B【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→礫投入→人為堆積【掘形平面/規模】略円形/240×230【深さ/レベル】78/0.370m【井戸側規模】一辺70前後か【水溜施設】曲物(φ67×24、φ66×54)【遺物】木製品(刀子柄297-1、漆塗り皿、箸・棒状)、鉄製品(鉄鏝330-1)、土師器甕【備考】残存する部材は少ないが、方形の井戸側であったと思われる。
- S E 248【検出位置】MR56【挿図】81【重複】>SE279・351【分類】C1【廃棄時行為】抜き取りなし→礫・部材投入→人為堆積(3・4層)【掘形平面/規模】隅丸方形/215×190【深さ/レベル】102/0.070m【井戸側規模】82×72【水溜施設】曲物(φ50×41)【遺物】木製品(棒状)、土錘【時期・備考】曲物(2箇所)を年輪年代測定した結果、1243年・1300年の数値が示された。隅柱下端部は平坦。縦板は幅広で厚手の1枚板を使用。
- S E 250【検出位置】MQ61【挿図】80【重複】>SE237【分類】D4【廃棄時行為】部材(横棧等)抜き取り→人為堆積(7層)【掘形平面/規模】隅丸方形/190×170【深さ/レベル】48/0.650m【井戸側規模】一辺55前後か【遺物】なし【備考】横棧は全て自然木使用。
- S E 257【検出位置】MQ52【挿図】84【分類】C1【廃棄時行為】(抜き取りなし)か→人為堆積(4層)→遺物(下駄)・礫(人頭大~拳大)・部材投入→人為堆積(1~3層)【掘形平面/規模】略円形/220×215【深さ/レベル】84/0.320m【井戸側規模】64×64【遺物】陶器(珠洲播鉢259-1・甕267-9)、木製

品(下駄301-2・箸)、礫石器333-8.9【時期・備考】出土陶器から14世紀代の構築か。隅柱下端部は尖る。

S E 259【検出位置】MS56【挿図】177【重複】<SD260【分類】F【廃棄時行為】横棧1本以外抜き取り→人為堆積か(2・6層)【掘形平面/規模】略円形/130×115【深さ/レベル】73/0.450m【遺物】土錘

S E 261【検出位置】MP61【挿図】138【分類】D2【廃棄時行為】(抜き取りなし)→人為堆積(1~4層)【掘形平面/規模】隅丸方形/120×105【深さ/レベル】65/0.450m【井戸側規模】56×52【遺物】なし【備考】横棧は自然木、葦簾は全周する。

S E 263【検出位置】MO49【挿図】177【分類】F【廃棄時行為】全て抜き取りか→人為堆積(1~4層)【掘形平面/規模】略円形/130×120【深さ/レベル】60/0.610m【遺物】なし

S E 271【検出位置】MM57【挿図】85【重複】>SK367【分類】C4【廃棄時行為】隅柱2本(北東・南東)以外抜き取り→水成堆積(3・4層)→人為堆積(1・2層)【掘形平面/規模】略円形/190×180【深さ/レベル】98/0.250m【水溜施設】曲物(φ37×21)【遺物】なし【備考】曲物の一部火を受け黒化している。

S E 272【検出位置】MN61【挿図】85【分類】C1【廃棄時行為】(抜き取りなし)→5層堆積(砂が充填)→人為堆積(2~4層)か【掘形平面/規模】略円形/180×150【深さ/レベル】55/0.580m【井戸側規模】66×54【遺物】なし【備考】隅柱下端部平坦。

S E 274【検出位置】MN60【挿図】177【分類】F(Dか)【廃棄時行為】部材抜き取り→人為堆積(2・3層)【掘形平面/規模】略円形/210×195【深さ/レベル】80/0.420m【遺物】木製品(櫛315-8)、土錘336-50【備考】横棧と思われる部材3本出土したが、出水に伴い原位置離脱で図化できなかった。

S E 275【検出位置】MN62【挿図】84【分類】C2【廃棄時行為】横棧抜き取り→人為堆積(5層)→水成堆積(4・3層)→人為堆積(1・2層、礫混入)【掘形平面/規模】隅丸方形/200×150【深さ/レベル】108/0.110m【井戸側規模】72×70【遺物】木製品(曲物底板・板状・棒状)、土錘【備考】隅柱下端部は尖る。ほぞ穴なし。葦簾は北面のみに残る。

S E 276【検出位置】MM63【挿図】86【分類】C1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→人為堆積(3層)→人為堆積(2層、礫投入)【掘形平面/規模】略円形/200×140【深さ/レベル】112/0.060m【井戸側規模】66×66【水溜施設】曲物(φ51×34)【遺物】なし【時期・備考】曲物を年輪年代測定した結果、1133年の数値が示された。礫は裏込土内にも見られる。隅柱下端部は平坦で、横棧との接合部には楔が残る。縦板の下部には、径・一辺1cm前後の方形・円形の貫通孔をもつものあり。

S E 277【検出位置】MS62【挿図】146【分類】D2【廃棄時行為】部材抜き取り→人為堆積(1・2層)【掘形平面/規模】隅丸方形か/190×165【深さ/レベル】64/0.460m【井戸側規模】42×32【遺物】自然遺物(クルミ)【備考】掘形に比して、井戸側は極端に小さい。葦簾は北面の一部にのみ残る。横棧は2段以上。

S E 279【検出位置】MR56【挿図】81【重複】SE315<SE279<SE248【分類】D1+3【廃棄時行為】(抜き取りなし)→人為堆積【掘形平面/規模】略円形/180×160【深さ/レベル】86/0.230m【井戸側規模】一辺65前後か【遺物】なし【備考】南東面縦板の外側に横板を押さえで使用。縦板は土圧で変形。

S E 280【検出位置】ML61【挿図】87【分類】C2【廃棄時行為】隅柱2本抜き取り(あるいは腐食による消失)→人為堆積(4・5層)→陶器残置→2層堆積(人為堆積)【掘形平面/規模】略円形/150×120【深さ/レベル】102/0.150m【井戸側規模】56×52【遺物】陶器(瀬戸257-10)【時期・備考】出土陶器から本井戸跡の廃棄時期は16世紀後半代か。隅柱、横棧とも自然木使用。

S E 282【検出位置】MM63【挿図】178【分類】F【廃棄時行為】部材全て抜き取り→人為堆積(4→3→2→1層)【掘形平面/規模】略円形/185×170【深さ/レベル】67/0.600m【井戸側規模】一辺55前後か【遺物】なし

S E 284 【検出位置】NF62 【挿図】178 【分類】F 【廃棄時行為】部材抜き取り→人為堆積（2層、地山砂の一括埋め戻し）【掘形平面／規模】隅丸方形／125×125【深さ／レベル】60／0.380m【遺物】石器11-3

S E 285 【検出位置】NE63 【挿図】178 【分類】F 【廃棄時行為】部材抜き取り→人為堆積（3層）→礫投入（3層上面）→水成堆積（1・2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／160×135【深さ／レベル】64／0.400m【遺物】なし

S E 286 【検出位置】NE64 【挿図】91 【重複】SE300 【分類】F 【廃棄時行為】東面横棧1本以外抜き取り→人為堆積（3・4層）→礫・部材（縦板か）投入→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】隅丸方形か／一辺120前後か【深さ／レベル】50／0.460m【遺物】なし

S E 287 【検出位置】NH65 【挿図】147 【重複】>SE288 【分類】D2 【廃棄時行為】（抜き取りなし）→人為堆積（2～4層）か【掘形平面／規模】隅丸方形／130×125【深さ／レベル】98／-0.100m【井戸側規模】64×58【水溜施設】曲物（φ51×28）【遺物】木製品(箸)【備考】横棧3段分残る、最下段の2本（北・西は自然木）以外は加工材を使用。

S E 288 【検出位置】NH65 【挿図】147 【重複】<SE287 【分類】C1 【廃棄時行為】北東隅柱1本以外抜き取り→遺物(漆塗り椀・陶器)残置→礫・部材投入→人為堆積（8・9層）【掘形平面／規模】略円形／150×145【深さ／レベル】52／0.380m【遺物】陶器(珠洲播鉢)、木製品(漆塗り椀274-11・箸・棒状)

S E 289 【検出位置】NG61 【挿図】87 【重複】>SE299 【分類】C1か 【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→人為堆積（1～3層）【掘形平面／規模】楕円形か／165×160【深さ／レベル】58／0.380m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】なし

S E 290 【検出位置】NH59 【挿図】88 【分類】C1 【廃棄時行為】隅柱以外の大部分抜き取り→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／150×140【深さ／レベル】55／0.470m【井戸側規模】一辺70前後か【遺物】陶器(珠洲甕)、木製品(箸・棒状)【備考】隅柱下端部は平坦であるが、残存する高さはいずれも30cm未満である。

S E 291 【検出位置】NI59 【挿図】88 【分類】C1 【廃棄時行為】隅柱2本・縦板の大部分抜き取り→人為堆積（4・6～8層）→水成堆積（1・2層）【掘形平面／規模】略円形／150×145【深さ／レベル】66／0.340m【井戸側規模】一辺70前後か【水溜施設】曲物（φ60×36）【遺物】木製品(俎板288-1)、弥生土器10-17【時期・備考】俎板は西面縦板として転用されており、これを年輪年代測定した結果、1287年の数値が示されている。隅柱下端部は尖る。

S E 292 【検出位置】ND67 【挿図】144 【分類】D4 【廃棄時行為】横棧抜き取り→部材を斜めに置く→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】略円形／165×150【深さ／レベル】72／0.220m【井戸側規模】64×60【遺物】なし【備考】横棧は2段以上。

S E 293 【検出位置】NF66 【挿図】179 【分類】F 【廃棄時行為】部材全て抜き取り→人為堆積か（1～4層）【掘形平面／規模】略円形／155×140【深さ／レベル】72／0.200m【遺物】なし

S E 294 【検出位置】MT54 【挿図】164 【重複】<SE309 【分類】F 【廃棄時行為】部材全て抜き取り→水成堆積か（14層）→部材投入→人為堆積（11・13層）か【掘形平面／規模】隅丸方形／225×140【深さ／レベル】52／0.550m【遺物】木製品(折敷)、土錘

S E 295 【検出位置】NH56 【挿図】16 【重複】>SE310 【分類】A 【廃棄時行為】（抜き取りなし）か→水成堆積（2層）→礫・部材投入→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】楕円形／210×160【深さ／レベル】90／0.120m【井戸側規模】50×48【水溜施設】曲物（φ35×8）【遺物】木製品(箸・曲物底板・棒状)、土錘【備考】井戸側に転用した丸木舟を使用。北面を除く3面には縦板を埋設して補強。南面側板（切断した舟）にはこれも補強のため(?)に横棧を入れている。井戸側内中央には自然木（下端が杭状に尖る）

が直立状態で検出、意図的に埋没したものか不明。

S E 296【検出位置】NH58【挿図】89【重複】>SE297【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなし）→部材投入→人為堆積（曲物内は砂で充填）【掘形平面／規模】隅丸方形／240×225【深さ／レベル】90／-0.080m【井戸側規模】78×72【水溜施設】曲物2重で埋設（φ63×22、φ64×20）【遺物】木製品（箸、漆塗り皿）【備考】隅柱下端部尖る。縦板は東面45枚、西面28枚、南面41枚、北面22枚あり。

S E 297【検出位置】NH58【挿図】89【重複】<SE296【分類】D1か【廃棄時行為】横棧2本・縦板大部分抜き取りか→人為堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／200×150【深さ／レベル】74／0.070m【井戸側規模】一辺70前後か【水溜施設】曲物（φ55×24）【遺物】木製品（箸）【時期・備考】曲物を年輪年代測定した結果、1317年の数値が示された。

S E 298【検出位置】NF61【挿図】179【分類】F（Dか）【廃棄時行為】部材抜き取り→横棧等5本を底面に1列に並べ置く→人為堆積（4・5層）→水成堆積（3層）か→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】略円形／140×140【深さ／レベル】63／0.410m【遺物】なし【備考】横棧を明らかに意図的に置く行為をとっている。

S E 299【検出位置】NG61【挿図】87【重複】<SE289【分類】E【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→人為堆積か【掘形平面／規模】楕円形か／150～×140【深さ／レベル】66／0.310m【水溜施設】曲物（φ45×24）【遺物】なし

S E 300【検出位置】NE64【挿図】91【重複】SE286【分類】C1【廃棄時行為】隅柱（北東）1本・縦板大部分抜き取り→曲物容器残置・人為堆積→水成堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／200×165【深さ／レベル】70／0.280m【井戸側規模】76×74【遺物】木製品（曲物容器91・箸）、土錘【備考】隅柱下端部尖る。

S E 301【検出位置】NF64【挿図】178【分類】F【廃棄時行為】部材全て抜き取り→地山砂で一気に埋立（人為堆積1～3層）【掘形平面／規模】楕円形／160×150【深さ／レベル】48／0.500m【遺物】なし

S E 302【検出位置】NF65【挿図】166【分類】E【廃棄時行為】（抜き取りなし）か→水成堆積（2→1層）【掘形平面／規模】円形／95×95【深さ／レベル】50／0.410m【井戸側規模】曲物（φ68）【水溜施設】曲物（φ52×24）【遺物】なし【備考】井戸側と水溜ともに曲物を使用。

S E 304【検出位置】NF66【挿図】178【分類】F【廃棄時行為】部材抜き取り→人頭大礫投入→人為堆積（2・3層）【掘形平面／規模】略円形／165×140【深さ／レベル】34／0.570m【遺物】なし

S E 305【検出位置】NE67【挿図】92【重複】SE355【分類】C2+3【廃棄時行為】部材（横板等）抜き取り→部材投入→（堆積状況不明）【掘形平面／規模】隅丸方形か／155×120～【深さ／レベル】108／-0.150m【井戸側規模】58×56【遺物】木製品（曲物底板291-6・用途不明具322-10）【備考】横板は東・西面で確認。縦板が見られないことから横板組で葦簾を併用した側をもつものか。横棧は2段まで確認。土砂崩落により土層の詳細な観察はできなかった。

S E 306【検出位置】NF67【挿図】93【分類】C2【廃棄時行為】隅柱2本抜き取り→水成堆積（5層）→人為堆積（1・2層）か【掘形平面／規模】隅丸方形／125×120【深さ／レベル】63／0.350m【井戸側規模】52×44【遺物】なし【備考】部材は全て自然木使用。

S E 307【検出位置】NF68【挿図】94【分類】C3【廃棄時行為】横板抜き取り→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／150×145【深さ／レベル】114／-0.240m【井戸側規模】74×62【遺物】木製品（箸・組板289-1）、土錘【備考】縦方向の板材や葦なく、横板組の井戸であった可能性あり。横板は東面1段、他3面は各2段分検出。東・南面横板には半割した組板をそれぞれ転用。隅柱は下端部が尖り、同一材をみかん割して使用か。

S E 308【検出位置】NE61【挿図】93【分類】C1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→5層堆積→部材投

- 入→人為堆積(2・3層)【掘形平面/規模】隅丸方形/155×150【深さ/レベル】82/0.180m【井戸側規模】74×70【遺物】なし【備考】南面以外の横棧は、黒化している。井戸が機能している段階あるいは廃棄後埋土が充填する以前(3層堆積以前)に火を受けたと思われる。隅柱下端部は平坦なものと尖るものあり。
- S E 309【検出位置】NA54【挿図】164【重複】>SE294, SE211【分類】C1【廃棄時行為】西面縦抜き取り→水成堆積(17層)→部材(横棧か)を斜めに置く→人為堆積(16層)【掘形平面/規模】略円形か/推定160×160【深さ/レベル】56/0.450m【井戸側規模】60×60【遺物】陶器(珠洲挿鉢261-1)、木製品(箸)【備考】隅柱下端部は尖る。
- S E 310【検出位置】NH57【挿図】16【重複】<SE295【分類】D4【廃棄時行為】抜き取りの有無不明→人為堆積か【掘形平面/規模】略円形か/140×140~【深さ/レベル】67/0.230m【井戸側規模】一辺40前後か【遺物】なし【備考】横棧は全て自然木使用。
- S E 311【検出位置】NI58【挿図】95【分類】C1+3【廃棄時行為】部材一部抜き取りか→人為堆積(7層)→ヤマトシジミ貝充填(6層)→人為堆積(2層)【掘形平面/規模】略円形/210×200【深さ/レベル】68/0.320m【井戸側規模】80×72【遺物】木製品(箸・棒状)、縄文土器?10-11【備考】南面に押さえの横板2枚あり、貝は少なくとも65程ある。
- S E 314【検出位置】NE61【挿図】93【分類】E【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)→人為堆積(1~3層)【掘形平面/規模】略円形/125×115【深さ/レベル】52/0.520m【水溜施設】曲物(φ38×28)【遺物】土錘
- S E 315【検出位置】MR56【挿図】81【重複】>SK245・SE279・248【分類】C1【廃棄時行為】北・西縦板及び北西隅柱抜き取り→水成堆積(18~20層)→礫投入→人為堆積(16・17層)【掘形平面/規模】隅丸方形/250×160【深さ/レベル】70/0.370m【井戸側規模】一辺70前後か【遺物】陶器(珠洲挿鉢261-4、8)、土錘335-33【備考】隅柱下端部は平坦、東面横棧は2段分残る。
- S E 316【検出位置】NK50【挿図】148【分類】D1【廃棄時行為】縦板の大部分抜き取り→横棧を斜めに置く→部材投入→人為堆積か【掘形平面/規模】略円形/105×105【深さ/レベル】70/0.290m【井戸側規模】62×58【遺物】なし【備考】南面横棧のみ自然木、他は加工材。
- S E 317【検出位置】NJ50【挿図】148【重複】SKI545【分類】C2【廃棄時行為】北東・南西隅柱と西面横棧以外抜き取り→人為堆積(1~7層)【掘形平面/規模】略円形か/240×210【深さ/レベル】67/0.330m【井戸側規模】一辺70前後か【遺物】木製品(箸・棒状)
- S E 319【検出位置】NF63【挿図】96【分類】C4【廃棄時行為】四隅柱以外抜き取り→人為堆積か(5・6層)【掘形平面/規模】隅丸方形/180×165【深さ/レベル】115/-0.170m【井戸側規模】一辺60~70か【遺物】土錘、銭貨(元豊通寶337-5)【備考】隅柱下端部は尖る。ほぞ穴なし。
- S E 320【検出位置】MT55【挿図】164【重複】<SE207・211【分類】F【廃棄時行為】(SE207・211構築に伴い破壊)→人為堆積【掘形平面/規模】不明/不明【深さ/レベル】不明【遺物】なし
- S E 322【検出位置】MO64【挿図】97【分類】C1【廃棄時行為】抜き取りなし→人為堆積(5層)→部材・礫多数投入(2層)→人為堆積【掘形平面/規模】隅丸方形/270×235【深さ/レベル】103/-0.350m【井戸側規模】82×80【水溜施設】曲物(φ61×27)【遺物】陶器(珠洲挿鉢)、木製品(漆塗り椀276-3、279-2・箸・棒状320-1)、土錘(334-10、11)、【備考】隅柱下端部は平坦、横棧は各面2段分残る。
- S E 324【検出位置】MS63【挿図】144【重複】>SE242【分類】C4【廃棄時行為】隅柱以外の大部分抜き取り→人為堆積(4層)→人為堆積(3層、曲物底板残置)【掘形平面/規模】隅丸方形/135×135【深さ/レベル】68/0.450m【井戸側規模】一辺70前後か【遺物】木製品(曲物底板:黒化)、土錘
- S E 325【検出位置】MS63【挿図】144【重複】SE242【分類】D4【廃棄時行為】(抜き取りの有無不明)

→人為堆積（4～6層）→部材投入→人為堆積（1～3層）【掘形平面／規模】隅丸長方形／225×180【深さ／レベル】67／0.390m【井戸側規模】62×62【遺物】なし

S E 354【検出位置】NH67【挿図】179【分類】F（Eか）【廃棄時行為】全て抜き取り→水成堆積（3層）→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】略円形／140×120【深さ／レベル】64／0.220m【水溜施設】曲物抜き取りか（φ60位か）【遺物】なし

S E 355【検出位置】NE67【挿図】92【重複】SE305【分類】D1【廃棄時行為】東面縦板大部分抜き取り→部材・礫投入→人為堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／170×120～【深さ／レベル】104／-0.080m【井戸側規模】65×62【遺物】なし

S E 357【検出位置】MQ51【挿図】167【重複】<SKP1270【分類】E【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→人為堆積（3～5層）→水成堆積（2層）→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】略円形／130×115【深さ／レベル】50／0.640m【水溜施設】曲物（φ42×16）【遺物】なし

S E 358【検出位置】MQ50【挿図】167【分類】E【廃棄時行為】曲物抜き取り（痕跡のみ残る）→青砂で一気に埋立（人為堆積：1層）【掘形平面／規模】略円形／180×170【深さ／レベル】62／0.480m【井戸側規模】【水溜施設】曲物（φ50位か）【遺物】なし

S E 359【検出位置】NE65【挿図】96【分類】C1+3【廃棄時行為】部材一部抜き取りか→遺物・部材投入→人為堆積（2・3層）【掘形平面／規模】略円形／120×120【深さ／レベル】58／0.390m【井戸側規模】58×53【遺物】木製品（下駄299-6・草履芯305-8・箸）、土錘、鉄製品330-9【備考】北面縦板を横板で押さえ、これが内側に倒れないように幅の狭い板を打ち込んでいる。隅柱は下端部が平坦で、板状の材を使用。横棧未確認。

S E 369【検出位置】MQ59【挿図】180【重複】<SK350【分類】F【廃棄時行為】部材全て抜き取り→（堆積状況不明）【掘形平面／規模】隅丸方形／140×130【深さ／レベル】50／0.530m【遺物】なし

S E 378【検出位置】ND78【挿図】180【分類】F【廃棄時行為】（曲物抜き取りか）→人為堆積か【掘形平面／規模】略円形／140×140【深さ／レベル】36／0.690m【遺物】なし

S E 380【検出位置】NE78【挿図】98【分類】C1【廃棄時行為】抜き取りなし→曲物内に土錘16点→曲物容器残置・水溜の曲物上に板を置く→水成堆積か（7層）→土錘5点・礫（10数個）・部材投入→人為堆積（4・5層）【掘形平面／規模】隅丸方形／180×160【深さ／レベル】116／-0.130m【井戸側規模】80×80【水溜施設】曲物（φ37×25）【遺物】木製品（曲物容器98・箸・棒状）、土錘21点335-24～26、陶器（珠洲播鉢）【備考】隅柱下端部は平坦。

S E 381【検出位置】NF80【挿図】99【分類】C2【廃棄時行為】隅柱3本抜き取り→人為堆積（6層）→水成堆積（2層）【掘形平面／規模】略円形／150×145【深さ／レベル】85／0.150m【井戸側規模】52×50【遺物】なし【備考】残る南東隅柱は自然木使用。横棧は2段。

S E 385【検出位置】NC79【挿図】99【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→水成堆積（6～8層）→部材投入・人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／135×120【深さ／レベル】98／0.000m【井戸側規模】82×68【遺物】木製品（箸・棒状）、土錘、礫石器333-3【備考】隅柱は板状の材を使用し、下端部は尖る。南北方向の横棧は、貫通する東西棧の両端上に乗る。

S E 391【検出位置】NE78【挿図】180【重複】SD410・414【分類】F【廃棄時行為】全て抜き取りか（曲物か）→水成堆積？【掘形平面／規模】略円形／120×115【深さ／レベル】45／0.630m【遺物】なし

S E 393【検出位置】NE78【挿図】149【重複】<SK392【分類】D1【廃棄時行為】横棧2本・縦板大部分抜き取り→人為堆積（6層）→水成堆積（5層）→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／245×245【深さ／レベル】145／-0.400m【井戸側規模】一辺100前後か【水溜施設】曲物（φ54×44）【遺



物】土錘5点335-39【時期・備考】曲物（2箇所）を年輪年代測定した結果、1295年・1301年の数値が示された。

SE408【検出位置】NH79【挿図】150【分類】D4【廃棄時行為】部材抜き取り→横棧の1本を斜めに置く→人為堆積（3～5層）→水成堆積（1・2層）【掘形平面／規模】略円形／125×120【深さ／レベル】64／0.300m【井戸側規模】一辺50前後か【遺物】なし

SE416【検出位置】ND79【挿図】100【重複】<SE417, SE435【分類】D1+3【廃棄時行為】縦板半数抜き取りか→礫・部材投入→人為堆積【掘形平面／規模】不明／一辺120～【深さ／レベル】84／0.200m【井戸側規模】一辺45前後か【水溜施設】曲物（ $\phi$ 40×30）【遺物】木製品(箸)、自然遺物(クルミ)【備考】掘形に比して井戸側が小さい、この掘形はSE416より古い別の井戸掘形の可能性もある。東面では押さえの横板を確認。

SE417【検出位置】NC78【挿図】100【重複】>SE416【分類】C1【廃棄時行為】抜き取りなし→地山砂で一気に埋立（9・11層）【掘形平面／規模】略円形か／150×130【深さ／レベル】120／-0.150m【井戸側規模】78×72【水溜施設】曲物（ $\phi$ 65×50、内面には黒色の付着物あり）【遺物】なし【時期・備考】曲物（2箇所）を年輪年代測定した結果、1246年・1251年の数値が、南面縦板（樹皮付き）では1285年の数値がそれぞれ示された。隅柱下端部は平坦。縦板は4～5重。西面縦板の一部には下部に一辺1.5cm角の貫通孔あり。

SE418【検出位置】NF78【挿図】150【分類】D1【廃棄時行為】（曲物抜き取りか）→縦板・横棧2本抜き取り→部材投入（縦板を中央に置く）→水成堆積（4層）→人為堆積（2・3層）→水成堆積か（1層）【掘形平面／規模】隅丸方形／115×110【深さ／レベル】92／0.000m【井戸側規模】一辺60前後か【水溜施設】曲物か（ $\phi$ 45前後）【遺物】なし

SE422【検出位置】MJ84【挿図】103【重複】>SE438【分類】C1【廃棄時行為】抜き取りなし→人為堆積（3層）→礫投入（2・3層）→水成堆積（1・2層）か【掘形平面／規模】隅丸方形／140×140【深さ／レベル】142／-0.600m【井戸側規模】70×62【水溜施設】曲物（ $\phi$ 60×28）【遺物】陶器（珠洲播鉢263-9）木製品(箸・棒状)、土錘【時期・備考】東面縦板（樹皮付き）を年輪年代測定した結果、1324年の数値が示された。この数値と出土陶器から14世紀代の構築か。曲物内の2/3位まで葺が充填。隅柱下端部は平坦。

SE423【検出位置】NC79【挿図】151【分類】D4【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→人為堆積か（1層）【掘形平面／規模】隅丸長方形／110×75【深さ／レベル】62／0.390m【井戸側規模】一辺50前後か【遺物】土錘【備考】部材（自然木）の半数は火を受け焦げている。

SE435【検出位置】NC79【挿図】100【重複】>SE416・417【分類】C2【廃棄時行為】北東隅柱抜き取り（あるいは腐食による消失か）→人為堆積（2～6層）【掘形平面／規模】不明／100～×100【深さ／レベル】80／0.230m【井戸側規模】60×60【遺物】なし【備考】材は全て樹皮付の自然木使用。

SE438【検出位置】MJ84【挿図】103【重複】>SE422【分類】D1【廃棄時行為】縦板抜き取り→人為堆積（9層）→（SE422構築に伴い西側破壊）【掘形平面／規模】隅丸方形／135×95～【深さ／レベル】102／-0.280m【井戸側規模】一辺70前後か【水溜施設】曲物（ $\phi$ 60×49）【遺物】木製品(箸)【備考】SE422構築に伴い曲物が手斧状の工具で切断。

SE441【検出位置】NR75【挿図】105【分類】C4【廃棄時行為】隅柱3本抜き取り→遺物・部材投入→水成堆積（3・4層）→人為堆積（1・2層）か【掘形平面／規模】楕円形／270×185【深さ／レベル】108／-0.180m【井戸側規模】一辺60～65か【遺物】木製品(漆塗り)椀278-1、279-3・下駄298-9・箸・用途不明具327-1)、銭貨(永楽通寶337-6)【時期・備考】銭貨の初鑄年1408年より以降の廃棄。横棧は2段以上。

S E 458 【検出位置】NR79 【挿図】31 【分類】B 【廃棄時行為】（抜き取りなし）→人為堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／200×170【深さ／レベル】108／-0.180m【井戸側規模】54×52【遺物】陶器（瀬戸257-3）、木製品（折敷284-8、285-2、8・容器底板292-7・箱294-3・箸・棒状）【時期・備考】出土陶器から16世紀代の構築か。隅柱・横棧なし。北面縦板は長72×幅47×厚2.5cm。

S E 459 【検出位置】NQ79 【挿図】106 【分類】C1 【廃棄時行為】（抜き取りなし）→遺物・部材投入（3層）→人為堆積（2層、礫投入→1層）【掘形平面／規模】隅丸方形／230×220【深さ／レベル】120／-0.250m【井戸側規模】62×60【遺物】陶器（瀬戸257-1）、木製品（折敷284-11・柄杓289-5・曲物底板292-13、16、下駄301-4～6、302-1、3、5・障子格子307-11・浮子315-2、棒状315-3、322-15・板状324-5、325-3）、土錘【時期・備考】出土陶器から16世紀代の構築か。縦板には手斧痕跡が顕著に残る。隅柱下端部は尖る。

S E 467 【検出位置】NP82 【挿図】107 【重複】<SK466 【分類】C2 【廃棄時行為】（抜き取りなし）→人為堆積（2～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／90×90【深さ／レベル】92／-0.004m【井戸側規模】40×40【遺物】なし【備考】部材は南東隅柱以外は全て自然木使用。

S E 484 【検出位置】NP77 【挿図】107 【分類】C1 【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→部材投入→人為堆積（2・3層）→人為堆積（1層、陶器含む）【掘形平面／規模】略円形／170×140【深さ／レベル】64／0.350m【井戸側規模】58×58【遺物】陶器（瀬戸257-6、258-2～4・越前挿鉢269-1）【時期・備考】出土陶器から16世紀後半代の廃絶か。隅柱下端部は平坦、ほぞ穴は全て貫通する。北西隅柱には楔が残る。

S E 491 【検出位置】NO78 【挿図】108 【重複】<SD504 【分類】C2 【廃棄時行為】北東隅以外の隅柱・横棧等抜き取り→人為堆積（1～6層）【掘形平面／規模】／130×115【深さ／レベル】113／-0.100m【井戸側規模】一辺60前後か【水溜施設】曲物（φ47×37）【遺物】木製品（箸）、銭貨（337-7）

S E 492 【検出位置】NO81 【挿図】167 【分類】Eか 【廃棄時行為】曲物抜き取り→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／180×130【深さ／レベル】52／0.350m【水溜施設】曲物か【遺物】なし

S E 495 【検出位置】NO80 【挿図】180 【分類】F 【廃棄時行為】部材全て抜き取り→水成堆積（2・3層）→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】隅丸方形／115×110【深さ／レベル】63／0.260m【遺物】なし

S E 497 【検出位置】NN80 【挿図】168 【分類】E 【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→地山砂で埋立（4層）→人為堆積（1～3層）【掘形平面／規模】円形／140×135【深さ／レベル】90／0.090m【水溜施設】曲物（φ57×44）【遺物】なし

S E 507 【検出位置】NP78 【挿図】109 【重複】>SD457 【分類】C1 【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→木製品・部材投入→人為堆積か【掘形平面／規模】略円形／155×145【深さ／レベル】126／-0.330m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】木製品（曲物底板293-1・折敷・用途不明具棒状321-10～13、15）

S E 508 【検出位置】NQ76 【挿図】109 【重複】>SD456 【分類】C2 【廃棄時行為】南西隅柱1本抜き取り→木製品・部材投入（5層）→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／160×155【深さ／レベル】94／0.060m【井戸側規模】66×64【遺物】木製品（篋313-7）【備考】各隅柱は葦簾で包んで埋設、南西隅柱部分は柱のみ抜き取り、周りの葦のみ円形に残る。側にも葦簾を使用。

S E 509 【検出位置】NP75 【挿図】110 【重複】>SD957 【分類】C1 【廃棄時行為】北東隅柱・縦板半数抜き取り→水成堆積（2～4層）→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】円形／150×140【深さ／レベル】98／-0.130m【井戸側規模】54×46【遺物】青磁251-11、木製品（棒状）【備考】隅柱下端部は平坦。

S E 510 【検出位置】NO75 【挿図】152 【分類】D4 【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→人為堆積（2層）【掘形平面／規模】略円形／130×105【深さ／レベル】90／0.070m【井戸側規模】42×42【遺物】なし【備考】横棧は2段以上。縦板（あるいは葦簾）一切なく構造不詳。

SE518【検出位置】NN76【挿図】152【分類】D1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→遺物・部材投入→人為堆積（3層）【掘形平面／規模】隅丸方形／120×105【深さ／レベル】64／0.040m【井戸側規模】一辺65前後か【遺物】木製品(漆塗り椀277-2・箸)【備考】漆塗り椀は底面直上出土。

SE519【検出位置】NK76【挿図】111【分類】C1【廃棄時行為】南・北面の縦板半数抜き取り→人為堆積（3層、折敷残置）→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／110×100【深さ／レベル】80／-0.140m【井戸側規模】58×50【遺物】木製品(折敷283-1・棒状)【備考】横棧は全て自然木

SE522【検出位置】NK76【挿図】169【重複】<SE523【分類】E【廃棄時行為】抜き取りなし→水成堆積（1・2層）→曲物中央に礫を置く【掘形平面／規模】円形／70×70【深さ／レベル】40／0.250m【水溜施設】曲物（φ61×34）【遺物】なし【備考】掘形規模と水溜施設の規模の数値が近似。

SE523【検出位置】NK76【挿図】169【重複】>SE522【分類】F1か【廃棄時行為】部材抜き取り→水成堆積（6層）→水成堆積（5層、遺物・部材流入か）→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】隅丸方形／170×160【深さ／レベル】76／-0.130m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】陶器（瓦器挿鉢269-13裏込）、木製品(折敷283-4、284-10、286-4・曲物底板292-8、箸・棒状322-4、5)【時期・備考】出土瓦器から16世紀代の構築か。この瓦器は越前の影響を受けたものか。

SE529【検出位置】NF74【挿図】151【分類】D2【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→水成堆積（3・4層）→人為堆積（1・2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／115×110【深さ／レベル】67／-0.030m【井戸側規模】60×58【遺物】木製品（漆塗り皿か盤か）

SE530【検出位置】NF72【挿図】112【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなし）→水成堆積（3層、曲物内）→曲物内陶器・礫投入→礫・部材多数投入→水成堆積（2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／210×160【深さ／レベル】87／-0.210m【井戸側規模】65×52【水溜施設】曲物（φ55×49）【遺物】陶器（珠洲挿鉢259-6）、木製品(箸・棒状・下駄299-2)、土錘【時期・備考】出土陶器から14世紀代の構築か。隅柱下端部は平坦で、ほぞ穴全て貫通する。楔はなし。縦板下部に径・一辺が1～1.5cmの丸穴・角穴もつものあり。また火を受け黒化しているものあり。

SE531【検出位置】NC74【挿図】110【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→水成堆積（3層）→部材流入か→水成堆積（2層）→人為堆積（1層）【掘形平面／規模】隅丸方形／120×100【深さ／レベル】66／0.990m【井戸側規模】64×64【遺物】青磁252-3、陶器（瀬戸254-9）、木製品(箸・棒状)【時期・備考】出土陶器から15世紀代の構築か。隅柱・横棧とも自然木使用。

SE532【検出位置】NC74【挿図】153【分類】D2【廃棄時行為】横棧抜き取りか→水成堆積（3層）→部材投入（あるいは流入か）→水成堆積（2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／150×120【深さ／レベル】56／0.110m【井戸側規模】66×60【遺物】曲物容器153【備考】横棧は2段分あり。

SE533【検出位置】NE73【挿図】114【分類】C1【廃棄時行為】西・南面縦板・南西隅柱抜き取り→人為堆積（5層）→部材投入→水成堆積（4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／140×140【深さ／レベル】67／-0.080m【井戸側規模】74×70【遺物】木製品(箸・棒状)【備考】東面横棧は3段分残る。

SE535【検出位置】ND65【挿図】154【分類】D1【廃棄時行為】横棧2本と縦板大部分抜き取り→水成堆積（3・5層）→曲物底板残置（2層）→水成堆積（1層）か【掘形平面／規模】隅丸方形／120×115【深さ／レベル】44／0.450m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】木製品（曲物底板291-7）【備考】縦板は北面の3枚のみ残る。

SE536【検出位置】ND62【挿図】115【分類】C4【廃棄時行為】隅柱・横棧抜き取り→井戸側内に再配置→水成堆積（1～3層）【掘形平面／規模】隅丸方形／125×120【深さ／レベル】68／0.300m【井戸側規模】60×58【遺物】木製品（漆塗り椀280-1）【備考】井戸外北東側に材の残る柱（長さ15cm）確認、

本井戸上屋に係る柱かどうかは不明。

S E 537【検出位置】NI62【挿図】116【分類】C1【廃棄時行為】抜き取りなし→水成堆積（3層）→人為堆積（1層）→礫投入（8個）【掘形平面／規模】略円形／200×180【深さ／レベル】82／0.160m【井戸側規模】78×70【遺物】陶器（珠洲播鉢263-11、264-12）、木製品（箸・棒状）【備考】隅柱下端部は平坦。

S E 538【検出位置】NQ66【挿図】115【分類】C1【廃棄時行為】南東隅柱・横棧・縦板大部分抜き取り→人為堆積（1～5層）【掘形平面／規模】隅丸方形／210×160【深さ／レベル】105／-0.290m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】木製品（箸）、陶器（珠洲播鉢）【備考】隅柱下端部尖る。

S E 540【検出位置】NN59【挿図】117【分類】C1【廃棄時行為】抜き取りなし→底面直上に播鉢・曲物容器残置→（火事？）→水成堆積（3層→2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／115×110【深さ／レベル】85／0.120m【井戸側規模】65×65【遺物】陶器（珠洲播鉢260-1）、木製品（曲物容器290-1・棒状）【時期・備考】出土陶器から15世紀代の廃絶か。曲物容器上部・縦板・隅柱内側が黒く焦げていることから、曲物容器が置かれた後に井戸全体が火を受けたと思われる。隅柱下端部は尖り、ほぞ穴は全て貫通。

S E 541【検出位置】NL57【挿図】付図1【掘形平面／規模】隅丸方形／150×145【備考】プラン検出のみ。

S E 542【検出位置】NL54【挿図】155【分類】D1【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→青砂充填（人為堆積：1・2層）【掘形平面／規模】略円形／220×200【深さ／レベル】62／0.230m【水溜施設】曲物（φ62×15）【遺物】なし【備考】縦板の一部のみ残る、曲物の外面に刀子状工具による「×」状の刻線あり

S E 543【検出位置】NJ50【挿図】118【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→曲物内部材投入→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／170×145【深さ／レベル】60／0.290m【井戸側規模】76×70【水溜施設】曲物（φ50×33）【遺物】木製品（折敷）

S E 544【検出位置】NJ51【挿図】付図1【重複】>SKI545【掘形平面／規模】略円形／120×100【備考】プラン検出のみ

S E 546【検出位置】NI65【挿図】119【分類】C4【廃棄時行為】縦板全て抜き取り（あるいは葦簾腐食か）→水成堆積（2層）か【掘形平面／規模】隅丸方形／175×165【深さ／レベル】57／0.220m【井戸側規模】58×58【遺物】なし【備考】隅柱下端部平坦。ほぞ穴全て貫通し、横棧との接合部には楔が残る。

S E 547【検出位置】NG57【挿図】247【掘形平面／規模】隅丸方形／155×140【備考】プラン検出のみ

S E 548【検出位置】NA55【挿図】付図1【掘形平面／規模】隅丸方形105×90【備考】プラン検出のみ

S E 551【検出位置】NI74【挿図】154【分類】D2【廃棄時行為】抜き取りなしか→水成堆積（4～9層）【掘形平面／規模】楕円形／195×155【深さ／レベル】52／0.140m【井戸側規模】62×52【遺物】なし

S E 552【検出位置】NH75【挿図】42【重複】<SE16【分類】D4【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→水成堆積（8～10層）→人為堆積（6・7層）【掘形平面／規模】隅丸方形／170×160【深さ／レベル】60／0.020m【井戸側規模】推定85×82【遺物】なし【備考】最下段の横棧4本のみ残存。

S E 554【検出位置】ND69【挿図】119【分類】C1【廃棄時行為】隅柱・縦板・横棧の一部抜き取り→水成堆積（1・2層）【掘形平面／規模】隅丸方形／145×140【深さ／レベル】43／0.260m【井戸側規模】66×66【遺物】なし

S E 557【検出位置】NA56【挿図】付図1【掘形平面／規模】楕円形160×135【備考】プラン検出のみ

S E 558【検出位置】NC74【挿図】120【分類】C4【廃棄時行為】横棧2本・縦板（あるいは葦簾）抜き取り→青砂（1・2層）による一括埋立【掘形平面／規模】隅丸方形／115×110【深さ／レベル】38／0.200m【井戸側規模】68×66【遺物】曲物容器120【備考】隅柱下端部尖る。

S E 569【検出位置】NF69【挿図】156【分類】D1【廃棄時行為】（抜き取りなしか）→礫・部材投入→水成堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／185×170【深さ／レベル】78／0.110m【井戸側規模】74×72【遺物】

木製品（漆塗り椀276-1）、土鍾334-7【備考】横棧2段あり。土砂崩落に伴い、断面図は作成できなかったが、事前の土層観察・写真撮影により、水成堆積であることは明確である。

S E 570【検出位置】ND75【挿図】120【分類】C4【廃棄時行為】部材抜き取り→曲物内部材投入→人為堆積（2・3層、地山砂一括埋立）【掘形平面／規模】略円形／135×135【深さ／レベル】56／0.040m【水溜施設】曲物（φ60×28）【遺物】なし【備考】部材は全て自然木使用。南側中央には曲物を支える（押さえる）柱あり。

S E 576【検出位置】MP75【挿図】157【分類】D2【廃棄時行為】東面横棧1本抜き取りか→水成堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／110×105【深さ／レベル】70／0.190m【井戸側規模】65×62【遺物】木製品（オサ315-6,7横棧に転用）【備考】南・西面横棧に転用の材は漁具のオサ。

S E 577【検出位置】MP71【挿図】158【分類】D2【廃棄時行為】横棧抜き取りか→水成堆積（3層）→人為堆積（2層、折敷残置）【掘形平面／規模】楕円形／125×100【深さ／レベル】70／0.110m【井戸側規模】一辺50前後か【遺物】木製品（折敷）

S E 578【検出位置】MP71【挿図】158【分類】D2【廃棄時行為】部材一部抜き取り→人為堆積（1～3層）【掘形平面／規模】略円形／120×105【深さ／レベル】73／0.060m【井戸側規模】一辺50前後か【遺物】なし【備考】部材は樹皮付の自然木を使用。

S E 579【検出位置】MP69【挿図】121【分類】C2【廃棄時行為】隅柱2本など部材抜き取り→木製品・部材投入→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／170×150【深さ／レベル】94／-0.140m【井戸側規模】一辺50～60か【遺物】木製品（折敷285-5）【備考】北東隅柱は長さが138cmに及ぶ。

S E 580【検出位置】MN81【挿図】108【分類】C1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→部材投入→人為堆積か【掘形平面／規模】隅丸方形／210×155【深さ／レベル】72／0.060m【井戸側規模】76×76【遺物】なし【備考】隅柱下端部平坦。

S E 581【検出位置】MM83【挿図】181【分類】F1【廃棄時行為】部材全て抜き取り（東面中央に1枚だけ残る）→人為堆積（1～5層）【掘形平面／規模】隅丸方形／160×130【深さ／レベル】80／-0.030m【井戸側規模】一辺70前後か【遺物】木製品（草履芯304-1・人形310-7・箸・用途不明具322-7、324-13）、土鍾335-42【備考】3層中に多量の葦を含むことから、縦板と葦簾を使用した井戸か。

S E 582【検出位置】MK81【挿図】20【分類】A【廃棄時行為】抜き取りなし→人為堆積（1～3層）【掘形平面／規模】略円形／135×125【深さ／レベル】112／-0.320m【井戸側規模】53×47【遺物】木製品（板状324-6）、土鍾334-5【備考】切断した丸木舟を井戸側に転用。

S E 583【検出位置】MM70【挿図】122【分類】C1【廃棄時行為】抜き取りなし→人為堆積（4層、部材・葦含む）→部材（横棧）を中央に置く→遺物・部材・礫多数投入（4層上面）→人為堆積（3層）【掘形平面／規模】略円形／265×245【深さ／レベル】133／-0.500m【井戸側規模】98×96【水溜施設】曲物（φ60×27）【遺物】陶器（珠洲播鉢260-2、262-4、263-7、264-10・珠洲壺265-1～3、11、珠洲甕266-1～15）、木製品（箸・用途不明具311-12、318-9、326-7、14、17・杓子形312-1）、土鍾334-6【時期・備考】曲物を年輪年代測定した結果、1282年の数値が示された。4層上面で小割にした珠洲播鉢・甕が50点程出土。意図的に分割（10cm角未満が多い）した陶器を礫等とともに投入したのか。隅柱下端部は平坦、横棧は2段分残る。

S E 584【検出位置】MC67【挿図】121【分類】C2【廃棄時行為】部材大部分抜き取り→人為堆積（4・5層）→人為堆積（1層→礫投入）【掘形平面／規模】隅丸長方形／125×105【深さ／レベル】54／0.460m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】なし【備考】北面の一部に葦簾が残る。

S E 587【検出位置】MK76【挿図】23【分類】A【廃棄時行為】抜き取りなし→水成堆積（6層）か→部

材投入（流入か）→人為堆積（2～5層）か【掘形平面／規模】略円形／150×130【深さ／レベル】96／0.070m【井戸側規模】楕円形：72×54【水溜施設】曲物：楕円形（φ64×52×22）【遺物】木製品（人魚供養札25、曲物底板）【時期・備考】丸木舟を井戸側に転用した井戸。樹皮付きの縦板を年輪年代測定した結果、1286年の数値が示された。縦板が転用材ではないとすれば、井戸は13世紀後半代に構築された可能性が高くなる。また井戸側の外に上屋を支えたであろう柱3本検出。

S E 588【検出位置】MM69【挿図】168【分類】E【廃棄時行為】（抜き取りの有無不明）→水成堆積（曲物内）→人為堆積（砂で埋立）【掘形平面／規模】略円形／110×95【深さ／レベル】44／0.340m【水溜施設】曲物（φ35×16）【遺物】なし

S E 590【検出位置】NN73【挿図】211【重複】SKI589【掘形平面／規模】略円形／130×130【備考】プラン検出のみ

S E 591【検出位置】MN70【挿図】38【重複】<SE15【分類】F1【廃棄時行為】部材抜き取り→礫多数投入→人為堆積→（SE15構築に伴う破壊）【掘形平面／規模】隅丸方形か／130×110～【深さ／レベル】90／-0.130m【水溜施設】曲物（φ61×50、内面に黒色の付着物あり）【遺物】陶器（珠洲播鉢261-2、264-1）、木製品（曲物容器290-4）【時期・備考】出土陶器から14～15世紀前半代の構築か。水溜に使用の曲物（2箇所）を年輪年代測定した結果、1236年の数値が示された。

S E 592【検出位置】MR57【挿図】139【重複】<SE218【分類】D4【廃棄時行為】横棧2本抜き取り（あるいはSE218構築に伴う除去か）→堆積状況不明【掘形平面／規模】隅丸方形か／200×120～【深さ／レベル】68／0.460m【遺物】木製品（折敷・曲物底板）

S E 593【検出位置】MJ75【挿図】33【分類】B【廃棄時行為】部材（縦板）一部抜き取り→人為堆積【掘形平面／規模】略円形／110×110【深さ／レベル】44／0.790m【井戸側規模】62×40か【遺物】陶器（珠洲播鉢264-7・珠洲甕267-10）【時期・備考】出土陶器から15世紀代の構築か。縦板は12枚遺存、下端部は全て杭状に尖る。

S E 594【検出位置】MJ74【挿図】159【重複】>SK595【分類】D1【廃棄時行為】曲物抜き取りか→縦板一部抜き取り→人為堆積か【掘形平面／規模】略円形／180×180【深さ／レベル】125／0.000m【井戸側規模】一辺70前後か【水溜施設】曲物（φ60位か）【遺物】陶器（天目茶碗256-4）、土錘【時期・備考】出土陶器から16世紀後半代の構築か。土圧で縦板が変形。縦板には下部に一辺が1cm角の貫通孔あり。

S E 596【検出位置】MI75【挿図】181【分類】F（Cか）【廃棄時行為】部材全て抜き取り→人為堆積（2～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／140×140【深さ／レベル】83／0.470m【井戸側規模】一辺70前後か【遺物】なし【備考】南西隅に柱掘形らしい柱穴あり→隅柱をもつ井戸か。

S E 623【検出位置】MS51【挿図】157【分類】D2【廃棄時行為】部材抜き取り→礫・部材投入→人為堆積（1・2・6層）【掘形平面／規模】略円形／180×165【深さ／レベル】80／0.380m【井戸側規模】一辺55前後か【遺物】木製品（折敷）、礫石器333-12

S E 664【検出位置】MN66【挿図】124【分類】C1【廃棄時行為】縦板半数抜き取り→水成堆積（4層）→部材・礫投入（曲物内）→人為堆積（1～3層）か【掘形平面／規模】隅丸方形／120×110【深さ／レベル】31／0.650m【井戸側規模】72×70【水溜施設】曲物（φ60×9）【遺物】なし【備考】隅柱下端部は尖る。

S E 681【検出位置】MG76【挿図】182【重複】>SK631【分類】F1か【廃棄時行為】部材全て抜き取り→人為堆積（2～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／135×125【深さ／レベル】80／0.420m【遺物】なし【備考】埋土中に縦板（2枚）のみ確認

S E 682【検出位置】MJ76【挿図】124【重複】<SD680【分類】C1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→人為堆積（1～6層）か【掘形平面／規模】略円形／105×100【深さ／レベル】107／0.118m【井戸側規模】

50×40【遺物】なし【備考】北面の一部に縦板痕跡が残る。

S E 683【検出位置】MA74【挿図】125【重複】SD908・909【分類】C1【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→水成堆積（5層）→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／185×160【深さ／レベル】94／0.280m【井戸側規模】75×72【遺物】青磁252-1、木製品（鍋蓋287-1・箸・棒状・曲物底板）、銭貨6枚（開元通寶・皇宋通寶・元豊通寶2、洪武通寶2：337-8～13）【時期・備考】最新銭（洪武通寶）の初鑄年1368年以降が井戸の廃棄の時期となる。縦板に変形多く、転用材が使用されている。

S E 694【検出位置】MH72【挿図】125【重複】<SD630【分類】C1【廃棄時行為】（抜き取り有無不明）→人為堆積か→SD630構築に伴う破壊【掘形平面／規模】不明／不明【深さ／レベル】53／0.300m【井戸側規模】一辺85～90か【遺物】木製品（漆塗り椀275-4）【備考】東面の隅柱・縦板のみ残る。

S E 698【検出位置】MG74【挿図】182【重複】>SD630, SD597【分類】F【廃棄時行為】部材大部分抜き取り（横棧2本のみ残る）→人為堆積【掘形平面／規模】隅丸方形／180×155【深さ／レベル】88／0.270m【井戸側規模】一辺60前後か【遺物】なし

S E 700【検出位置】MI72【挿図】126【分類】C1【廃棄時行為】北西隅柱・縦板半数抜き取り→人為堆積（1～5層）【掘形平面／規模】隅丸方形／190×160【深さ／レベル】146／-0.430m【井戸側規模】74×74【遺物】陶器（瀬戸257-8）、木製品（折敷284-12、13、285-6・下駄302-4・箸・棒状・板状）【時期・備考】出土陶器から16世紀代の構築か。南面縦板のうちの5枚は折敷の転用。縦板のうち最大のものは長95×幅9×厚0.2cm。

S E 710【検出位置】MI78【挿図】160【重複】【分類】D4【廃棄時行為】横棧2本抜き取り→人為堆積（1～3層）か【掘形平面／規模】隅丸方形／170×165【深さ／レベル】68／0.310m【井戸側規模】一辺60前後か【水溜施設】方形（横棧・横板（折敷）と縦板・葦簾等で構築：45×40）【遺物】木製品（折敷283-5、285-3・鍋蓋287-6・下駄303-2・用途不明具320-3）【備考】水溜施設は、葦簾を方形に組んだものを使用か。

S E 723【検出位置】MA74【挿図】126【分類】C1【廃棄時行為】北東・南東隅柱抜き取り→人為堆積（3層）→部材投入・人為堆積（2層）→礫投入・人為堆積（1層）【掘形平面／規模】略円形／230×200【深さ／レベル】114／0.050m【井戸側規模】64×54【遺物】陶器（珠洲播鉢）、木製品（下駄299-5、303-3・箸・板状）

S E 733【検出位置】LT74【挿図】127【分類】C1+3【廃棄時行為】縦板大部分抜き取り→人為堆積（1～4層）【掘形平面／規模】隅丸方形／165×155【深さ／レベル】97／0.240m【井戸側規模】74×60【遺物】なし【備考】北・南面は、横板による押さえの構造をとる。隅柱下端部は平坦。南北の横棧は隅柱間を貫通する東西方向の横棧両端部の上に乗る。

S E 776【検出位置】MN84【挿図】付図1【掘形平面／規模】楕円形／170×140【備考】プラン検出のみ

S E 777【検出位置】MM83【挿図】付図1【掘形平面／規模】略円形／135×130【備考】プラン検出のみ

S E 778【検出位置】ML83【挿図】付図1【掘形平面／規模】隅丸円形／115×105【備考】プラン検出のみ

S E 781【検出位置】MM76【挿図】付図1【掘形平面／規模】略円形／130×110【備考】プラン検出のみ

S E 782【検出位置】MN75【挿図】付図1【掘形平面／規模】略円形／165×165【備考】プラン検出のみ

S E 783【検出位置】ML75【挿図】付図1【重複】SK784【掘形平面／規模】楕円形か／180×140【備考】プラン検出のみ

S E 785【検出位置】MO74【挿図】付図1【掘形平面／規模】略円形／150×140【備考】プラン検出のみ

S E 786【検出位置】MO74【挿図】付図1【掘形平面／規模】略円形／150×135【備考】プラン検出のみ



S E 787	【検出位置】 MK72	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／180×170	【備考】 プラン検出のみ	
S E 789	【検出位置】 MK71	【挿図】 付図1	【重複】 SK790	【掘形平面／規模】 隅丸方形か／190×230	【備考】 プラン検出のみ
S E 792	【検出位置】 ML70	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／140×130	【備考】 プラン検出のみ	
S E 793	【検出位置】 ML69	【挿図】 付図1	【重複】 SK794	【掘形平面／規模】 略円形／180×175	【備考】 プラン検出のみ
S E 797	【検出位置】 MQ75	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／100×100	【備考】 プラン検出のみ	
S E 798	【検出位置】 MQ75	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／110×90	【備考】 プラン検出のみ	
S E 799	【検出位置】 MO73	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 隅丸方形／125×110	【備考】 プラン検出のみ	
S E 800	【検出位置】 MP72	【挿図】 付図1	【重複】 SK801	【掘形平面／規模】 方形／125×115	【備考】 プラン検出のみ
S E 802	【検出位置】 MR71	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 方形／90×90	【備考】 プラン検出のみ	
S E 803	【検出位置】 MR70	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／160×150	【備考】 プラン検出のみ	
S E 804	【検出位置】 MQ70	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／160×140	【備考】 プラン検出のみ	
S E 805	【検出位置】 MR69	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／150×150	【備考】 プラン検出のみ	
S E 806	【検出位置】 MS70	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／105×105	【備考】 プラン検出のみ	
S E 814	【検出位置】 OA68	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／110×95	【備考】 プラン検出のみ	
S E 815	【検出位置】 OA68	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 隅丸方形／130×120	【備考】 プラン検出のみ	
S E 817	【検出位置】 NS61	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／220×210	【備考】 プラン検出のみ	
S E 818	【検出位置】 NM75	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 隅丸方形／125×120	【備考】 プラン検出のみ	
S E 819	【検出位置】 NM74	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形95×95	【備考】 プラン検出のみ	
S E 820	【検出位置】 NL73	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／115×110	【備考】 プラン検出のみ	
S E 941	【検出位置】 ND72	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／110×90	【備考】 プラン検出のみ	
S E 947	【検出位置】 NG69	【挿図】 246	【掘形平面／規模】 隅丸方形／235×220	【備考】 プラン検出のみ	
S E 954	【検出位置】 NE74	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／175×150	【備考】 プラン検出のみ	
S E 955	【検出位置】 NE74	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 隅丸方形／140×140	【備考】 プラン検出のみ	
S E 956	【検出位置】 NE74	【挿図】 付図1	【掘形平面／規模】 略円形／140×130	【備考】 プラン検出のみ	

2 掘立柱建物跡・柱穴列(第183～199図、第348図下)

今回確認された掘立柱建物跡は115棟である。これらの建物跡は検出地区ごとにA～G群に分け掲載する(下図参照)。A群41棟、B-1群32棟、B-2群7棟、B-3群2棟、C群2棟、D群5棟、E・F群各8棟、G群10棟となり、北西部のA群と中央南部のB-1群に集中して検出された。

掘立柱建物跡は身舎の柱穴配置から大きく総柱建物・側柱建物・曲り家に分けられる。総柱建物をⅠ類、側柱建物をⅡ類、総柱建物と側柱建物が組合わさったものをⅢ類、曲り家をⅣ類とする。曲り家とはここでは身舎の平面形が「L」字形のものを指す。Ⅰ類は4棟、Ⅱ類は109棟、Ⅲ類は1棟、Ⅳ類が1棟となる。建物跡の長軸方向は大きくN-45°~89°-W(西向き)、N-4°~55°-E(東向き)に分けられる。西向きのものは52棟、東向きのものは65棟である(建て替え分を含む)。東向きのものはN-9°~26°-Eに集中する(東向き65棟中55棟)傾向が見られる(第348図下グラフ参照)。

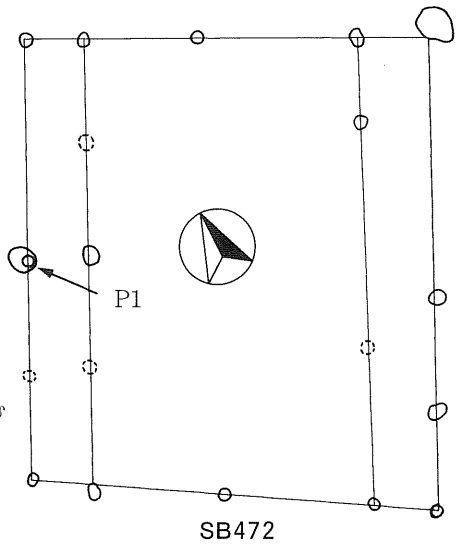
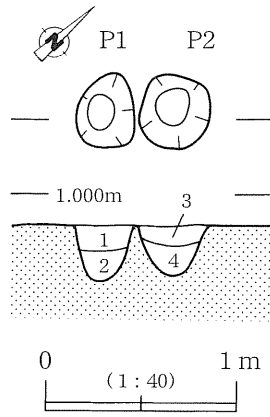
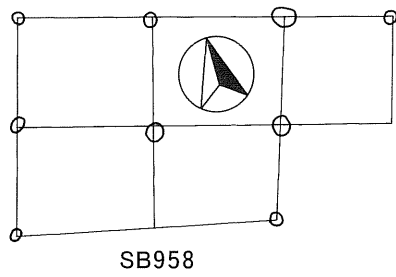
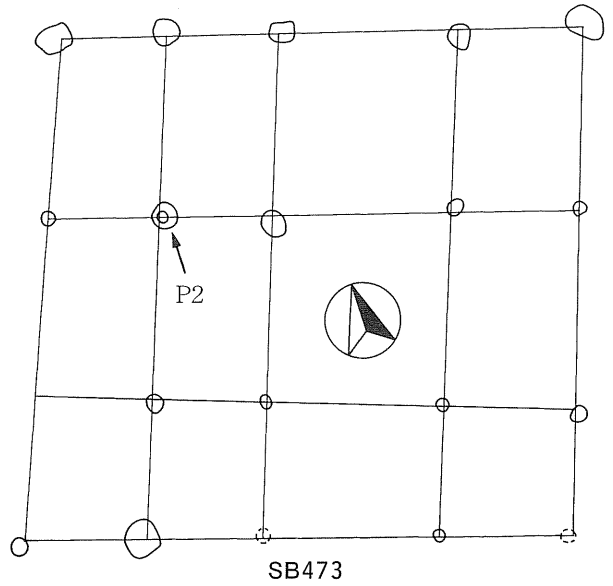
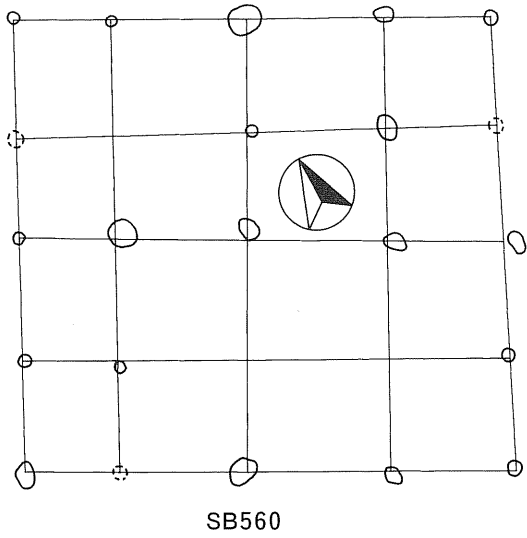
掘形(柱穴)の大きさは一辺・径が20~60cm程であり、約25~30cmの規模であるものが圧倒的に多いが、径50~60cmを測る掘形も少数ある。その深さは15~45cm程である。また柱穴内より礎板が5点、柱材や柱痕跡の残るものが17基確認されている。礎板は角材・板材や曲物底板を転用したものなどがある。遺存していた柱材はその太さが一辺6~18cmであり、特に9cm前後のものが多い。各掘立柱建物跡の分類・規模・柱穴・方向等は属性表299~301頁に示した。

また確認された柱穴列は13条である。すべて調査区中央南部のB-1群で検出された。柱穴3~7本で構成され、長さは2.6~8.6mである。



第183図 掘立柱建物跡群配置図

第4節 検出遺構

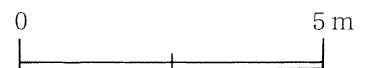
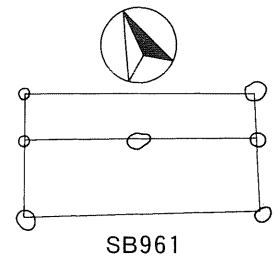
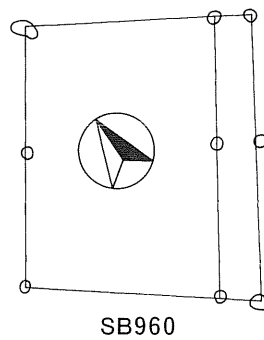
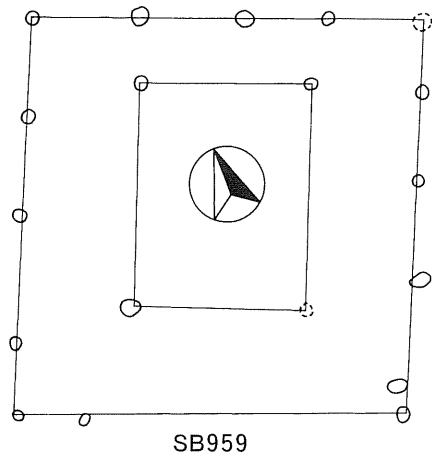


SB472-P1

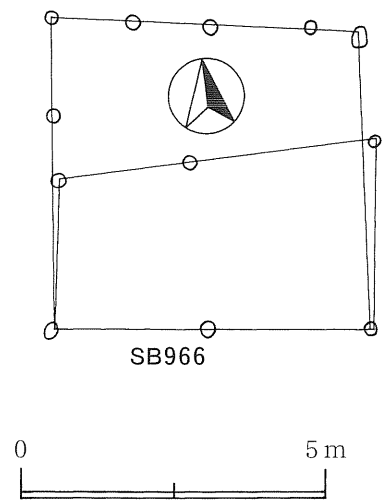
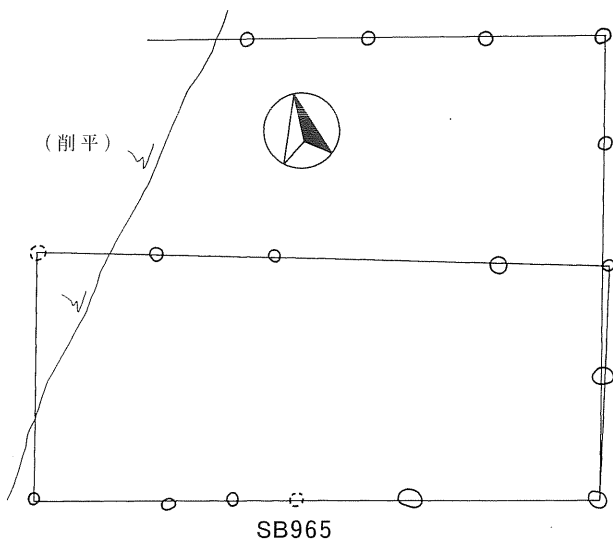
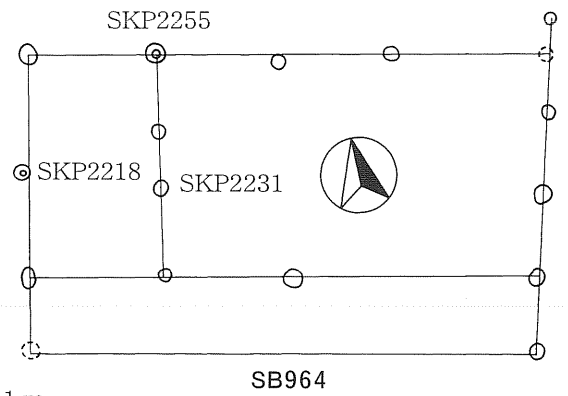
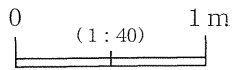
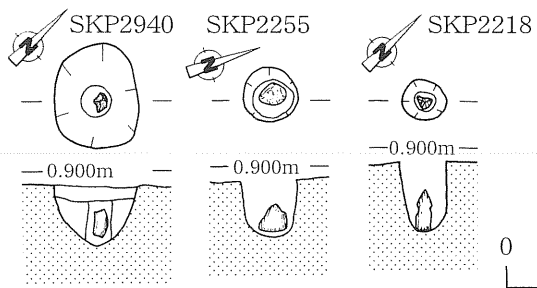
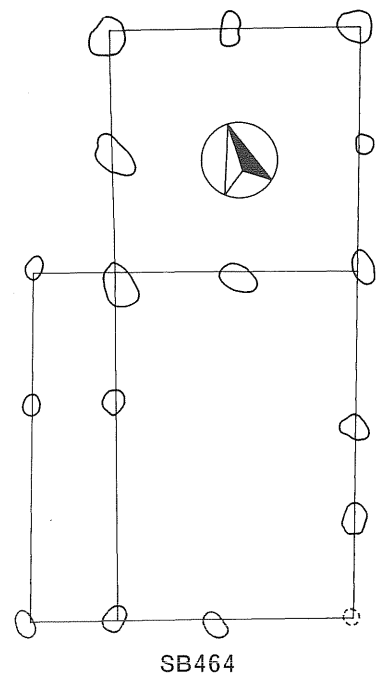
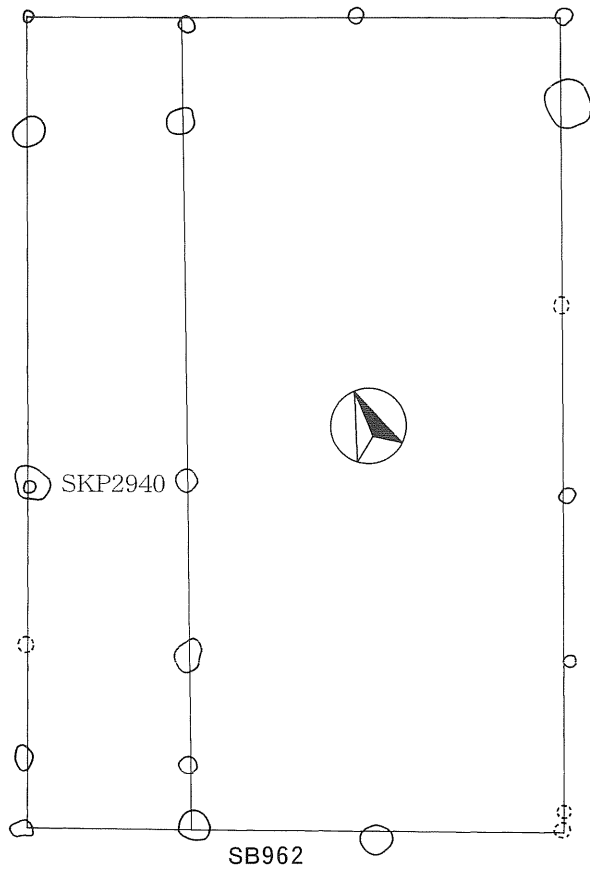
1. オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む
2. 黒色(5Y2/1)シルト層、地山少量含む

SB473-P2

3. 黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を斑状に15%含む
4. 黒褐色(2.5Y3/1)砂層、地山20%・小礫2%含む

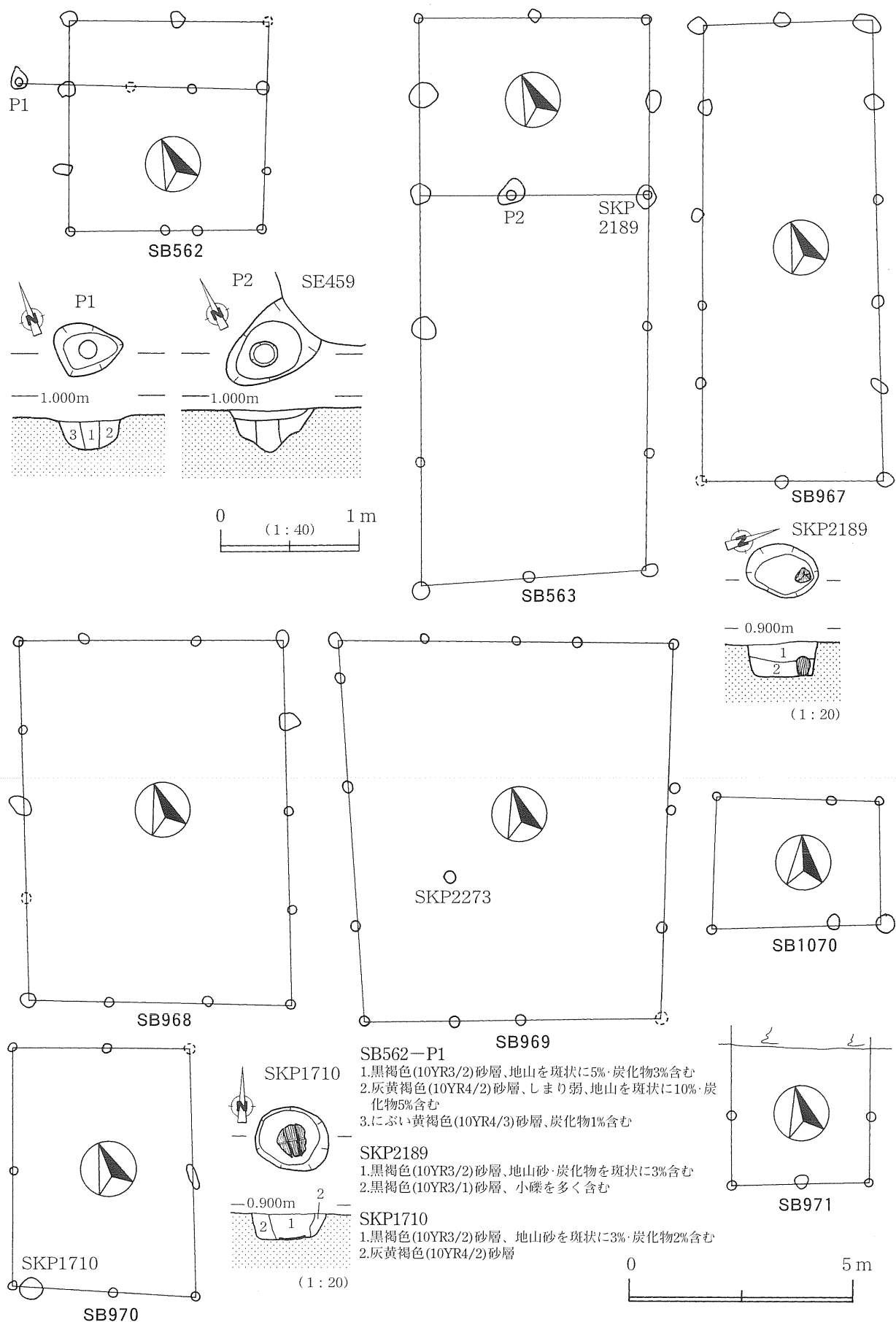


第184図 建物跡A群(1) SB472・473・560・958~961

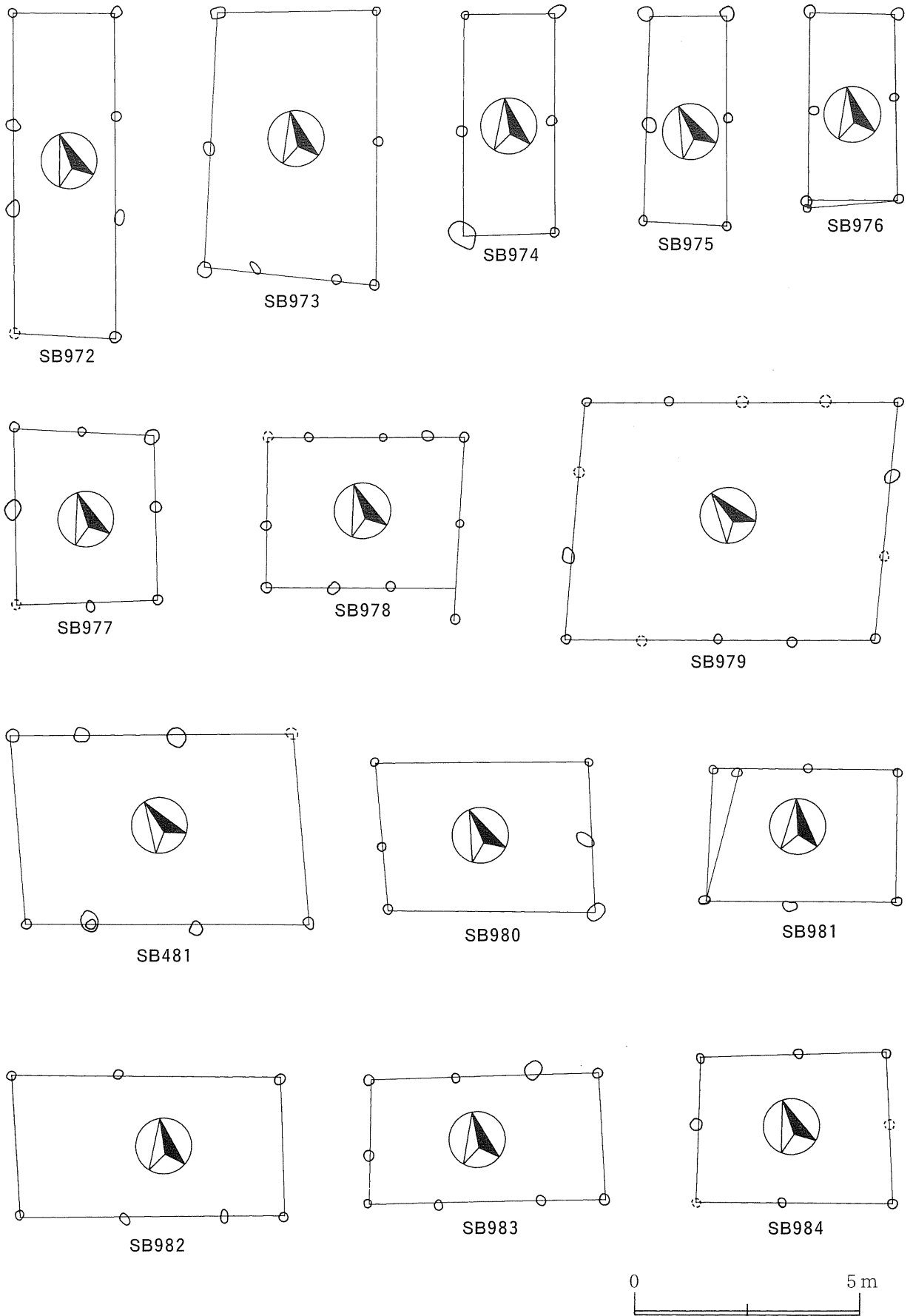


第185図 建物跡A群(2) SB464・962・964~966

第4節 検出遺構

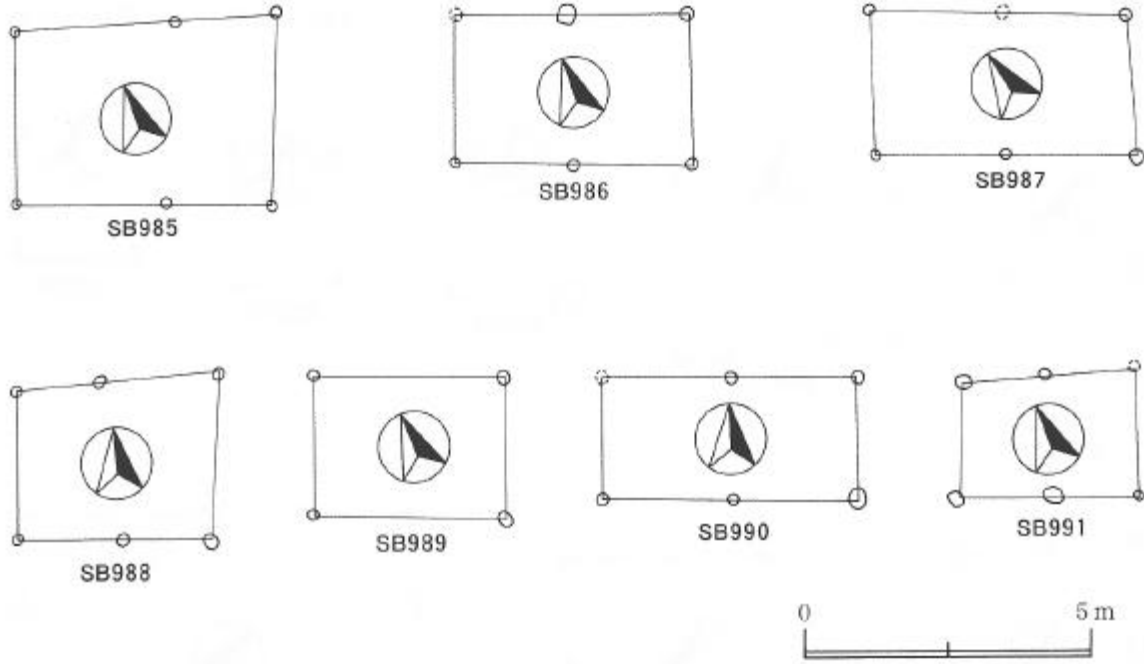


第186図 建物跡A群(3) SB562・563・967~971・1070、SKP1710



第187図 建物跡A群(4) SB481・972~984

第4節 検出遺構

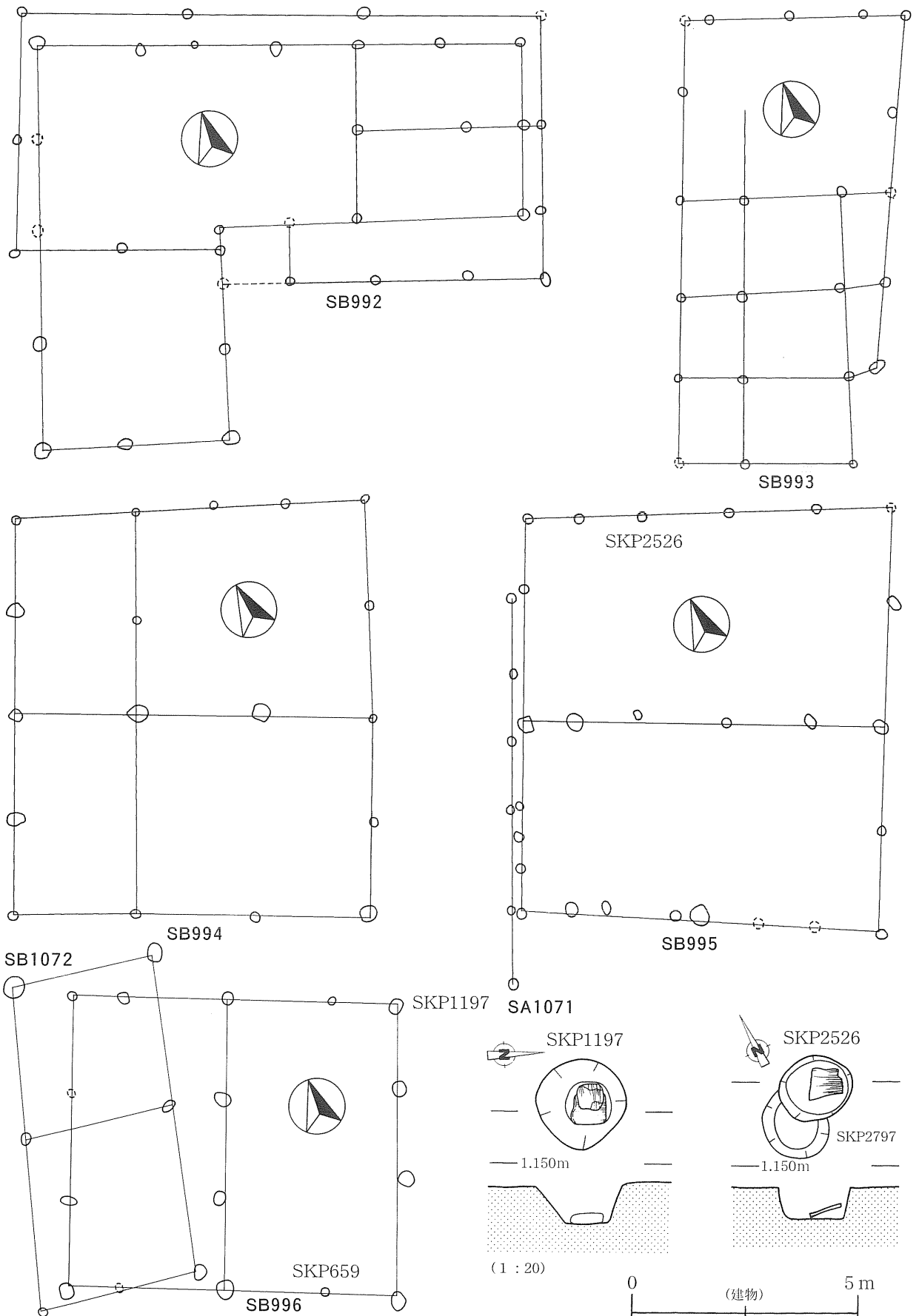


建物跡A群全景(北→)



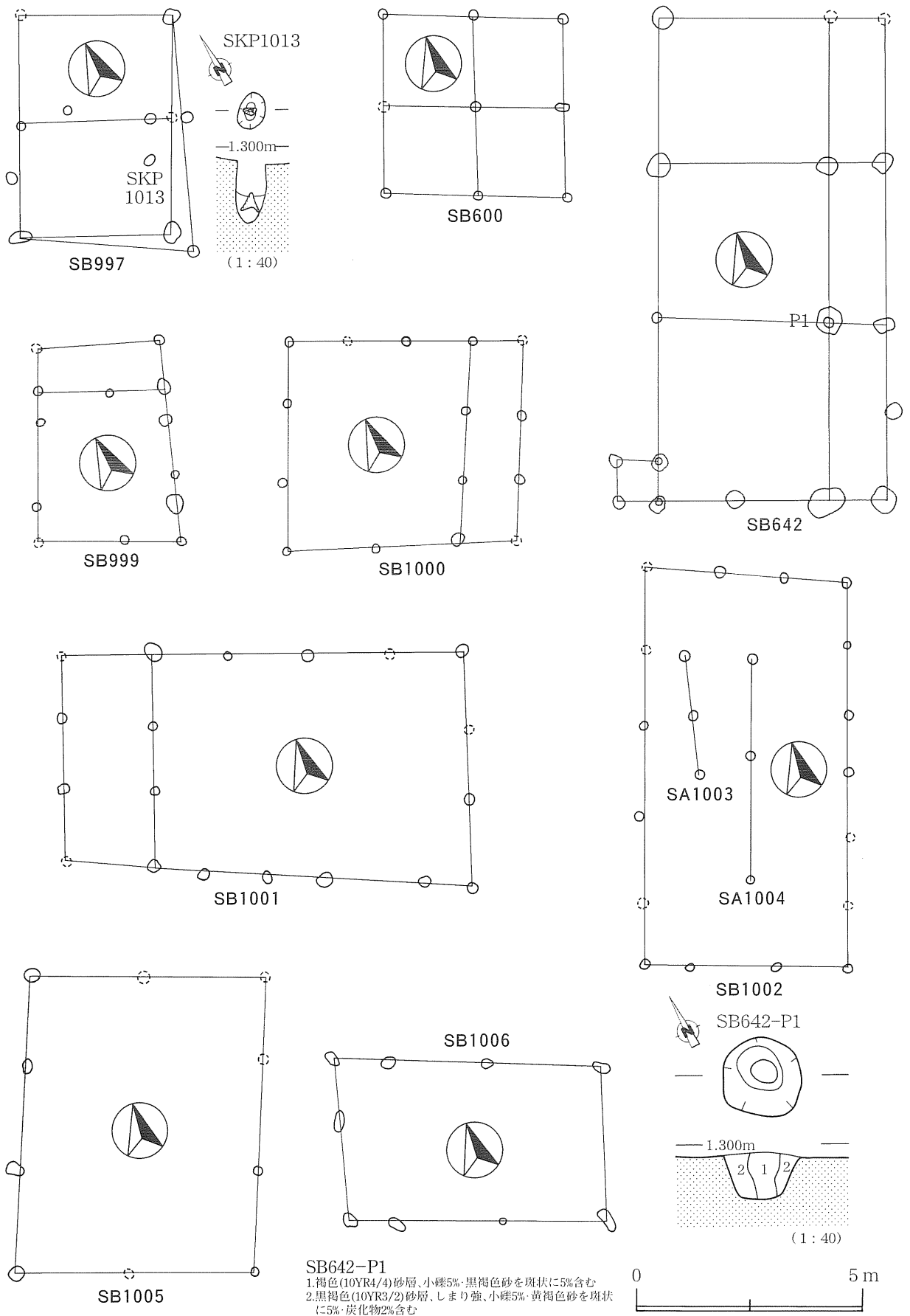
第188図 建物跡A群(5) SB985~991





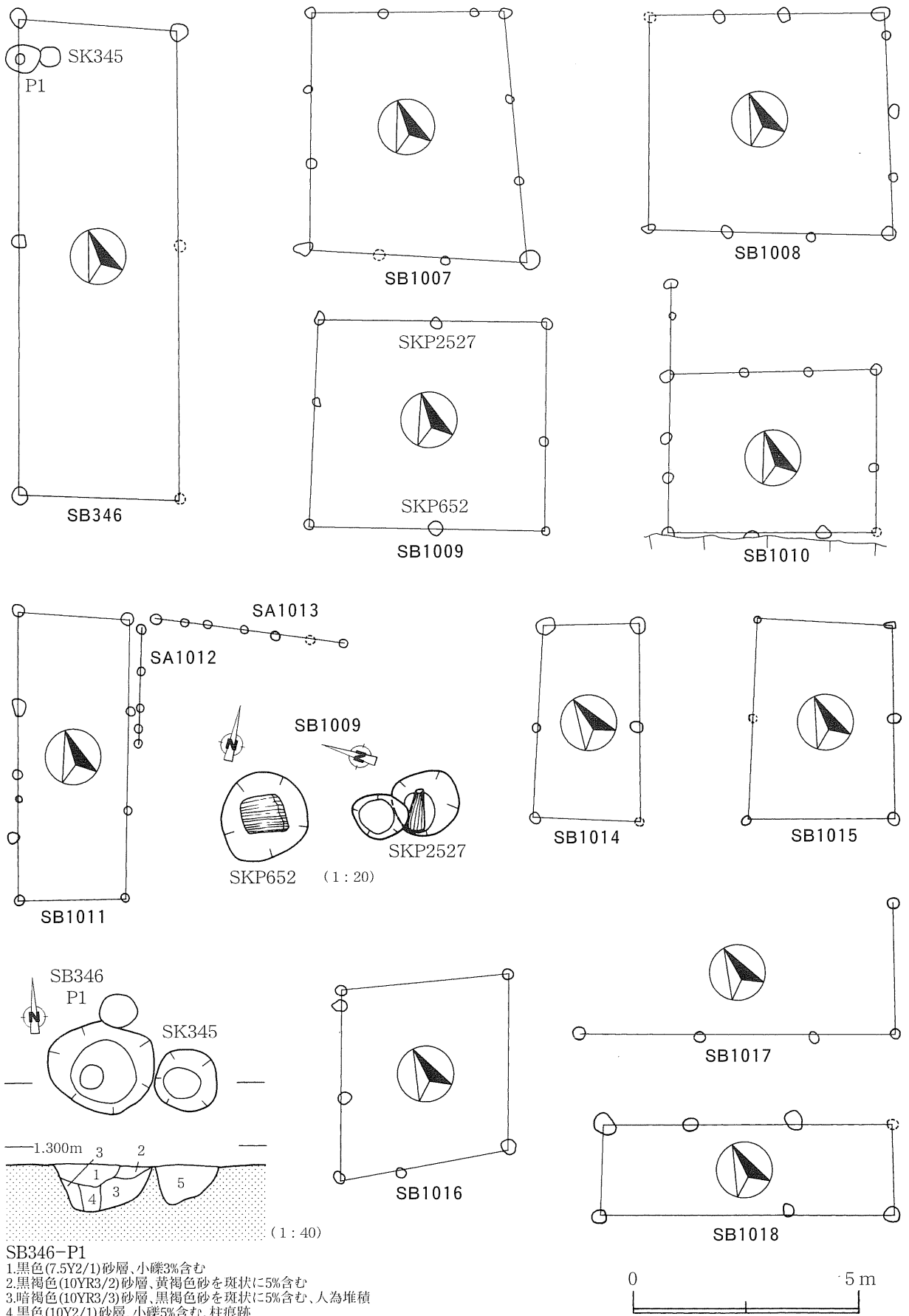
第189図 建物跡B-1群(1) SB992~996・1072、SA1071

第4節 検出遺構



SB642-P1  
 1.褐色(10YR4/4)砂層、小礫5%・黒褐色砂を斑状に5%含む  
 2.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり強、小礫5%・黄褐色砂を斑状に5%・炭化物2%含む

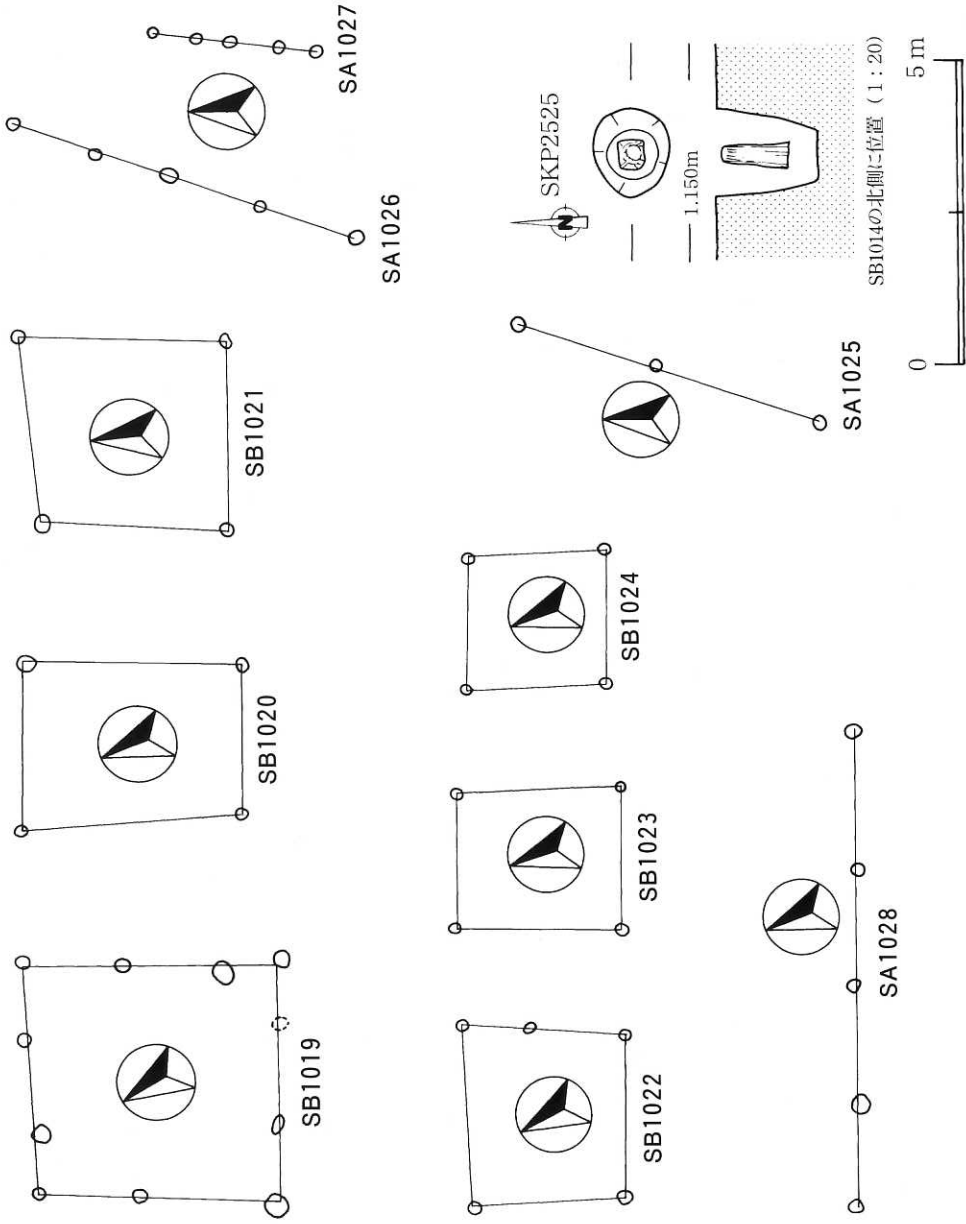
第190図 建物跡B-1群(2) SB600・642・997・999~1002・1005・1006、SA1003・1004



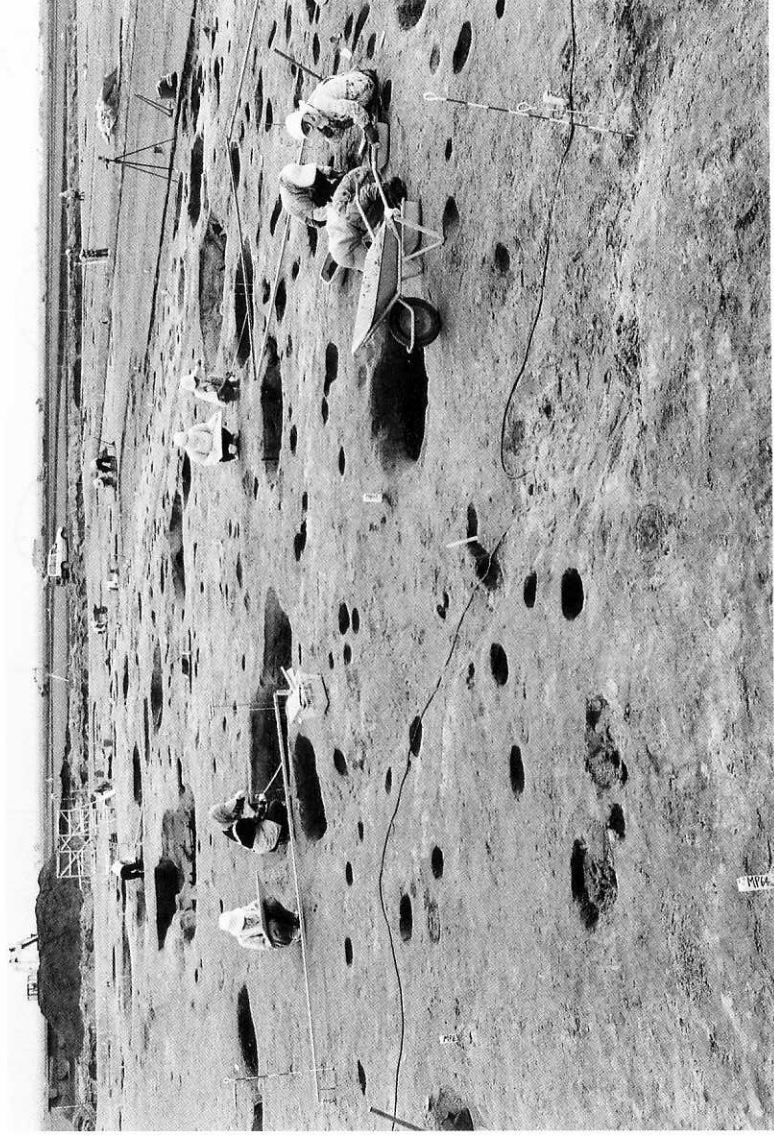
SB346-P1  
 1.黒色(7.5Y2/1)砂層、小礫3%含む  
 2.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色砂を斑状に5%含む  
 3.暗褐色(10YR3/3)砂層、黒褐色砂を斑状に5%含む、人為堆積  
 4.黒色(10Y2/1)砂層、小礫5%含む、柱痕跡  
 SK345  
 5.黒褐色(10YR2/2)砂層、暗褐色地山5%・黒色シルト質土3%含む

第191図 建物跡B-1群(3) SB346・1007~1011・1014~1018、SA1012・1013、SK345

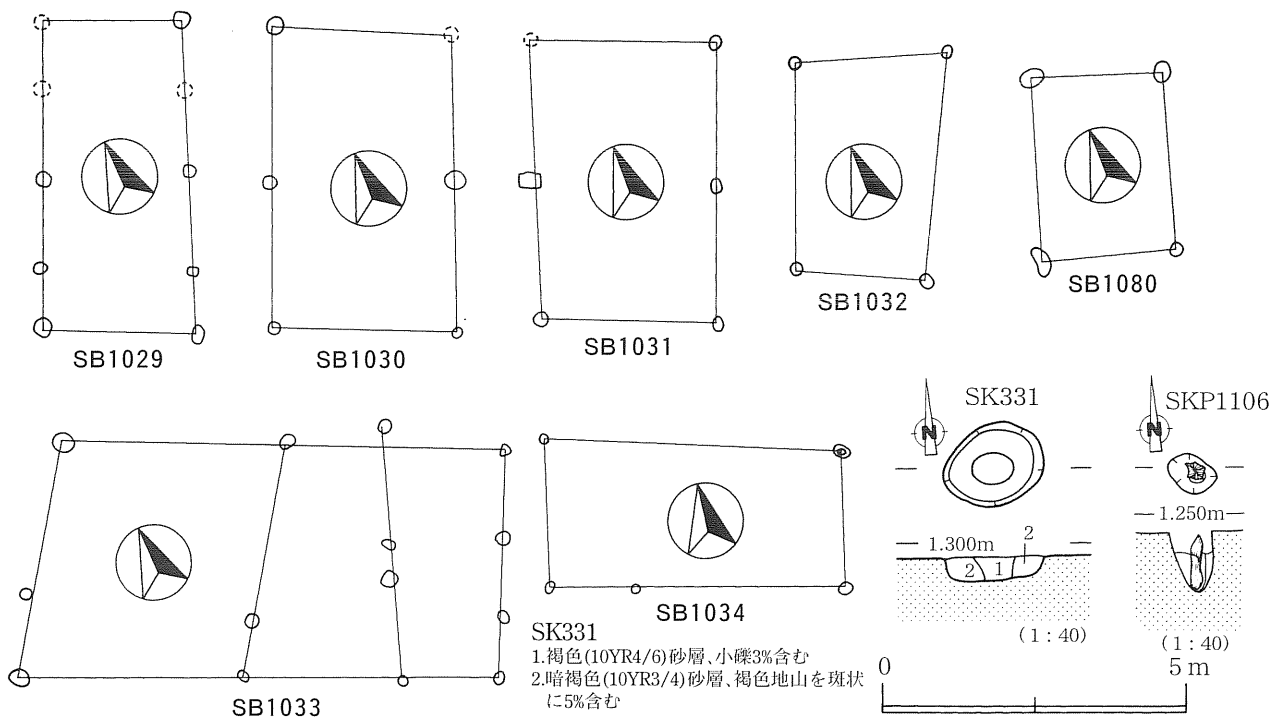
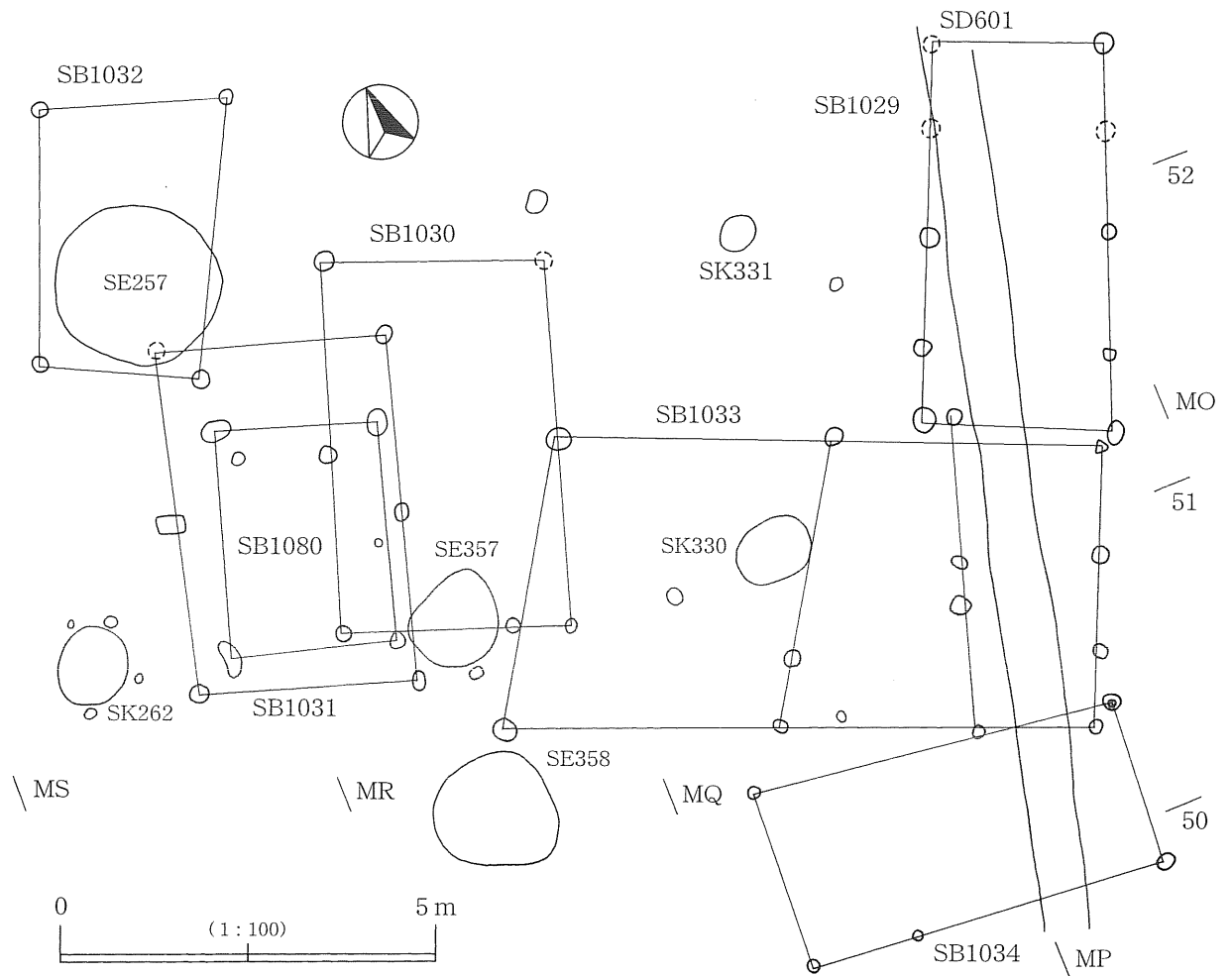
第4節 検出遺構



調査風景 (調査区中央南部、北東→)

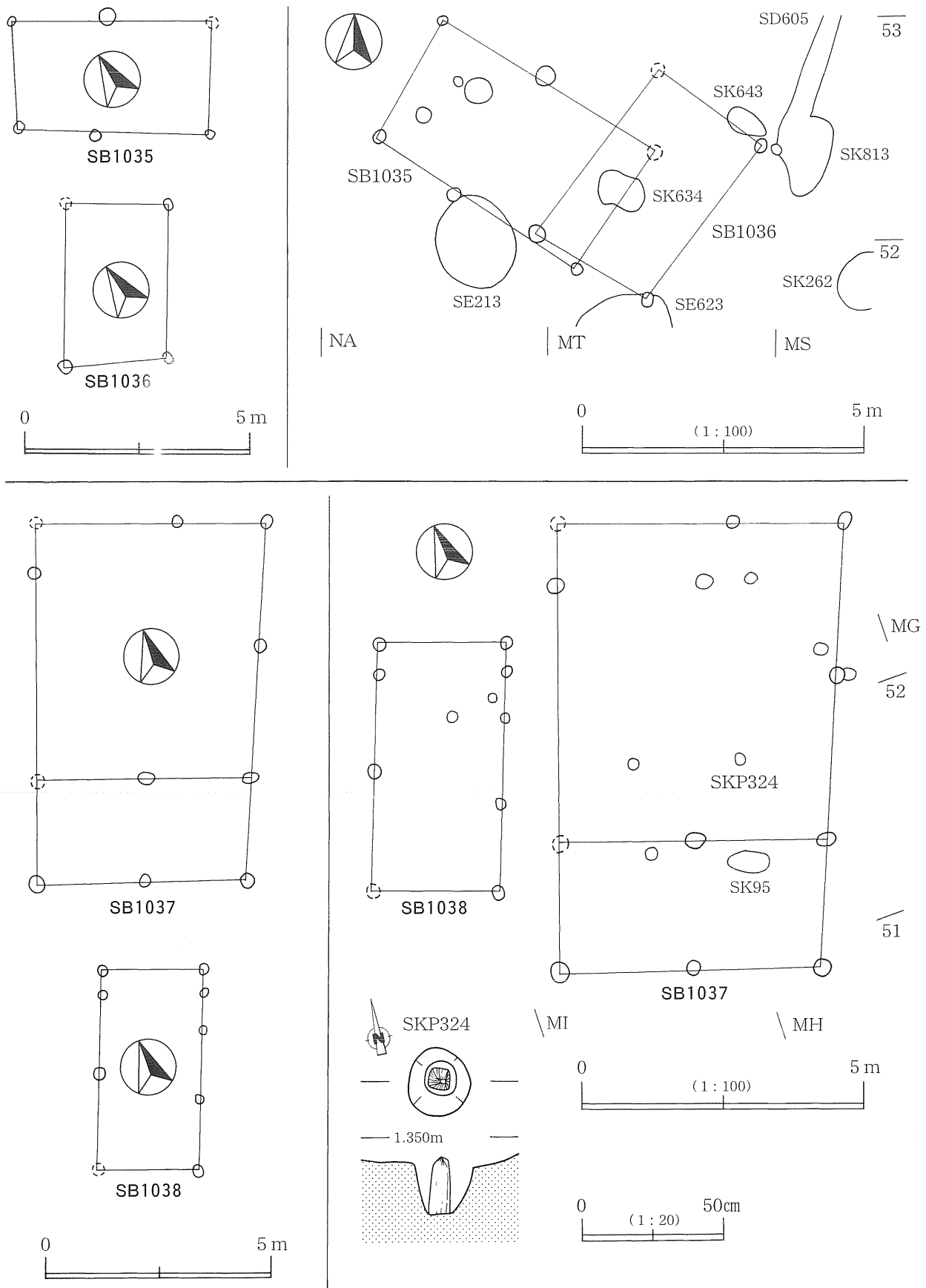


第192図 建物跡B-1群(4) SB1019~1024、SA1025~1028、SKP2525

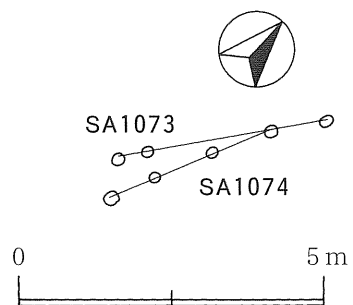
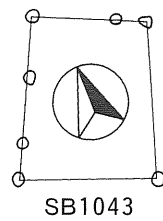
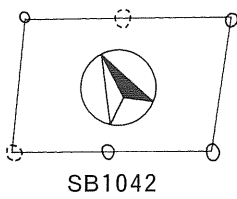
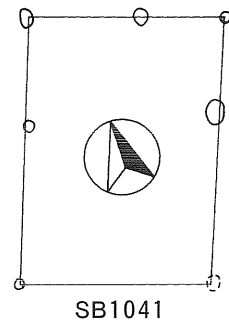
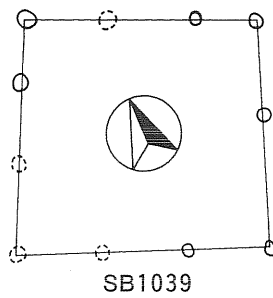
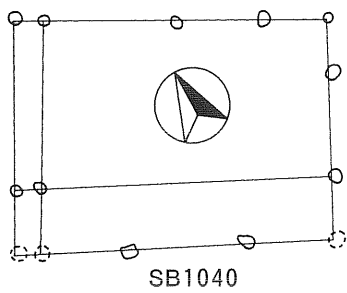
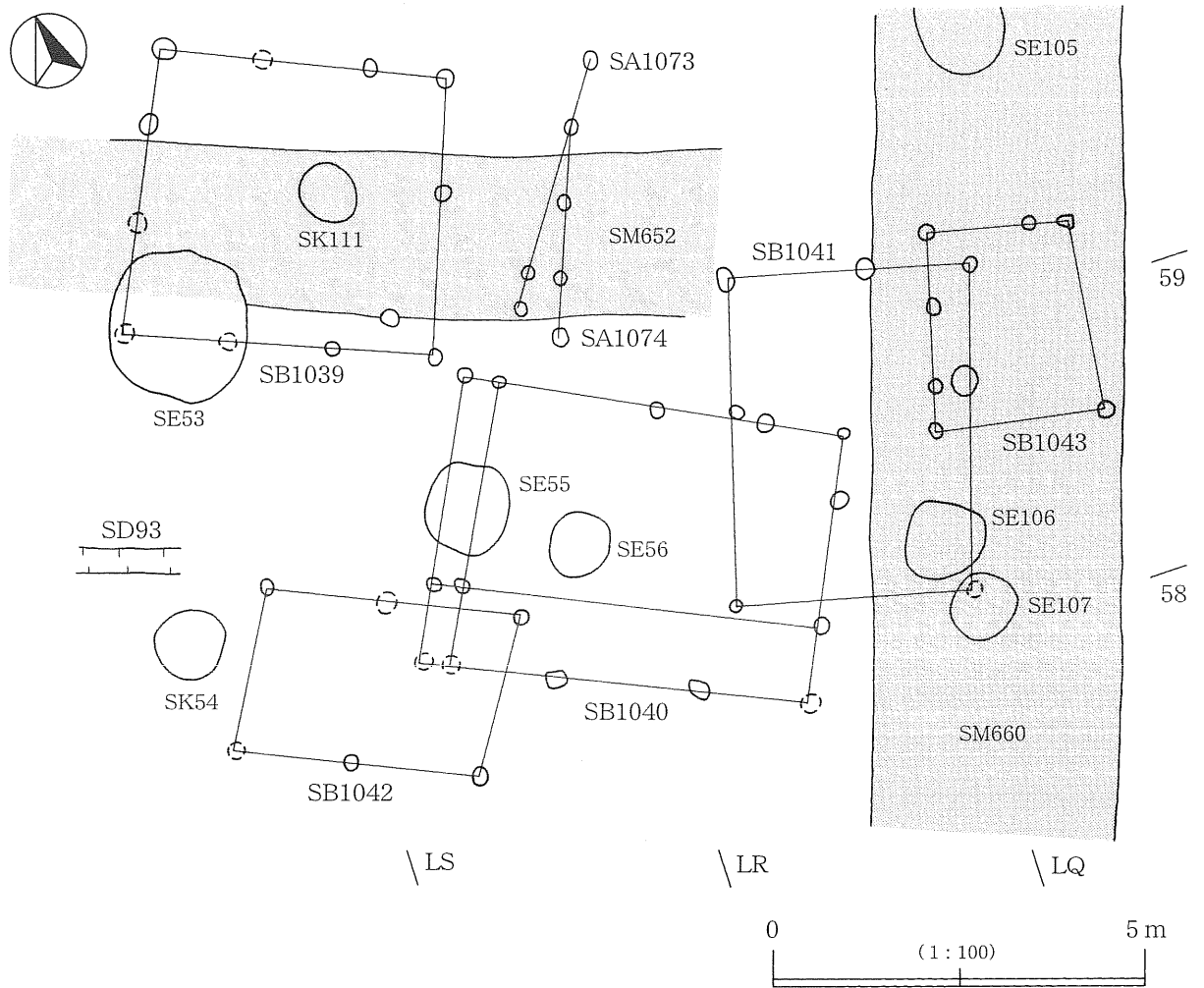


第193図 建物跡B-2群 SB1029~1034、SK331

第4節 検出遺構



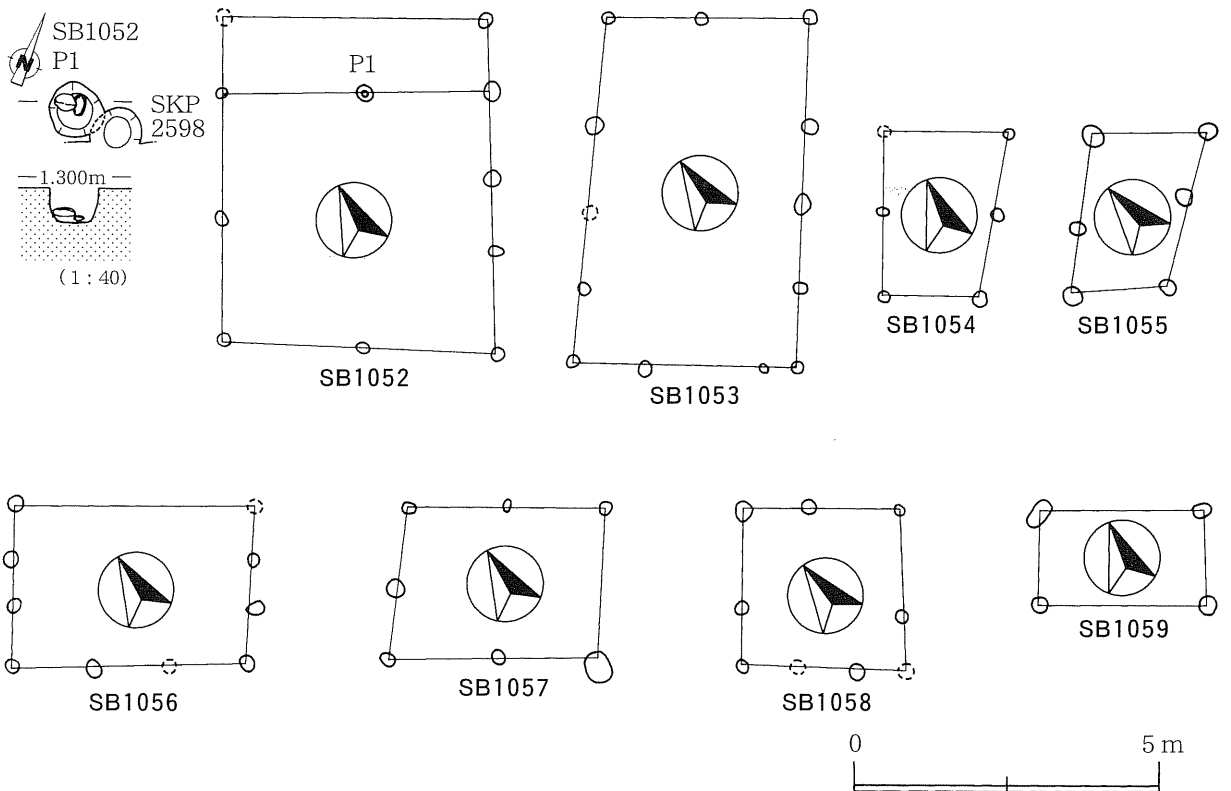
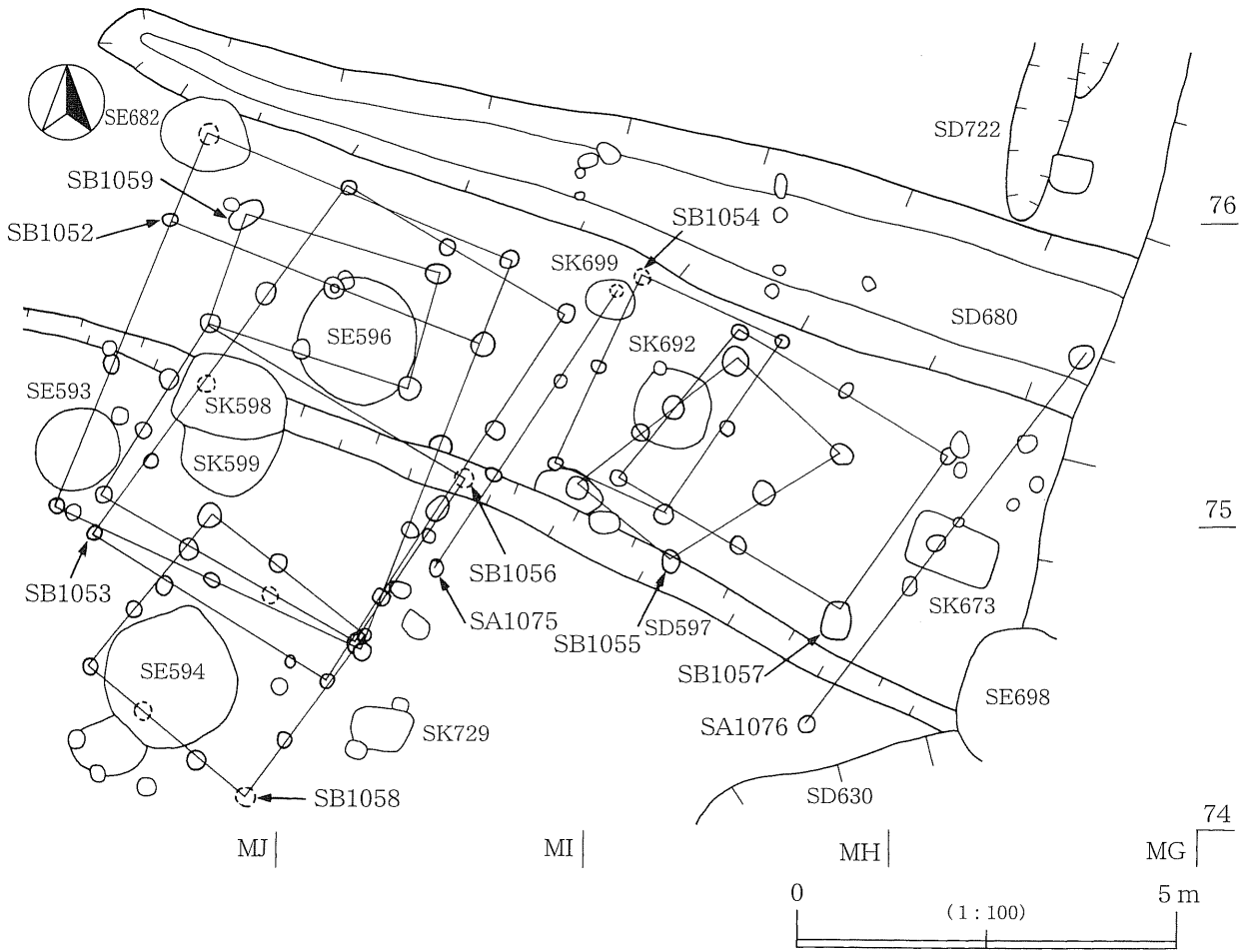
第194図 建物跡B-3群(上)・C群(下) SB1035~1038



第195図 建物跡D群 SB1039~1043、SA1073・1074

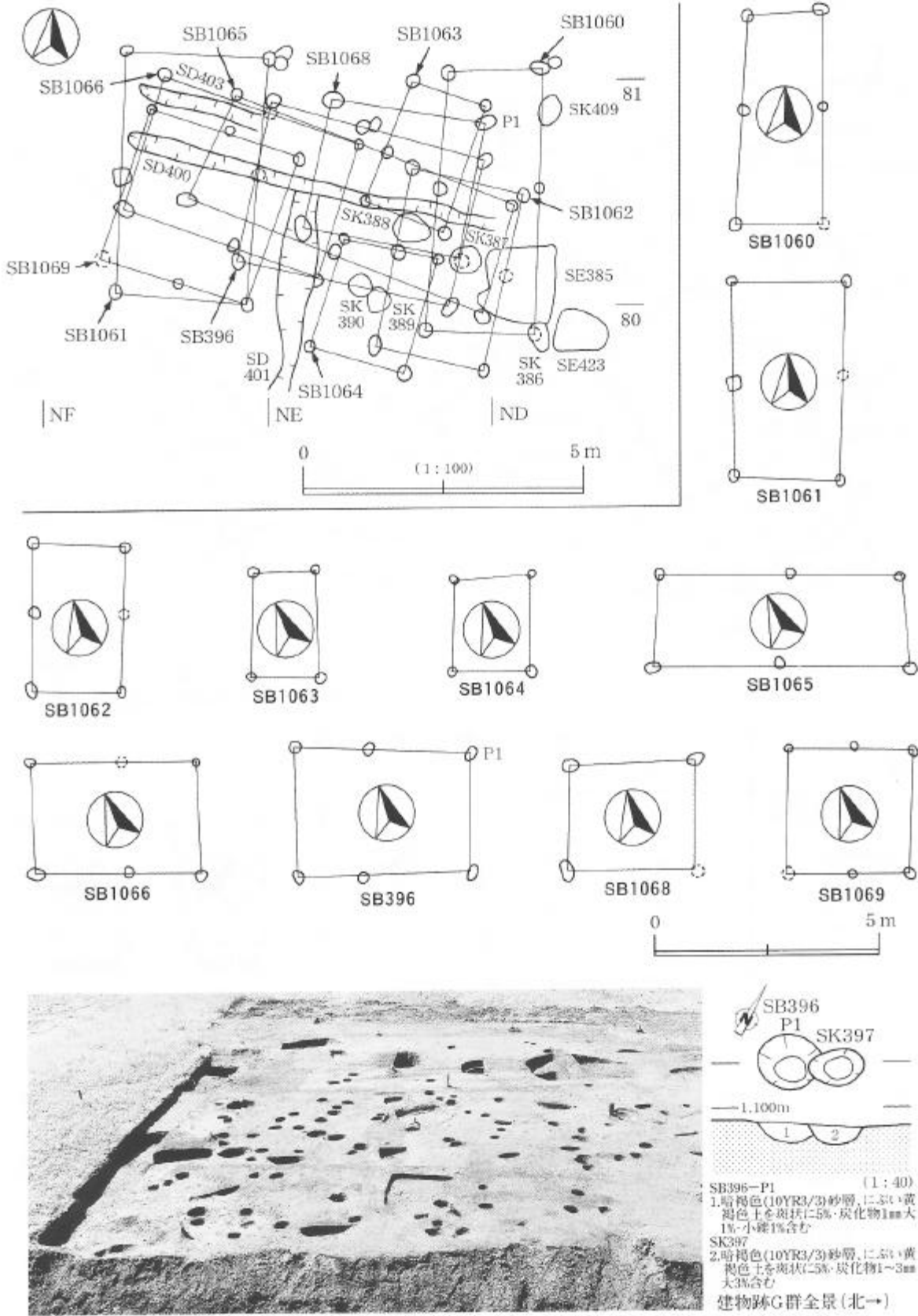




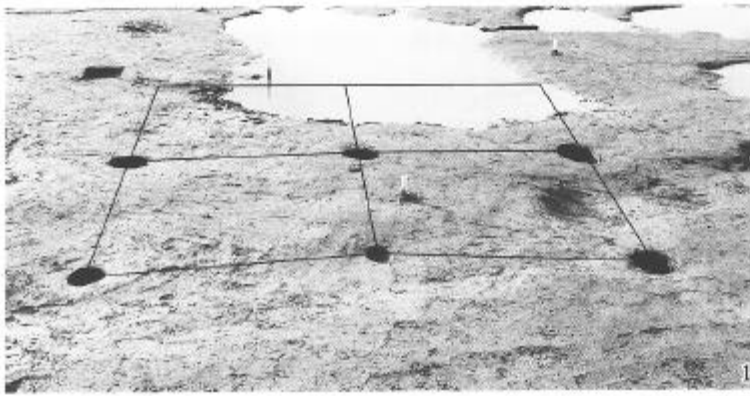


第197図 建物跡F群 SB1052~1059、SA1075・1076

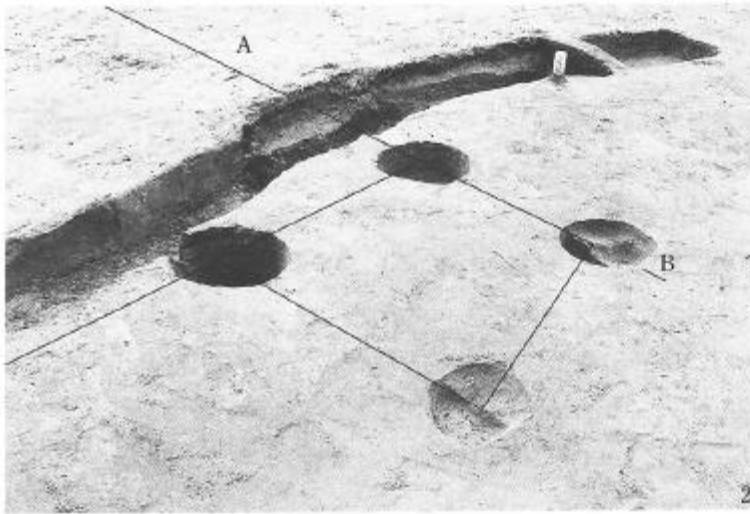
第4節 検出遺構



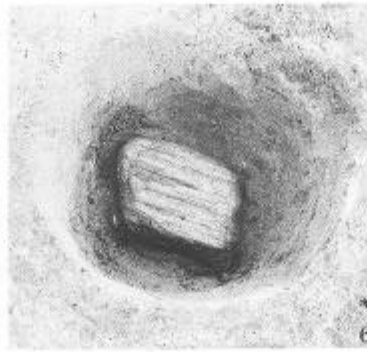
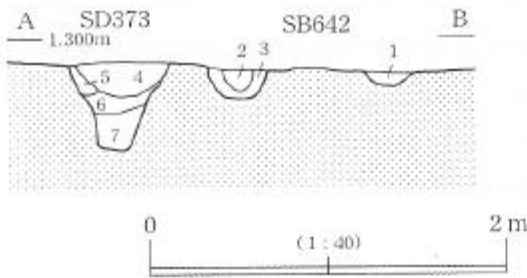
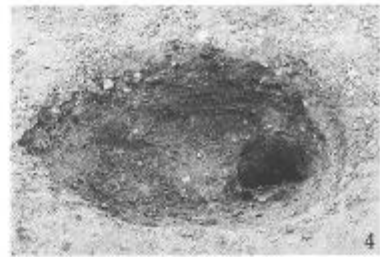
第198図 建物跡G群 SB396・1060~1066・1068・1069、SK397



- 写真1：SB600全景(東→、第190図)  
 2：SB642南西隅部(北西→、第190図)  
 3：SKP1710(SB970柱筋上に位置、第186図)  
 4：SB563(SK P2189、第186図)  
 5：SB996(SK P1197、第189図)  
 6：SB1009(SK P652、第191図)  
 7：SB964(SK P2255、第185図)



- SB642-SD373  
 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、炭化物1%含む  
 2.暗褐色(10YR3/4)砂層、炭化物1%含む、柱痕  
 3.黒褐色(10YR3/1)砂層、柱穴痕跡  
 4.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、しまりあり、炭化物1%含む、地山、水成堆積  
 5.黒褐色(10YR3/1)砂層、褐色地山を現状に5%炭化物2%含む、水成堆積  
 6.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、粗砂をブロック状に5%炭化物1%含む、水成堆積  
 7.黒褐色(10YR3/1)砂層、黄褐色地山を現状に5%炭化物3%含む、水成堆積



第199図 建物跡・柱穴写真

### 3 竪穴状遺構（第200～213図）

竪穴状遺構は、18基検出している。本遺跡において竪穴状遺構・土坑等の遺構を一覧した時、径あるいは長軸が概ね2m未満のものと、3mを越すものに大別でき、2～3mの数値を示す遺構は、ほとんど見られない。このことから、前者を土坑、後者を竪穴状遺構として便宜的に分けて記載する。また遺構の属性表は、次頁に掲載する。形態については平面形状から大きく次のA～Cの3つに分類される。

A類：ひょうたん形のもの。（第200～203図）

SK I 244・246の2基が確認された。2基ともくびれ部分に材を用いた仕切り状の施設が設けられ、1つの遺構を2つ（室）に分割している。仕切状の施設は竪穴長軸に対して直交する方向に認められる。また底面はほぼ平坦である。

SK I 244は長軸が東西方向を向く。仕切り状の施設は、径3～5cm程の先端を加工した自然木（広葉樹）を杭として利用し、これを南北方向一列に立て並べる。これら杭には栈木様の横木（自然木主体で棒状に加工した杉材も少数含まれる）を数段渡し、柵状の施設としている。柵の幅は2.3m、高さは少なくとも0.9mはあったようである。西側からの土圧で柵は東に傾いており、堆積土の観察（特に6層）から人為的に埋められたものであることが推測される。出土遺物は、主に竪穴の東側室で板状・棒状の木製品が10数点（326-12）と拳大～人頭大の礫が数個出土しているのみである。

SK I 246はSK I 244の北側約10mに位置し、長軸は南北方向となる。現況での平面形状は楕円・長円形を呈するが、下端プランの観察から、ひょうたん形であったものが崩れた可能性が考えられる。仕切状の施設は、杉材を棒状に加工した杭及び横棧と板状に加工した縦板からなる。柵は、まず3～4cm角程度の杭（残存長30～52cm、下端部尖る）を東西方向一列に6～8本打ち付ける。この杭列の南側に長さ1.7m前後の横棧を2段渡し、これに幅0.1～0.25mの縦板を少なくとも12枚密に立て並べている。縦板の長さは最長で0.9mであったが、三者の固定方法は不詳である。柵は土圧の影響で北側に倒れ込んでおり、竪穴は堆積土の観察から最初に北側室が埋没し始め、次いで南側室が埋まり、最終的には北側室の上位が水成堆積（2層）の後、人為的に埋めている（1層）。なお柵により分割された北側室の西壁には奥行き0.8m、幅0.6m、深さ0.2mの溝状の掘り込みが見られる。堆積土の観察から同竪穴に伴うようであり、その配置から推定すれば出入口状の施設であった可能性がある。出土遺物は認められなかった。

B類：方形・長方形を基調とするもの。

SK I 83・115・128・191・278・312・589・728の8基がこれに相当し、SK I 115・128・191・312の4基は調査区南端で東西方向に点在するような配置を示している。竪穴遺構は、長軸が5mを越す大型のもの（SK I 83・115・191・589）と5m未満の中型に分けられる。後者のうち、SK I 278・312では部材が検出されている。SK I 312は北側壁面に横板を渡して杭で止めており、床面上には4箇所を柱を突きつけ（打ち込み）の方法で立てている。北東・北西側2箇所は、各3本の柱が近接して残るが、どのような上屋をなす構造であったのか、今後検討したい。SK I 278では床面上に幅0.15m前後の板材を3枚敷いている。板敷きの床であったと思われる。

C類：A・B類以外の形状を示すものをC類としてまとめた。

円形のもの（SK I 675・679）、不整円形のもの（SK I 65・79・631）、楕円形のもの（SK I 663）、

不整形のもの(SKI 686・689)が確認された。円形のものでは深さが1mを超えるものであり、A・B類や他のC類と比べて深い。SKI 679では南側の壁際からは2段4枚の横板が検出された。これは壁板として使用していた可能性がある。またSKI 663では腐食した木質物が底面一帯に薄く広がっているのが確認された。木質の敷物が存在していたのかもしれない。SKI 686は小型土坑・溝が複数重複するような平面形状を示し、底面も凹凸することから他の竪穴状遺構とは性格を異にする可能性が高い。遺構内から小型七輪であるキャフロの一部(272-10)が出土している。

第3表 竪穴状遺構属性表

遺構番号	検出地区	グリッド	掲載図	形態	重複	長軸	短軸	深さ	遺物・備考
SKI65	南東部	MA53	210	C	<SD64	(404)	(200)	32	
SKI79	南東部	MG49	210	C		317	185	14	
SKI83	南東部	MG59	211	B	SE121・SK122・SD82	(480)	460	20	
SKI115	南東部	MA48	212・213	B		698	480	56	陶器(珠洲甕267-7)木製品(木筒273-5,7,10・曲物底板292-11,293-4・用途不明具326-13)
SKI128	南東部	MI49	206	B		475	392	70	
SKI191	南西部	NG48	212・213	B	SD200・201	(580)	375	53	土器(瓦器270-8)、木製品(漆塗り椀275-6・曲物底板291-1・斎串309-8・刀子形310-13,17)、自然遺物(クルミ)、漆塗り椀は3個体出土
SKI244	中央南部	MR54	200・201	A		650	340・485	73	木製品(用途不明具326-12)
SKI246	中央南部	MQ58	202・203	A	<SK249	(668)	300	44	
SKI278	中央南部	MM58	206	B		312	267	31	
SKI312	中央南部	NA50	204・205	B		416	364	48	木製品(曲物底板291-2)
SKI586	北西部	NO77	付2	—		—	—	—	プラン確認のみ
SKI589	北西部	NN73	211	B	SE590	784	326	32	
SKI631	北東部	MG76	208	C	<SE681	375	324	26	鉄製品(刀子330-2)
SKI663	北東部	MJ65	210	C		412	272	28	
SKI675	北東部	ME78	207・209	C		434	340	112	
SKI679	北東部	MI78	208・209	C	<SE710	390	(336)	102	木製品(漆塗り椀275-3・容器蓋294-1・装身具用途不明296-11・物差し313-4・用途不明具321-5,322-8)
SKI686	北東部	MG78	207	C	<SK674	(402)	352	24	キャフロ(272-10)、銭貨(至和通寶338-50・元豊通寶338-51)
SKI728	北東部	MC74	210	B	SD905	328	135	38	

単位はcm

## 4 土坑(第214～236図)

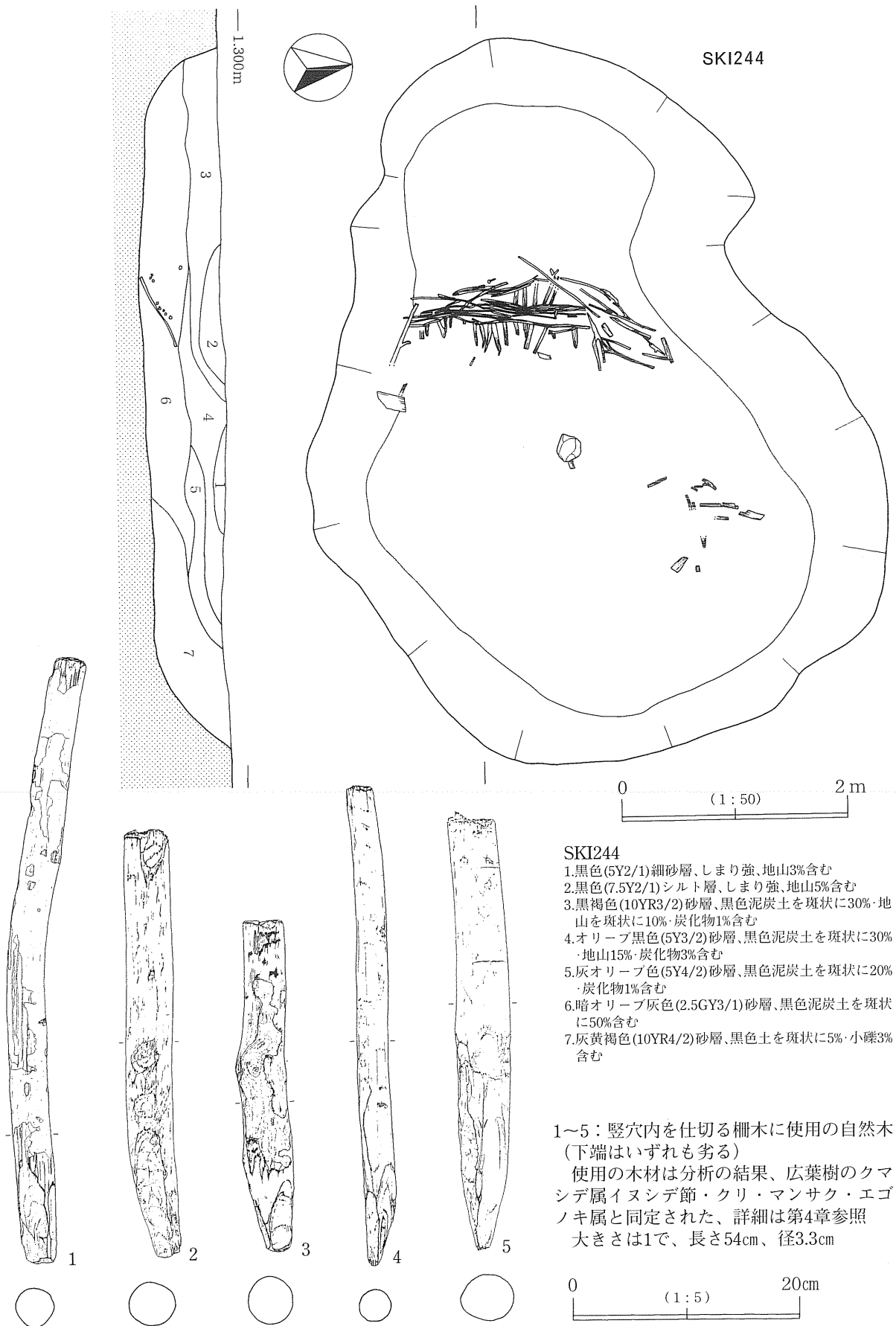
土坑とした遺構は、297基である。遺構図は、原位置を保つ遺物の有無、平面形・規模で次のA～Cに便宜上配列させ掲載している。

A類(第214～217図)：原位置を保つ遺物が出土している土坑。

B類(第218～226図)：径あるいは長軸が1m以上2m未満の土坑。平面形状から雪ダルマ形(第218図)、円形・略円形(第219～224図)、楕円形(第225図)、方形・隅丸方形(第226図)を指向するものが存在する。

C類(第227～236図)：径あるいは長軸が1m未満の土坑。B・Cは、基本的に原位置を保つ遺物の出土はない。

なお遺構の属性表は、302～307頁に掲載する。



第200図 竖穴状遺構(1) SKI244(1)全体図



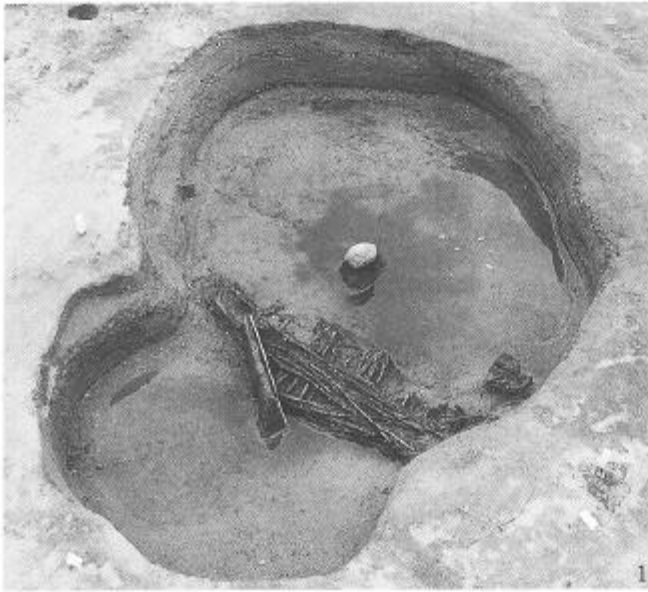
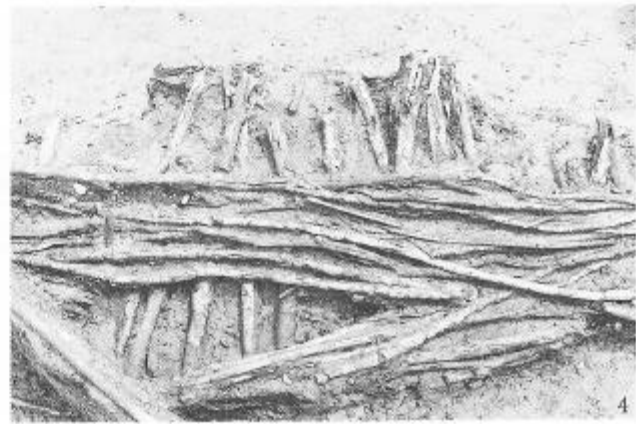
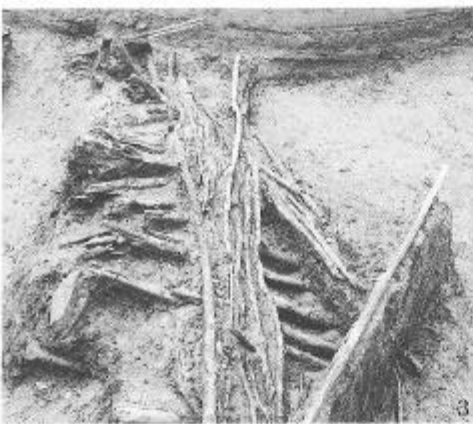
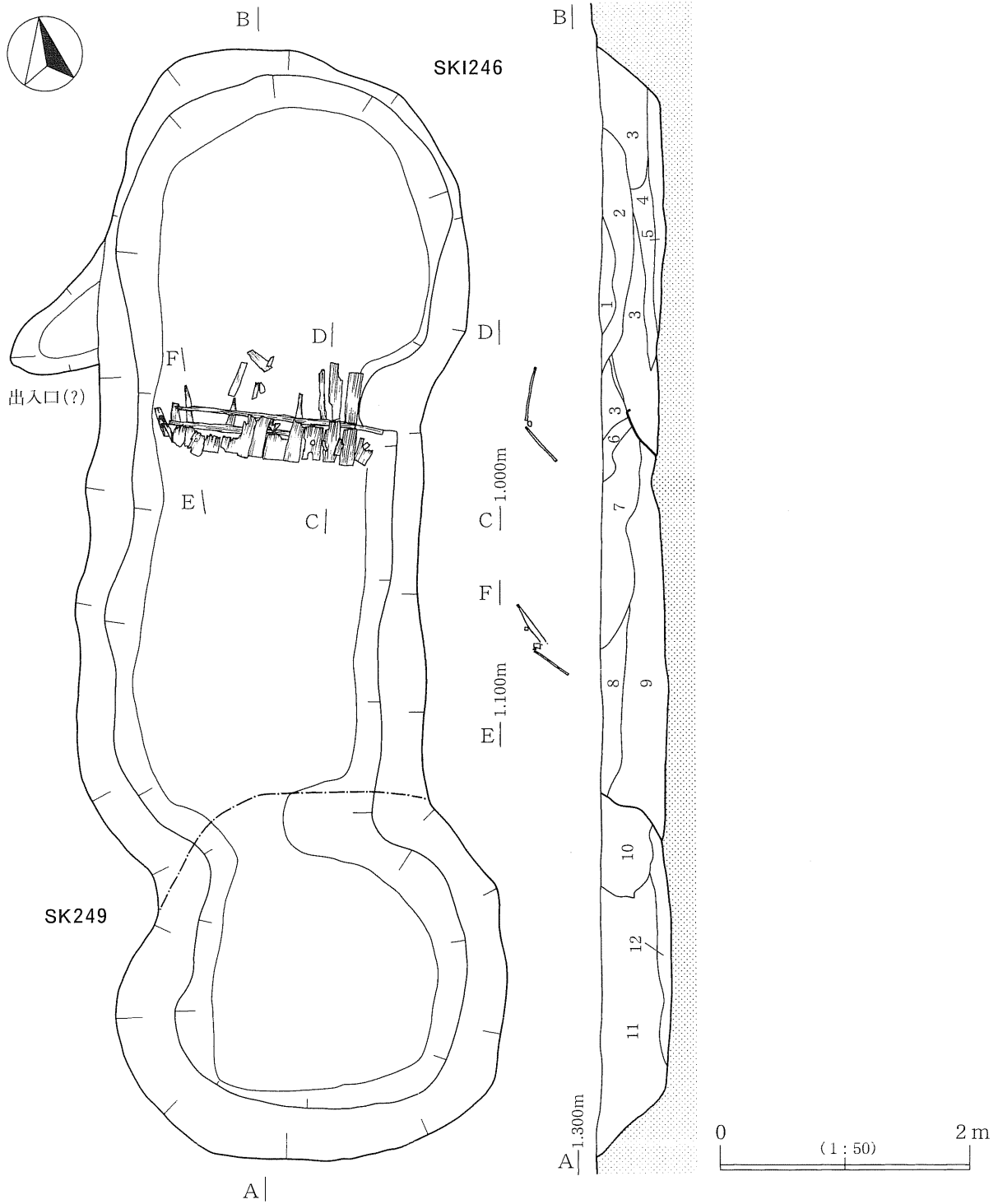


写真1：SKI244全景(南西→)  
2：同上(西→)  
3：中央の棚部分(北→)  
4：同左(西→)



第201図 竪穴状遺構(2) SKI244(2) 遺構写真



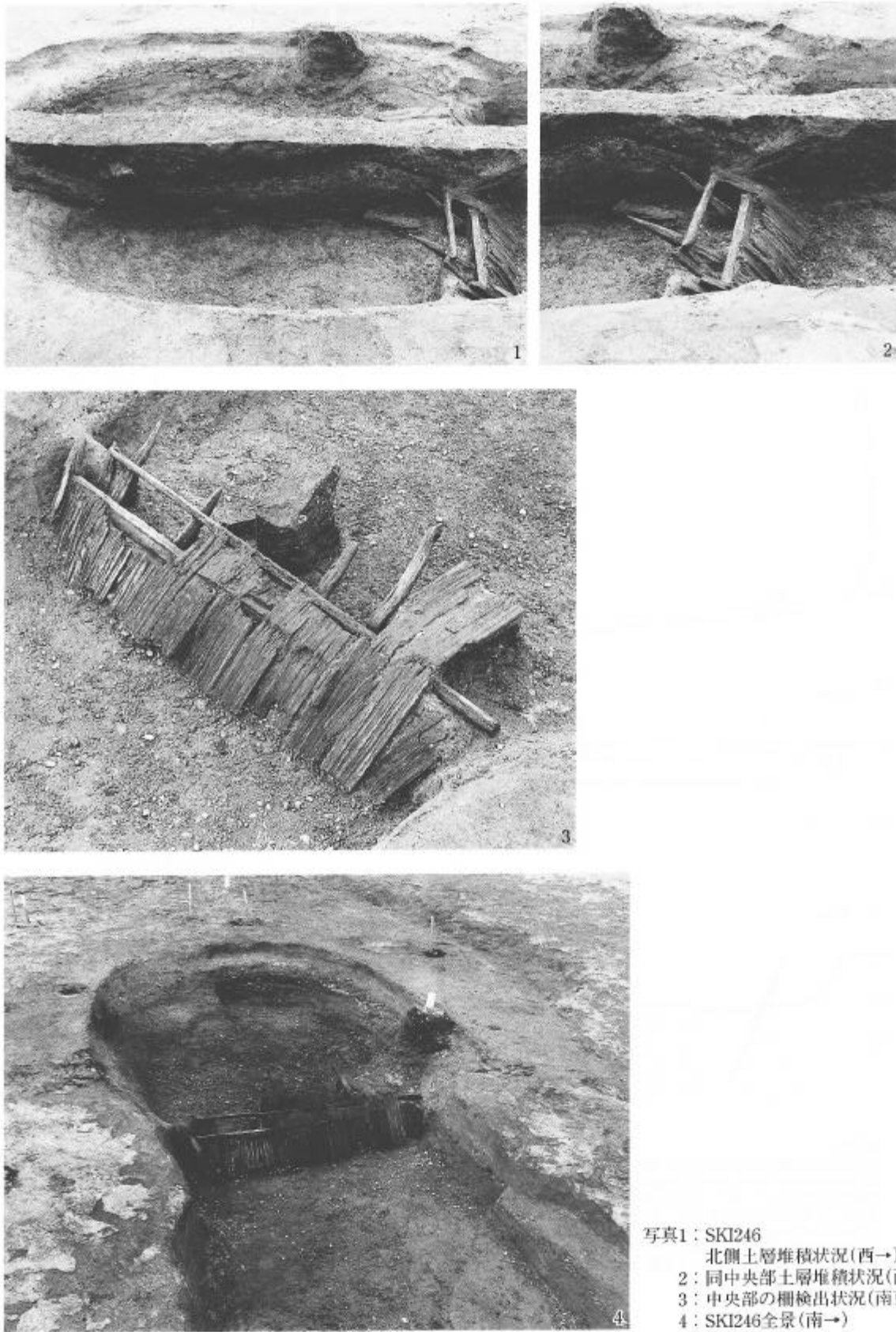
SKI246

1. 黒褐色(2.5Y3/2)砂層、黒色土を斑状に10%・炭化物1%含む
2. 黒褐色(2.5Y3/1)砂層、黒色泥炭土を斑状に30%・地山20%含む
3. 暗褐色(10YR3/4)粗砂層、地山30%・黒色土を斑状に5%・炭化物3%・小礫3%・オリブ黒色土を筋状に1本含む、
4. 暗オリブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色土を斑状に10%及び筋状に10%含む
5. 暗オリブ灰色(2.5GY4/1)砂層、しまり弱、グライ化地山
6. 褐色(10YR4/4)砂層、小礫5%・炭化物1%含む、地山
7. オリブ黒色(5Y3/2)砂層、黒色土を斑状に30%・小礫3%含む
8. オリブ褐色(2.5Y4/3)砂層、黒色土を斑状に15%含む
9. オリブ褐色(2.5Y4/4)砂層、黒色土を筋状に10%及び斑状に5%含む

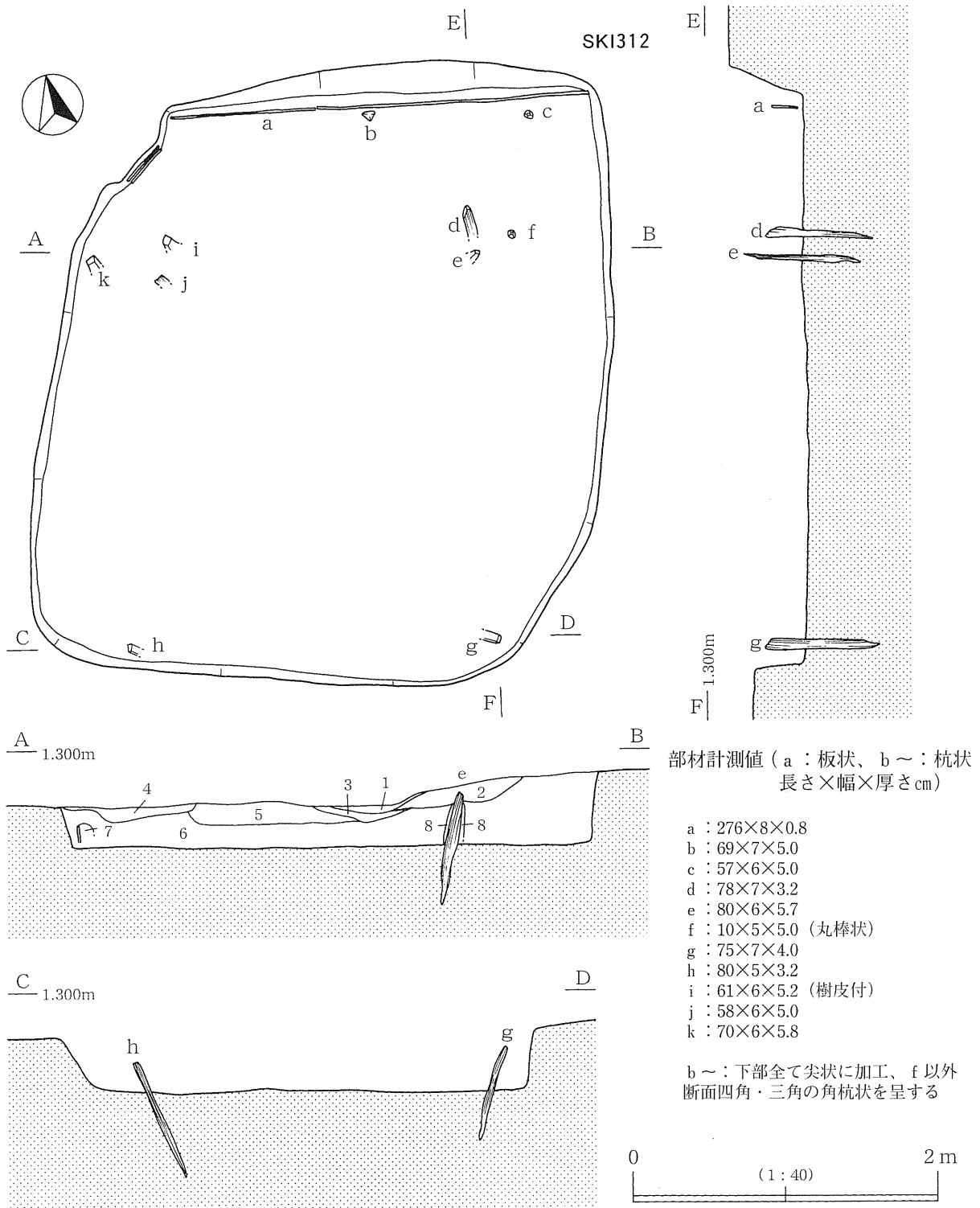
SK249

10. 褐色(10YR4/4)砂層、黒色土を斑状に5%・小礫3%・炭化物1%含む
11. オリブ褐色(2.5Y4/4)砂層、黒色土を斑状に10%・小礫1%・オリブ黒色土を薄く含む
12. 暗オリブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色土を斑状に10%含む

第202図 竪穴状遺構(3) SKI246、SK249(1)全体図



第203図 竪穴状遺構(4) SKI246(2)遺構写真



SKI312

1. 黒色(5Y2/1)細砂層、地山を斑状に5%含む
2. 黒褐色(10YR3/1)砂層、黒色土を斑状に10%・地山を斑状に5%・炭化物1%含む
3. 黒色(7.5Y2/1)シルト層、しまり弱、小礫多量・炭化物1%含む
4. オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、グライ化地山15%・炭化物2%含む
5. 黒褐色(2.5Y3/2)砂層、黒色土を斑状に20%・炭化物2%含む
6. 灰オリーブ色(5Y4/2)及び暗オリーブ灰色砂層、黒色土15%・炭化物3%含む
7. オリーブ黒色(5Y3/2)砂層、しまり弱、地山30%含む
8. 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂層

第204図 豎穴状遺構 (5) SKI312 (1) 全体図



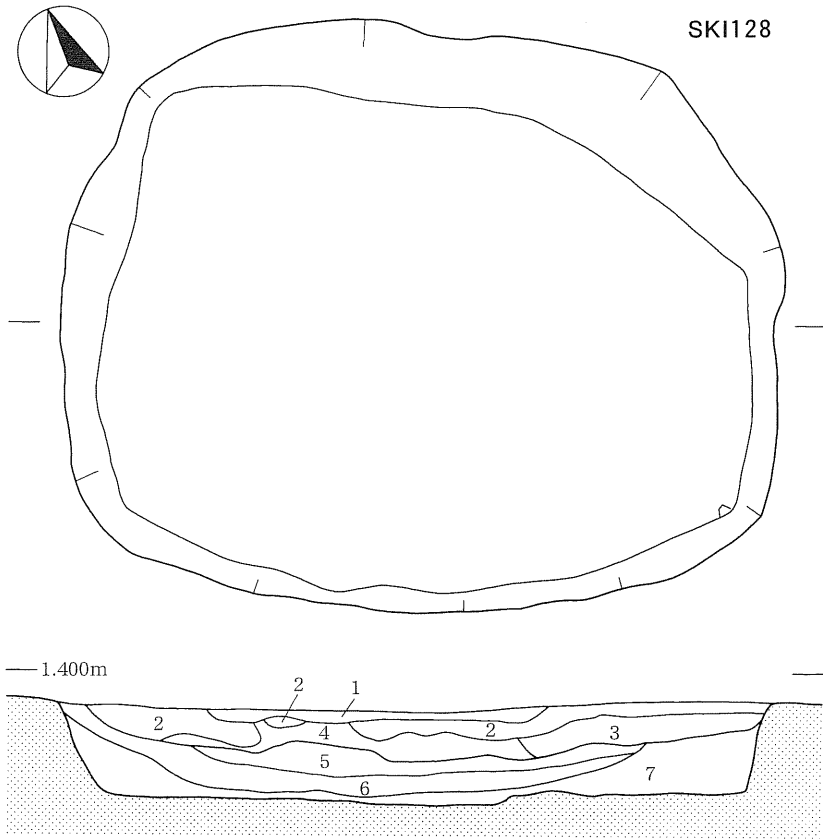
写真1：SKI312部材検出状況(北西→)  
2：柱材(d・e)検出・たち割状況  
(西→)

本堅穴の柱は桶形をもつものではなく突きつけによる方法で立てている

3：SKI312全景(北→)

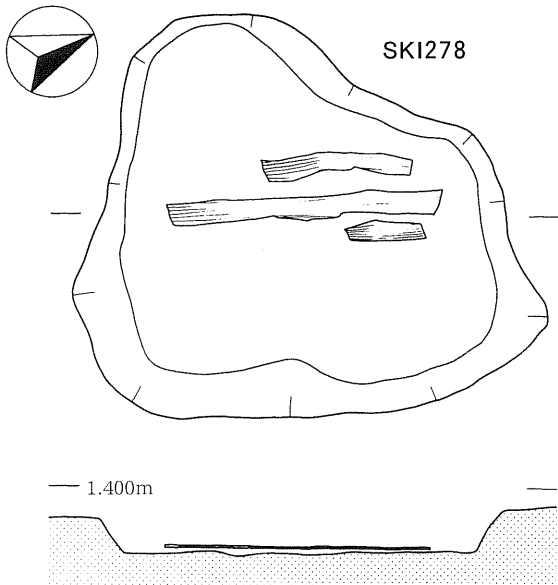


第205図 堅穴状遺構(6) SKI312(2)遺構写真

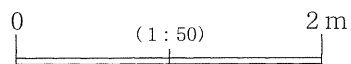


SKI128

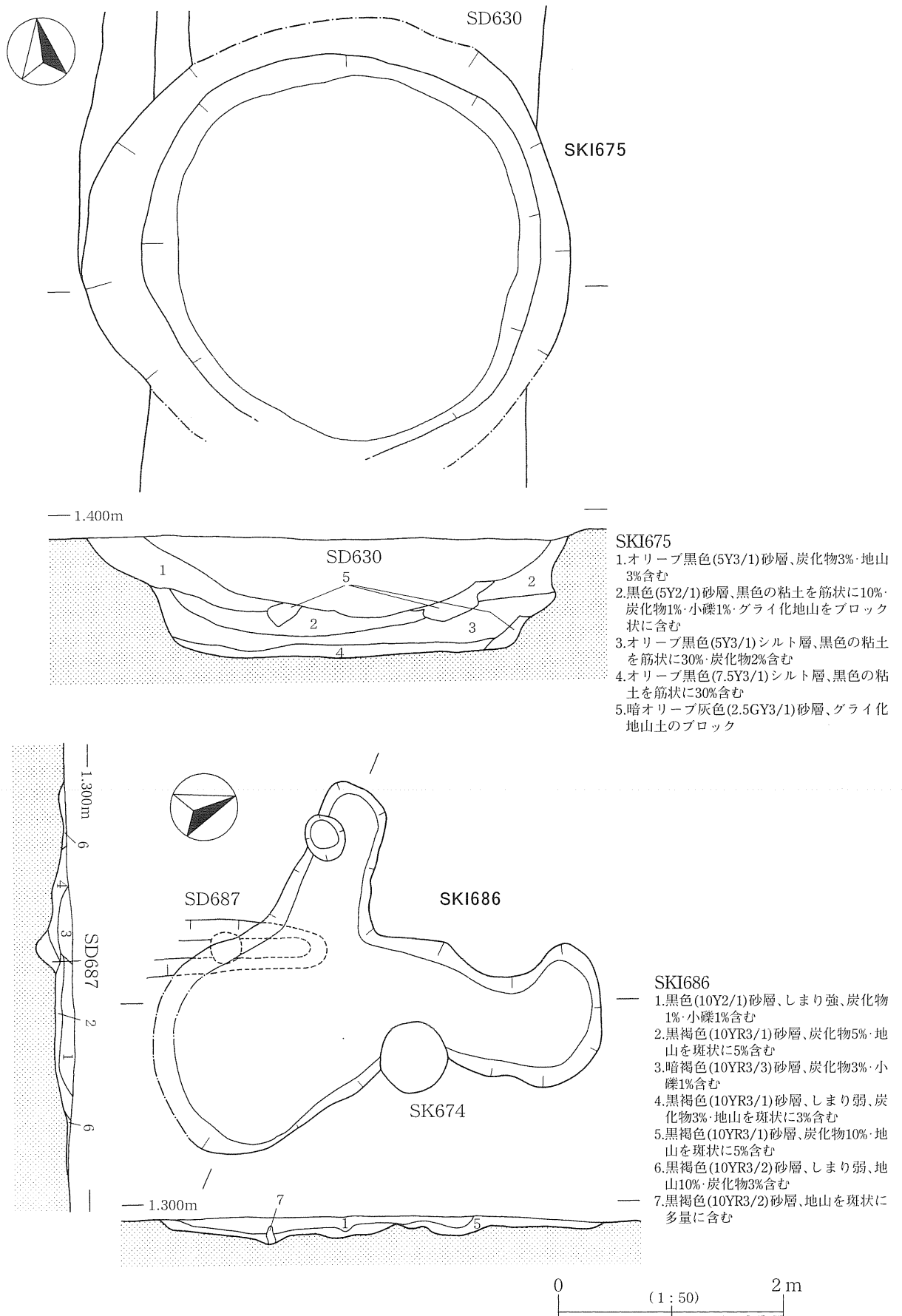
1. 黒色(7.5Y2/1)シルト層、小礫20%・褐色地山10%含む、自然堆積か
2. 暗褐色(10YR3/4)砂層、小礫5%・炭化物1%含む、自然堆積か
3. 黒褐色(10YR3/2)砂層、小礫1%・黒色泥炭土を斑状に1%含む、自然堆積か
4. 暗オリーブ灰色(5GY3/1)砂層、黒色泥炭土3%・小礫2%含む、人為堆積
5. 暗オリーブ灰色(5GY3/1)シルト層、黒色泥炭土を斑状に10%含む、水成堆積
6. 黒色(N2/0)泥炭シルト層、しまり弱、オリーブ黒色土を筋状に50%・小礫1%含む、水成堆積
7. 黒色(7.5Y2/1)細砂層、しまり弱、小礫2%含む、水成堆積



SKI278

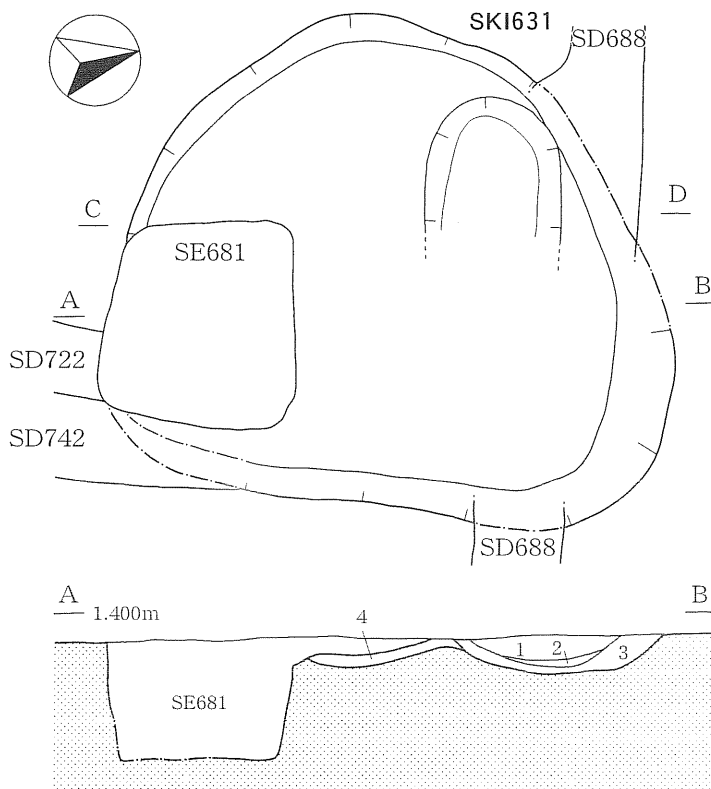


第206図 竪穴状遺構(7) SKI128・278



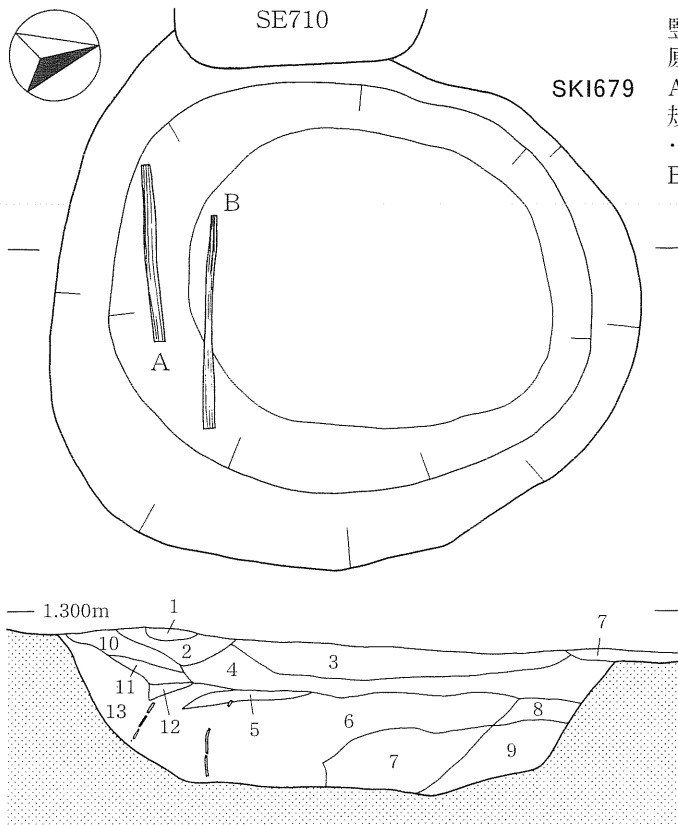
第207図 竪穴状遺構(8) SKI675・686





SKI631

1. 暗褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%含む
2. オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に20%・黒色土を20%・炭化物1%含む
3. 黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に20%含む
4. 黒色(5Y2/1)砂層、地山20%・黒褐色土を斑状に10%含む



竪穴南部には薄く細長い板が東西方向にほぼ原位置を保って検出(A・B)

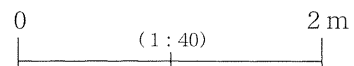
Aは3段、Bは2段積み上げ(断面図参照)

規模はA上段(121×7×0.8cm)・中段(106×7×0.3cm)・下段(59×9×0.3cm)

B上段(139×14×0.6cm)・下段(144×17×0.8cm)

SKI679

1. 暗褐色(10YR3/3)砂層、しまり強、地山を斑状に5%・小礫2%含む
2. 黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%・黒色土3%・炭化物1%含む
3. 黒褐色(10YR3/1)砂層、黒色土を斑状に10%・地山5%・炭化物1%含む
4. 黒褐色(2.5Y3/1)砂層、地山をブロック状に20%・黒色土10%・炭化物2%含む
5. 黒褐色(10YR3/1)砂層、黒色土を斑状に15%・地山5%・炭化物2%含む
6. オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、黒色土を斑状に5%・地山を斑状に5%・炭化物1%含む
7. オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂層、グライ化地山10%・灰オリーブ色の粘土をブロック状に5%・オリーブ黒色質土シルトを斑状に5%含む
8. 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色土を斑状に30%含む
9. オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、グライ化地山を斑状に15%及び筋状に10%・黒色土10%含む
10. 黒色(10Y2/1)シルト層、地山をブロック状に20%・炭化物2%含む
11. 黒褐色(10YR2/2)シルト層、地山を斑状に3%含む
12. 黒色(5Y2/1)粘土層、地山2%含む
13. 暗褐色(10YR3/4)砂層、オリーブ黒色土を筋状に20%・炭化物1%含む



第208図 竪穴状遺構(9) SKI631・679



SKI675全景(南→)

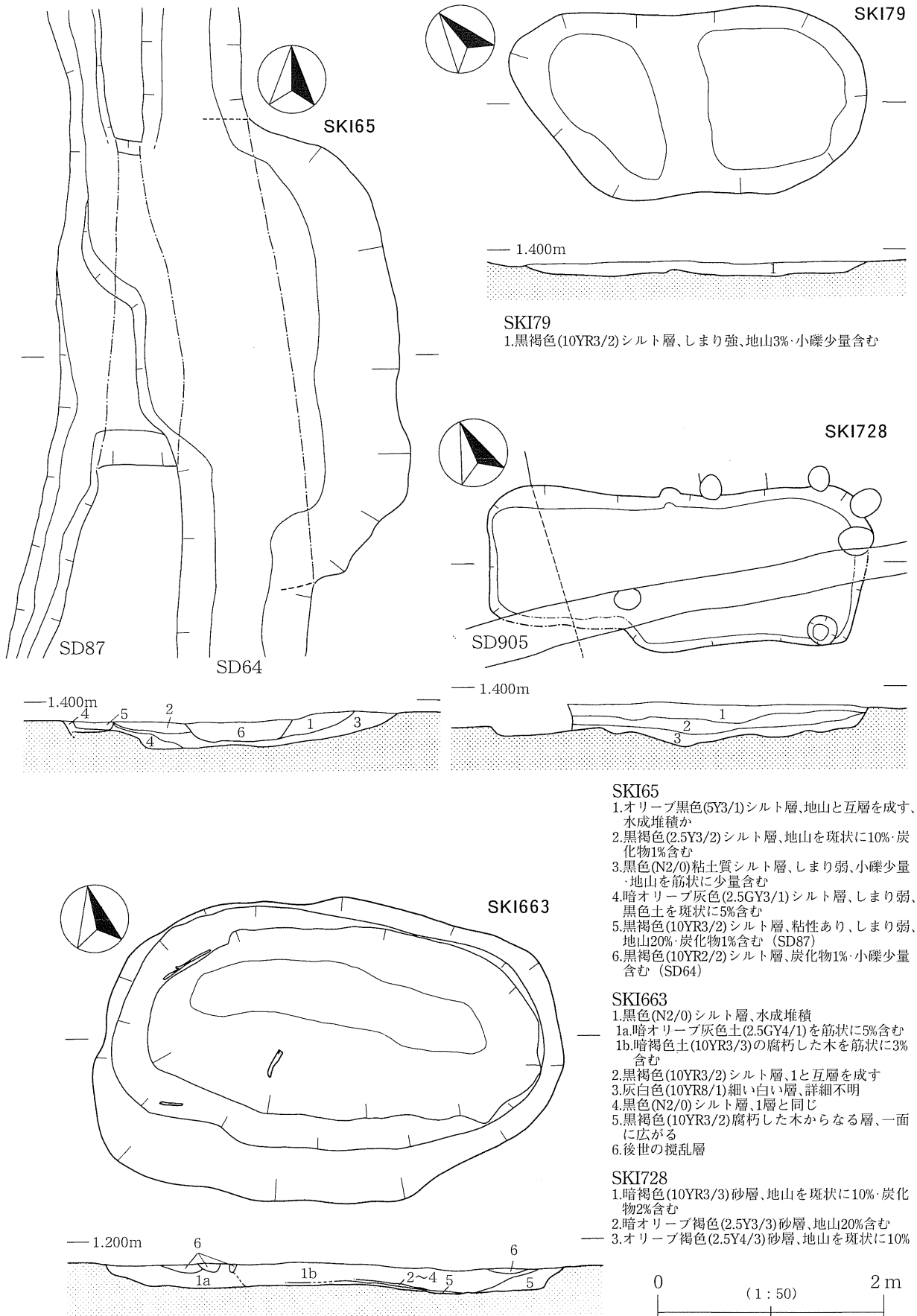


SKI679上層断面(東→)

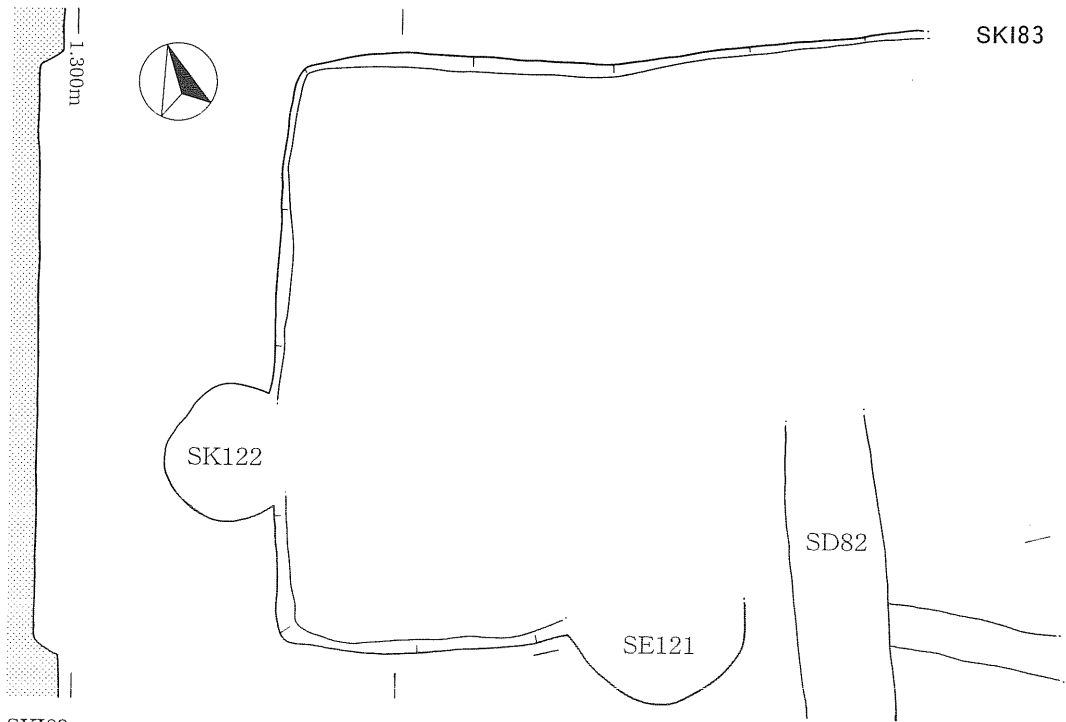


同上 遺物出土状況(北東→)

第209図 竪穴状遺構(10) SKI675・679遺構写真



第210図 竪穴状遺構 (11) SKI65・79・663・728



SKI83

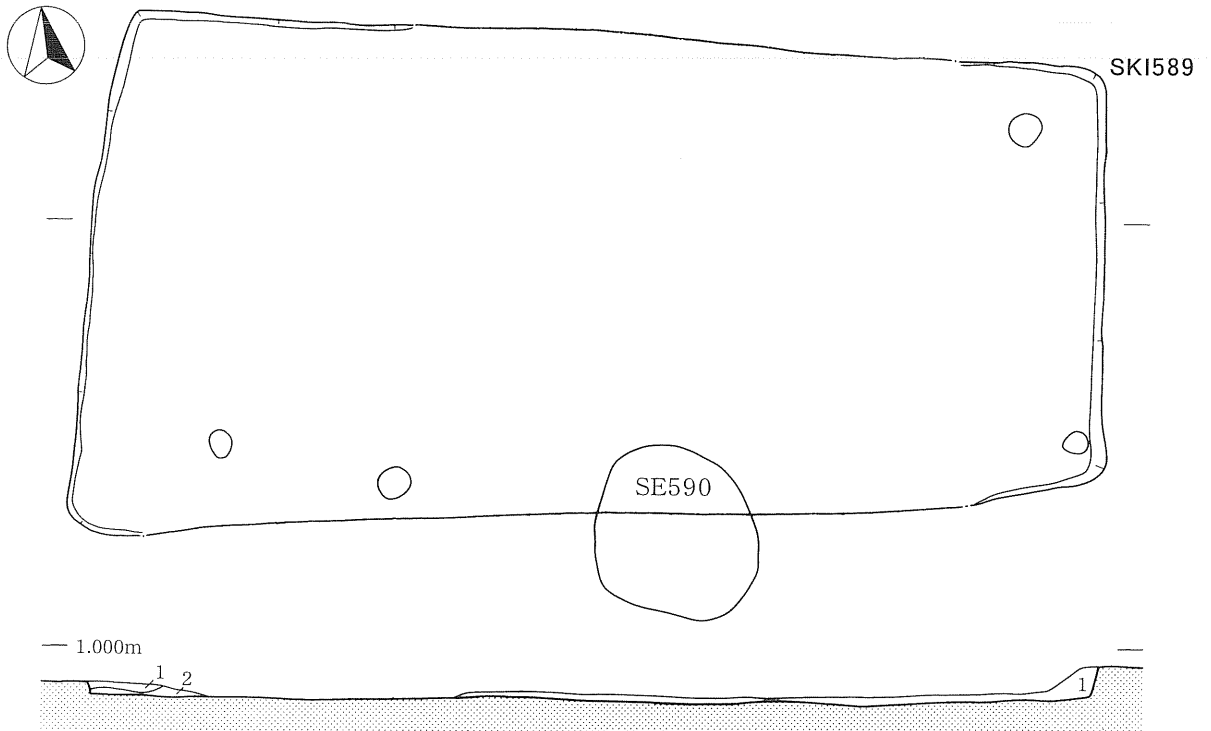
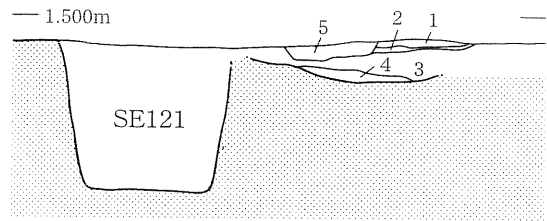
- 1.暗褐色(10YR3/4)砂層,地山30%含む
- 2.黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト層,地山5%・炭化物3%含む
- 3.黒褐色(2.5Y3/1)砂層,地山3%・炭化物2%・小礫2%含む
- 4.オリーブ黒色(5Y3/2)砂層,しまり弱,地山15%・炭化物3%含む

SD82

- 5.黒褐色(2.5Y3/2)砂層,小礫5%・炭化物1%含む

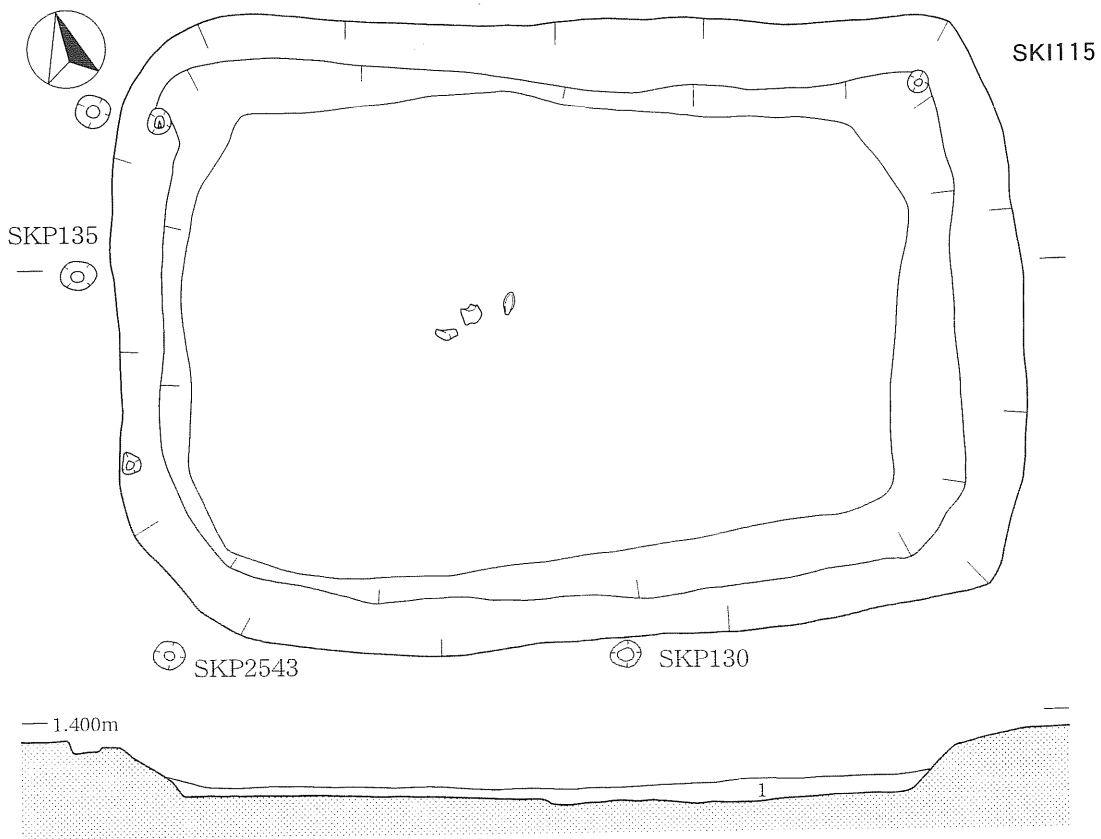
SKI589

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層,しまり弱,小礫1%含む
- 2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層,しまり弱,グライ化地山を斑状に5%含む



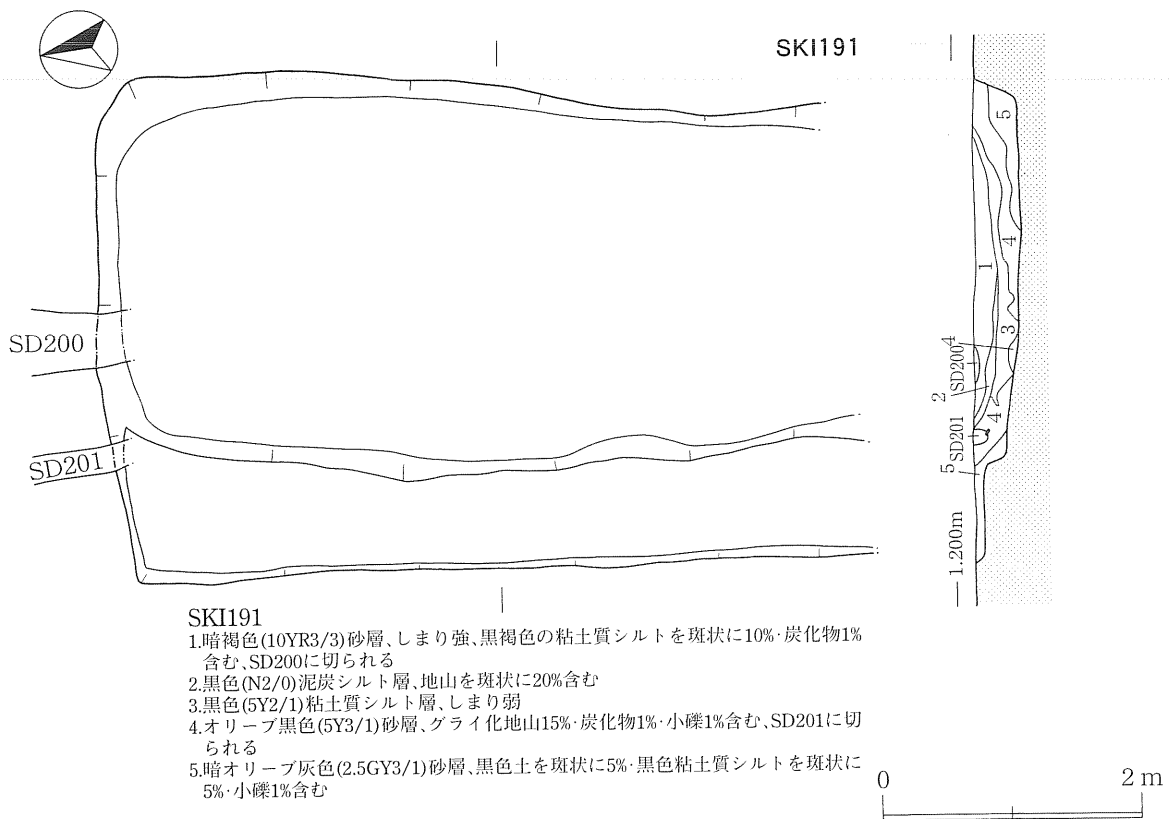
第211図 竪穴状遺構 (12) SKI83・589

第4節 検出遺構



SKI115

1.オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土質シルト層、褐色地山少量含む、腐朽木片少量あり



SKI191

- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、しまり強、黒褐色の粘土質シルトを斑状に10%・炭化物1%含む、SD200に切られる
- 2.黒色(N2/0)泥炭シルト層、地山を斑状に20%含む
- 3.黒色(5Y2/1)粘土質シルト層、しまり弱
- 4.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、グライ化地山15%・炭化物1%・小礫1%含む、SD201に切られる
- 5.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層、黒色土を斑状に5%・黒色粘土質シルトを斑状に5%・小礫1%含む

第212図 竪穴状遺構 (13) SKI115・191 (1) 全体図



SKI115遺物出土状況(北→)



同上 全景(北→)



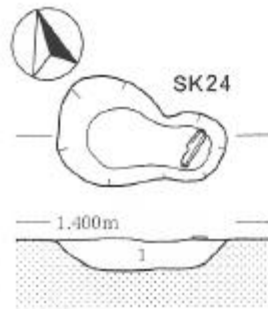
SKI191全景・遺物出土状況(南→)



同上 遺物出土状況

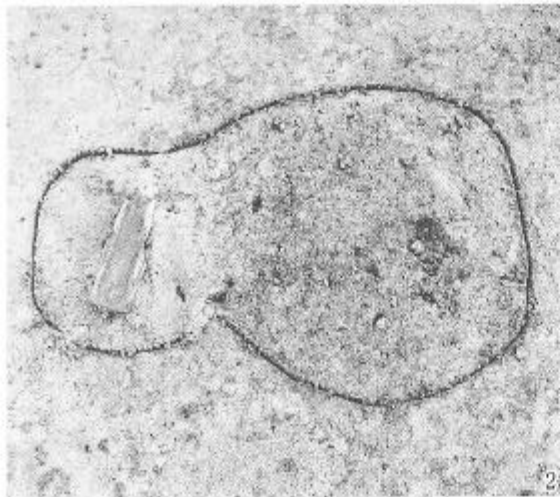
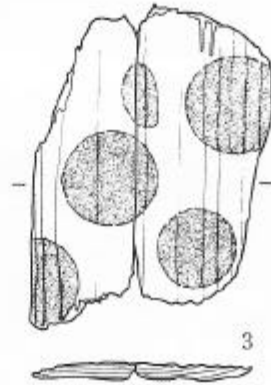
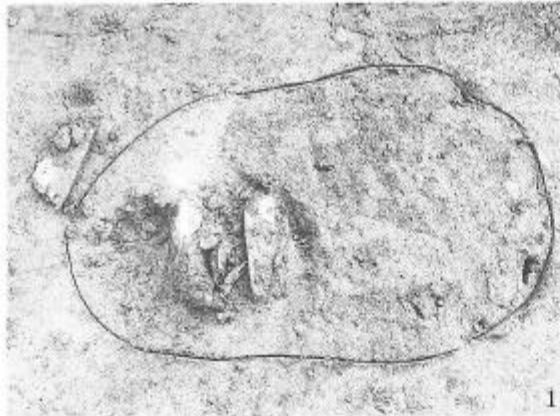
第213図 竪穴状遺構 (14) SKI115・191 (2) 遺構写真

第4節 検出遺構



SK24  
1 暗褐色(10YR3/3)砂層、人為堆積か

0 50cm  
(1:20)



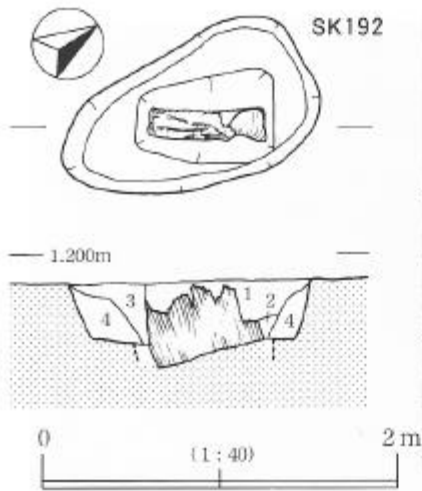
0 10cm  
(1:2)



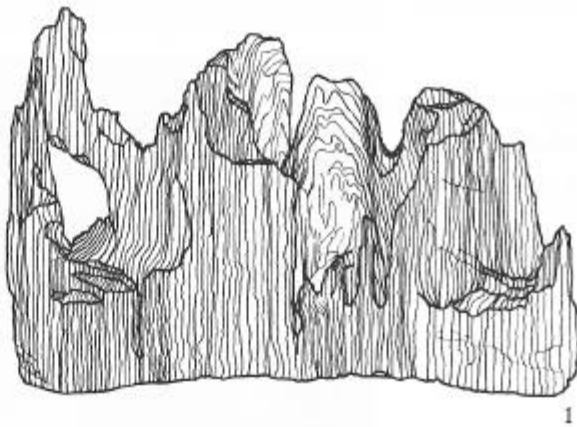
写真1: SK24 確認面状況(北→) 木片3と銭貨が見える  
2: 同上、木片3除去後掘り下げ(北→) 木片4が現れる  
5: 出土した銭貨 (木片に残る圧痕から少なくとも6枚はあったようである)  
3: 長さ9×幅7×厚さ0.5cm、4: 長さ12×幅4×厚さ0.6cm

第214図 土坑(1) SK24

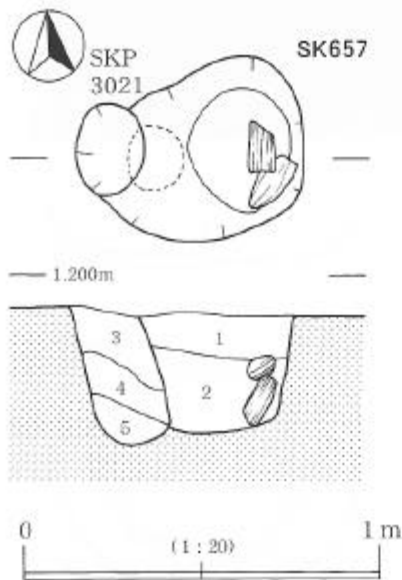




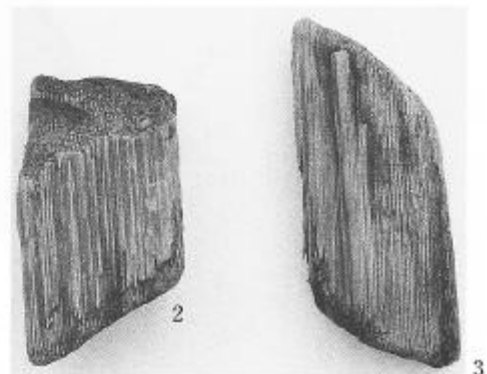
- SK192
- 1.黒褐色(2.5Y3/2)砂層,しまり強,地山を斑状に10%炭化物1%含む,人為堆積か
  - 2.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)砂層,暗オリーブ灰色土を斑状に20%含む,人為堆積か
  - 3.黒褐色(2.5Y3/2)砂層[裏込土],地山を斑状に30%炭化物3%含む
  - 4.灰オリーブ色(5Y4/2)砂層,黒褐色土を斑状に5%含む,[裏込土]か



1 : SK192出土材(高さ46×幅62×厚さ17.5cm)



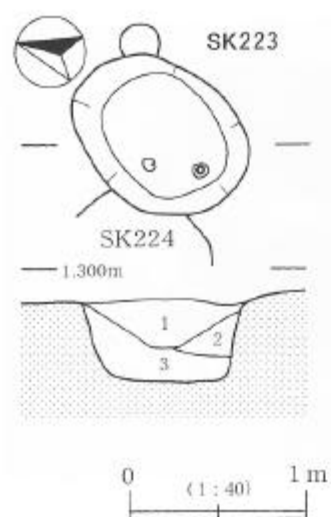
- SK657・SKP3021
- 1.暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂層,地山を斑状に10%・オリーブ黒色土を斑状に5%含む
  - 2.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層,黒色土を斑状に3%含む
  - 3.黒褐色(10YR3/2)砂層,炭化物1%・地山を斑状に20%含む
  - 4.オリーブ褐色(10YR4/3)砂層,黒褐色土を斑状に10%含む
  - 5.オリーブ黒色(10YR3/1)砂層,地山を斑状に15%・炭化物を2%含む



2・3 : SK657出土材(原寸の約1/4)

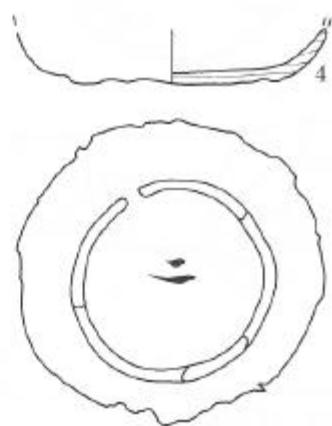
第215図 土坑(2) SK192・657

第4節 検出遺構



SK223

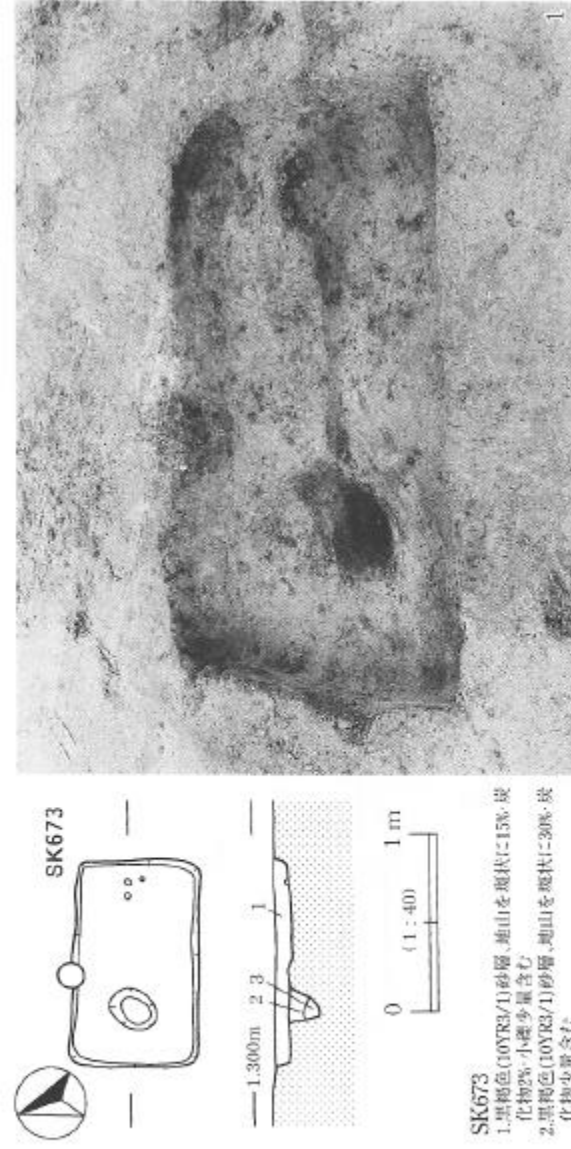
- 1.黒褐色(2.5Y3/1)砂層,地山を珉状に5%  
小礫2% 炭化物1%含む
- 2.褐色(10YR4/4)砂層,黒色土を珉状に3%  
含む
- 3.黒色(5Y2/1)砂層,地山を珉状に20% 炭  
化物1%含む:1~3とも人為堆積



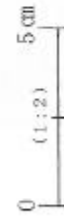
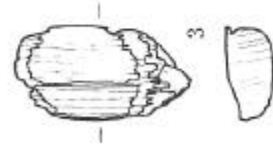
- 写真1: SK223全景(南東→)  
2: 遺物出土状況(南東→)  
3: 出土した漆塗り椀(280-2)  
4: 同上実測図

0 (1:2) 5cm

第216図 土坑(3) SK223



SK673  
 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を混状に15%炭化物2%・小礫少量含む  
 2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を混状に30%炭化物少量含む  
 3.褐色(10YR4/4)細砂層2:3はSK673より古い柱穴

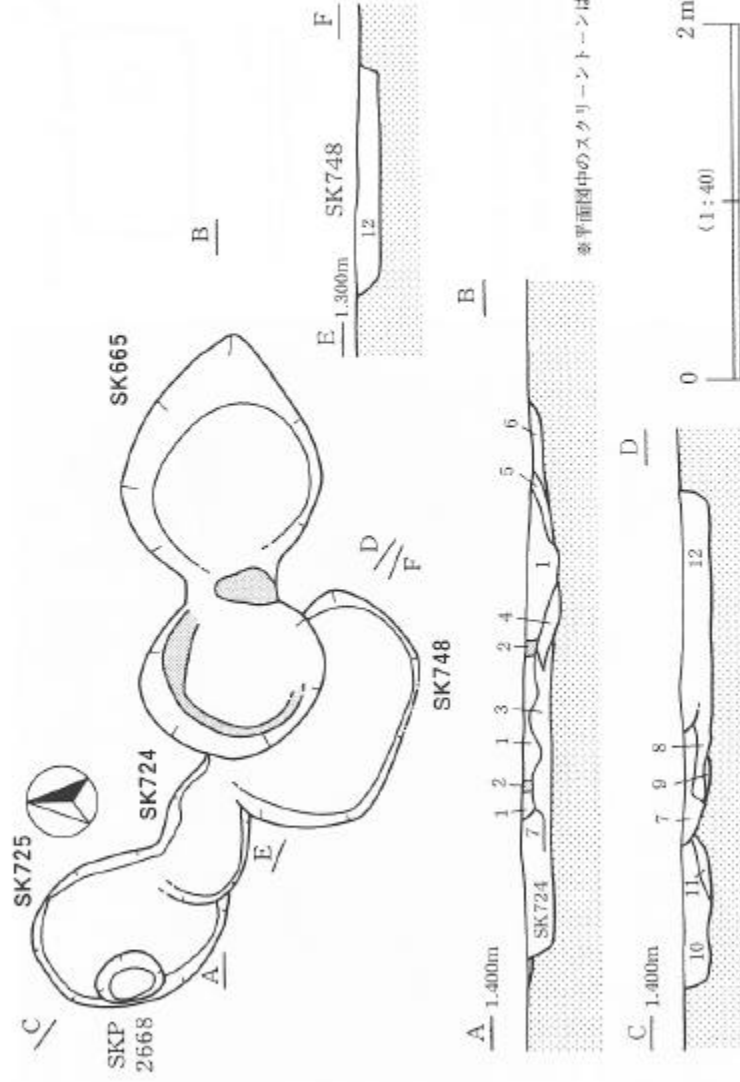


1: SK673全景(南→)  
 2: 遺物出土状況(南→)  
 3: 出土木片(長さ5.0×幅2.6×厚さ1.3cm)  
 4・5: 出土銭貨(388-48、49)



第217図 土坑(4) SK673

第4節 検出遺構



SK665

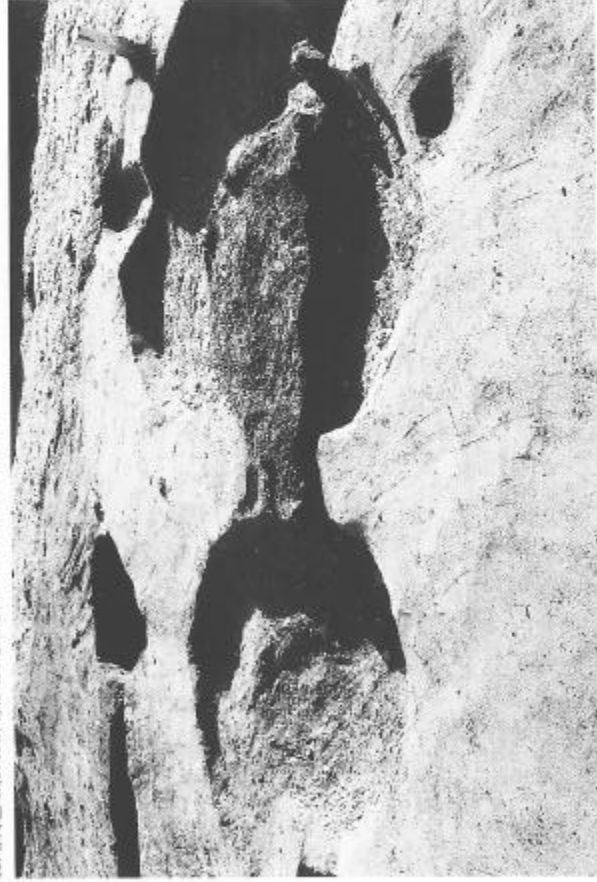
- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり強、地山を塊状に15%、炭化物10%含む
- 2.赤褐色(5YR4/6)シルト層、地山10%含む、焼土
- 3.炭化物が充填する層、黒褐色シルト質土を基岩に5%含む
- 4.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物20%、地山10%含む
- 5.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を塊状に20%、炭化物5%含む
- 6.黒褐色(2.5Y3/1)シルト層、しまり強、地山を塊状に10%含む

SK724

- 7.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を塊状に5%、炭化物5%含む
- 8.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山を塊状に15%、炭化物10%含む
- 9.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を塊状に10%含む

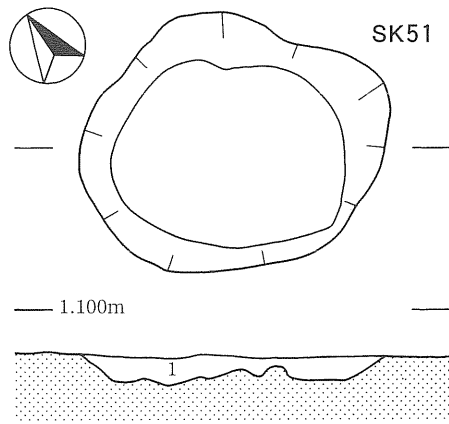
SK725・SK748

- 10.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を塊状に5%、炭化物1%含む
- 11.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を塊状に20%含む
- 12.暗褐色土(10YR3/3)砂層、地山を塊上に5%、炭化物1%含む

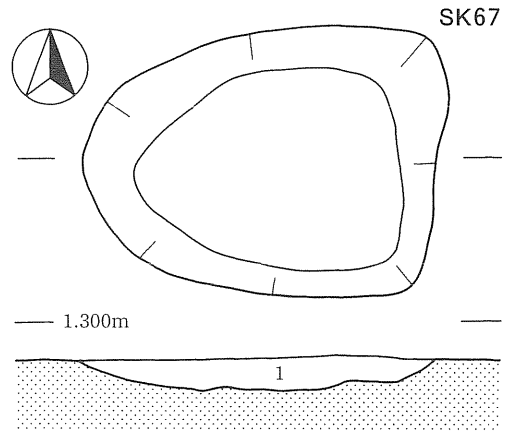


第218図 土坑(5) SK665・724・725・748

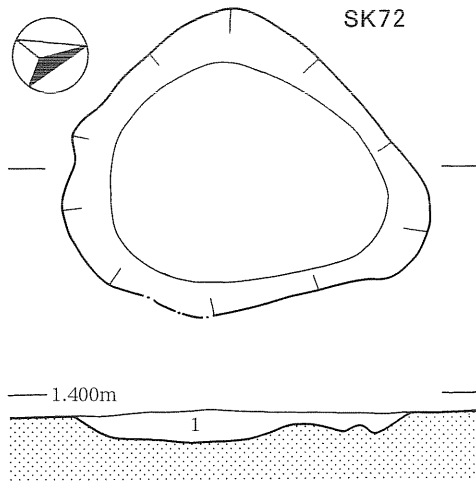
SK665全景(北→)



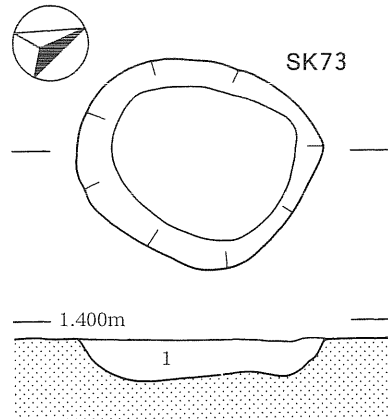
SK51  
1.黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト層、オリーブ黒色土を斑状に5%・炭化物1%・小礫少量含む



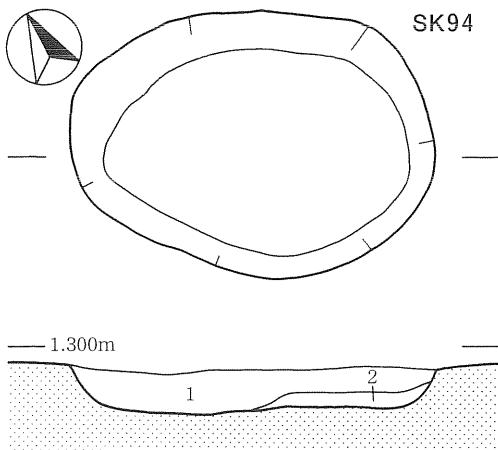
SK67  
1.黒褐色(10YR2/3)シルト層、地山を斑状に3%・小礫1%・炭化物少量含む



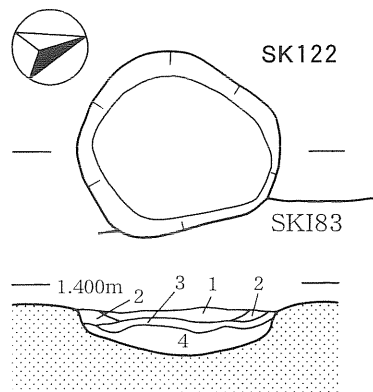
SK72  
1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、しまり強、地山をブロック状に10%・炭化物微量含む、一括埋土か



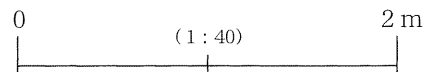
SK73  
1.黒褐色(10YR3/2)シルト層、炭化物1%・小礫少量含む



SK94  
1.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、小礫少量・オリーブ黒色土を筋状に含む  
2.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、オリーブ黒色土を筋状に含む

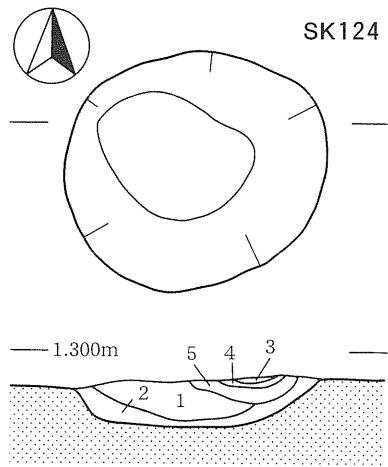


SK122  
1.オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂層、しまり強、地山を斑状に20%含む、人為堆積  
2.褐色(10YR4/4)砂層、グライ化地山10%含む、崩落土か  
3.黒色(N2/0)シルト層、しまり弱、黒色泥炭土を斑状に10%・地山を斑状に10%含む、自然堆積か  
4.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山30%・小礫2%含む、自然堆積か



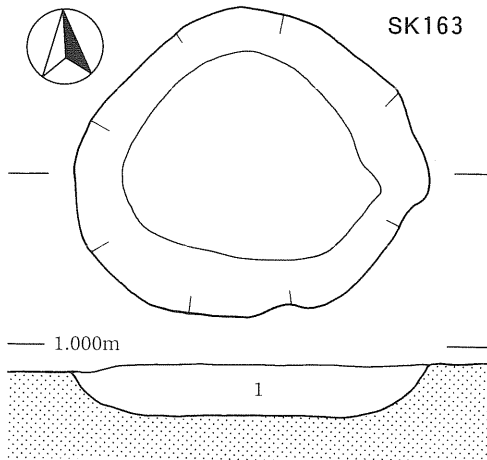
第219図 土坑(6) SK51・67・72・73・94・122

第4節 検出遺構



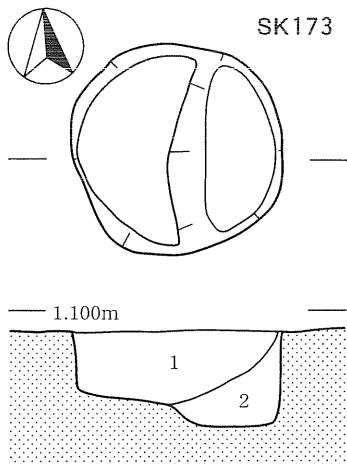
SK124

- 1. 灰黄褐色(10YR4/2)砂層、小礫10%・黄褐色地山を斑状に5%・暗灰黄色砂を筋状に5%含む
- 2. 褐色(10YR4/6)砂層、木片5%・炭化物1%・小礫1%含む
- 3. 黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強、炭化物5%含む
- 4. 灰黄褐色(10YR4/2)砂層、しまり強、炭化物3%・小礫3%含む
- 5. ぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、炭化物3%含む



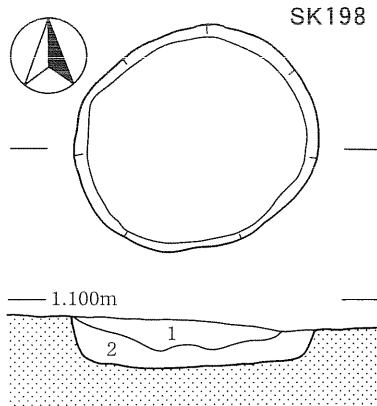
SK163

- 1. 暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂層、黒色シルト質土を斑状に20%及び筋状に10%含む



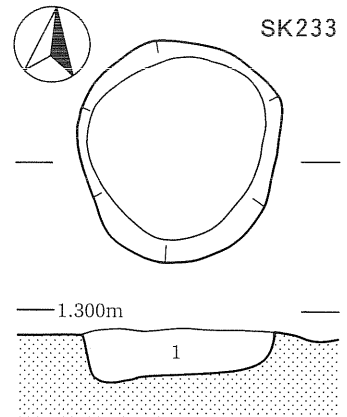
SK173

- 1. 黒色(7.5Y2/1)細砂層、小礫15%・炭化物1%含む
- 2. 灰オリーブ色(5Y4/2)砂層、黒色土を斑状に10%・小礫5%含む



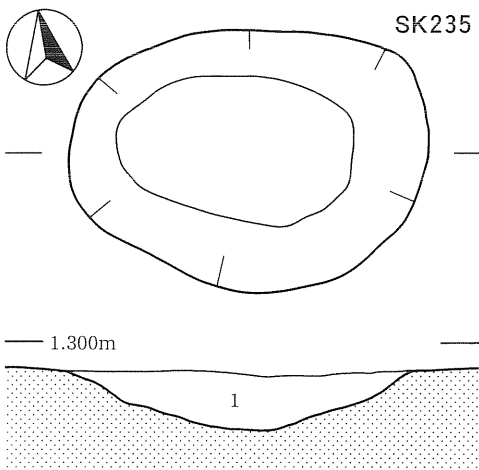
SK198

- 1. 黒色(5Y2/1)砂層、地山3%・炭化物1%含む
- 2. 褐色(10YR4/4)粗砂層、黒色土を斑状に10%・炭化物2%含む



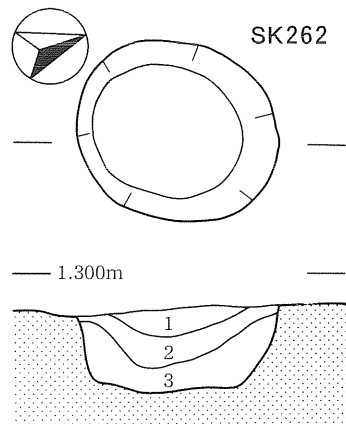
SK233

- 1. 黒色(7.5Y2/1)砂層、しまり強、地山を斑状に5%・炭化物1%・小礫1%含む、人為堆積



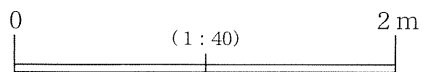
SK235

- 1. 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂層、黒色シルト質土を筋状に30%・炭化物2%含む、自然堆積

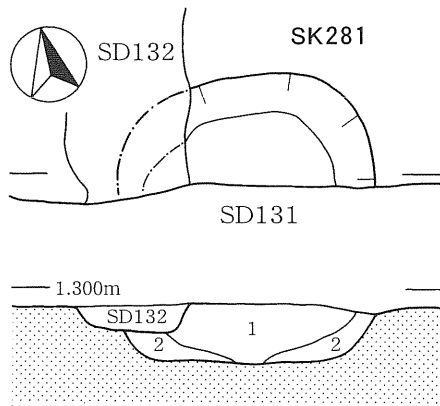


SK262

- 1. 黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%含む
- 2. 黒色(N2/0)シルト層、地山を筋状に5%含む、自然堆積
- 3. 黒色(N2/0)シルト層、しまり弱、地山を筋状に15%含む、自然堆積



第220図 土坑(7) SK124・163・173・198・233・235・262



SK281

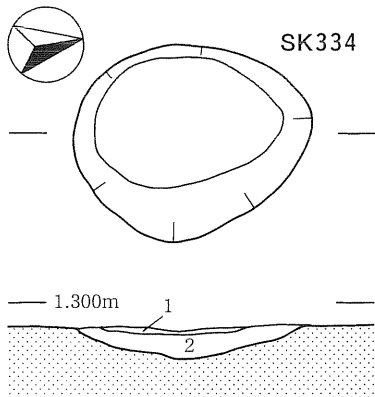
1. 黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物3%・小礫3%含む
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂層、しまり弱、黒褐色砂を筋状に5%含む

SK303

0. 旧水田耕作土
1. 褐色(10YR4/4)砂層、黒色土を斑状に10%含む

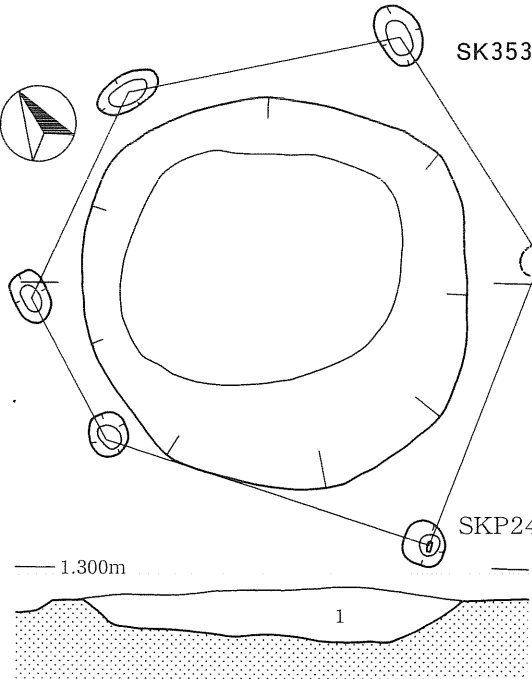
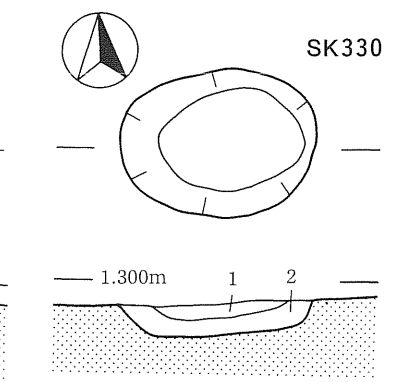
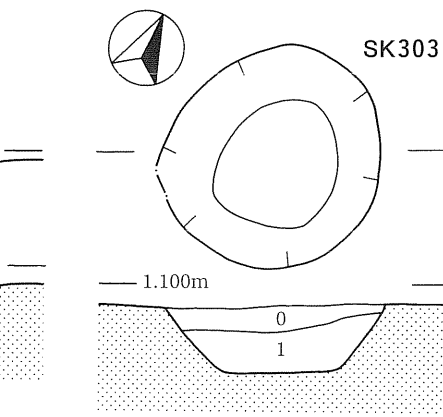
SK330

1. 褐色(7.5YR4/4)砂層、炭化物2%含む
2. 褐灰色(10YR4/1)砂層、暗褐色砂を斑状に5%・炭化物3%含む



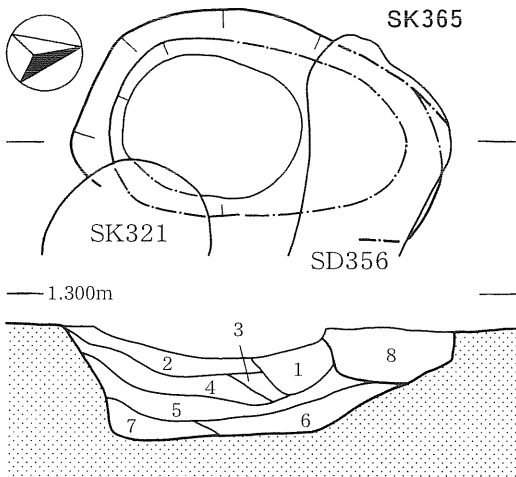
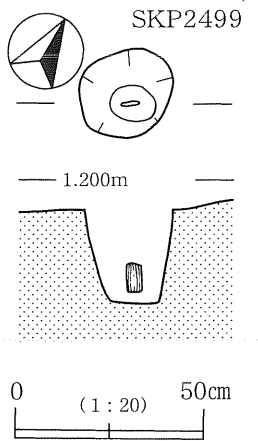
SK334

1. 黒色(10YR2/1)砂層、暗褐色砂10%含む
2. 暗褐色(10YR3/3)砂層、しまり弱、褐色地山を斑状に15%・炭化物3%含む



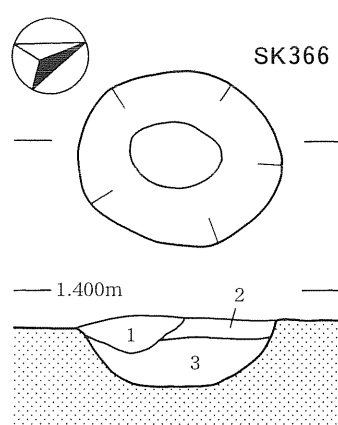
SK353

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、黒色砂を斑状に5%・小礫3%含む



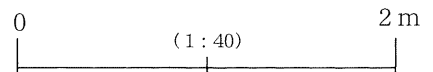
SK366

1. 黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物2%含む
2. 暗褐色(10YR3/3)砂層、炭化物5%・黄褐色地山を斑状に5%含む
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、炭化物5%含む



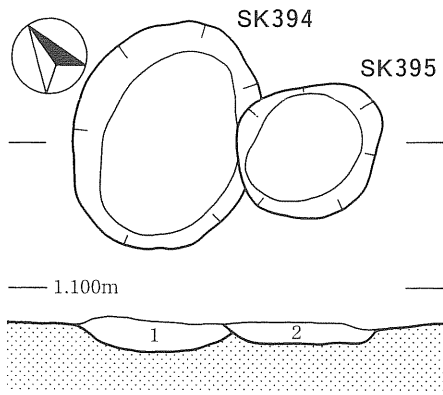
SK365・SD356

1. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂層、黒褐色砂を波状に5%・小礫3%含む
2. 暗褐色(10YR3/3)砂層、しまり弱、炭化物を斑状に5%・褐色地山3%含む
3. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂層、しまり弱、炭化物3%・小礫3%含む
4. 灰黄褐色(10YR4/2)砂層、黒褐色砂をブロック状に5%・褐色土砂3%含む
5. 黒褐色(2.5Y3/1)砂層、黒褐色砂をブロック状に10%・褐色地山3%含む
6. 褐色(10YR4/4)砂層、黒褐色シルト質土を筋状に3%含む
7. 黄灰色(2.5Y4/1)砂層、しまり弱、小礫をブロック状に5%・黒色砂を斑状に3%含む
8. 黒色(7.5Y2/1)砂層、黄褐色土を斑状に5%・炭化物3%・小礫3%含む

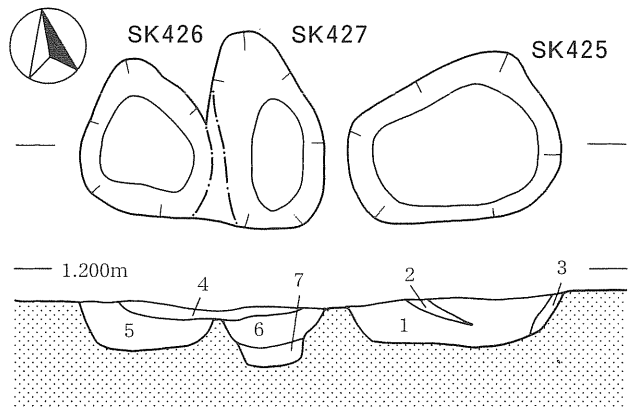


第221図 土坑(8) SK281・303・330・334・353・365・366

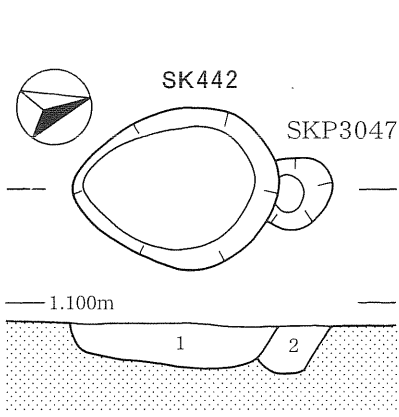
第4節 検出遺構



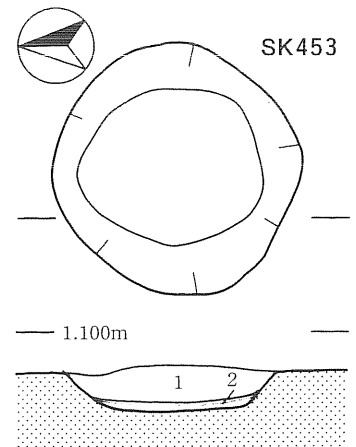
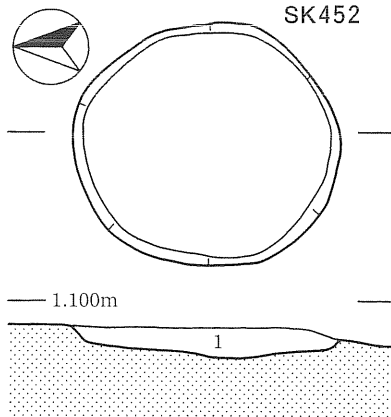
- SK394**  
 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、小礫3%・灰黄褐色地山を斑状に3%・炭化物1%含む  
**SK395**  
 2.黒褐色(10YR2/2)砂層、炭化物3%・小礫3%・地山3%含む  
**SK425**  
 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%含む  
 2.黒色(5Y2/1)細砂層、流入土  
 3.暗褐色(10YR3/3)砂層、黒褐色土を斑状に10%含む



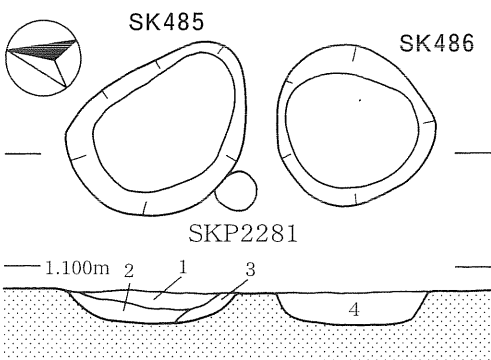
- SK426**  
 4.黒色(5Y2/1)細砂層、地山を斑状に3%含む、自然堆積か  
 5.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を斑状に10%・炭化物微量含む、自然堆積か  
**SK427**  
 6.黒色(2.5Y2/1)細砂層、地山を筋状に3%含む  
 7.オリーブ黒色(5Y3/1)砂礫層



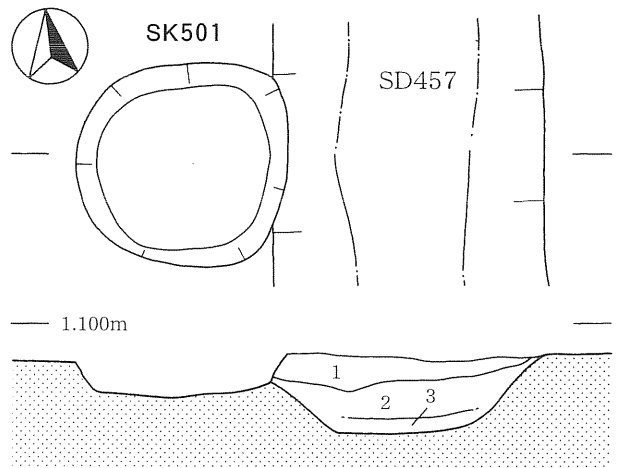
- SK442**  
 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、黒色土を筋状に10%・炭化物1%含む  
**SK452**  
 1.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%含む



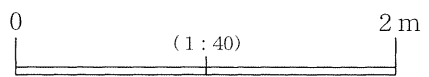
- SK453**  
 1.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に3%・小礫2%含む  
 2.黒色(5Y2/1)砂層、地山5%・炭化物3%含む



- SK485**  
 1.黒色(10Y2/1)シルト層、黄褐色地山3%・小礫1%含む  
 2.黒褐色(10YR3/1)シルト層、炭化物%・黄褐色地山を斑状に5%含む  
 3.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物10%・地山を斑状に10%含む  
**SK486**  
 4.黒色(10Y2/1)シルト層、炭化物5%・黄褐色地山3%含む

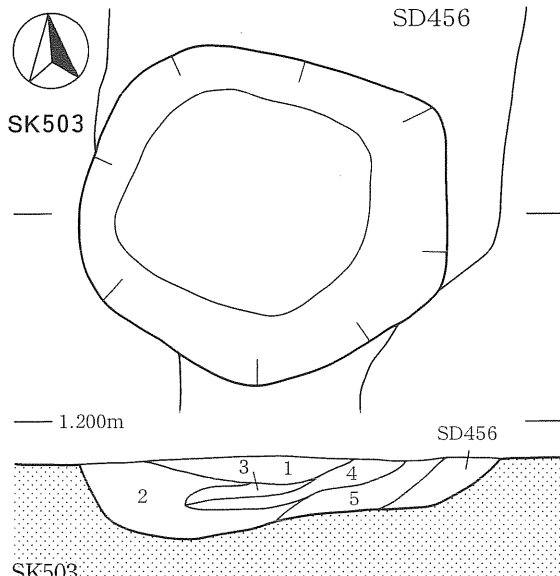


- SD457**  
 1.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を斑状に5%含む  
 2.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山10%・炭化物1%含む、自然堆積か  
 3.暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂層、オリーブ黒色土を斑状に15%含む、自然堆積か



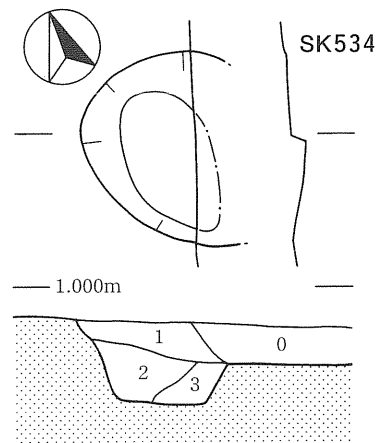
第222図 土坑(9) SK394・395・425~427・442・452・453・485・486・501





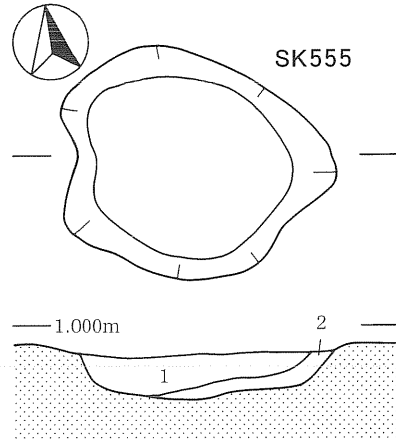
SK503

- 1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、しまり強、地山3%・炭化物2%含む
- 2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%含む
- 3.黒褐色(10YR3/2)砂層、小礫多量・地山を斑状に20%含む、流れ込み
- 4.黒色(5Y2/1)シルト層、地山少量含む
- 5.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、オリブ黒色土を斑状に5%・炭化物2%含む



SK534

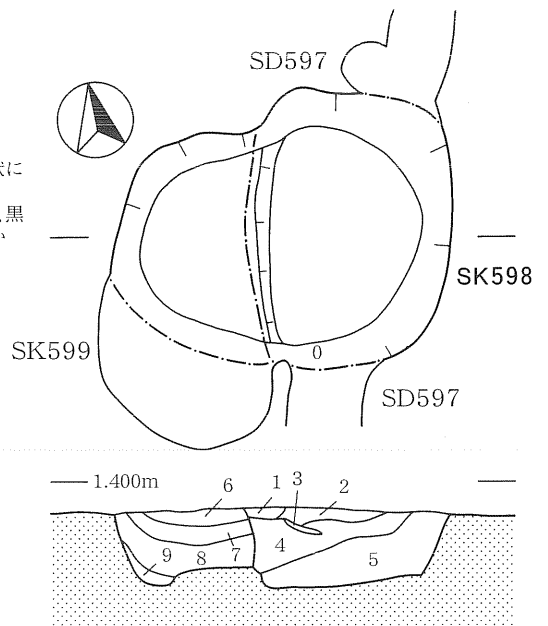
- 0.後世の攪乱
- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強、小礫1%含む
- 2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、しまり弱、炭化物を斑状に10%含む
- 3.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり弱、黄褐色砂1%含む



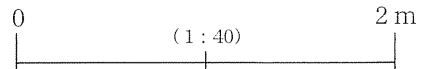
SK555

SK555

- 1.黒色(5Y2/1)シルト層、地山を筋状に10%・炭化物2%含む、水成堆積か
- 2.暗オリブ灰色(2.5GY4/1)砂層、黒色土を筋状に10%含む、水成堆積か



SK599

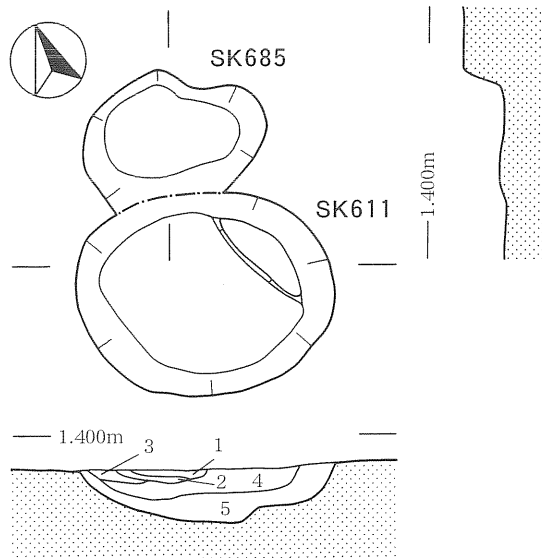


SK598・SK599

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、粘性あり、しまり強、炭化物3%含む、人為堆積
- 2.黒褐色(10YR3/2)シルト層、炭化物1%・黄褐色粘土1%含む、人為堆積
- 3.黒褐色(10YR3/1)シルト層、炭化物30%含む、人為堆積
- 4.黒褐色(10YR3/2)粘土層、黄褐色粘土80%・炭化物10%・小礫1%含む、人為堆積
- 5.黒褐色(10YR3/1)砂層、黄褐色地山を斑状に5%・炭化物3%含む、人為堆積
- 6.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり強、炭化物3%・小礫1%含む
- 7.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物5%・黄褐色地山を斑状に1%含む
- 8.黒褐色(10YR3/1)砂層、黄褐色地山を斑状に5%・炭化物1%含む
- 9.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり弱、黄褐色土及び褐色地山をブロック状に3%・炭化物1%含む

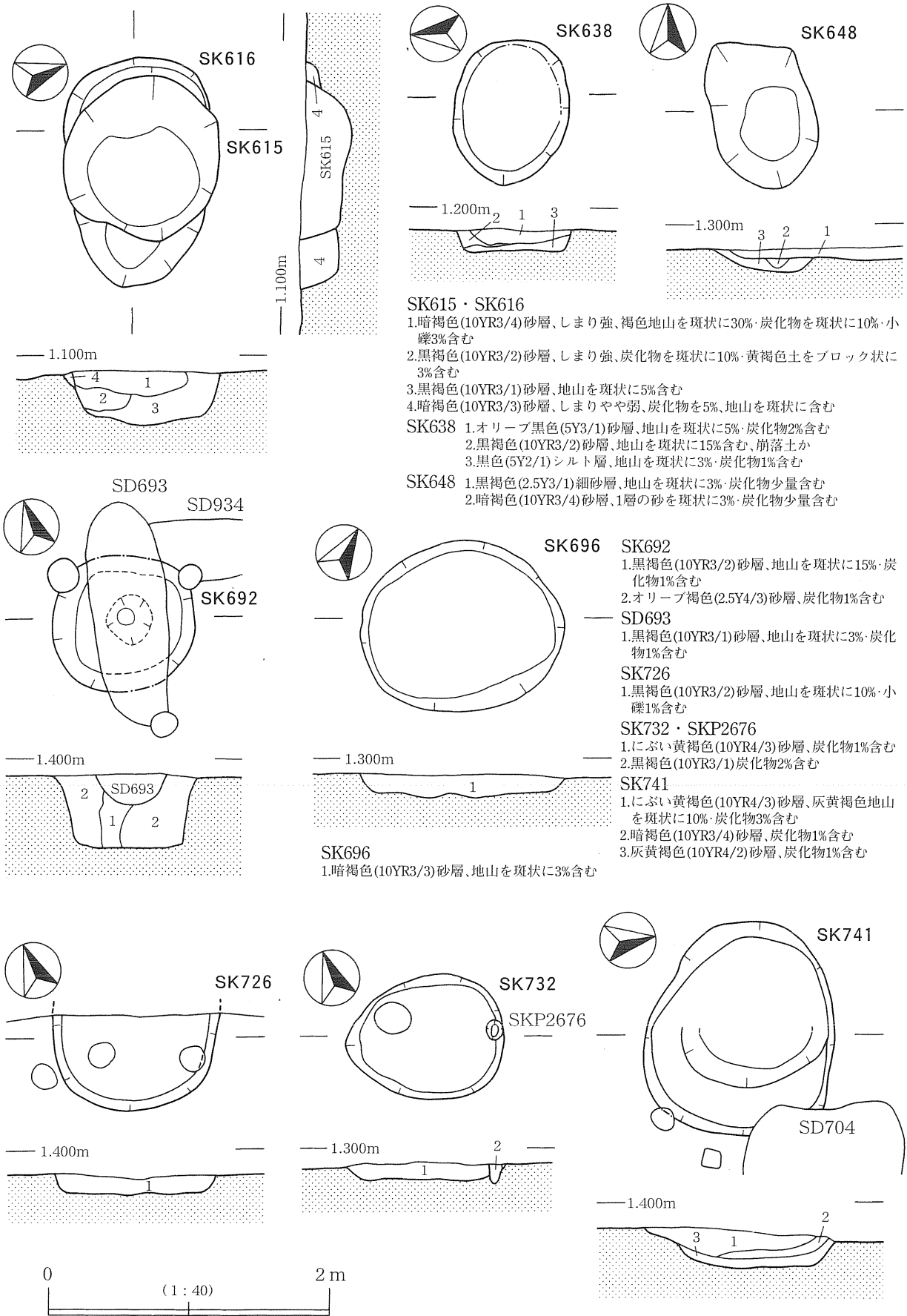
SK611

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり強、炭化物1%・小礫1%含む
- 2.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物を斑状に50%含む
- 3.暗褐色(10YR3/3)砂層、黄褐色土及び褐色地山を斑状に10%・炭化物1%含む
- 4.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物3%・小礫1%・黄褐色土地山1%含む
- 5.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物5%・小礫1%含む

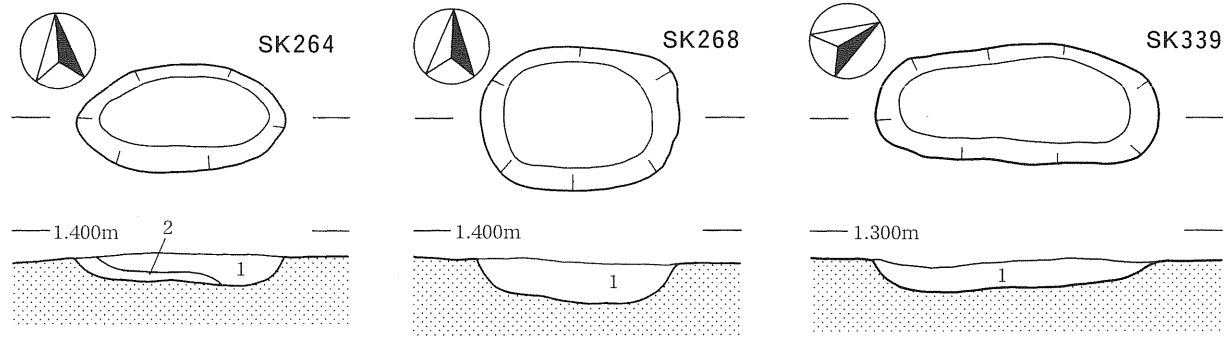


第223図 土坑 (10) SK503・534・555・598・599・611・685

第4節 検出遺構



第224図 土坑 (11) SK615・616・638・648・692・696・726・732・741



SK264

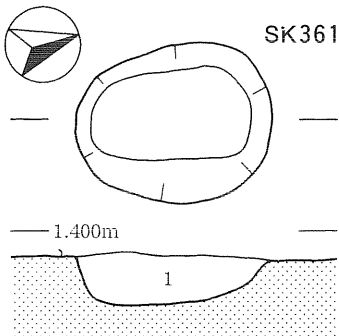
1.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物3%・小礫3%含む  
2.黒褐色(10YR2/2)砂層、炭化物10%含む

SK268

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、褐色地山を斑状に5%・炭化物3%含む

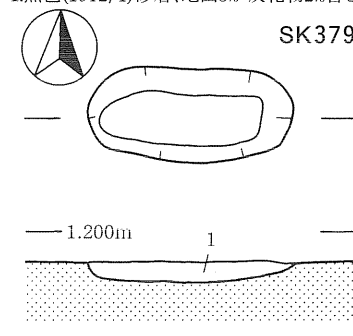
SK339

1.黒色(10Y2/1)砂層、地山5%・炭化物2%含む



SK361

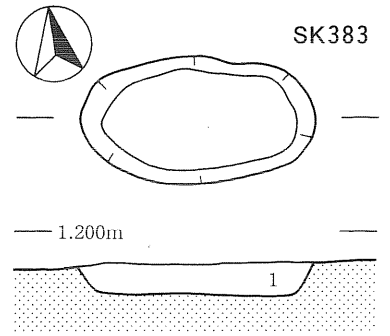
1.暗褐色(10YR3/3)砂層、小礫3%・褐色砂を斑状に2%・炭化物1%含む



SK379

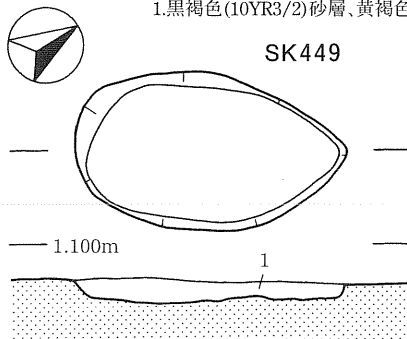
SK379

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色地山を斑状に10%・炭化物1%含む



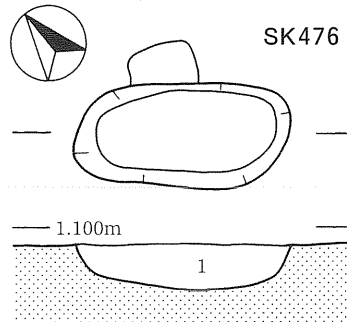
SK383

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物3%・黄褐色地山3%含む



SK449

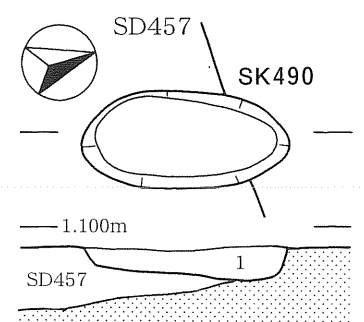
1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に10%・小礫2%・炭化物1%含む



SK476

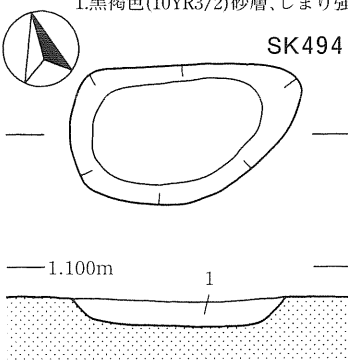
SK476

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり強、黄褐色地山をブロック状に3%・小礫1%含む



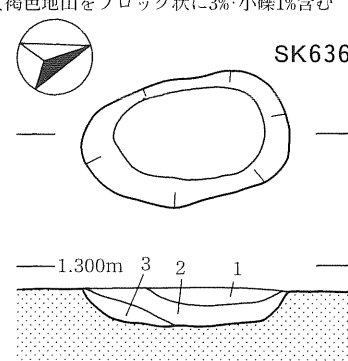
SK490

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物3%・小礫1%含む

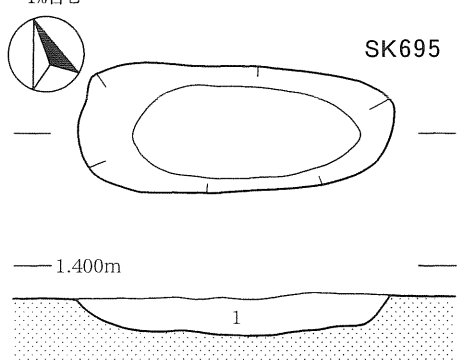


SK494

1.黒色(5Y2/1)シルト層、地山を筋状に10%及びブロック状に5%含む、水成堆積

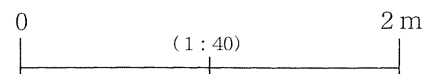


SK636



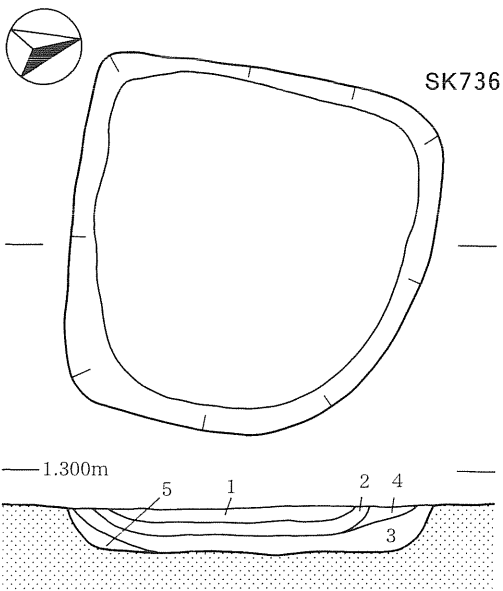
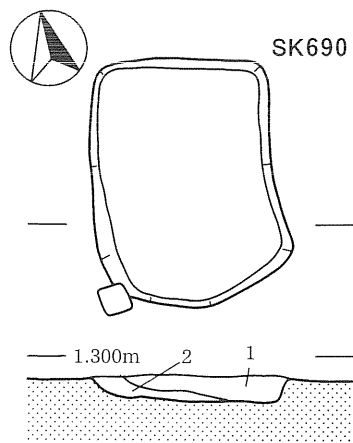
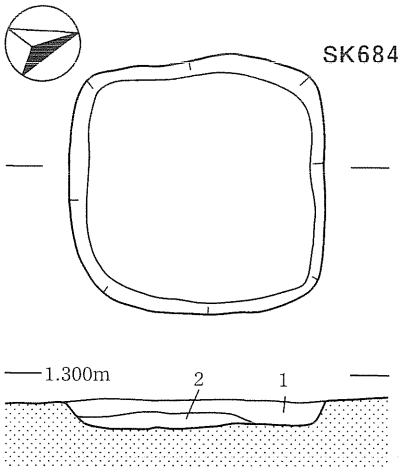
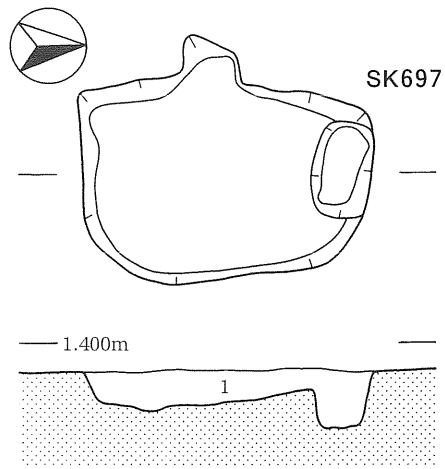
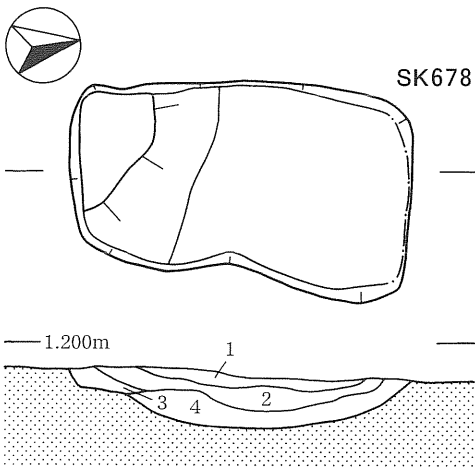
SK695

※SK636・695土層注記は次頁(第226図)に収録



第225図 土坑 (12) SK264・268・339・361・379・383・449・476・490・494・636・695

第4節 検出遺構



SK678

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物2%含む
- 2.黒褐色(10YR3/2)粘土層、しまり強、地山を筋状に10%及び斑状に5%含む
- 3.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を斑状に20%含む、崩落土か
- 4.暗褐色(10YR3/4)砂層、黒褐色土を斑状に15%含む

SK684

- 1.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を斑状に3%・炭化物2%含む
- 2.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山2%・炭化物1%含む

SK690

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に30%含む
- 2.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山を斑状に5%・炭化物3%含む

SK697

- 1.オリーブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物大1%含む

SK736

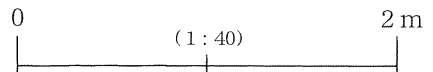
- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、黒色土を斑状に5%・地山を斑状に5%・炭化物1%含む
- 2.黒色(5Y2/1)砂層、黒褐色土を斑状に20%・地山を斑状に10%含む
- 3.黒褐色(10YR3/2)粘土層、暗褐色土を斑状に30%・炭化物1%含む
- 4.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む
- 5.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層、3を斑状に5%・炭化物1%含む

SK636 (第225図)

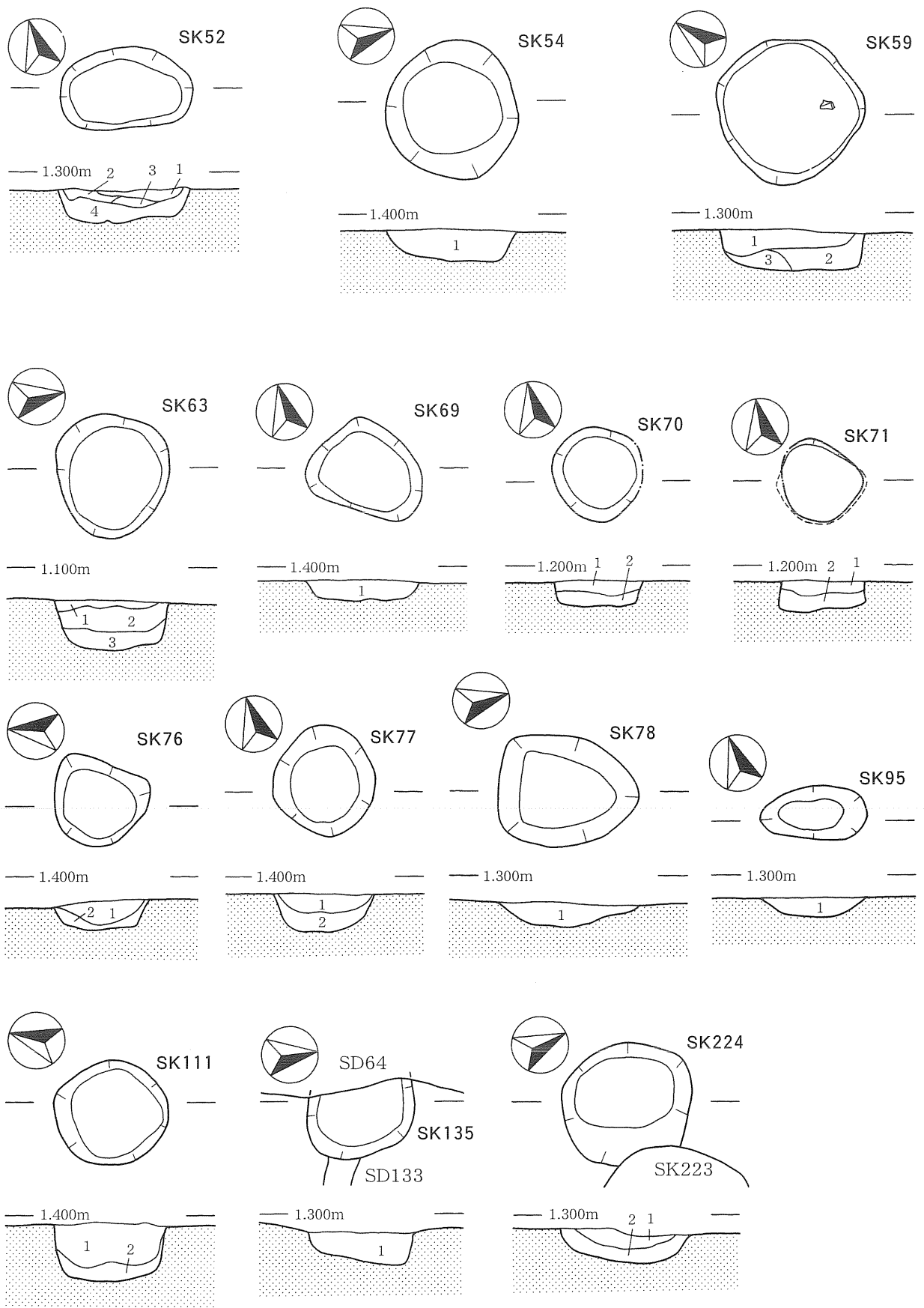
- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山3%・炭化物1%含む
- 2.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%・炭化物少量含む
- 3.暗褐色(10YR3/4)砂層、黒褐色土を斑状に10%・炭化物少量含む、崩落土か

SK695

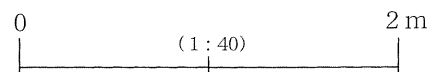
- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%及びブロック状に5%・小礫2%・炭化物少量含む



第226図 土坑 (13) SK678・684・690・697・736

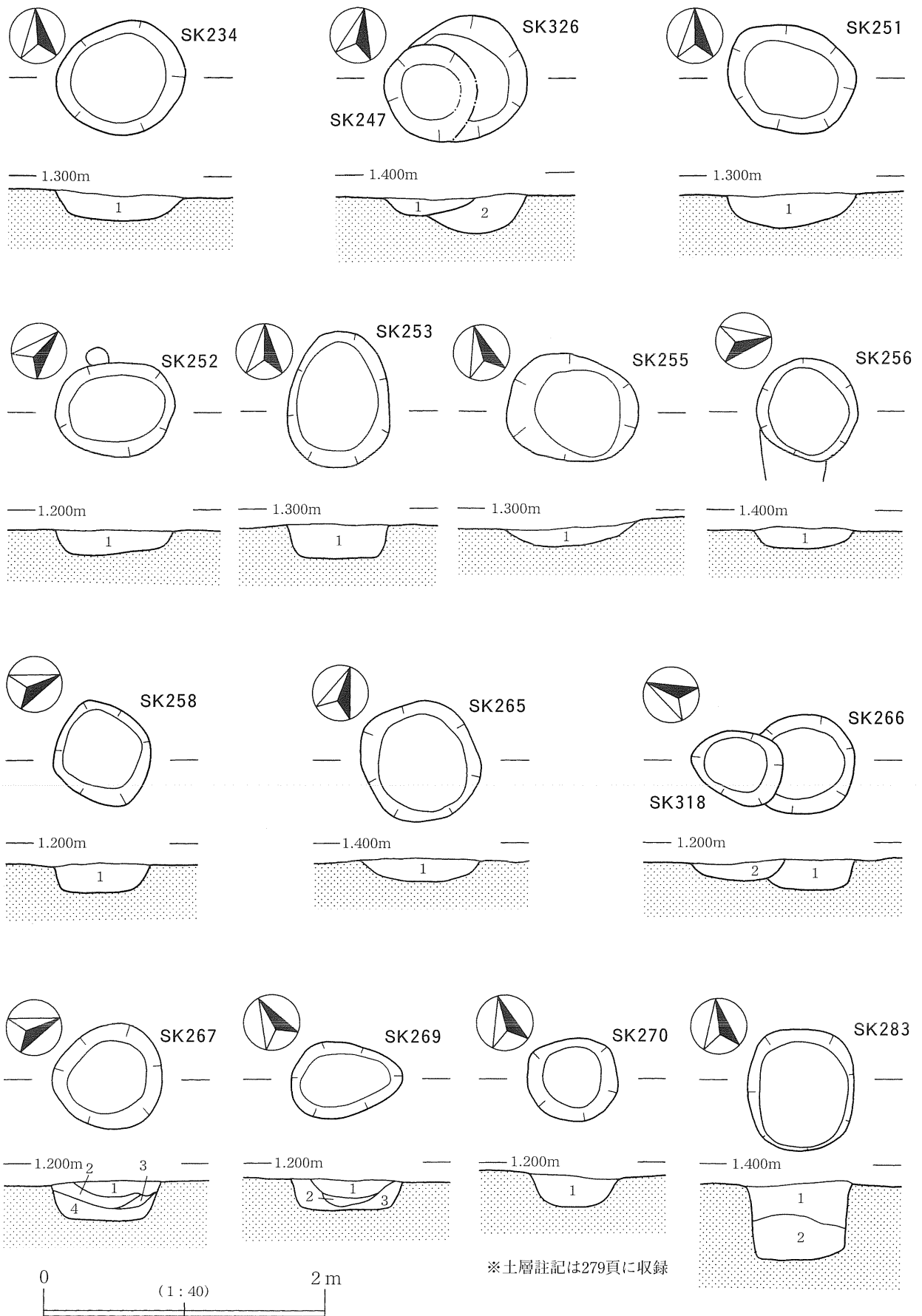


※土層註記は279頁に収録

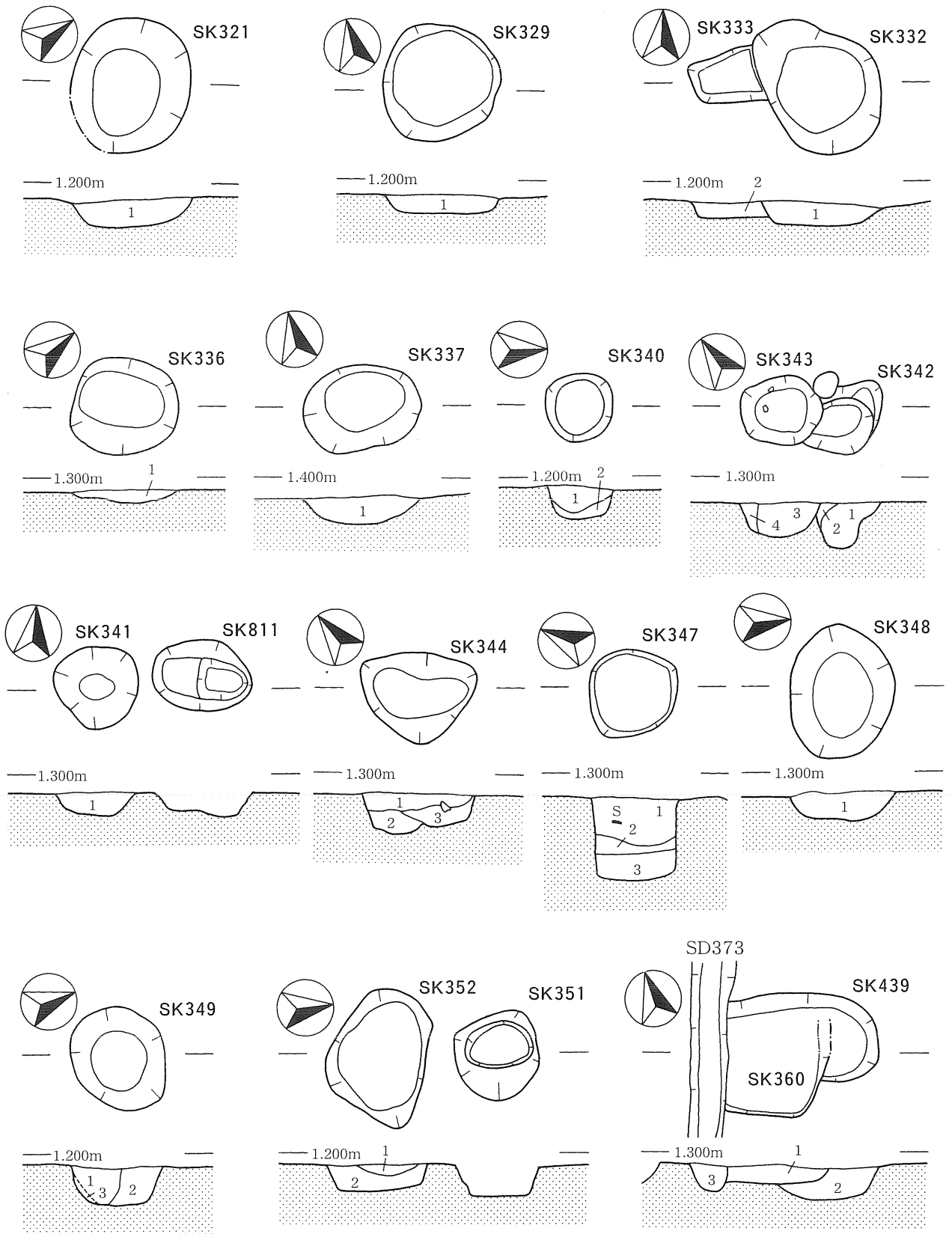


第227図 土坑 (14) SK52・54・59・63・69・70・71・76~78・95・111・135・224

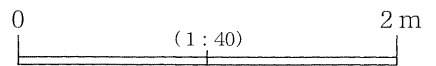
第4節 検出遺構



第228図 土坑 (15) SK234・247・251~253・255・256・258・265~267・269・270・283・318・326

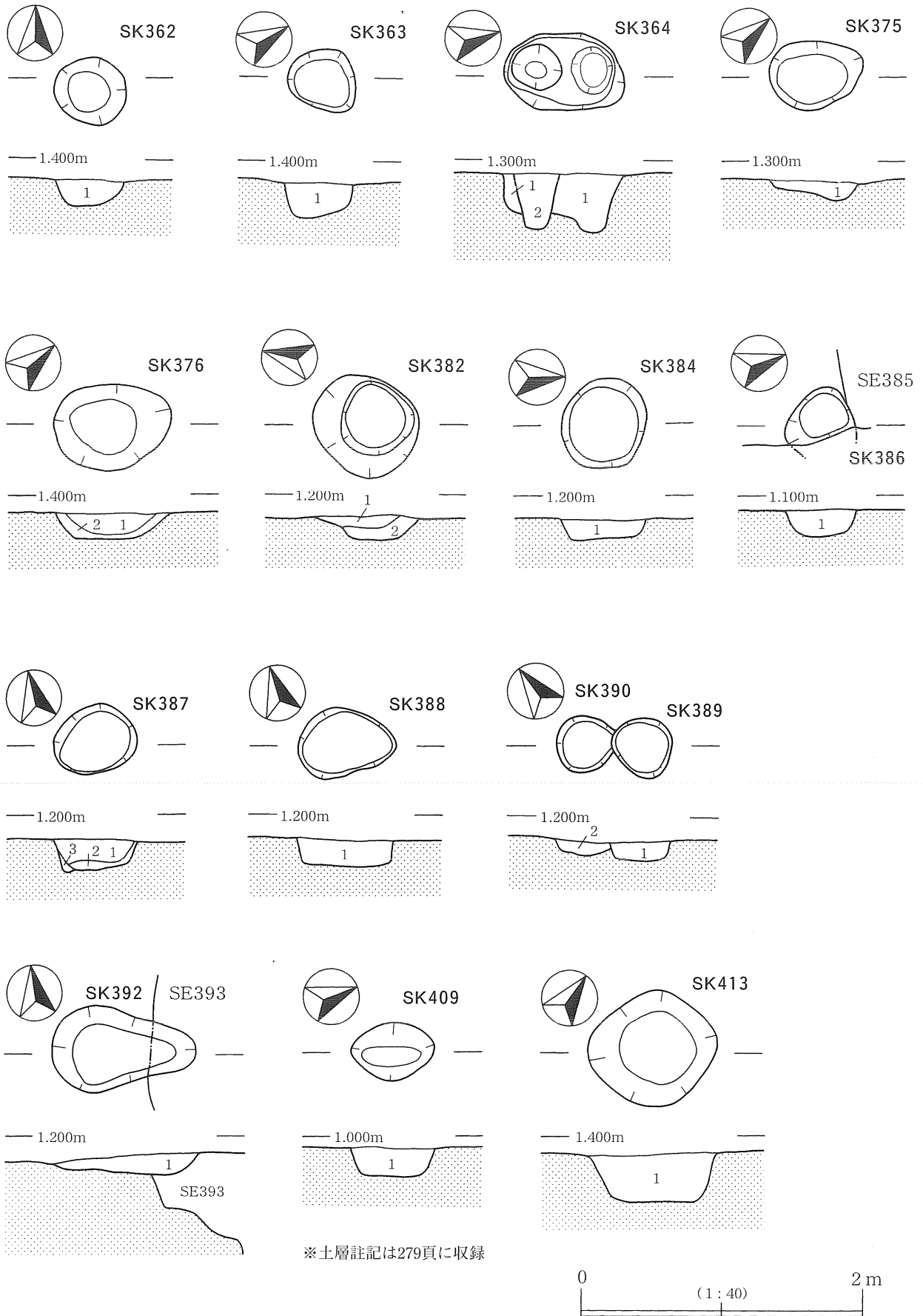


※土層註記は279頁に収録



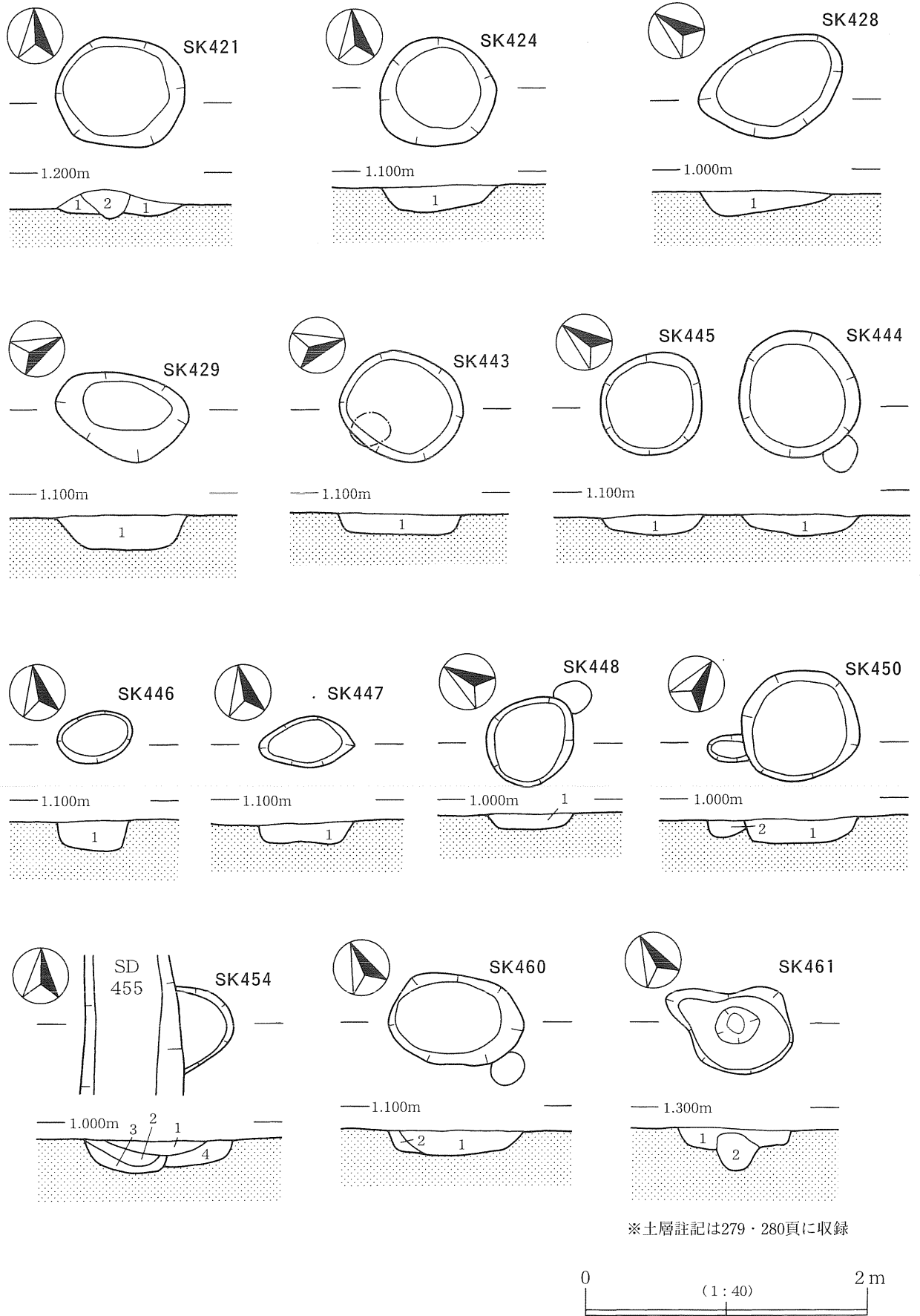
第229図 土坑 (16) SK321・329・332・333・336・337・340~344・347~349・351・352・360・439・811

第4節 検出遺構

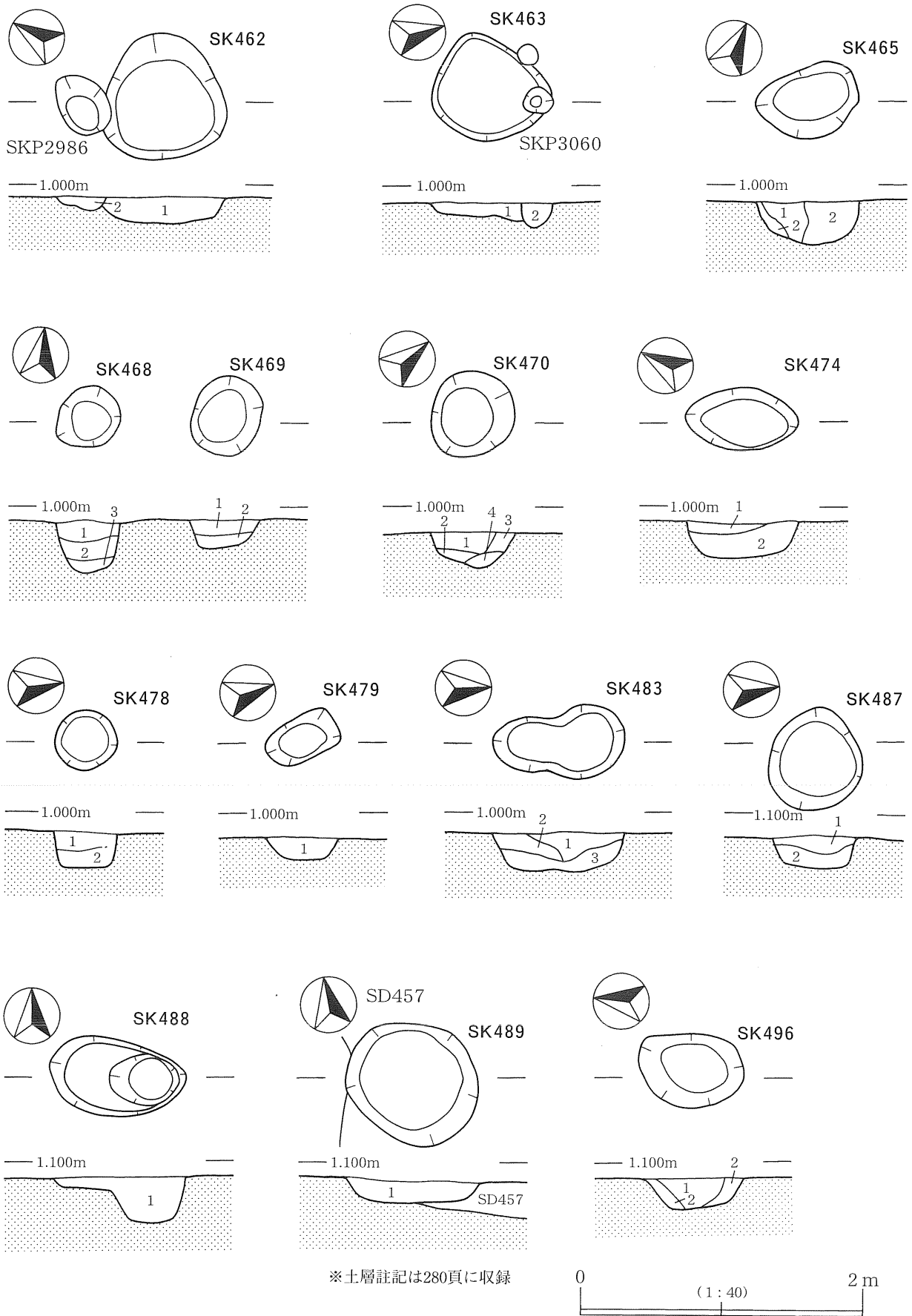


第230図 土坑 (17) SK362~364・375・376・382・384・386~390・392・409・413

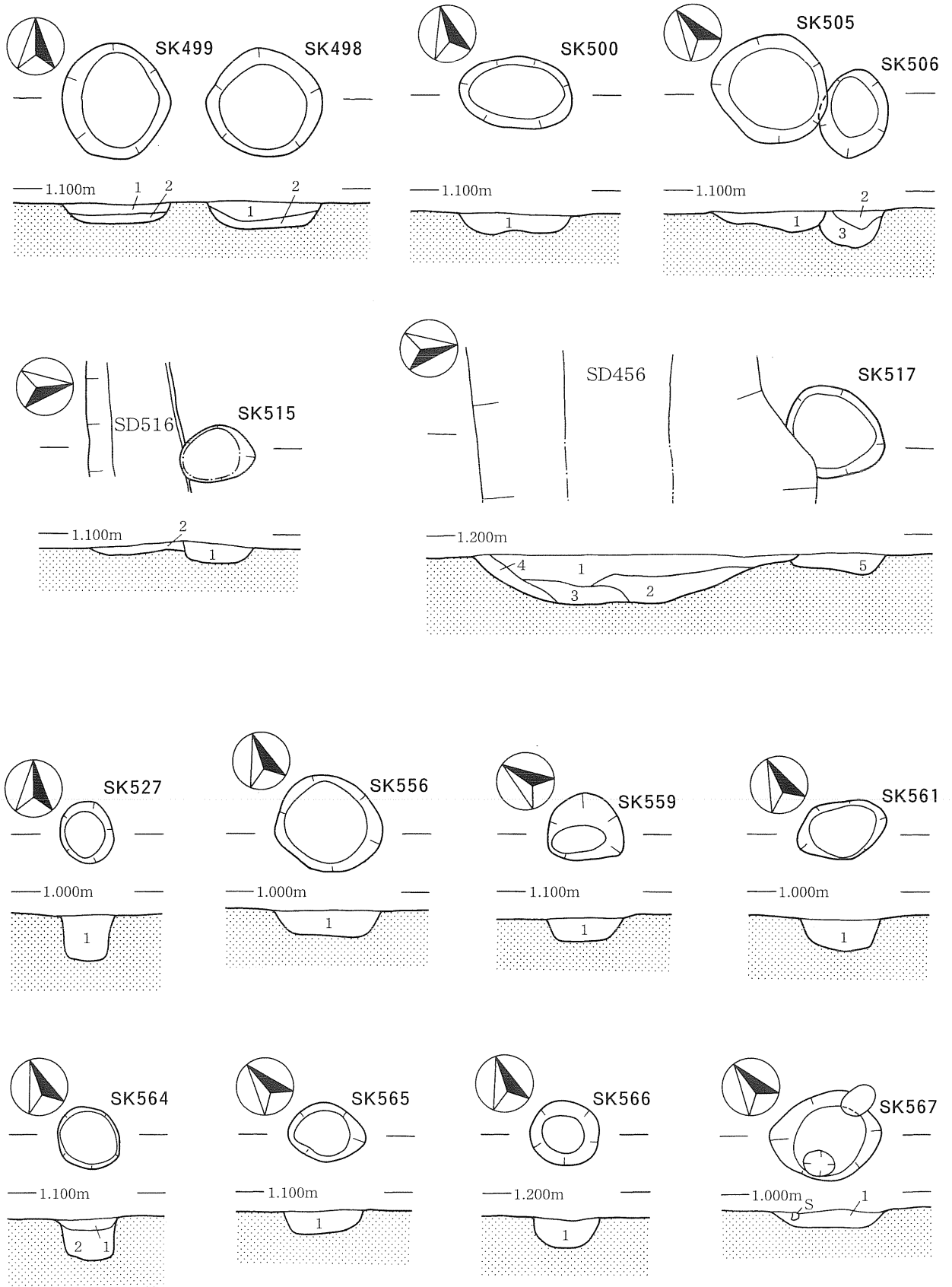




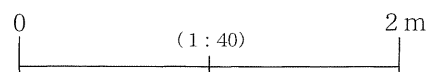
第231図 土坑 (18) SK421・424・428・429・443~448・450・454・460・461



第232図 土坑 (19) SK462・463・465・468～470・474・478・479・483・487～489・496

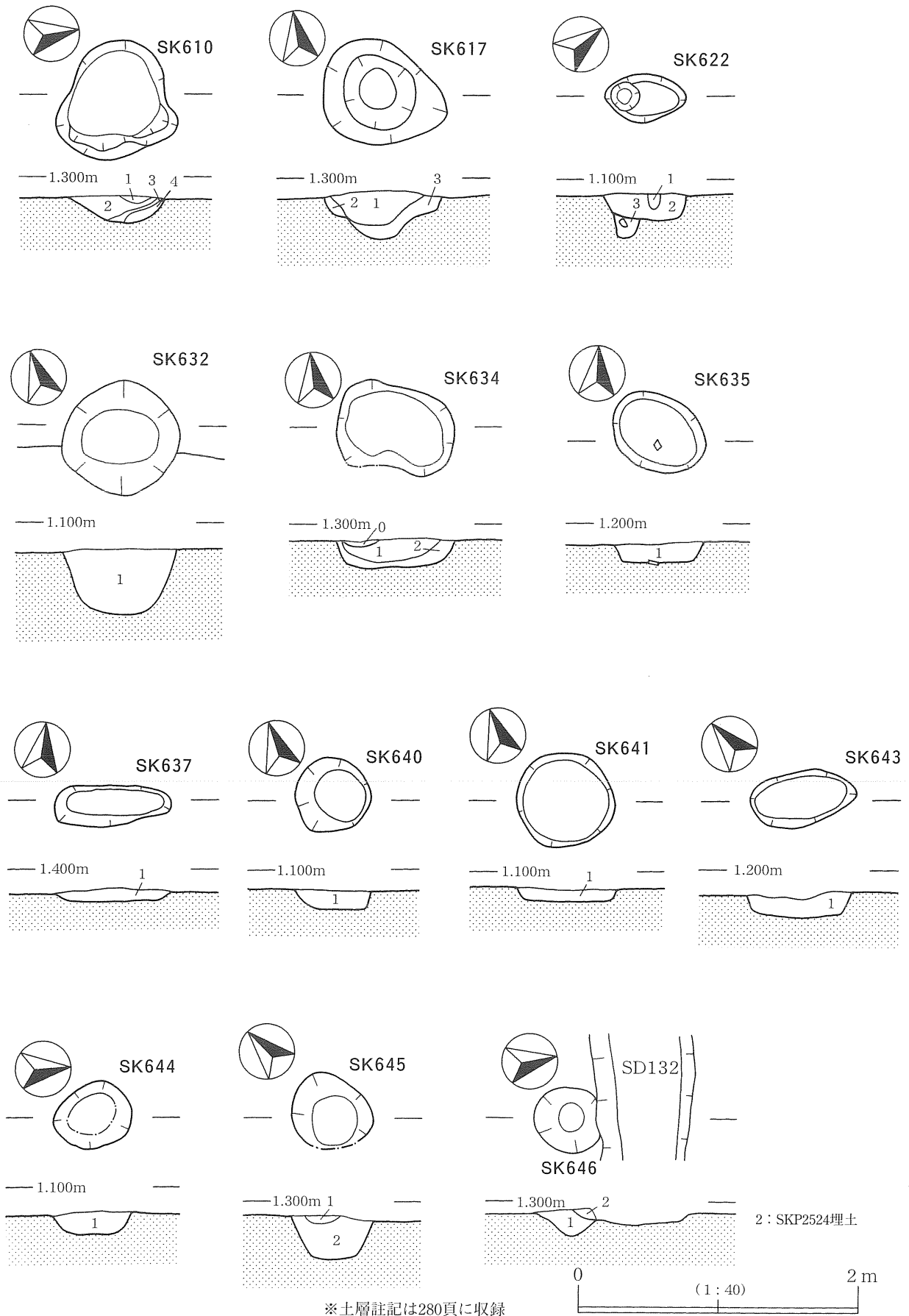


※土層註記は280頁に収録

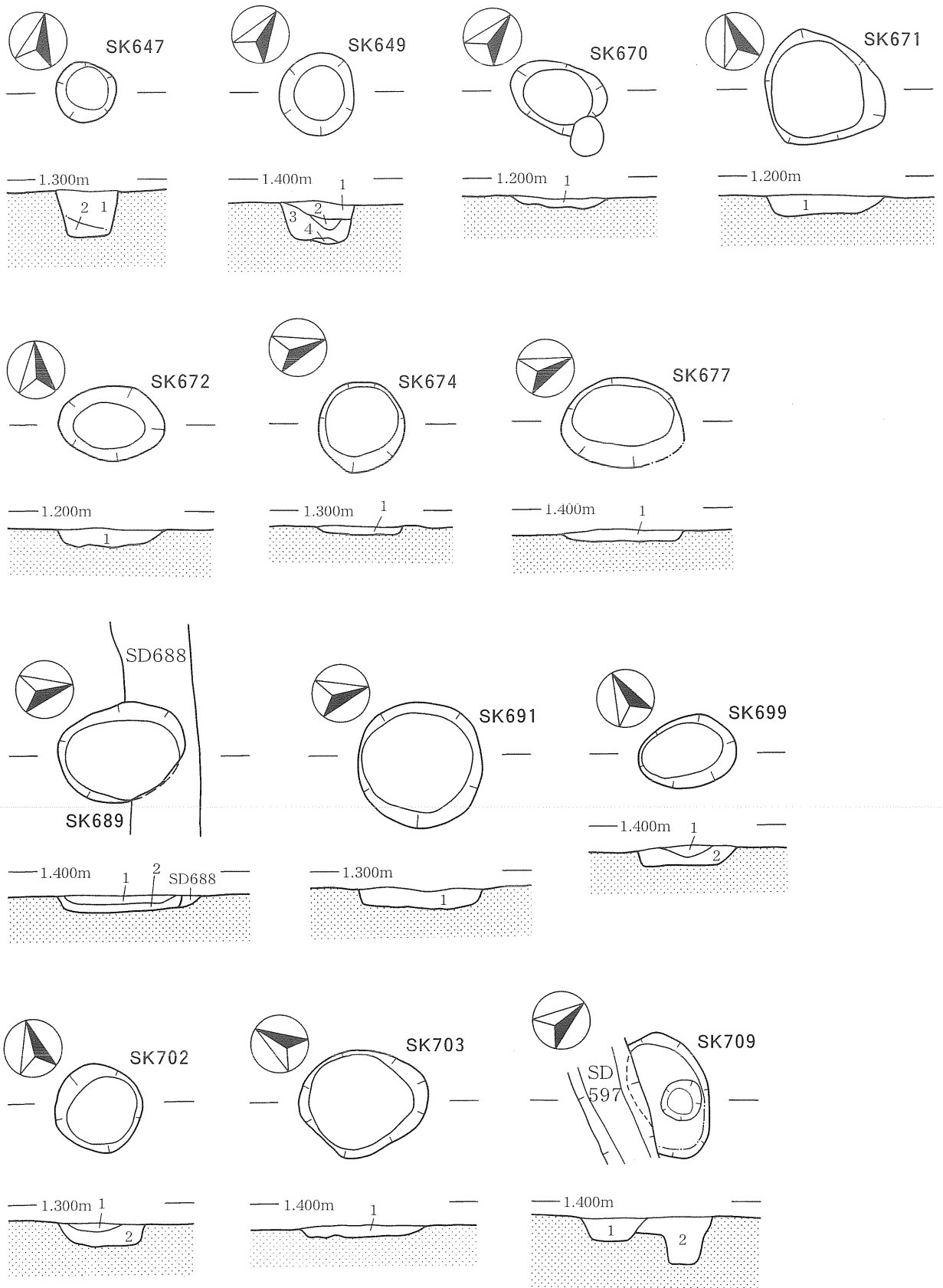


第233図 土坑 (20) SK498~500・505・506・515・517・527・556・559・561・564~567

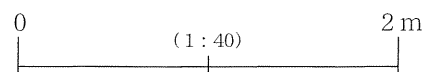
第4節 検出遺構



第234図 土坑 (21) SK610・617・622・632・634・635・637・640・641・643~646

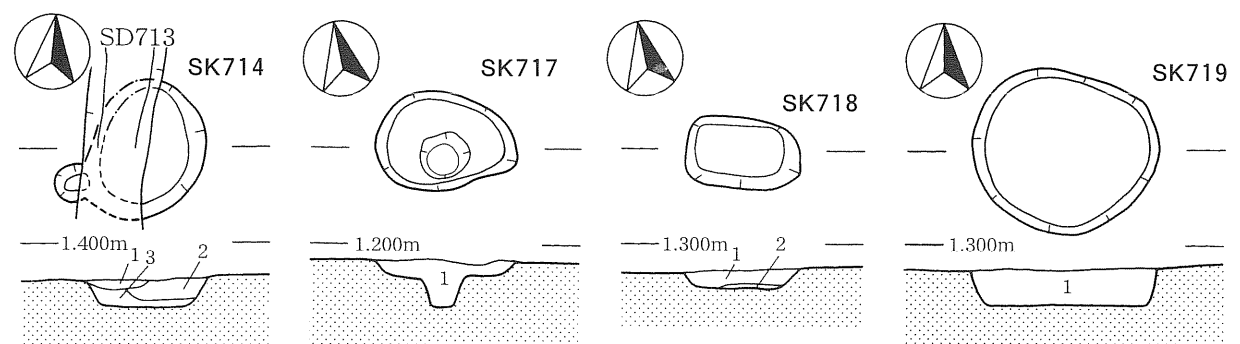


※土層註記は280頁に収録



第235図 土坑 (22) SK647・649・670~672・674・677・689・691・699・702・703・709

第4節 検出遺構



SD713

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黒色土を斑状に30%・地山20%含む

SK714

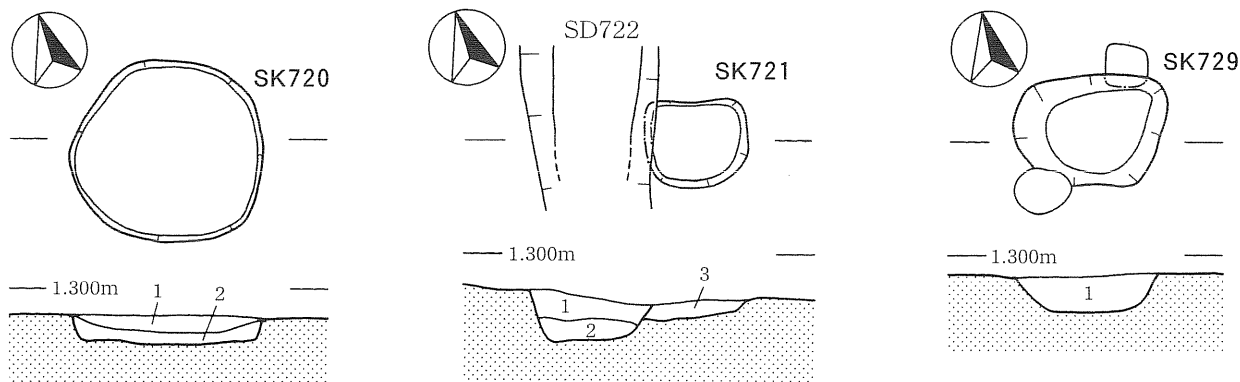
2.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山を斑状に5%含む  
3.オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%含む

SK717

1.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%含む

SK718

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山3%・炭化物1%含む  
2.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山20%・炭化物少量含む



SK720

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物1%含む  
2.オリーブ黒色(5Y3/2)砂層、地山を斑状に20%含む

SD722

1.黒褐色(10YR3/1)細砂層、地山20%含む  
2.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%・炭化物1%・小礫1%含む

SK721

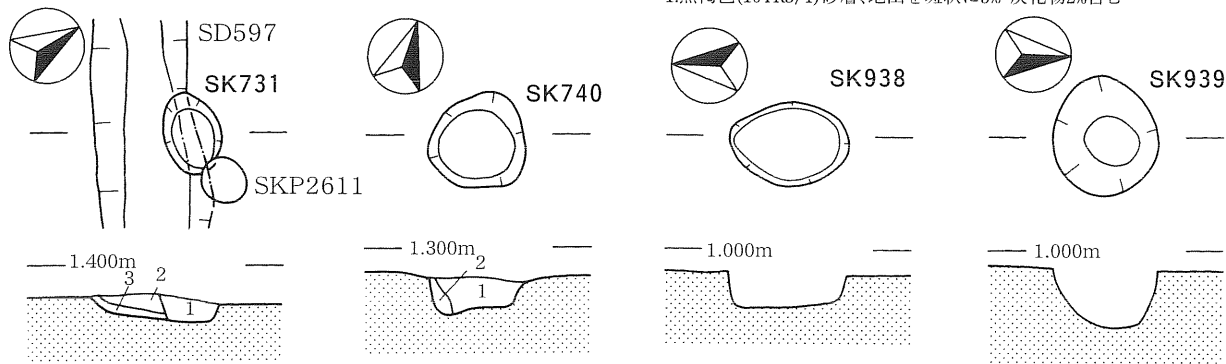
3.オリーブ黒色(5Y3/2)砂層、地山を斑状に20%・炭化物1%含む

SK719

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む

SK729

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物2%含む



SD597

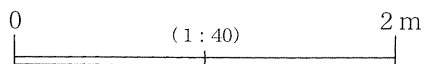
2.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に20%含む  
3.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山30%・オリーブ黒色土を斑状に5%含む

SK731

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山5%・炭化物1%含む

SK740

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に10%・炭化物1%含む  
2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山をブロック状に30%含む



第236図 土坑(23) SK714・717~721・729・731・740・938・939

## 第227図

SK52

- 1.黒色(7.5Y2/1)シルト層、褐色地山を斑状に20%含む
- 2.暗緑灰色(10GY4/1)砂層、地山に黒色土を斑状に3%・褐色砂含む
- 3.褐色(10YR4/4)砂層、地山に小礫5%・小礫含む
- 4.黒色(7.5Y2/1)シルト層、酸化地山を斑状に2%・小礫少量含む

SK54

- 1.黒色土(10Y2/1)粘性あり、しまり強、地山を斑状に3%・炭化物1%含む

SK59

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、地山をブロック状に3%・炭化物1%・小礫少量含む
- 2.黒色(7.5Y2/1)泥炭シルト層、しまり弱、地山を斑状に5%・小礫微量含む
- 3.黒色(N2/0)泥炭シルト層、しまり弱、地山を斑状に3%含む

SK63

- 1.暗褐色(10YR3/4)砂層、褐色地山土30%・炭化物微量含む
- 2.黒褐色(10YR3/2)砂層、褐色土及び暗緑灰色地山を斑状に20%・炭化物少量含む
- 3.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山多量・小礫含む

SK69

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、地山を斑状に10%・黒色泥炭土を筋状に5%含む

SK70

- 1.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)シルト層、炭化物1%含む
- 2.黒褐色(10YR3/1)シルト層、炭化物1%含む、1がグライ化したか

SK71

- 1.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)シルト層、炭化物1%含む
- 2.黒褐色(10YR3/1)シルト層、炭化物1%含む、1がグライ化したか

SK76

- 1.黒色(N2/0)泥炭粘土質シルト層、しまり弱、酸化地山を斑状に20%・小礫少量含む
- 2.暗緑灰色(10GY4/1)砂層、グライ化地山に1を斑状に5%含む

SK77

- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、小礫5%・地山を斑状に5%含む
- 2.黒褐色(10YR2/2)シルト層、地山を斑状に5%・小礫2%・炭化物1%含む

SK78

- 1.暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト層、地山を斑状に5%・小礫少量含む

SK95

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、炭化物3%・小礫少量含む

SK111

- 1.黒褐色(10YR3/1)シルト層、小礫2%・炭化物微量、地山を筋状に含む
- 2.黒褐色(10YR3/1)シルト層、地山を斑状に30%含む

SK135

- 1.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、地山を筋状に15%・黒色泥炭土5%含む

SK224

- 1.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、地山をブロック状に20%・炭化物3%含む
- 2.黒色(5Y2/1)シルト層、しまり弱、炭化物5%・地山を斑状に5%含む

## 第228図

- 1.黒色(N2/0)砂層、しまり強、地山を斑状に5%・小礫2%含む

SK247

- 1.暗褐色(10YR3/4)、小礫10%含む、SK252の埋土と類似

SK251

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物1%・黄褐色地山1%含む

SK252

- 1.褐色(10YR4/6)砂層、しまり弱、小礫10%含む

SK253

- 1.黒褐色(10YR2/3)炭化物5%・黄褐色地山を斑状に5%含む

SK255

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%・小礫3%・炭化物2%含む

SK256

- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、褐色地山を斑状に5%・炭化物3%・小礫3%含む

SK258

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物3%含む

SK265

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、小礫・地山を斑状に5%・炭化物3%含む

SK266

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、褐色地山5%・炭化物3%含む

SK267

- 1.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、褐色地山5%・炭化物3%・小礫3%含む

SK269

- 1.暗褐色(7.5Y3/2)細砂層、炭化物3%含む
- 2.黒褐色(10YR4/3)砂層、褐色地山10%含む
- 3.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、褐色地山10%含む
- 4.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、黒褐色砂を筋状に5%含む

SK269

- 1.褐色(10YR4/6)砂層、地山10%・炭化物2%含む
- 2.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物3%含む
- 3.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、地山3%・炭化物1%含む

SK270

- 1.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層

SK283

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む
- 2.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山を斑状に5%・炭化物2%含む、人為堆積か

SK318

- 2.褐灰色(10YR4/1)砂層、褐色地山10%・小礫5%含む

SK326

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%・小礫1%含む

## 第229図

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物1%・小礫1%含む

SK329

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、褐色砂5%・小礫3%含む

SK332

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物5%・小礫3%・褐色砂3%含む

SK333

- 2.黒褐色(10YR3/1)砂層、暗褐色砂を斑状に10%・炭化物3%含む

SK336

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり強、黄褐色砂を斑状に3%含む

SK337

- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、灰黄褐色土及び褐色の砂を斑状に10%・小礫3%・炭化物1%含む

SK340

- 1.黒褐色(10YR2/2)砂層、黄褐色砂を斑状に5%・炭化物3%含む
- 2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、黒色シルト質土を斑状に5%含む

SK341

- 1.黒色(10Y2/1)砂層、暗褐色地山5%・小礫3%・炭化物1%含む

SK342

- 1.黒色(10Y2/1)砂層、黄褐色砂3%含む
- 2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、黒褐色砂5%含む

SK343

- 3.黒色(10Y2/1)砂層、黄褐色砂3%含む
- 4.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、黒褐色砂5%含む

SK344

- 1.黒色(10Y2/1)砂層、褐色砂を斑状に5%・炭化物3%・小礫3%含む
- 2.黒褐色(10YR2/2)砂層、暗褐色砂を波状に5%含む
- 3.黒褐色(10YR3/2)砂層、褐色砂を斑状に5%・炭化物3%含む

SK347

- 1.黒褐色(10YR2/2)砂層、小礫3%・炭化物1%含む
- 2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、しまり弱、黒褐色砂3%含む
- 3.黒色(10Y2/1)シルト層、暗褐色砂を筋状に3%・小礫3%含む

SK348

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、灰黄褐色砂を斑状に5%・炭化物3%含む

SK349

- 1.黒色(10Y2/1)シルト層、小礫5%・暗褐色地山を斑状に3%含む
- 2.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、黒褐色シルト質土をブロック状に3%含む
- 3.褐色(10YR4/4)砂層、炭化物3%含む

SK352

- 1.褐色(10YR4/4)砂層、しまり弱、地山、流入土
- 2.黒色(10Y2/1)シルト層、炭化物10%含む

SK360

- 1.黒色(10Y2/1)砂層

SD373

- 3.黒褐色(10YR3/1)砂層

SK439

- 2.黒褐色(10YR3/1)砂層、小礫3%・黄褐色地山を斑状に3%含む

## 第230図

- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、褐色土及び黄褐色砂を斑状に5%含む

SK363

- 1.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、暗褐色砂を斑状に5%・炭化物1%含む

SK364

- 1.褐色(10YR4/6)砂層、黄褐色砂5%・黒褐色砂を筋状に5%・小礫3%含む
- 2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、暗褐色砂を筋状に5%・炭化物3%含む

SK375

- 1.褐灰色(10YR4/1)砂層、灰黄褐色地山土5%・炭化物3%含む

SK376

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、黄褐色地山土10%・小礫5%・暗褐色砂3%含む
- 2.黒色(10Y2/1)シルト層、しまり弱、暗褐色砂3%含む

SK382

- 1.黒褐色(10YR2/2)砂層、小礫3%・黄褐色地山土を斑状に3%・炭化物1%含む
- 2.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、黄褐色地山土を斑状に5%・炭化物1%含む

SK384

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色地山土を斑状に5%・炭化物2%・小礫1%含む

SK386

- 1.黒褐色(10YR2/2)砂層、小礫5%・黄褐色地山土を斑状に5%・炭化物1%含む

SK387

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色地山土を斑状に5%・炭化物をブロック状に5%含む
- 2.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、地山を10%含む
- 3.暗褐色(10YR3/3)砂層、しまり弱、地山5%・炭化物1%含む

SK388

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色土を斑状に5%・炭化物1%含む

SK389・390

- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、褐色地山土を斑状に10%・小礫5%・炭化物1%含む
- 2.黒褐色(10YR3/2)砂層、褐色地山土を斑状に5%・炭化物1%含む

SK392

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%・小礫1%含む

SK409

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、黄褐色地山土5%・炭化物3%・小礫3%含む

SK413

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%・小礫2%・炭化物1%含む

## 第231図

SK421

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり弱、炭化物5%・黄褐色地山土を斑状に5%含む

SK424

- 2.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色地山土を筋状に5%含む

SK424

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%・炭化物2%・小礫1%含む

SK428

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に3%・炭化物2%含む

SK429

- 1.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山30%・オリーブ黒色土を筋状に15%・炭化物微量含む

SK443

- 1.黒色(7.5Y2/1)シルト層、地山を斑状に5%・炭化物2%・小礫1%含む

SK444

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、黄褐色地山土を斑状に5%・炭化物3%・小礫3%含む

SK445

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり弱、地山を斑状に5%・炭化物3%含む

SK446

- 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物10%・黄褐色地山土をブロック状に10%含む

SK447

- 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、小礫3%・地山をブロック状に3%含む

## 第4節 検出遺構

SK448

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、小礫10%・黄褐色地山土を斑状に3%含む、

SK450

1.黒色(7.5Y2/1)シルト層、地山を斑状に3%・炭化物1%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層:SKP2997埋土

SK454・SD455

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、小礫5%・黄褐色砂1%含む

2.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色砂をブロック状に5%・炭化物1%含む

3.黒褐色(10YR3/1)砂層、小礫5%・炭化物3%含む

4.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり弱、小礫5%・粗砂をブロック状に5%含む

4:SK454・2:3:SD455

SK460

1.黒色(5Y2/1)砂層、炭化物3%・地山を斑状に3%含む

2.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山10%・黒色土を斑状に15%・炭化物1%含む

SK461

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物5%・黄褐色砂を斑状に5%含む

2.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、炭化物を波状に5%含む

### 第232図

SK462

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり弱、炭化物5%・黄褐色砂3%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物2%含む:SKP2986埋土

SK463

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、オリブ黒色土を斑状に5%・地山を斑状に5%炭化物1%含む

2.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%含む:SKP3036埋土

SK465

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、黄褐色砂を斑状に3%・炭化物1%含む

2.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色砂を斑状に10%・炭化物5%含む

SK468

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色砂10%・炭化物3%・小礫3%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物5%・黄褐色砂をブロック状に3%含む

3.黒褐色(10YR3/2)シルト層、しまり弱、黄褐色シルト質土を筋状に含む

SK469

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、しまり弱、炭化物10%・黄褐色砂5%含む

2.暗褐色(10YR3/3)砂層、しまり弱、小礫10%・炭化物をブロック状に3%含む

SK470

1.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物1%・小礫少量含む

2.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を筋状に5%・炭化物2%・小礫2%含む、自然堆積か

3.暗褐色(10YR3/4)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%・小礫2%含む

4.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、地山を筋状に20%・炭化物1%含む、自然堆積か

SK474

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に10%・小礫2%・炭化物1%含む

2.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に15%・小礫3%・炭化物微量含む

SK478

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色地山土3%・炭化物1%含む

2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、黄褐色地山土5%含む

SK479

1.暗褐色(10YR3/3)砂層、しまり弱、炭化物5%・黄褐色地山土を斑状に5%含む

SK483

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、オリブ黒色土を斑状に20%・地山15%含む

3.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山20%含む

SK487

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強、炭化物5%・地山5%含む

2.黒色(10Y2/1)砂層、炭化物10%・灰黄褐色シルト質土をブロック状に5%含む

SK488

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%・小礫1%含む

SK489 1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物1%含む

SK496

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山5%・炭化物3%含む

2.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%・炭化物3%含む

第233図

SK498

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む

2.黒褐色(10YR3/2)シルト層、地山を斑状に10%・炭化物3%含む

SK499

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山10%・炭化物2%含む

2.黒褐色(2.5Y3/2)シルト層、炭化物5%・地山を斑状に5%含む

SK500 1.黒褐色(10YR3/2)細砂層、地山を斑状に10%・炭化物1%含む

SK505 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物2%含む

SK506

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山15%・炭化物2%含む

3.暗褐色(10YR3/3)砂層、黒褐色土を斑状に20%・地山を斑状に15%・炭化物1%含む

SK515 1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物2%含む

SD516 2.暗褐色(10YR3/3)砂層、黄褐色地山を斑状に10%・炭化物5%含む

SD456

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強い、地山を斑状に15%・小礫5%・炭化物3%含む

2.黒色(5Y2/1)砂層、地山を筋状に5%含む、自然堆積

3.暗褐色(10YR3/3)砂層、黒褐色土を筋状に10%含む、自然堆積

4.黒褐色(10YR3/2)砂層、小礫3%・地山3%含む

SK517 5.黒褐色(2.5Y3/2)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む

SK527 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に10%・炭化物3%含む

SK556

1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を筋状に20%・炭化物3%含む、水成堆積

SK559 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、炭化物3%含む

SK561 1.黒褐色(10YR3/2)小礫10%含む

SK564

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山10%・小礫3%含む

SK565 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に3%・炭化物2%含む

SK566 1.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山10%・小礫5%含む

SK567

1.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、地山を斑状に3%・炭化物2%・小礫1%含む

### 第234図

SK610

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色地山土を斑状に5%・小礫3%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、小礫3%・黄褐色粗砂をブロック状に3%・炭化物1%含む

3.黒色(10Y2/1)砂層、しまり弱、炭化物10%含む

4.黒褐色(10YR3/2)砂層、黄褐色土及び褐色地山土を斑状に10%含む

SK617

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強、炭化物3%・黄褐色地山土を波状に3%・小礫1%含む

2.黒色(10Y2/1)砂層、小礫1%含む

3.灰黄褐色(10YR4/2)砂層、褐色地山土を斑状に30%・炭化物を筋状に5%・黒褐色砂をブロック状に3%含む

SK622

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、炭化物1%・褐色地山土1%含む

2.暗褐色(10YR3/3)砂層、炭化物10%・地山を斑状に5%含む

3.黒褐色(2.5Y3/1)砂層、炭化物2%・礫1個含む

SK632

1.黒色(5Y2/1)シルト層、地山を斑状に3%・炭化物1%含む、人為堆積か

SK634

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強、炭化物5%・褐色地山1%含む

2.にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、炭化物1%含む

SK635

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に10%・黒色土斑状に3%・炭化物少量含む

SK637 1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物少量含む

SK640 1.オリブ褐色(2.5Y4/3)砂層、炭化物少量含む

SK641 1.暗褐色(7.5YR3/4)細砂層、地山を斑状に5%含む

SK643 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%・炭化物2%含む

SK644

1.暗褐色(10YR3/3)砂層、黒褐色土を斑状に20%・小礫1%・炭化物少量含む

SK645

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に20%含む

2.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に10%・オリブ黒色土を斑状に3%・炭化物1%含む

SK646

1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物2%含む

### 第235図

SD597

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、灰黄褐色土を斑状に5%・炭化物1%含む

SK647

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物少量含む

2.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山を斑状に10%・炭化物1%含む

SK649

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む

2.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山10%含む

3.暗褐色(10YR3/4)砂層、黒褐色土を斑状に3%含む

4.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に30%・炭化物1%含む

SK670 1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物1%含む

SK671

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、オリブ黒色シルト質土を斑状に15%・地山を斑状に5%・炭化物少量含む

SK672

1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に15%・黒色シルト質土を斑状に5%・炭化物2%含む

SK674

1.黒褐色(10YR3/1)細砂層、地山を斑状に3%含む

SK677 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に3%・炭化物1%含む

SK689

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に15%・炭化物少量含む

SK691 1.黒褐色(10YR3/2)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む

SK699

1.黒褐色(10YR3/2)砂層、小礫1%含む

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、しまり強、地山を斑状に10%・炭化物3%含む

SK702

1.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山を斑状に5%・炭化物1%含む

2.オリブ黒色(5Y3/1)砂層、地山を斑状に10%・黒色土を斑状に5%・炭化物2%含む

SK703

1.暗褐色(10YR3/3)砂層、地山を斑状に3%・小礫1%含む

SK709

2.黒褐色(10YR3/1)砂層、地山10%・炭化物2%含む



## 5 堀・溝跡（第237～249図）

堀・溝跡は234条検出した。幅、深さ、総延長とも様々である。ここでは幅が5m程で、横断面形状と検出位置から遺跡の区画に関係すると考えられるものを堀跡とし、その他を溝跡と呼ぶ。本遺跡で堀跡としたものはSD49・630・706の3条である。

本項では堀跡と区画に関連が強いと思われる溝跡を取り上げ、他については詳細を308～312頁の属性表に譲るものとする。

## (1) SD49(第237・238図)

調査区の東端を南北方向(N-17°-E)に延びる上端幅4.4～4.8m、下端幅3.6m、深さ0.6～0.82mの堀跡である。確認された総延長は64.5mであるが、調査区外にも及んでいると考えられる。ただ南側については、そのまま真っ直ぐに南に延びるようではないことをボーリング探査で確かめている。おそらく調査区南縁外を東西に走る現農道下近辺で西に折れるのではないかと見ている。この詳細については第5章まとめでふれる。

さて堀の横断面形状は、整った逆台形の箱堀状を呈し、底面はほぼ平坦である。また堀底面での北端・南端間のレベル差はほとんどない。平面観察では明確にできなかったが、本堀跡は埋土の堆積状況から新旧2時期の変遷が確認された。従って上記の数値は旧期堀の法量となる。新期については、堆積層から南側(238図A-B)で幅2.5m、深さ0.6m、北側(同C-D)で幅4.2m、深さ0.38mである。横断面は緩いU字形を示し、堀というより溝状を呈する。堆積層は2地点とも1～7層が新期の埋土となり、3～7層は水成堆積を示す。また旧期の底面付近(南12層、北9層)では小礫混じりの砂質シルト土が堆積することから、空堀ではなく、滞水していた可能性もある。

出土遺物は、陶器、土器(瓦器)、木製品、土錘、銭貨、自然遺物等があり、その種別・器種一覧は298頁にまとめる。このなかでは圧倒的に木製品が多い。箸は3,204本確認している。これら木製品は特に新期溝最下層の6・7層(泥炭化した黒色シルト質土層)及び旧期堀の9～12層に集中し、新旧とも埋土上位ではその遺物出土量は極端に少なくなる。なお259-4の珠洲播鉢は直線で約15m離れたSE62井戸跡出土破片と接合している。

## (2) SD630・601(第240～245図)

SD630・601は調査区中央東側を南北に延びる堀・溝跡である。SD630は上端最大幅4.9m、下端幅0.9～1.5m、深さ0.3～0.74mの堀跡である。確認された総延長は約145mで、両端はそれぞれ調査区外に及ぶ。本堀跡はSD49の西70mにあり、方向を同一にして直線的に延びる。ただ調査区域の中央北側では長さ22m分の掘り込みが西側・台形状に4m程張り出す形状を示す。また南端では、長さ2.3mにわたり掘り込みが途切れる(第243図に矢印で表示)。ここは土橋状の施設であったと考えられる。横断面形状は、SD49同様に逆台形の箱堀状を呈し、底面はほぼ平坦である。しかし堀底面でのレベルは、調査区中央部(後述のSM652道路跡と接する付近)では、その北側と比較して60～70cm高く、南側よりも30cm程高い数値を示す。堆積状況は、下層に粘土層や粘土混じりの砂層が堆積し、基本的には水成堆積と思われる。出土遺物は珠洲播鉢(262-5)、土錘が出土している。播鉢はSK59出土破片と接合する。

SD601は、SD630埋没後にこれとほぼ同一方向に構築された溝跡である。確認できた長さは、調査区中央から南側にかけての57m程であるが、その北側はSD630とSD666間に存在する複数の

#### 第4節 検出遺構

溝に接続していた可能性がある。法量（幅・深さ）は異なるもののSD630同様に総長は100mを越すものであったのかもしれない。現況で確認できるSD601は、北側から見ると当初はSD630東縁を沿うように南下し、途中でここを跨ぎSD630の西側外に出る。ここで長さ0.8mの間掘り込みが途切れ（第243図に矢印で表示）、また南に向かって延びる。その溝の幅は0.7～0.8m、深さ0.1～0.15mであり、SD630とは比べものにならないほど縮小する。断面形状はその深さから判然としないうが、底面レベルはほぼ同一値を示し、SD630底面より40cm程上位となる。

##### （3）SD706（第240・241図）

調査区北東部で南北に延びる上端最大幅5m、下端幅1.45～1.65m、深さ0.8～0.96mの堀跡である。その軸線方向は、SD630・SD666・SM377等と同一であり、SD630とは重複関係をもたないものの、SM377を切り込んで構築し、堀の西側はSD666に切られる。確認できた長さは一段高い畑地部分の17mにすぎないが、両端ともさらに延びていたことは間違いない。堀の横断面形状は、その下端幅はSD49より狭くなるが、底面が平坦となる箱堀状を呈する。底面のレベルは各計測地点ではほぼ同一の数値を示し、SD630・666のそれより10cm前後下がる。土層の堆積状況は、下層では地山が筋状に入り込み、水平に堆積を示すことから、ある時期には滞水していたと考えられる。出土した遺物は、SD49同様に298頁に一覧するが、9層からは大量の箸がまとまって出土している。確認しただけでも5,822本に及ぶ。珠洲甕(266-1)は南西方向に約40m離れたSE583出土破片と接合している。

##### （4）SD666（第240～243図）

調査区北東部で「L」字形に延びる溝跡を確認した。その北端部はSD706西側を起点として、SD630の東側・SM377の西端を並行するように南下する。中央部で東に折れSM377を横切り、そのままSD49方向に向かうが、両者に接点はない。東西方向となる溝部分は、遺跡外東側にある墓地前から八郎潟方向に向かう幅員3mの農道直下に位置する（242図網点範囲参照）。

確認した長さは、南北方向で48m、東に折れた長さは51mを計測する。溝の幅は、0.8～3mであり、平均的な幅は2m程である。確認面からの深さは、SD706と重複する箇所0.68m、その他では0.4～0.48mである。横断面形状は前者では薬研堀のV字に近い形状を示すが、後者は緩いU字形を呈する。

なお溝北端部より北側は、現況では削平され段状を呈するが、その段差上端ライン（南北）が溝の西側上端のラインと同一線上に位置する。これが溝の延長であるとすれば、南北方向の長さは77mとなり、調査区北端にまで達していたことになる。このことは後世（近世以降）における区画整理等の段階でも溝の存在が認知されるとともに、その方向性が継承されていたことを意味するのではないか。これは溝の上に同一方向で造られた現在の農道についても同じことが言える。

##### （5）南東部溝跡(付図1、第348図)

調査区南東部で確認された溝跡群であり、西・東・北側をそれぞれSM377・SD49・SD666に挟まれた間に位置する。

SD64は西側に大きく開口する「コ」字形をなす溝跡である。確認面での幅は0.6～0.8m（深さ15～32cm）であり、南北方向の長さは40mを測る。東西の確認できる長さは北側で28m、南側で32mであり、西端はそれぞれSM377道路跡まで達するが、両者の関係は不明である。SD64南北溝の西

側に隣接して延びるSD89・87の2本の溝（幅25cm・深さ10cm前後）は、その中央で合流して西に方向を変える。これはSD64で囲まれた内側を南北に分けるかのようであり、距離的にも北から20mであるから、ちょうど半分に区画している。区画された南側では、さらに内部に幅15cm程の溝が縦横に走る。東西はSD81・142、南北はSD136とSD137（深さはそれぞれ10cm以下）である。これら小溝で分割された区画は一辺が約10m四方の方形となるようである。

なお、SM377を切り込むようにSD850溝跡が南北に延びるが、これはSD64の西30mに位置し、これと同一の軸線を持つ。もしSD850がSD64の西端にあたる溝であるとすれば、SD64は南北40m×東西30mの長方形プランを呈していたことになる。さらにこの仮定に立脚すれば、SD64は、内部に位置する複数の溝跡の幅・深さなどから見て、まず大区画を南北に半分に分割（南北20m×東西30m）し、さらにこの中区画を10m四方にそれぞれ6分割しているとも推定することができる。またこれはSM377より新しい時期の構築となる。

SD64と同形態と思われる溝は、一部で不明確ではあるが、これに左右対称で東側にSD88・100が、同じく南側にSD845・846等が、北東側には点対称の形で「L」字形のSD96が位置する。SD64と東側のSD88は、2～2.5mの間隔をおいて南北に並列するものであり、この間を通路・道路とも推測されよう。

#### （6）中央部溝跡(第246図、第247図右)

調査区中央では東西方向に延びる溝跡が多数検出された。その位置は、ほぼ現農道の直下あるいはこれに並行するようにして確認されており、その規模は、中央から東側では幅20～30cm・深さ10cm前後である。これが西端部近くでは幅が1mを越し（最大幅は2.8m：SD568）、深さは0.4m程となる箇所も見られる。溝は2本1組で並列するように配され、西端部ではSD568とSD571が、中央部付近ではSD880とSD924等である。両溝は3.2～4mの間隔を保って延びていることから、この間を道路、溝の一部については、これに付属する側溝であった可能性もある。

#### （7）南西部溝跡(第247図左)

調査区南西部の南東側で南北方向に延びる溝がまとまって検出された。中央には幅2～2.5mの浅い溝（SD202：深さ14～28cm）が位置し、この両側に幅のやや狭い（50～80cm）溝がそれぞれ2～3条取り付くように配される。西側の溝はSD877・878等、東側はSD201・200等であり、深さはSD202とほぼ同じ数値を示す。これら溝の意味するところは不明確であるが、中央部の一段下がったSD202を通路・道路、その両脇の溝を道路側溝と推定することはできないだろうか。

### 6 道路跡(第237・240～245・249図)

本遺跡で道路跡と判断した遺構はSM377・652・660の3条であり、いずれも側溝を伴わないものである。SM377については、確実に中世の遺構との重複関係が存在し、該期の道路跡と認知したものである。ところで道路跡の確認は、それが中世における道路であるとの確証を得るまで時間はかかったものの、遺構の確認自体は容易であった。それは雨上がりに歴然と現認できるのである。遺跡は砂礫地の低地であり、一旦雨が降るとたちまちプール化する。しかし一方で水はけもよく、比較的短期間で現況に復する。このときに最も早く乾燥し、白化して溝状にプランが見えるのが道路跡である。このことは道路の構造・造成法とも係る。すなわち本遺跡の道路は、砂地を溝状に掘り返して下位の

小礫をおそらく一度地表面に溜め置く。これを埋め戻す時には砂と小礫が混じり、結果的に以前の砂のみよりは粒子が粗く、堅く締まった小砂利道が造り出される。これが水はけの良い道路となり、我々が確認し易い遺構となったものと考えられる。ではどれくらい掘り返して道路を造りだしたかと言えば、実はS M377で深さ20cm前後、S M652・660では5～10cm程度にすぎないのである。しかも小砂利とはいえ10mmを越すような礫は少なく、土性区分としての砂土（地山）と砂礫土（道路埋め戻し土）の識別はその硬度を除くと容易ではなく、乾燥状態の違いでの識別が道路跡発見の鍵となったものである。

なお道路跡3条は、全て調査区の東側に位置している。この道路跡検出地区は、特に調査区西側と比較して一段高位であり、さらに周辺の遺構確認状況を加味すると、後世の削平を受ける度合いは、遺跡内他区域より低かったと予想される。このことは逆に他区域では路底が地山下20cm程の側溝を持たない道路は簡単に消失してしまうことも意味する。以上のことから、あくまでも想像の域ではないものの、当時は数多くの道路が縦横に走っていた可能性があることの指摘はできよう。

以下に3条の道路跡の概要を記す。

S M377は調査区中央からやや東側を南北方向に延びるS D630の東3mを併走する道路跡である。道路幅は7.5～9m（平均8m）であり、確認した長さは115mに達する。ただ北側ではS D706・666に切られ、道路敷の東端約0.5～1m幅のみの検出である。この南側（点線で表示）は、水田造成に伴う削平で消失したと思われる。このことは北端部にも言えることで、本来はS D630と同様に少なくとも145mは存在していたと思われる。

S M660は調査区東端部を南北に延びるS D49の西約6mを併走する道路跡である。道路幅は3.2～3.4mであり、確認した長さは70mである。本道路跡も南北両端とも調査区外に及んでいたと考えられる。

S M652は調査区南東部においてS M377・660と直交し、東西方向に延びる道路跡である。両道路跡と重複する位置にあたるが、その先後は明確にできなかった。道路幅は2.1～2.2m、確認した長さは52mに達する。

#### 7 その他の遺構

ここでは上記には含まれない遺構として旧水田跡、畝跡、呼称不明遺構を取り上げる。

##### (1) 旧水田跡（付図1）

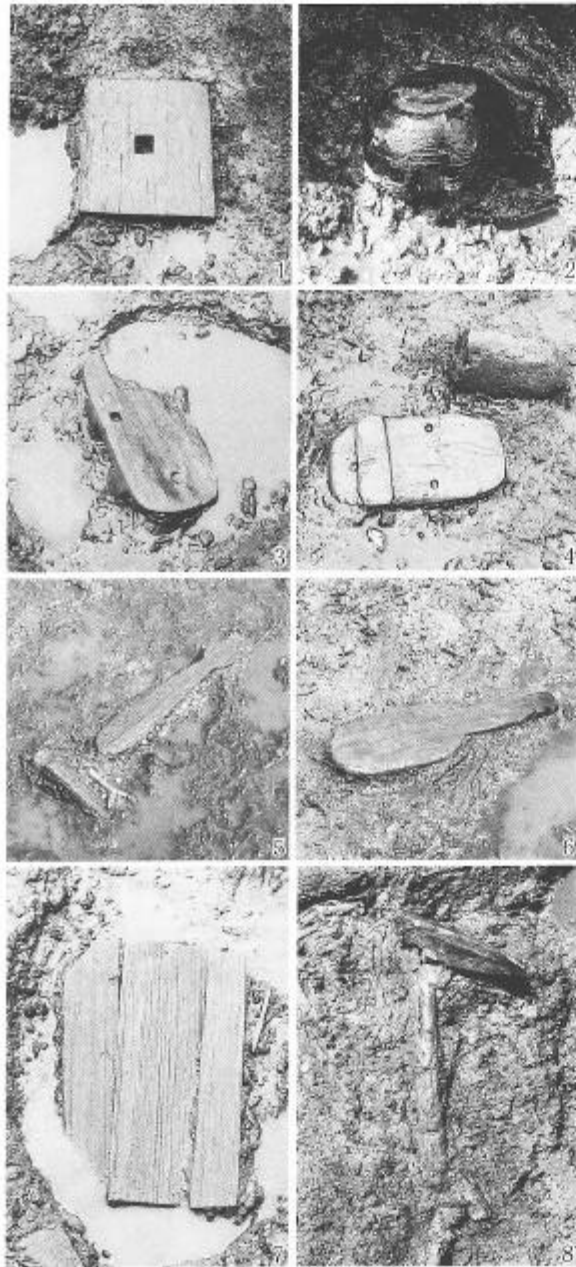
水田跡は分布の粗密はあるものの調査区全域で確認されている。プランの一部のみの検出が多い。登録数は37箇所、プランが明確なものは南西部からまとまって検出された。16×9m程の長方形プランが南北にのびる。方向は概ねN-20°-Eであり、堀跡や道路跡とほぼ並行している。

これらについては、堆積土や重複から、近世以降の水田跡ではないかと想定しているが、遺構の性格・時期ともに今後の検討が必要である。

##### (2) 畝跡（S W1077・1078・1079 第240図）

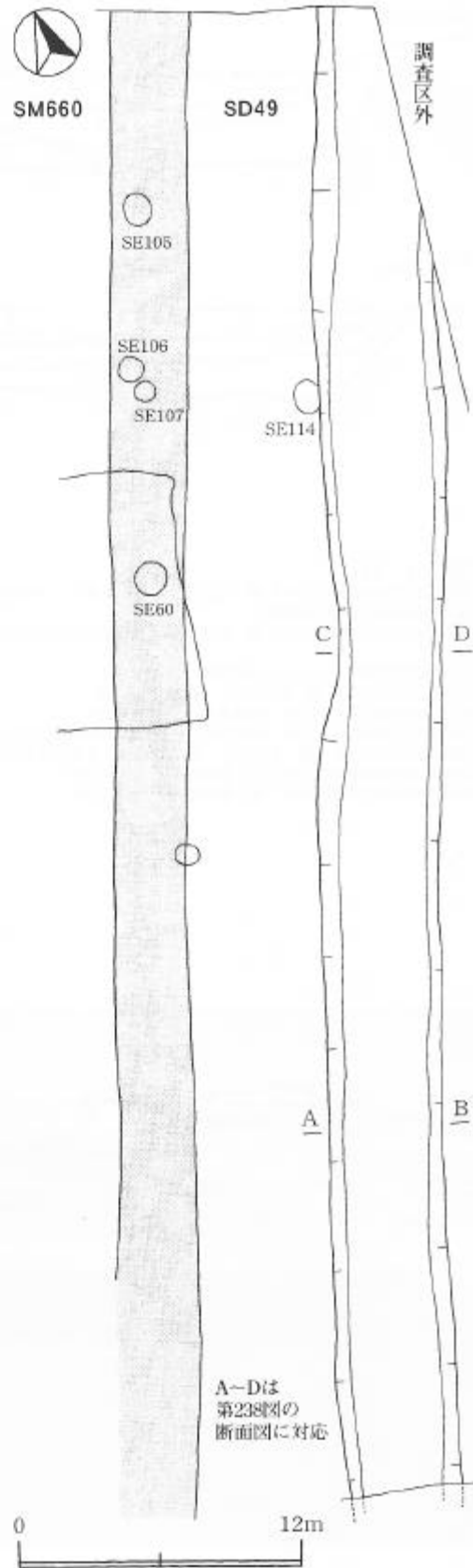
幅の狭く浅い溝がほぼ等間隔に数条並列して検出されたものを畝跡ではないかとして登録している。畝は後世の開墾・耕作等により削平され、畝間（溝）のみ確認されたものと考えられる。畝跡は調査区北東部で3カ所確認され、遺構として残る溝はS D630・666・706等の堀・溝跡にほぼ並行す

(293頁へ)



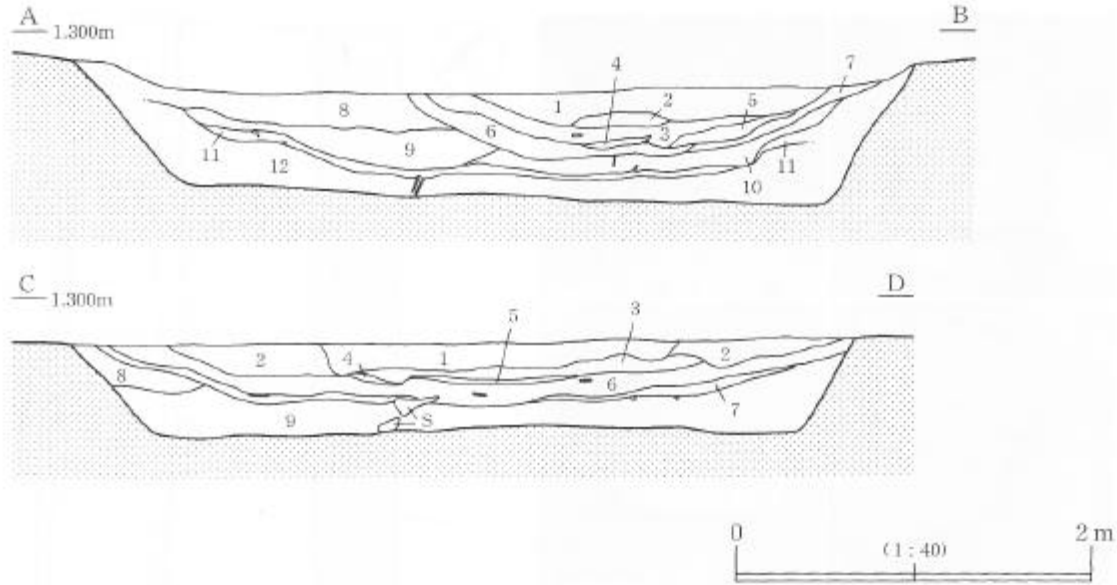
SD49内木製品出土状況

- 1: サバマス(309-4)、2: 漆塗り椀(275-2)、  
 3: 下駄(300-4)、4: 下駄(300-3)、5: 形代(312-3)  
 6: 杓子(282-5)、7: 折敷(283-3)、8: 楸(314-1)



第237図 堀・溝・道路跡(1) SD49(1)、SM660

第4節 検出遺構



SD49 C-D

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂質シルト層、粘性あり、しまり強い、小礫5%・赤褐色の鉄分を筋状に5%含む
- 2.褐灰色(10YR4/1)砂質シルト層、粘性あり、赤褐色の鉄分を筋状に5%含む
- 3.黒色(10Y2/1)砂質シルト層、粘性強い、小礫3%含む
- 4.黒色(2.5Y2/1)シルト層、粘性弱い、炭化物多量含む
- 5.黒褐色(10YR2/2)シルト層、粘性あり、炭化物3%含む
- 6.黒色(5Y2/1)砂質シルト層、粘性あり、小礫3%・木製品多数含む
- 7.黒色(10YR2/1)シルト層、粘性弱い、炭化物多量・木製品多数含む
- 8.褐灰色(10YR4/1)砂質シルト層、粘性弱い、小礫5%含む
- 9.黒褐色(10YR3/1)砂質シルト層、粘性あり、小礫5%含む

A-B

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂質シルト層、粘性あり、赤褐色の鉄分10%・炭化物5%・小礫5%含む
- 2.褐灰色(10YR4/1)砂質シルト層、粘性弱い、鉄分多量・炭化物5%含む
- 3.黒色(10YR2/1)泥炭砂質シルト層、粘性弱い、炭化物多量含む
- 4.黒褐色(7.5YR2/2)シルト層、粘性あり、木片含む
- 5.黒褐色(10YR2/2)シルト層、粘性あり、炭化物5%・木片含む
- 6.黒褐色(10YR2/2)シルト層、粘性あり、炭化物3%・木片含む
- 7.黒色(10YR1.7/1)砂質シルト層(泥炭層に似ている)、粘性弱い、炭化物多量・木片含む
- 8.褐灰色(10YR4/1)砂質シルト層、粘性あり、鉄分5%・小礫5%・炭化物3%含む
- 9.黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト層、粘性あり、小礫5%・炭化物3%・木片3%含む
- 10.黒褐色(2.5Y3/1)シルト層、粘性あり、木片含む
- 11.黒色(10YR2/1)泥炭シルト層、粘性あり、木片含む
- 12.黒褐色(2.5Y3/2)粘土質シルト層、粘性強い、炭化物3%含む



SD49塚跡土層断面(C-D) 写真(南→)

第238図 堀・溝・道路跡(2) SD49(2)土層断面



SD49発跡全景(南西→)  
写真右上の墓地のなかに新屋敷板碑群がある

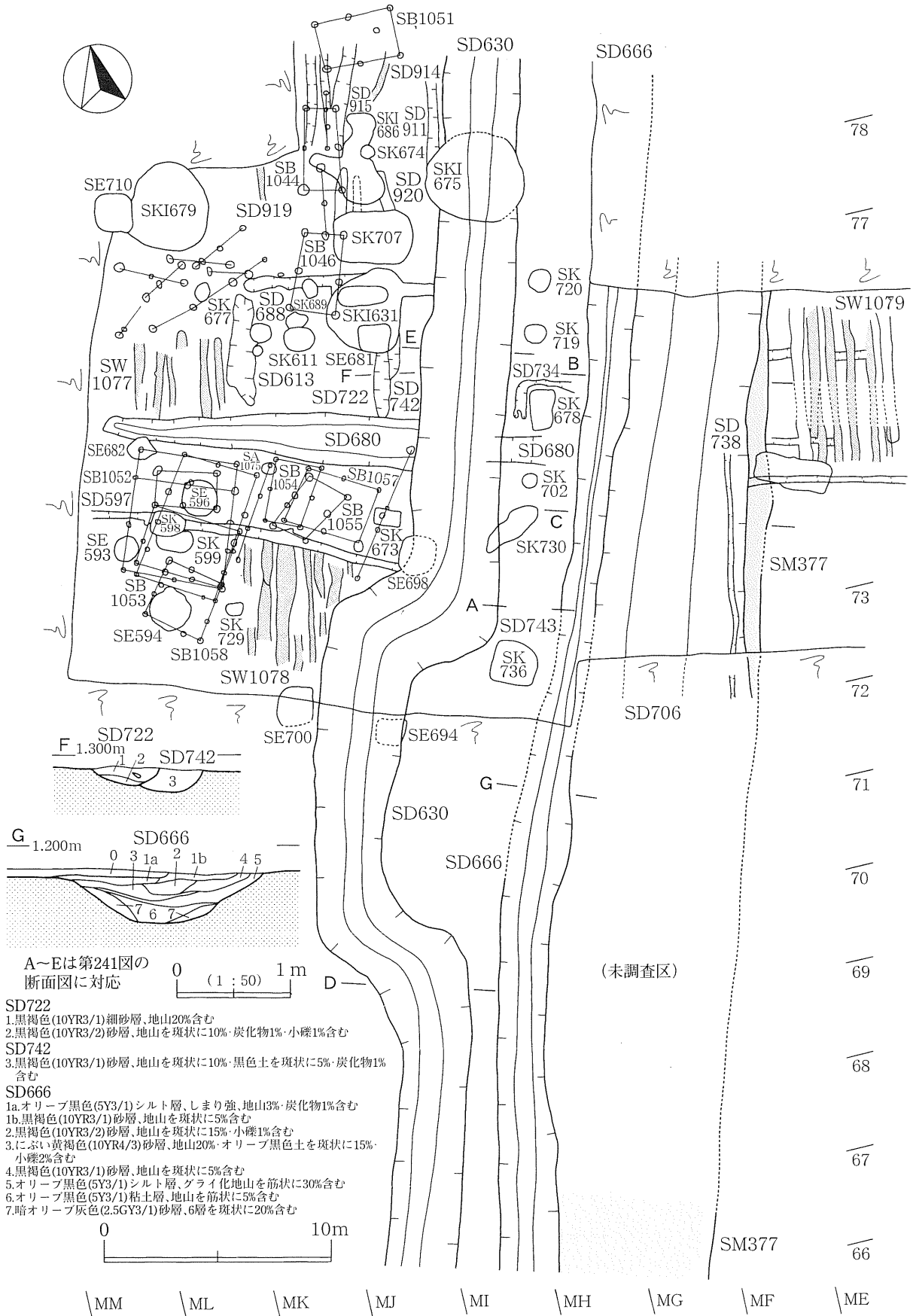


同上 全景(北→)

第239図 堀・溝・遺跡跡(3) SD49(3) 遺構写真



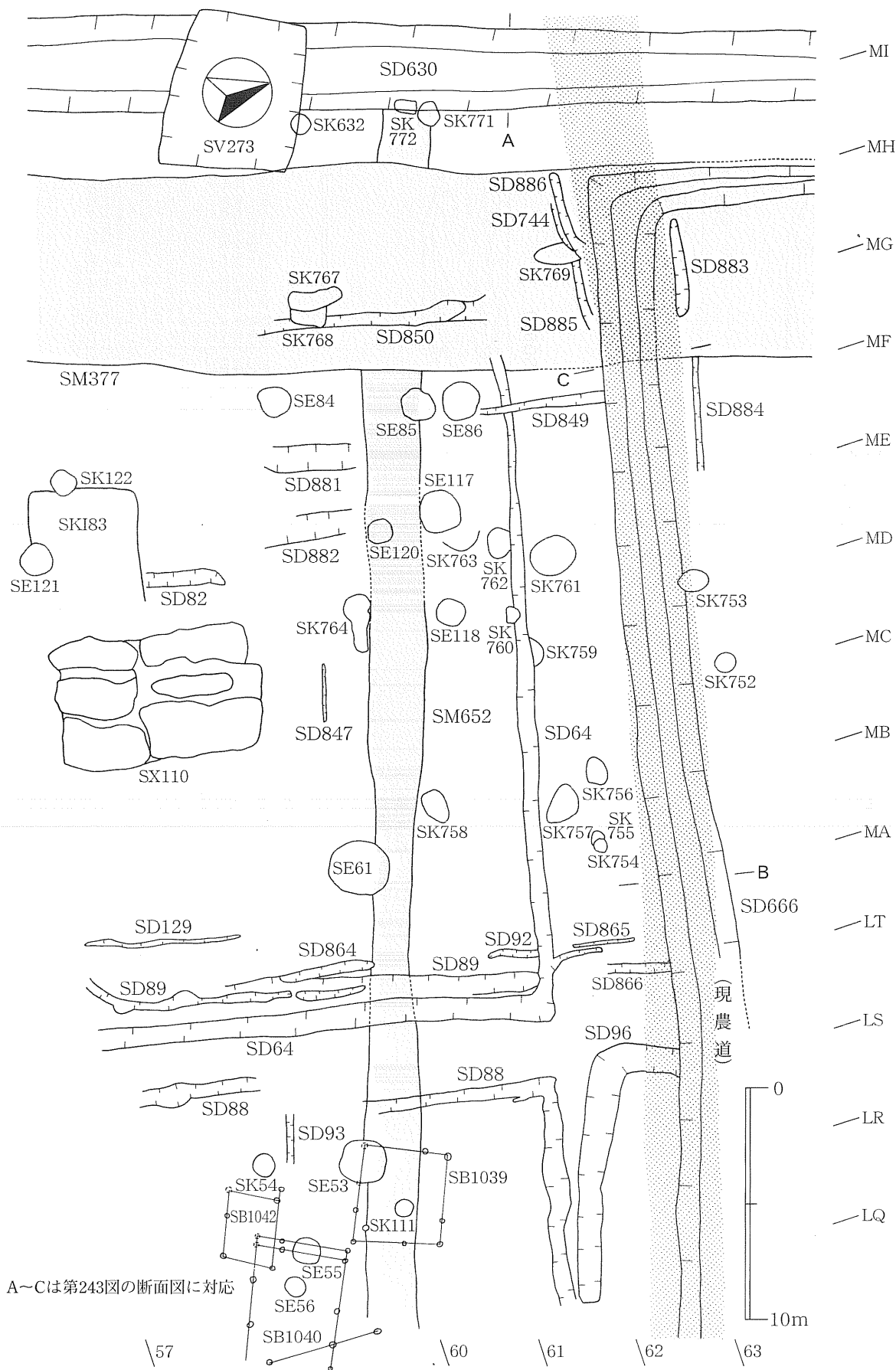
第4節 検出遺構



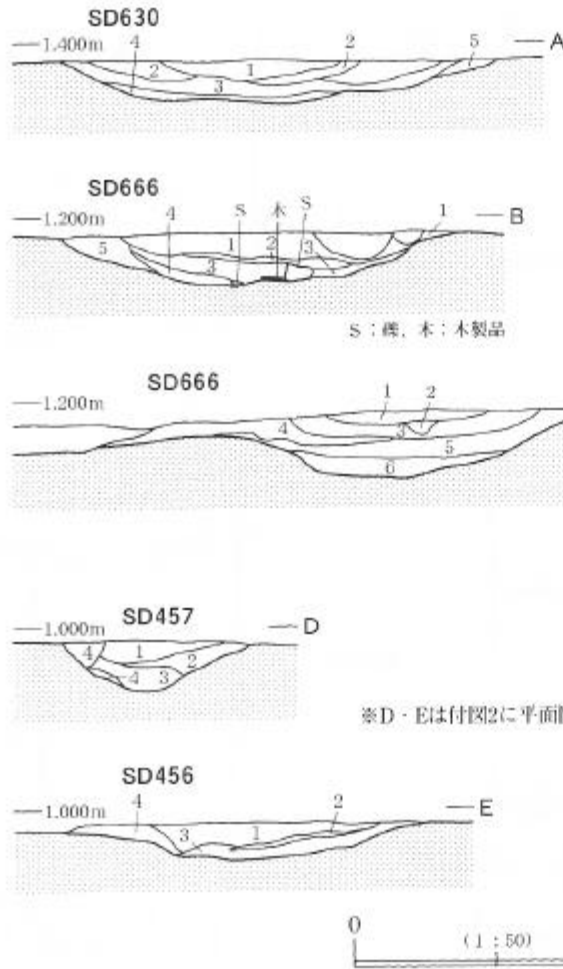
第240図 堀・溝・道路跡(4) 調査区北東部SD630・666・706、SM377(1)全体図







第242図 堀・溝・道路跡 (6) 調査区南東部北側SD666、SM377・652 (1) 全体図



A

SD630

- 1.オリブ黒色(5Y3/1)砂層,地山を斑状に15%・小礫1%含む
- 2.暗オリブ灰色(2.5GY3/1)砂層,グライ化地山30%・小礫5%・炭化物少量含む
- 3.オリブ黒色(5Y3/1)砂層,地山を斑状に20%・小礫1%含む
- 4.オリブ黒色(5Y3/1)シルト層,しまり弱,黒褐色土の腐朽した木30%・地山を筋状に10%含む
- 5.褐色(10YR4/4)砂層

B

SD666

- 1.黒褐色(10YR3/2)粘土層,小礫1%・地山1%含む
- 2.褐色(10YR4/4)砂層,1を斑状に15%含む
- 3.黒褐色(2.5Y3/1)粘土層,地山を斑状に3%・大礫1個含む
- 4.オリブ黒色(5Y3/1)粘土層,地山を斑状に5%・礫1個含む
- 5.暗褐色(10YR3/3)砂層,地山を斑状に15%・小礫2%含む

C

SD666

- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層,地山を斑状に5%・小礫3%含む
- 2.黒褐色(10YR3/1),しまり強
- 3.暗褐色(10YR3/4)砂層,地山を斑状に10%・小礫2%・炭化物1%含む
- 4.オリブ黒色(5Y3/1)粘土層,地山を斑状に20%含む
- 5.黒褐色(2.5Y3/1)粘土層,地山を斑状に3%・大礫1個含む
- 6.オリブ黒色(5Y3/1)粘土層,地山を斑状に5%・礫1個含む

D

SD457

- 1.黒褐色(2.5Y3/2)砂層,地山を斑状に5%含む
- 2.オリブ黒色(5Y3/1)砂層,地山10%・炭化物1%含む,自然堆積か
- 3.暗オリブ褐色(2.5Y3/3)砂層,オリブ黒色土を斑状に15%含む,自然堆積か
- 4.黒褐色(10YR3/1)砂層,地山3%・炭化物2%含む

E

SD456

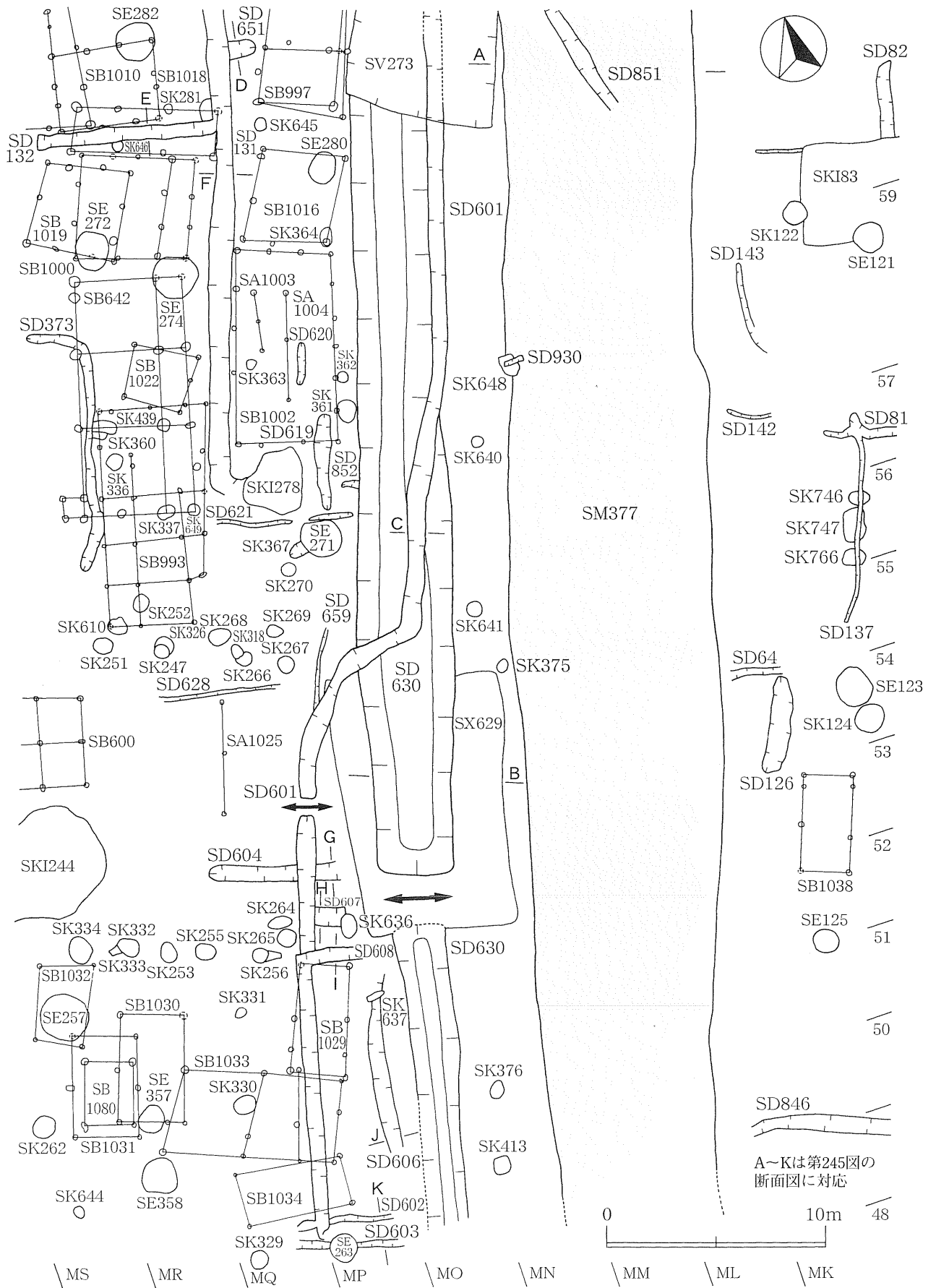
- 1.黒褐色(10YR3/1)砂層,しまり強,地山を斑状に15%・小礫5%・炭化物3%含む
- 2.黒色(5Y2/1)砂層,地山を筋状に5%含む,木成堆積
- 3.暗褐色(10YR3/3)砂層,黒褐色土を筋状に10%含む,自然堆積
- 4.黒褐色(10YR3/2)砂層,小礫3%・地山3%含む



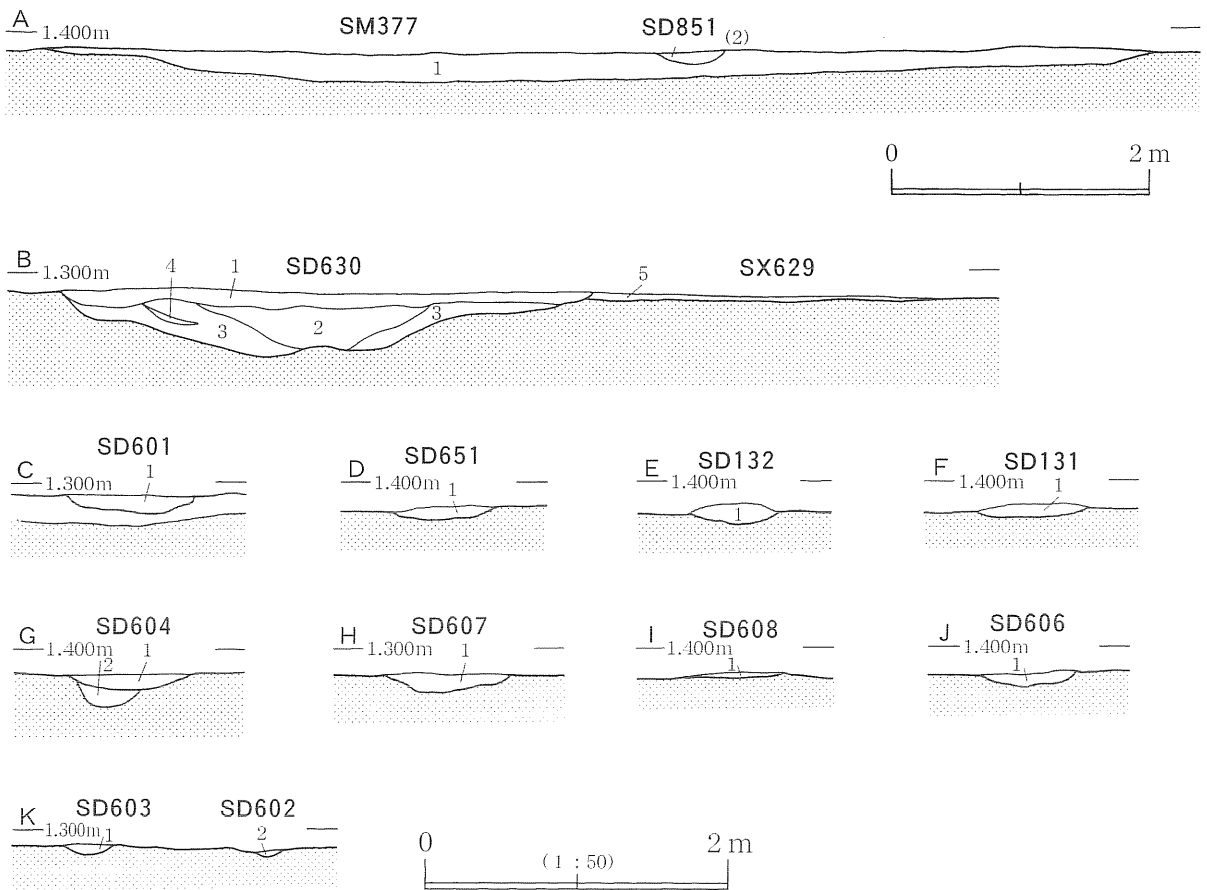
調査風景(南西→)  
調査区北東部を臨む  
手前で実測している  
のがSD630(左)と  
SM377(右)、奥の山  
が五城目町森山

第243図 堀・溝・道路跡(7) 調査区南東部北側SD666、SM377・652(2)土層断面

第4節 検出遺構



第244図 堀・溝・道路跡(8) 調査区中央南部SD630・601、SM377(1)全体図



- A : SM377・SD851**  
1.黒褐色(10YR3/2)砂層  
2.暗褐色(7.5YR3/4)粗砂層,小礫3%・炭化物2%含む
- B : SD630・SX629**  
1.暗赤褐色(5YR3/6)砂層,しまり強,地山を斑状に15%・小礫2%含む  
2.黒褐色(10YR3/2)砂層,黒褐色土を斑状に10%・地山3%・小礫1%・炭化物少量含む  
3.暗褐色(10YR3/3)砂層,黒褐色土を筋状に20%・小礫1%含む  
4.黒褐色(10YR3/1)砂層,地山20%含む  
5.暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂層,地山を斑状に15%・小礫5%含む
- C : SD601**  
1.黒褐色(10YR3/1)砂層,炭化物1%・小礫1%含む
- D : SD651**  
1.黒褐色(2.5Y3/1)細砂層,しまり強,地山を斑状に5%含む
- E : SD132**  
1.褐灰色(10YR4/1)砂層,赤褐色地山3%含む
- F : SD131**  
1.褐灰色(10YR4/1)砂層,赤褐色地山を斑状に5%・小礫3%含む
- G : SD604**  
1.黒褐色(10YR3/1)砂層,地山を斑状に5%・炭化物少量含む  
2.SK2499
- H : SD607**  
1.黒褐色(10YR3/2)砂層,地山を斑状に50%・炭化物1%含む
- I : SD608**  
1.黒褐色(10YR3/1)砂層,地山を斑状に3%含む
- J : SD606**  
1.黒褐色(10YR3/2)砂層,小礫5%・黄褐色地山を斑状に1%含む
- K : SD603・SD602**  
1.黒褐色(10YR3/1)砂層,しまり弱,黄褐色地山10%・炭化物3%含む  
2.黒褐色(10YR3/1)砂層,しまり弱,炭化物5%・地山を斑状に含む

第245図 堀・溝・道路跡(9) 調査区中央南部SD630・601、SM377(2)土層断面

るように南北方向を向く。SW1077は、長さ3m×幅4mの範囲に溝が6条、SW1078では、5m四方の範囲に8～9条が、またSW1079では長さ7m×幅4m程の範囲に5～6条の溝がそれぞれ確認できる。各溝の幅は20～45cm、深さはSW1077・1079で4～8cm、SW1078では3～15cmである。なお、SW1079の東西両端には畝に伴う溝より掘り込みがしっかりとる溝跡(SD715・716)が南北方向に認められる。両溝は幅60cm・深さ25cm前後であり、位置的には畝耕作に伴う何らかの施設であった可能性がある。

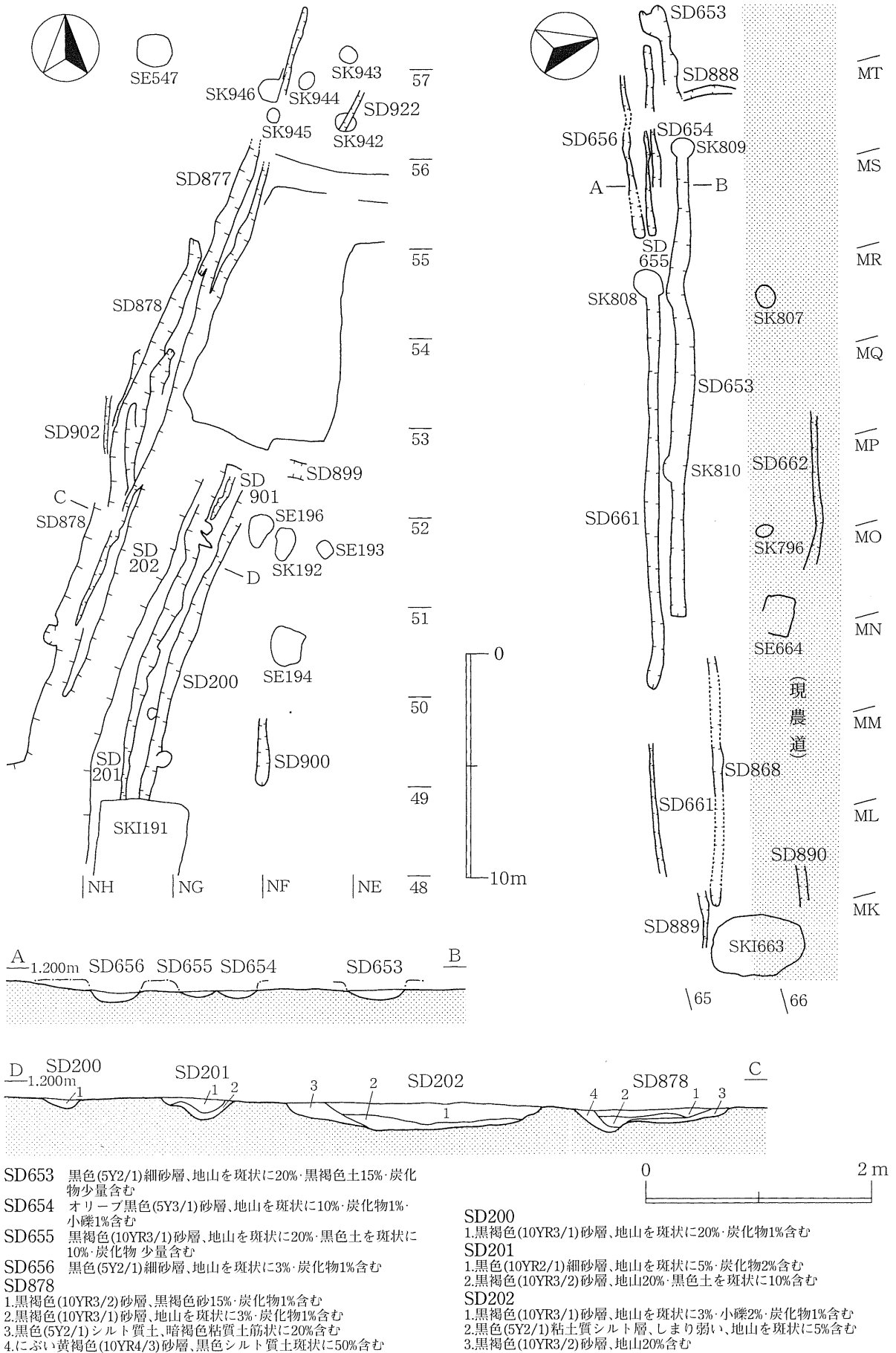
(3) 呼称不明遺構

SX629 (第244図)

SX629は、SD630堀跡南端でこれが途切れる部分に位置する竪穴状の遺構である。長さ12.1m、幅6.9～7.8mの長方形を呈する。深さは最深でも6cmにすぎない。

(298頁へ)





第247図 堀・溝・道路跡 (11) 調査区南西部南東側 (左)、調査区中央南部北端 (右)

第4節 検出遺構



写真1：SD630・666土層断面  
(南西→)  
MI70付近、手前がSD630  
2：SD666・706土層断面(南→)  
MD75付近、手前中央がSD706、  
底面に曲物容器が見える  
3：SD706遺物出土状況  
(ME73付近、底面直上)  
曲物と箸が集中出土

第248図 堀・溝・道路跡 (12) 遺構写真 (1)





SM660道路跡(南東→)

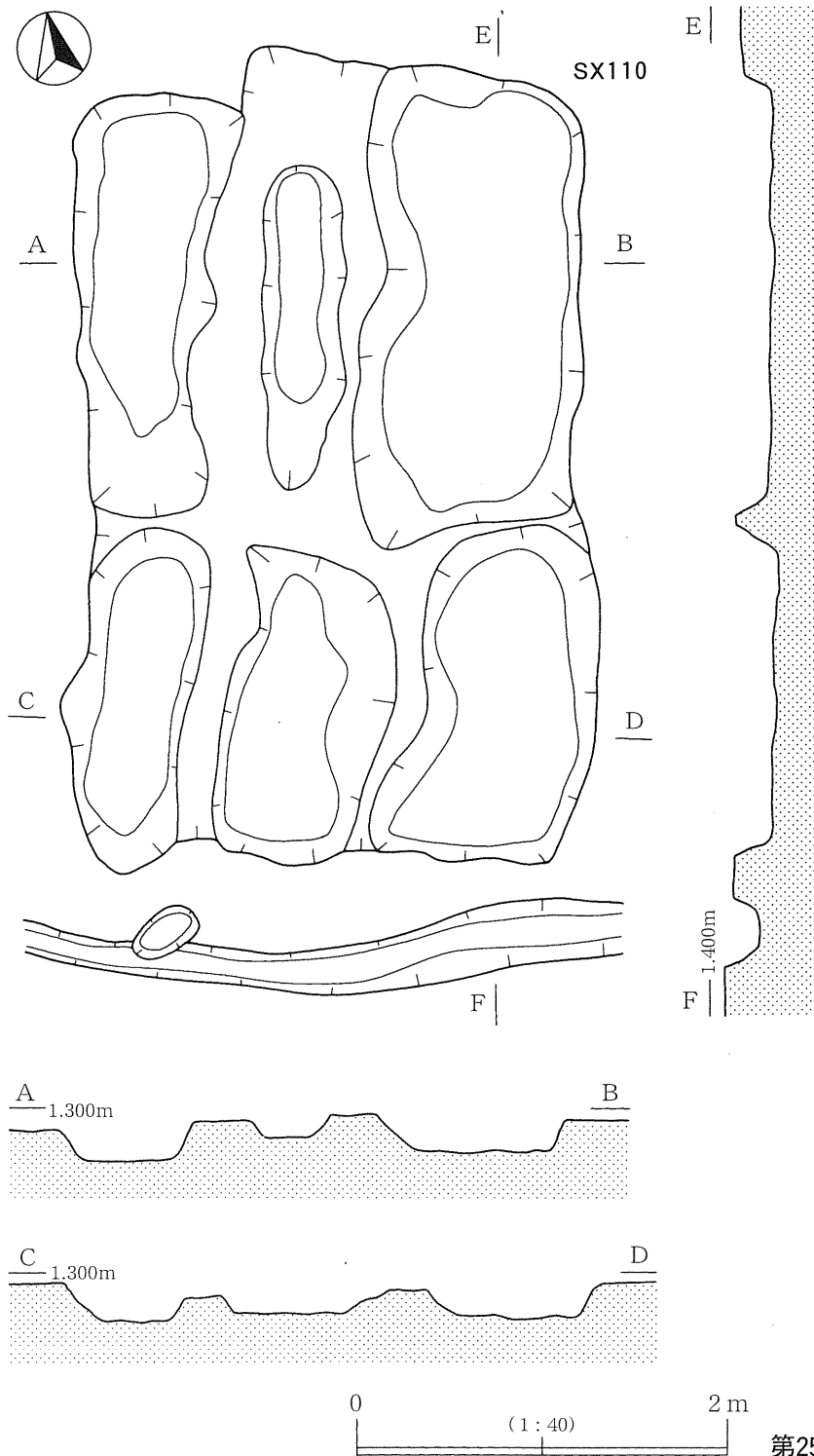


同上(南→)



調査区南東部における  
溝跡群検出状況(北東→)  
SD64・87～89など

第249図 堀・溝・道路跡 (13) 遺構写真 (2)



第250図 呼称不明遺構 SX110

本遺構は形態的に竪穴状遺構であるが、明らかにSD630・601に切られるものであり、その軸線方向はSD630やSM377道路跡とも同一である。このことから、本遺構は道路あるいはSD630堀跡構築に係る何らかの施設と考え、ここに分離して掲載しているものである。

SX110 (第242・250図)

調査区南東部で確認された。長さ3.4~4.8m×幅0.8~2.4mの不整長方形の掘り込みが南北に3基ずつ計6基連結した形状をなし、全体の大きさは、長さ8.5m×幅5.5mの長方形となる。掘り込みの深さは20cm前後であり、堆積土内より土錘が1点出土している。

第4表 掘立柱建物跡属性表

番号	地名	挿図	種類	庇・間仕切り	柱間	主軸方位	規模：cm	掘形径cm	深さcm
SB346	B-1	191	Ⅱ		2×1	16° E	西桁1062南梁365	37~45	23~31
SB396	G	198	Ⅱ		2×1	76° W	北桁395西梁290	25~37	17~35
SB464	A	185	Ⅱ	庇・間仕切り	5(東)×2	12° E	東桁963北梁412	31~79	13~49
SB472	A	184	Ⅱ	二面庇	4(西)×2	23° E	東桁770北梁450	21~30	17~41
SB473	A	184	Ⅰ		4×3	72° W	南桁890東梁845	20~63	19~40
SB481	A	187	Ⅱ		3×1	60° W	北桁635東西梁430	26~40	21~45
SB560	A	184	Ⅰ		4×4	63° W	南桁800西梁745	16~55	13~44
SB562	A	186	Ⅱ	一面庇	3×2	21° E	北桁450西梁334	15~36	10~35
SB563	A	186	Ⅱ	間仕切り	5×2	23° E	西桁1280北梁515	23~55	19~44
SB600	B-1	190	Ⅰ		2×2	16° E	東西南桁405北梁402	21~33	15~44
SB642	B-1	190	Ⅱ	庇・間仕切り ・張出	3×2	16° E	西桁1082南梁385	30~85	11~40
SB958	A	184	Ⅰ		2×2	80° W	南北桁435西梁360	16~38	11~33
SB959	A	184	Ⅱ	四面庇	1×1	12° E	東桁375南梁295	16~38	12~47
SB960	A	184	Ⅱ	一面庇	2×1	26° E	東桁465南梁317	19~55	11~30
SB961	A	184	Ⅱ	一面庇	2×1	70° W	南桁390東西梁125	22~33	22~30
SB962	A	185	Ⅱ	一面庇	5×2	23° E	西桁1344北梁619	19~57	13~47
SB964	A	185	Ⅱ	庇・間仕切り	3×3(東)	79° W	北桁855東梁367	18~31	16~29
SB965	A	185	Ⅱ	建て替え	5×3(5×2)	88° W	南桁930東梁765(西梁410)	15~70	13~45
SB966	A	185	Ⅱ	建て替え	4×2(2×1)	84(88)°W	南桁525西梁515(東梁305)	17~35 (21~28)	12~37
SB967	A	186	Ⅱ		5×2	18° E	東桁1030南梁410	19~65	17~39
SB968	A	186	Ⅱ		4×3	18° E	東桁820南北梁590	18~52	16~35
SB969	A	186	Ⅱ		4×4	17° E	西桁873北梁750	17~45	13~44
SB970	A	186	Ⅱ		2×2	19° E	東桁555南梁415	19~35	13~23
SB971	A	186	(Ⅱ)		—	11° E	(東桁360)(南梁310)	18~30	13~20
SB972	A	187	Ⅱ		3×1	23° E	東桁723南北梁230	19~35	13~32
SB973	A	187	Ⅱ		2×1	9° E	東桁605南梁385	18~35	13~25
SB974	A	187	Ⅱ		2×1	9° E	西桁487南梁203	21~40	8~37
SB975	A	187	Ⅱ		2×1	24° E	東桁472南梁190	16~34	18~30
SB976	A	187	Ⅱ		2×1	10° E	東桁410南梁195	21~31	13~26
SB977	A	187	Ⅱ		3×2	16° E	西桁390南梁315	18~33	15~39
SB978	A	187	Ⅱ		4(北)×2	79° W	南北桁435東西梁335	18~27	10~23
SB979	A	187	Ⅱ		5×3	60° W	北桁695東梁545	19~38	13~34
SB980	A	187	Ⅱ		2×2	67° W	北桁471東梁335	18~42	17~40
SB981	A	187	Ⅱ		2×2	84° W	南桁427西梁300	17~28	16~30
SB982	A	187	Ⅱ		3(南)×1	84° W	北桁600西梁310	16~29	14~28
SB983	A	187	Ⅱ		4×2	83° W	南桁525東梁285	19~25	14~28
SB984	A	187	Ⅱ		2×2	70° W	南桁435東梁333	20~30	16~23
SB985	A	188	Ⅱ		3×2	76° W	北桁465東梁328	17~28	11~24
SB986	A	188	Ⅱ		2×1	71° W	南桁415東梁264	23~33	16~55
SB987	A	188	Ⅱ		2×1	57° W	南桁455東梁245	20~29	19~27
SB988	A	188	Ⅱ		2×1	85° W	北桁355東梁295	17~26	15~24
SB989	A	188	Ⅱ		1×1	67° W	北桁335東梁250	21~28	12~33
SB990	A	188	Ⅱ		2×1	88° W	南北桁443東西梁210	20~38	22~30
SB991	A	188	Ⅱ		2×1	72° W	南桁315東梁225	18~35	10~22
SB992	B-1	189	Ⅳ			75° W	母屋:東390西900南410北1076 庇:東585西535南710北1155	20~35	8~30
SB993	B-1	189	Ⅲ		総柱:4×2 側柱:4×2	17° E	総柱:東桁605南梁392 側柱:北桁485 東西梁400	15~37	10~24

第4節 検出遺構

番号	地名	挿図	種類	庇・間仕切り	柱間	主軸方位	規模：cm	掘形径cm	深さcm
SB994	B-1	189	Ⅱ	庇・間仕切り	4×3	20° E	東桁935南梁792	15~40	11~34
SB995	B-1	189	Ⅱ	間仕切り	7(南) ×6(西)	20° E	東桁950北梁820	15~44	12~28
SB996	B-1	189	Ⅱ	間仕切り	4×3	16° E	北東桁720西梁655	23~44	9~32
SB997	B-1	190	Ⅱ	建て替え	2×1	25(22)°E	東桁535南梁390 (西桁500北梁343)	25~50	15~39
SB999	B-1	190	Ⅱ	庇	4(東)×2	20° E	東桁345南梁325	15~44	16~25
SB1000	B-1	190	Ⅱ	一面庇	4×3	69° W	西桁470北梁406	20~32	13~32
SB1001	B-1	190	Ⅱ	間仕切り	7(南)×3	71° W	南桁910東梁525	18~45	14~32
SB1002	B-1	190	Ⅱ		6(東)×3	17° E	西桁895北桁445	15~29	10~35
SB1005	B-1	190	Ⅱ		4×3	15° E	西桁665南梁536	25~37	3~28
SB1006	B-1	190	Ⅱ		3×2(西)	68° W	北桁595西梁365	25~58	16~27
SB1007	B-1	191	Ⅱ		3×3	14° E	東桁560南梁480	20~30	16~33
SB1008	B-1	191	Ⅱ		4(東)×3	68° W	南桁547東梁505	20~35	17~31
SB1009	B-1	191	Ⅱ		2×2	74° W	南桁525東西梁465	15~35	14~28
SB1010	B-1	191	Ⅱ		3×3	80° W	南桁462東梁361	23~40	11~37
SB1011	B-1	191	Ⅱ		5(西)×1	17° E	西桁650北梁250	15~38	11~30
SB1014	B-1	191	Ⅱ		2×1	30° E	東桁445南梁240	20~40	17~31
SB1015	B-1	191	Ⅱ		2×1	21° E	西桁445南梁330	17~30	9~17
SB1016	B-1	191	Ⅱ		3(西)×2	32° E	西桁430南梁380	20~35	13~30
SB1017	B-1	191	(Ⅱ)		(3×1)	63° W	南700~東300~	23~30	13~25
SB1018	B-1	191	Ⅱ		3×1	69° W	南桁650東西梁200	30~55	21~31
SB1019	B-1	192	Ⅱ		3×3	31° E	東桁405南梁390	23~41	16~32
SB1020	B-1	192	Ⅱ		1×1	22° E	西桁355北梁276	20~30	15~24
SB1021	B-1	192	Ⅱ		1×1	4° E	東桁316南北梁310	22~30	20~30
SB1022	B-1	192	Ⅱ		1×1	59° W	北桁300南梁267	16~50	9~23
SB1023	B-1	192	Ⅱ		1×1	15° E	東桁272南梁240	13~20	9~20
SB1024	B-1	192	Ⅱ		1×1	15° E	西桁232南北梁225	15~21	15~19
SB1029	B-2	193	Ⅱ		4×1	22° E	東桁521南梁254	15~33	8~23
SB1030	B-2	193	Ⅱ		2×1	19° E	西桁500南梁306	19~33	9~19
SB1031	B-2	193	Ⅱ		2×1	19° E	東桁466北梁310	25~37	9~24
SB1032	B-2	193	Ⅱ		1×1	25° E	東桁381北梁250	20~24	11~21
SB1033	B-2	193	Ⅱ	間仕切り	3×3	67° W	南桁793東梁380	15~32	9~24
SB1034	B-2	193	Ⅱ		2(南)×1	83° W	北桁495西梁245	15~26	9~30
SB1035	B-3	194	Ⅱ		2×1	57° W	北桁446西梁242	20~38	8~32
SB1036	B-3	194	Ⅱ		1×1	36° E	西桁369南梁230	25~30	13~26
SB1037	C	194	Ⅱ	間仕切り	3×2	21° E	西桁812北梁512	25~38	10~26
SB1038	C	194	Ⅱ		4(東)×1	21° E	東西桁449南北梁230	17~27	9~20
SB1039	D	195	Ⅱ		3×3	68° W	南桁425西梁390	20~33	11~28
SB1040	D	195	Ⅱ	二面庇	3×2	65° W	南桁479西梁284	16~32	6~20
SB1041	D	195	Ⅱ		2×2	17° E	西桁445北梁324	16~40	9~18
SB1042	D	195	Ⅱ		2×1	66° W	北桁345東西梁225	21~26	7~27
SB1043	D	195	Ⅱ		3×2	15° E	西桁270南梁230	18~24	14~20
SB1044	E	196	Ⅱ		2×1	11° E	西桁363南梁168	28~50	14~38
SB1045	E	196	Ⅱ		2×1	23° E	西桁390北梁170	18~23	9~30
SB1046	E	196	Ⅱ		2×1	21° E	東桁352南梁200	27~36	17~45
SB1047	E	196	Ⅱ		2×1	73° W	北桁472西梁245	21~37	11~42
SB1048	E	196	Ⅱ		1×1	18° E	西桁265南梁250	19~31	13~28
SB1049	E	196	Ⅱ		1×1	67° W	北桁379西梁266	24~42	23~34
SB1050	E	196	Ⅱ		1×1	80° W	南桁274西梁206	25~29	13~24

番号	地名	挿図	種類	庇・間仕切り	柱間	主軸方位	規模：cm	掘形径cm	深さcm
SB1051	E	196	Ⅱ		2×1	89° W	北桁337東梁214	25～37	14～20
SB1052	F	197	Ⅱ	一面庇	3(東)×2	22° E	南桁451東梁436	20～32	14～46
SB1053	F	197	Ⅱ		4×3(南)	35° E	東桁578南梁368	17～35	17～33
SB1054	F	197	Ⅱ		2×1	29° E	東桁278北梁205	17～25	8～19
SB1055	F	197	Ⅱ		2×1	55° E	西桁270北梁188	24～40	27～38
SB1056	F	197	Ⅱ		3(南)×3	60° W	北桁400西梁266	20～35	11～30
SB1057	F	197	Ⅱ		2×2	60° W	南桁342西梁253	20～50	7～43
SB1058	F	197	Ⅱ		3×2	51° W	南桁274東梁268	17～35	13～28
SB1059	F	197	Ⅱ		1×1	72° W	南桁280東梁160	25～49	11～40
SB1060	G	198	Ⅱ		2×1	4° E	西桁470南梁197	18～36	11～31
SB1061	G	198	Ⅱ		2×1	4° E	東桁444北梁256	24～32	20～34
SB1062	G	198	Ⅱ		2×1	13° E	西桁327北梁250	22～36	16～21
SB1063	G	198	Ⅱ		1×1	21° E	東桁239南梁153	20～25	19～30
SB1064	G	198	Ⅱ		1×1	17° E	東桁215南梁176	21～27	15～34
SB1065	G	198	Ⅱ		2×1	68° W	南桁568西梁205	22～34	12～32
SB1066	G	198	Ⅱ		2×1	70° W	南桁371東西梁250	20～37	15～33
SB1068	G	198	Ⅱ		1×1	80° W	南桁288東梁245	38～58	23～35
SB1069	G	198	Ⅱ		2×1	19° E	西桁285北梁280	17～26	10～34
SB1070	A	186	Ⅱ		2×1	45° W	南桁400西梁300	18～40	8～27
SB1072	B-1	189	Ⅱ	間仕切り	2×1	11° E	西桁720南梁348	20～44	16～31
SB1080	B-2	193	Ⅱ		1×1	20° E	西桁305南梁220	22～36	8～15

第5表 柱穴列属性表

遺構番号	地名	挿図	主軸方位	規模:長さcm	柱穴径cm	深さcm	備 考
SA1003	B-1	190	10° E	271	17～29	19～30	
SA1004	B-1	190	16° E	495	18～25	11～16	
SA1012	B-1	191	19° E	260	18～25	16～27	
SA1013	B-1	191	25° W	422	13～25	9～21	
SA1025	B-1	192	17° E	265	19～23	12～25	
SA1026	B-1	192	15° E	580	12～30	14～23	
SA1027	B-1	192	2° E	515	15～25	14～23	
SA1028	B-1	192	70° W	785	25～33	17～25	
SA1071	B-1	189	18° E	860	16～20	13～25	SB995が並行する
SA1073	D	195	34° E	350	20～24	20	
SA1074	D	195	21° E	285	18～24	16～26	
SA1075	F	197	37° E	486	16～20	17～19	
SA1076	F	197	31° E	615	20～34	15～37	

## 《堀跡出土遺物一覧》

## S D49

陶器 (瀬戸254-3、8、12、13、255-2、7～10、256-1、5、6・珠洲播鉢259-2～5、263-4、6、8、264-2、4・珠洲甕267-1～3)、土器 (瓦器270-2、3)、磁器 (271-2)

木製品 (木筒273-1～3、8、11・漆塗り皿274-2、4～7、13・漆塗り椀275-2、5、7、9～11、276-2、4、277-1、4、5、279-1、280-3・板杓子282-2、5～7・折敷283-3、284-1～3、6、285-9、286-1～3、5・鍋蓋287-2～5、7・曲物底板291-5、8、292-1～4、12、293-3、7、8・箱294-6、7・把手294-12・栓295-2～4、8・櫛296-1・扇子骨296-4～7、296-8、9・刀子柄297-3～6、8・刀子鞘297-9～13・下駄298-4～8、300-1、3～6、303-4～6・草履芯304-4～6、8～12、14～17、305-1～6、9、10、12、13、306-1～12・障子格子307-1～8、14、15・自在鉤308-1・火鑽臼308-2・糸巻308-3・紡錘車308-4、5・手押車308-6、7・用途不明具309-1・的309-2・サバマス309-4～7・人形310-2～4、8～11・刀子形310-12、15、16・用途不明具310-18・杓子形311-1、2・用途不明具311-4～9、11、14、16～20・312-3・笛313-1・羽子板313-3・荷札313-5・天秤棒313-6・砥石台313-9・鍬314-1・横槌314-2・編物316-1、2・用途不明具317-1～7、9～13、318-1、2、4、5、7、10～12、319-12～15、320-4、6、7～9、11～14、321-1、3、7、8、9、323-1～4、6、324-1～4、7～12、325-1、4～6、8、9、11、12、326-1～6、8、9、10、15、16、327-2、4)

石器 (砥石332-2、12)

土鍾49点・334-9、335-22、40、336-48

銭貨 (皇宋通寶338-52・元祐通寶338-53・紹聖元寶338-54、55・寛永通寶339-67)、金属製品 (煙管331-8)

自然遺物 (トチノキ・オニグルミ・ブナ・キカラスウリ等の種子・種実、ブナ・コナラ・カエデ属・ヤナギ属等の葉、ガムシ等の昆虫)

第6表 土坑属性表

遺構番号	検出位置	掲載図	重複	平面形	長軸×短軸×深さ	備考・遺物
SK24	MB74	214		楕円形か	86×54×18	銭貨(338-46・47)
SK51	MB49	219		略円形	168×140×18	
SK52	MC48	227		楕円形	93×58×26	
SK54	LS58	195		略円形	98×94×23	
SK59	LQ53	227		略円形	99×98×30	珠洲播鉢(262-5)
SK63	LR54	227		略円形	89×80×37	
SK67	ME49	219		楕円形	188×145×19	
SK69	ME53	227		楕円形	80×67×16	
SK70	MF54	227		略円形	68×62×19	
SK71	MF54	227		略円形	58×53×23	瀬戸(254-1)
SK72	MF54	219		略円形	176×165×18	
SK73	ME55	219		略円形	122×108×23	
SK76	MC49	227		略円形	66×59×23	
SK77	MC46	227		略円形	72×69×28	
SK78	MC46	227		楕円形	100×80×19	
SK94	MB51	219		楕円形	195×142×26	
SK95	MG51	194		楕円形	74×38×15	
SK111	LR60	195		略円形	77×74×43	
SK122	MG58	211	>SK183	略円形	107×96×26	
SK124	MH53	220		略円形	141×124×28	
SK135	MA57	227	>SD133, <SD64	略円形か	76×(48)×24	
SK163	NL52	220		略円形	184×164×26	
SK173	NH63	220		略円形	117×115×50	
SK175	NI61	付1	<SE174	楕円形か	(125)×92×29	
SK187	NP51	付1	>SK157	略円形	50×46×31	
SK192	NE51	215		略円形	146×86×46	
SK198	NH60	220		略円形	130×114×27	
SK223	MS62	216	>SK224, >SKP2759	略円形	104×82×47	漆塗り椀(280-2)2点
SK224	MS62	216	<SK223	略円形	91×89×26	
SK229	MS61	79	>SE228	略円形	94×(67)×20	
SK233	MS60	220		略円形	110×99×30	
SK234	MS57	228		略円形	93×82×23	
SK235	MR57	220		楕円形	188×140×32	
SK245	MQ56	81	<SE315	楕円形	316×(200)×50	珠洲播鉢(261-4)、 SE315と接合
SK247	MO56	228	>SK326	略円形	74×63×13	
SK249	MQ57	202	>SKI246	略円形	312×(294)×62	
SK251	MP56	228		楕円形	91×69×25	
SK252	MO57	228	>SKP1060	楕円形	84×67×18	
SK253	MP53	228		楕円形	98×73×25	
SK255	MP53	228		楕円形	94×76×19	
SK256	MO52	228	>SD931	略円形	71×71×16	
SK258	MR53	228		略円形	68×67×22	
SK262	MR51	193		略円形	108×94×44	
SK264	MO53	225		楕円形	110×57×18	
SK265	MO52	228		楕円形	87×80×17	
SK266	MN56	228	<SK318	略円形か	77×76×22	
SK267	MN55	228		略円形	77×75×30	

(単位cm)

遺構番号	検出位置	掲載図	重複	平面形	長軸×短軸×深さ	備考・遺物
SK268	MN56	225		隅丸方形	106×77×25	
SK269	MN56	228		楕円形	80×56×24	
SK270	MM56	228		略円形	64×60×27	
SK281	MM62	221	<SD132	略円形か	135×(59)×32	
SK283	MM63	228		隅丸方形	87×76×58	
SK303	NG65	221		略円形	120×116×38	
SK318	MN56	228	>SK266	楕円形	67×52×16	
SK321	MS53	221		略円形	101×84×23	
SK326	MO56	228	<SK247	略円形か	86×(86)×28	
SK329	MP49	229		略円形	88×81×15	
SK330	MP51	193		楕円形	104×80×20	
SK331	MP52	193		略円形	53×42×14	
SK332	MP53	229	>SK333	略円形か	106×79×18	
SK333	MQ53	229	<SK332	楕円形か	48×40×12	
SK334	MQ53	221		略円形	114×106×19	
SK336	MO58	229		略円形	74×70×10	
SK337	MN58	229		楕円形	84×61×21	
SK339	MO62	225		楕円形	151×64×18	
SK340	MQ63	229		略円形	50×46×24	
SK341	MR62	229		略円形	60×58×18	
SK342	MR62	229	<SK343,<SKP2766	楕円形か	67×(39)×33	土錘(334-12)
SK343	MR62	229	>SK342	略円形	58×50×25	
SK344	MR62	229		楕円形か	80×66×30	
SK345	MS62	191		略円形	46×45×28	
SK347	MS61	229		隅丸方形か	70×63×60	
SK348	MS61	229		楕円形	96×74×22	青磁(251-2)
SK349	MR60	229		略円形	78×65×29	
SK350	MR59	180	>SE369	楕円形	118×72×28	
SK351	MR59	229		略円形	60×59×24	
SK352	MR58	229		楕円形	88×70×20	
SK353	MS56	221		略円形	209×201×30	上屋あり
SK360	MO59	229	<SK439<SD373	隅丸方形か	(72)×(64)×14	
SK361	ML58	225		楕円形	105×85×28	
SK362	ML58	230		略円形	53×47×18	
SK363	MM59	230		略円形	52×44×25	
SK364	ML60	230	<SKP3050	楕円形	86×57×42	
SK365	MT53	221	>SK321,>SD356	楕円形	190×(120)×62	
SK366	MT55	221		略円形	107×93×39	
SK367	MM57	244	<SE271	楕円形	(70)×62×13	
SK375	MK55	230		楕円形	67×51×14	
SK376	MM50	230		楕円形	84×63×20	
SK379	NF79	225		楕円形	109×50×12	
SK382	NF79	230		略円形	76×67×19	
SK383	NG79	225		楕円形	124×69×19	
SK384	ND79	230		略円形	68×59×16	
SK386	NC79	230	>SE385	略円形か	52×49×20	
SK387	ND80	230		略円形	59×48×25	
SK388	ND80	230		楕円形	69×52×21	
SK389	ND80	230	<SK390	略円形	44×41×15	
SK390	ND80	230	>SK389	略円形か	44×40×12	

第4節 検出遺構

遺構番号	検出位置	掲載図	重 複	平面形	長軸×短軸×深さ	備考・遺物
SK392	NF78	149	<SE393	楕円形か	102×62×16	
SK394	NG82	222	>SK395	楕円形	126×97×19	
SK395	NG82	222	<SK394	略円形	84×74×12	
SK397	ND80	198	>SK396	楕円形	39×26×14	
SK409	NC80	230		楕円形	59×42×22	
SK413	MM49	230		隅丸方形	82×78×35	
SK421	NF78	231		略円形	91×77×21	
SK424	MF83	231		略円形	83×77×20	
SK425	MF82	222		楕円形	113×87×29	
SK426	MF82	222		略円形か	91×70×28	珠洲掘鉢(263-5)
SK427	MF82	222		楕円形	108×56×32	
SK428	MF82	231		楕円形	106×70×18	
SK429	MD81	231		楕円形	86×63×26	
SK439	MO59	229		楕円形	(106)×61×24	
SK442	NQ75	222	<SKP3047	楕円形	110×87×26	
SK443	NR75	231	>SKP1931	略円形	85×77×16	
SK444	NR75	231	>SKP1979	略円形	90×85×16	
SK445	NR76	231		略円形	80×74×15	
SK446	NQ76	231		楕円形	54×36×22	
SK447	NQ76	231		楕円形	68×37×16	
SK448	NS76	231	>SKP2217	略円形	70×60×13	
SK449	NR74	225		楕円形	143×85×14	
SK450	NQ75	231	>SKP2997	略円形	85×83×20	
SK452	NR74	222		略円形	142×131×18	
SK453	NR74	222		略円形	127×124×26	
SK454	NS75	231	<SD455	略円形か	60×(38)×19	
SK460	NQ79	231	>SKP2179	楕円形	96×65×19	
SK461	NQ80	231		楕円形か	95×65×31	
SK462	NQ81	232	<SKP2936	略円形	91×88×20	
SK463	NQ81	232	<SKP2062, <SKP3060	略円形か	75×71×14	
SK465	NR80	232		楕円形	72×50×32	自然遺物(クルミ)
SK466	NQ82	107	<SE467	楕円形	110×68×26	
SK468	NR80	232		略円形	49×44×39	
SK469	NR80	232		略円形	57×48×21	
SK470	NR79	232		略円形	65×60×26	
SK474	NQ78	232		楕円形	81×45×27	
SK476	NP82	225	>SKP1956	楕円形	112×57×26	
SK478	NP82	232		略円形	44×43×27	
SK479	NO84	232		楕円形	53×31×18	
SK483	NP79	232		楕円形	94×54×29	瓦器火鉢(270-7)
SK485	NP77	222	<SKP2281	楕円形	103×78×19	
SK486	NP77	222		略円形	84×80×19	
SK487	NP77	232		略円形	74×67×24	
SK488	NP77	232		楕円形	97×56×34	
SK489	NP78	232	>SD457	略円形	95×85×19	
SK490	NP78	225	>SD457	楕円形	110×52×18	
SK494	NO80	225		楕円形	120×74×16	
SK496	NO80	232		楕円形	74×53×22	
SK498	NO79	233		略円形	76×74×19	
SK499	NO79	233		略円形	82×73×15	



遺構番号	検出位置	掲載図	重複	平面形	長軸×短軸×深さ	備考・遺物
SK500	NP79	233		楕円形	79×50×16	
SK501	NQ78	222	>SD457	隅丸方形	120×112×24	
SK503	NP76	223	>SD456	隅丸方形	198×177×45	
SK505	NP79	233	<SD506	略円形	79×74×15	
SK506	NP79	233	>SK505	略円形	63×47×27	
SK515	NO77	233	>SD516	楕円形	46×41×16	
SK517	NO77	233	<SD456	略円形	67×(55)×16	
SK527	NP82	233		略円形	44×37×33	
SK534	NN84	223		楕円形	110×82×46	
SK545	NJ51	付1	<SE317・543・544	隅丸長方形	273×185	プラン確認のみ
SK549	NK69	246		楕円形	330×100	プラン確認のみ
SK555	NA60	223		略円形	137×116×27	
SK556	NA58	233		略円形	73×65×18	
SK559	NP81	233		略円形	53×46×18	
SK561	NP83	233		楕円形	64×40×23	
SK564	NQ80	233		略円形	46×42×30	
SK565	NR78	233		楕円形	54×41×18	
SK566	NQ77	233		略円形	48×47×22	
SK567	NR78	233	<SKP1507, <SKP3048	楕円形	69×62×13	
SK595	MJ74	159	<SE594	楕円形か	98×78×31	
SK598	MJ75	197	<SK599	楕円形	146×109×44	
SK599	MJ75	197	>SK598	楕円形か	106×(61)×42	
SK610	MO56	234	>SK616	略円形か	89×84×20	
SK611	MH76	196	<SK615	楕円形	134×109×31	
SK615	MS55	224		略円形	112×111×40	
SK616	MS55	224		楕円形	164×(100)×37	
SK617	MS55	234		略円形	90×76×35	
SK622	NB53	234		楕円形	58×36×32	
SK632	MJ62	234	>SV273	略円形	80×79×49	砥石(332-4)
SK634	MS52	194		楕円形	84×64×23	
SK635	MT59	234		楕円形	71×55×18	珠洲掘鉢(264-14)
SK636	MN52	225		楕円形	111×68×22	
SK637	MN51	234		楕円形	83×30×10	
SK638	MT61	224		楕円形	106×82×17	
SK639	MT61	付3		略円形	35×31×22	
SK640	MK57	234		略円形	57×54×15	
SK641	ML55	234		略円形	69×68×12	
SK643	MS52	194		楕円形	76×40×20	
SK644	MR50	234		略円形	53×45×17	
SK645	ML61	234		略円形	57×52×33	
SK646	MN62	234	<SD132	略円形	50×48×20	
SK647	MM63	235		略円形	42×42×33	
SK648	MJ58	224	<SM377	楕円形	102×73×18	
SK649	MN57	235		略円形	52×48×31	
SK657	MR57	215	<SKP3021	略円形	60×46×29	
SK665	LT73	218	>SK748	雪ダルマ形	239×114×23	
SK670	MF80	196	<SKP2426	楕円形	64×48×10	
SK671	MF80	196		略円形	82×79×15	
SK672	MG80	196		楕円形	74×52×14	
SK673	MG74	197	<SKP2578	方形	117×72×25	銭貨(338-48・49)

第4節 検出遺構

遺構番号	検出位置	掲載図	重複	平面形	長軸×短軸×深さ	備考・遺物
SK674	MG78	196		略円形	64×59×7	
SK677	MI77	235		楕円形	86×64×10	
SK678	ME75	226		方形	180×112×34	
SK684	LT74	226		隅丸方形	140×136×16	
SK685	MH77	223		楕円形か	99×59×22	
SK689	MG77	196	>SD688	楕円形か	87×66×13	
SK690	LT74	226	<SKP2562	隅丸方形	133×98×15	
SK691	LT74	235		略円形	88×84×15	
SK692	MH75	224	<SD934<SD693	隅丸方形	102×98×54	
SK695	MA73	225		楕円形	166×68×23	剥片(11-5)
SK696	LT73	224		楕円形	144×122×18	
SK697	MB73	226		隅丸方形	152×127×32	
SK699	MH75	197		楕円形	68×49×15	
SK702	MF74	235		略円形	59×58×17	
SK703	MB73	235		略円形	79×74×9	
SK707	MF77	196		隅丸方形	340×228×28	
SK709	MH75	235	<SD597	楕円形か	90×(43)×34	
SK714	MA73	236	<SD713	楕円形	77×59×18	
SK717	MB74	236		楕円形	74×54×25	
SK718	MF78	236		楕円形	60×38×12	
SK719	ME76	236		略円形	98×90×21	
SK720	ME77	236		略円形	101×101×17	
SK721	MG76	236	<SD722	隅丸方形	54×46×12	
SK724	LT73	218	>SK725,<SK748	楕円形か	80×56×17	
SK725	MA73	218	<SK724	楕円形	116×85×17	
SK726	MA72	224	<SKP2671,<SKP2672	略円形か	120×(69)×17	
SK729	MI74	197	<SKP2526,>SKP2541	楕円形	80×58×22	
SK730	MF74	240		楕円形	290×105×35	珠洲擂鉢
SK731	MH75	236	>SD597,<SKP2611	楕円形	44×30×13	
SK732	MA72	224	<SKP2675,<SKP2676	略円形	112×90×14	
SK736	MF72	226		隅丸方形	196×191×28	
SK740	LT72	236		略円形	53×51×20	
SK741	LT73	224	<SD704	楕円形か	154×134×31	
SK745	LT74	付2左		楕円形	115×65×9	
SK746	MG55	244	SD137	楕円形	100×65	プラン確認のみ
SK747	MG55	244	SD137	楕円形	160×100	プラン確認のみ
SK748	LT72	218	<SK665	楕円形	137×100×19	
SK749	LT70	付1		楕円形	130×90	プラン確認のみ
SK750	MA71	付1		略円形	108×100	プラン確認のみ
SK751	MB71	付1		略円形	80×75	プラン確認のみ
SK752	MC65	242		略円形	90×85	プラン確認のみ
SK753	MD65	242	>SD666	略円形	110×90	プラン確認のみ
SK754	MA63	242	>SK755	略円形	65×55	プラン確認のみ
SK755	MA63	242	<SK754	略円形	60×(45)	プラン確認のみ
SK756	MB63	242		楕円形	130×90	プラン確認のみ
SK757	MB62	242		楕円形	175×120	プラン確認のみ
SK758	MB61	242		楕円形	155×100	プラン確認のみ
SK759	MC63	242	SD64	楕円形か	120×(40)	プラン確認のみ
SK760	MD63	242	<SD64	略円形か	70×60	プラン確認のみ
SK761	MD63	242		楕円形	200×160	プラン確認のみ

遺構番号	検出位置	掲載図	重 複	平面形	長軸×短軸×深さ	備考・遺物
SK762	ME63	242	>SD64	略円形	120×100	プラン確認のみ
SK763	ME62	242		略円形か	160×(60)	プラン確認のみ
SK764	MD61	242		楕円形	250×120	プラン確認のみ
SK765	MI65	付1	>SD630	隅丸方形	150×140	プラン確認のみ
SK766	MG55	244	SD137	楕円形	100×75	プラン確認のみ
SK767	MH61	242	>SM377,>SK768	楕円形	225×85	プラン確認のみ
SK768	MH61	242	>SM377,>SD850,<SK	隅丸方形か	155×(90)	プラン確認のみ
SK769	MG64	242	>SM377,<SD744,<SD	楕円形	(170)×95	プラン確認のみ
SK770	MH64	付1	SM377	楕円形	115×55	プラン確認のみ
SK771	MI63	242	SD630,SM652	略円形	100×95	プラン確認のみ
SK772	MI63	242	SD630,SM652	隅丸方形か	90×50	プラン確認のみ
SK773	ML85	付1		略円形	90×80	プラン確認のみ
SK774	ML86	付1		略円形	45×45	プラン確認のみ
SK775	MM85	付1		略円形	95×75	プラン確認のみ
SK779	MN83	付1		略円形	70×55	プラン確認のみ
SK780	MN83	付1		略円形	50×50	プラン確認のみ
SK784	ML75	付1	SE783	略円形	90×(75)	プラン確認のみ
SK788	MK71	付1		略円形	70×70	プラン確認のみ
SK790	MM71	付1	SE789	略円形か	(90)×(70)	プラン確認のみ
SK791	MM71	付1	SE789	略円形か	(90)×(45)	プラン確認のみ
SK794	ML69	付1	SE793	略円形か	55×(55)	プラン確認のみ
SK795	MN70	付1		略円形	70×60	プラン確認のみ
SK796	MO67	247		略円形か	55×(50)	プラン確認のみ
SK801	MP72	付1	SE800	略円形か	80×(60)	プラン確認のみ
SK807	MQ67	247		略円形	100×80	プラン確認のみ
SK808	MR66	247	SD661	略円形	115×110	プラン確認のみ
SK809	MS67	247	SD653	略円形	105×80	プラン確認のみ
SK810	MP66	247	SD653	楕円形か	130×(35)	プラン確認のみ
SK811	MQ62	229		楕円形	70×52×19	
SK812	MR54	付3		略円形	50×43×9	
SK813	MR52	194	SD605	楕円形	145×(60)×22	
SK816	NR60	付1		楕円形	290×135	プラン確認のみ
SK821	NM70	246	SD897	方形	85×(80)	プラン確認のみ
SK822	NK59	付1		略円形	90×90	プラン確認のみ
SK823	NK59	付1		略円形	95×75	プラン確認のみ
SK824	NO77	付2	>SD457	略円形	85×80×20	
SK874	LR62	付1		略円形	95×70	プラン確認のみ
SK875	LQ62	付1		略円形	85×65	プラン確認のみ
SK876	LQ62	付1		略円形	85×(40)	プラン確認のみ
SK928	MC48	付1	<SE58	楕円形か	(80)×(50)×19	
SK938	NS76	236		楕円形	63×45×19	
SK939	NR80	236		略円形	65×55×33	
SK942	NE56	247	<SD922	略円形	90×80	プラン確認のみ
SK943	NE57	247		略円形	80×75	プラン確認のみ
SK944	NE56	247		略円形	80×65	プラン確認のみ
SK945	NE56	247		略円形	60×55	プラン確認のみ
SK946	NE56	247		隅丸方形	100×90	プラン確認のみ
SK949	NI69	246		楕円形	80×60	プラン確認のみ
SK950	NJ69	246		隅丸方形	85×75	プラン確認のみ
SK951	NJ69	246		隅丸方形	100×85	プラン確認のみ

第7表 溝跡属性表

遺構番号	検出位置	掲載図	規模：総長×最大幅×深さ cm	遺物・備考
SD49	LM61-LQ45	237	6450×504×80	出土遺物は301頁下に一覧
SD64	MG63-MH54	242	9600×200×20~33.0	陶器(天目茶碗256-8,茶碗257-7)、磁器(272-1) 砥石332-14、土鍾334-2
SD81	MH54-ME55	244	1060×40×5~9	
SD82	ME60-MF57	242	660×64×4~8	
SD87	MB57-MB52	付1	2200×68×7~20	
SD88	MA51-LQ61	242	5300×48×11~15	土鍾336-54
SD89	LT62-MF58	242	3500×68×9~13	
SD91	MB54-MB53	付1	310×48×7	
SD92	LT62-LT61	242	210×36×5	陶器(珠洲甕267-11)、縄文土器10-3
SD93	LS59	242	200×36×7	
SD96	LS62-LQ61	242	1120×176×17~25	陶器(珠洲搗鉢263-3)、土鍾334-3
SD97	LQ62-LO61	付1	1030×92×8~15	
SD98	LS54-LR53	付1	520×28×5	
SD99	LR52	付1	290×12×4	
SD100	LT51-LR51	付1	800×56×9	
SD101	MC51	付1	420×54×13	
SD126	MI53	244	450×100×15	
SD129	MA59-MB57	242	670×28×2	
SD130	LQ52-LP52	付1	300×40×3	
SD131	ML64-MN57	244	2520×106×11~16	自然遺物(モモ)
SD132	MO62-MM62	244	820×72×9	
SD133	LT57	227	150×28×4	
SD134	LT57	付1	120×24×-	
SD136	MC58-MD55	付1	2050×44×6	
SD137	MG56-MH54	244	960×24×5	
SD138	ME53-MD52	付1	480×52×11	
SD139	MF50	付1	150×52×3	
SD140	ME50	付1	250×42×2	
SD141	ME50-MF50	付1	470×48×6	
SD142	MH57-MH56	244	210×20×7	
SD143	MG58-MH57	244	430×26×4	
SD144	ME51	付1	130×32×14	
SD145	ME51	付1	120×32×14	
SD183	OD55-OC55	付1	680×88×19	
SD184	OE53-OC52	付1	680×80×5	
SD185	NQ54-NS48	175	2460×128×-	
SD200	NF52-NG48	247	1460×70×10	
SD201	NF52-NG48	247	1370×78×19	
SD202	NF52-NG48	247	1800×232×14~28	陶器(珠洲甕)
SD260	MS57-MS56	177	130×48×10	
SD356	MT53-MS53	221	530×68×4	
SD371	MS61	付3	100×34×19	
SD372	MS59	付3	210×42×7	
SD373	MO60-MP57	244	1260×58×8~26	
SD374	MP58	付3	160×68×3	
SD398	NF81	付1	100×18×9	

遺構番号	検出位置	掲載図	規模：総長×最大幅×深さ cm	遺物・備考
SD399	NF80	付1	110×12×9	
SD400	NE80-ND80	198	670×32×3~5	
SD401	ND80-ND79	198	510×64×14	
SD402	NE79-ND79	付1	750×42×7	
SD403	NE80	198	260×34×7	
SD404	NE79	付1	250×42×13	
SD405	NG81	付1	380×28×1	
SD406	NH81-NH79	付1	880×56×9	
SD407	NI80-NH79	付1	220×32×15	
SD410	NE79-ND79	180	290×38×8	
SD411	NE78-ND77	付1	460×22×11	
SD412	MJ84-MG83	付1	1420×596×24~38	
SD414	NE78	180	440×48×16	
SD419	MO83-MM86	付1	—×(806)×—	木製品(柄杓289-4,曲物底板292-15,砥石台313-10)
SD420	MA83-MM86	付1	5430×448×29	
SD421	MC82	付1	250×216×3	
SD431	ME84-ME83	付1	260×46×25	
SD433	MC83-MC81	付1	730×32×2	
SD434	MJ84-MK83	付1	240×140×13	
SD436	MF83-MC82	付1	690×176×1	
SD437	MJ83	付1	200×180×3	
SD440	MG83-MG82	付1	460×220×16	
SD455	NS76-NT74	231	920×72×6~26	
SD456	NS77-NO76	243	2010×264×27~36	青磁251-13
SD457	NS78-NI80	243	4980×140×35~38	
SD475	NQ82	付2	110×40×26	
SD502	NR77-NQ77	付2	490×80×7	
SD504	NO79-NN78	108	640×46×7~12	
SD511	NO76-NO75	付2	210×44×11	
SD516	NP77-NN77	233	620×120×12	
SD521	NP77	付2	150×50×8	
SD524	NP81	付2	80×32×27	
SD525	NO84	付2	60×20×10	
SD568	NM71-NJ70	246	2590×100×13~48	
SD571	NN70	246	2070×120×36~49	
SD572	NQ82	付2	140×50×28	
SD573	NP82	付2	80×40×34	
SD574	NP82	付2	60×28×18	
SD575	NP82	付2	80×38×24	
SD585	NP72-NM71	246	1990×104×33	
SD597	MI75-MG74	197	1380×46×8~14	
SD601	MJ62-MO49	244	5560×104×11~16	
SD602	MP49-MO49	244	440×30×7	
SD603	MP49-MO49	244	480×36×8	
SD604	MO53-MN53	244	600×80×12	
SD605	MR53-MR52	194	520×36×3~5	
SD606	MN51-MN50	244	700×80×8	
SD607	MN53-MN52	244	130×88×10	
SD608	MO52-MN52	244	300×70×4	

第4節 検出遺構

遺構番号	検出位置	掲載図	規模：総長×最大幅×深さ cm	遺物・備考
SD609	MR55	付3	90×24×1	
SD613	MH77	196	460×108×13	
SD614	MR55	付3	110×32×10	
SD618	NI69-NH69	246	230×64×18	
SD619	ML58-MM57	244	440×78×8	
SD620	ML59-MM58	244	190×36×4	
SD621	MN57-MM57	244	620×24×2~4	
SD624	MS51	付1	130×24×3	
SD625	MS49	付1	200×32×16	
SD626	MT50	付1	90×14×2	
SD628	MO56-MN55	244	570×20×2	
SD630	ME80-MM53	240	14500×492×33~88	木製品(曲物底板293-2、漆製品用途不明具296-10、 下駄299-4、サバマス309-3、用途不明318-6)、鉄製品 (鉄釘330-10、椀形滓330-12)、須恵器12-13、獣骨
SD633	LT57-MA54	付1	1170×76×2	
SD650	MT51	付1	130×40×5	
SD651	ML62	244	120×80×8	
SD653	MS67-MN65	274	2730×90×10	
SD654	MT68-MS66	274	640×40×7	
SD655	MS66-MR66	274	470×34×5	
SD656	MT66-MR66	274	730×48×8	
SD658	ML63	付3	200×56×2	
SD659	MM56-MN55	244	390×24×3	
SD661	MR66-MI64	247	2870(3520)×64×8	
SD662	MP67-MN67	247	700×44×-	
SD666	LP62-ME77	240	9580×208~324×38~68	磁器(272-3)・獣骨
SD676	MD80-ME79	付1	280×100×56	
SD680	MF75-MJ76	240	1940×224×14~24	
SD687	MG78	196	210×52×13	
SD688	MH77	240	830×60×7~15	
SD693	MH75	224	160×56×13	
SD704	LT74-LT73	224	350×168×10	
SD706	MD76-MD72	240	1720×498×42~61	出土遺物は312頁下に一覧
SD708	MD80	付1	280×124×26~42	
SD711	MA73	付2左	130×52×12	
SD712	LT73	付2左	80×36×11	
SD713	MA73	付2左	160×38×17	
SD715	MA75-MB74	付2左	560×56×31	SW1079に伴うものか
SD716	MB76-MC75	付2左	680×60×24	SW1079に伴うものか
SD722	MG76	240	280×72×2	
SD727	MB72	付2左	150×64×7	
SD734	ME75	240	360×50×20~24	
SD735	MF75	付1	40×20×14	
SD737	MF73	241	120×100×3	磁器(251-7)、陶器(珠洲挿鉢262-1・珠洲甕266-16)
SD738	MD74-MD73	240	1070×24×13~27	
SD742	MG76	240	170×48×20	
SD743	ME74-MF73	240	1330×368×29	
SD744	MH64-MG64	242	220×26×-	土器(瓦器270-10)

遺構番号	検出位置	掲載図	規模：総長×最大幅×深さ cm	遺物・備考
SD843	MB48	付1	350×76×-	
SD844	ME48-MD48	付1	700×84×-	
SD845	MC49-MD46	付1	1580×106×-	
SD846	MJ49-MC46	244	3300×72×-	
SD847	MD61-MC60	242	250×16×3	
SD848	MG59-MF59	付1	210×16×-	
SD849	MF64-MF63	242	510×46×-	
SD850	MG63-MG62	242	870×92×7	
SD851	MI62-MH60	244	590×80×5	
SD852	ML57	244	80×36×2	
SD853	MP60-MP56	付3	340×24×-	
SD854	MT53	付3	60×24×9	
SD855	ND62-ND61	付1	410×28×9	
SD856	NK54-NH54	付1	1040×26×-	
SD857	NF63-NG62	付1	550×22×-	
SD858	NK58-NK56	付1	600×16×-	
SD859	NP82-NO82	付2	270×36×9	
SD860	NO80-NO79	付2	490×52×4	
SD861	NP79-NN79	付2	740×52×4	
SD862	NO79-NN79	付2	400×32×8	
SD863	NO79-NN79	付2	630×46×8~11	
SD864	MA60-MA59	242	410×48×3	
SD865	LT63-LT62	242	260×12×-	
SD866	LT63-LT62	242	260×36×-	
SD868	MM66-MK65	247	770×50×-	
SD869	NI69-NH68	246	450×44×10	
SD871	NK71-NH70	246	1280×40×6	
SD872	NK71-NG70	246	1870×64×9	
SD873	NH71-NF70	246	620×30×-	
SD877	NE57-NE56	247	2930×88×-	
SD878	NF55-NH49	247	2500×72×-	
SD879	MJ75	付1	110×28×12	
SD880	NE69-NC69	246	860×60×-	
SD881	MF61	242	390×116×-	
SD882	ME61-ME60	242	350×116×-	
SD883	MI66-MF65	242	940×56×9	
SD884	MF65-ME65	242	490×26×-	
SD885	MG64	242	290×36×-	
SD886	MH64-MG64	242	370×32×-	
SD887	MI64-MH64	付1	240×26×-	
SD888	MT67	247	220×40×-	
SD889	MK65-MJ65	247	420×42×-	
SD890	MK66	247	180×40×-	
SD891	NA67	付1	160×28×-	
SD892	NE68-ND67	246	340×26×-	
SD893	ND68	246	140×20×-	
SD894	NB69	付1	230×52×-	
SD895	NB69	付1	130×-×-	
SD896	NC68	付1	130×32×-	

第4節 検出遺構

遺構番号	検出位置	掲載図	規模：総長×最大幅×深さcm	遺物・備考
SD897	NI69-NM71	246	1520×64×-	
SD898	NL70-NI70	246	1630×84×-	
SD899	NE52	247	80×72×-	
SD900	NF49	247	300×48×-	
SD901	NF52	247	220×26×-	
SD902	NG53-NG52	247	260×22×-	
SD903	ND58	付1	70×24×-	
SD905	MC74-MB73	210	730×38×3	
SD906	MB75	付2左	430×46×-	
SD907	LT74	付2左	220×32×-	
SD908	MA75	125	90×44×-	
SD909	MA75	125	150×32×-	
SD910	ME80-MF79	196	310×24×-	
SD911	MF79-MF78	196	450×56×-	
SD913	MF82-MF80	付1	470×56×-	
SD914	MF79	196	180×28×-	
SD915	MF80-MG79	196	960×70×-	
SD916	MG80-MG79	196	490×38×-	
SD917	MG80	196	300×28×-	
SD918	MG80-MG79	196	410×42×-	
SD919	MH78	196	140×30×-	
SD920	MF78	196	170×46×1	
SD921	MJ74	付1	190×34×2	
SD922	ND56-NE56	247	200×28×-	
SD924	NK69-NC68	246	3180×64×5~7	
SD925	MR59	付3	110×36×12	
SD926	MC74	付2左	300×32×-	
SD927	NG69-NF68	246	450×52×-	
SD930	MJ58	244	90×26×23	
SD931	MO52	付1	80×44×15	
SD932	LT58	付1	150×44×23	
SD933	ME60	付1	70×50×-	
SD934	MH75	224	100×46×-	
SD935	MF81	付1	110×36×2	
SD936	NH81	付1	80×20×7	
SD937	MG81	付1	220×24×-	
SD940	MS56	付3	60×24×4	
SD957	NP75	付2	110×32×7	

《堀跡出土遺物一覧》

S D 709

陶器（瀬戸255-3、6、256-2、3・珠洲播鉢262-3、263-1、264-5、13、15・珠洲甕266-1、268-1、2）

土器（瓦器270-2）

木製品（漆塗り皿274-1、漆塗り椀274-12・箸281-1~28・杓子282-3・折敷284-9・曲物底板292-5、10、14・箱294-2・把手294-11・下駄299-3、301-1、303-1・草履芯304-2、3、7、13・膳脚307-16・人形310-6・刀子形310-14・用途不明具310-19、20・羽子板313-2・浮子315-4、5・用途不明具317-8、318-8、319-1~4、6~7、9~11、16、320-2、16、321-2、4、6、14、16、322-2、14、323-5、7~9、325-2、326-10）

石器（砥石332-5）、土錘334-15、16、336-55、銭貨（元豊通寶338-56・紹聖元寶338-57）

自然遺物（昆虫ルリゴミムシダマシ?）



## 第4節 中世・近世の遺物

遺構内外より出土した遺物は、陶磁器・木製品（竹製品を含む）・鉄製品・銅製品・石製品・土製品（土錘）・銭貨がある。以下ではその種別ごとに項目を分け概述する。

### 1 陶磁器

出土した陶磁器類は、大きく貿易陶磁と国産陶磁に分けられる。前者では青磁・白磁・染付・朝鮮陶器があり、後者には中世陶器・土器と近世陶磁器が含まれる。

#### （1）貿易陶磁（第251～253図）

##### ①青磁（第251図・252図1～3）

青磁は72点出土し、うち21点を図示している。残りの資料は、長さがおおよそ3cm未満の碎片が多い。251-1～7・9は外面に蓮弁文を持つ碗である。5は蓮弁を篋で描いている。251-8・10・11は稜花皿である。10は口縁内部に2～3本の不連続な沈線文が、11は口縁内部に平行する2本、外部に1本の沈線文が施される。12・13は外面に櫛もしくは篋で文様を施す碗である。14の碗は全面に火を受け釉が変質している。15・16は見込みに印花文を施す。252-1は盤でS E 683井戸跡から出土した。口縁部は厚くやや外反する。口縁端部は稜花様に作られ、内面は口縁内部の沈線下部に2本一組の篋彫りによる蓮弁文を施す。外面は口縁部と平行して1本の隆帯がめぐる。252-2・3は口縁端部が厚く、外に引き出される。2点とも無文で、3は内面に黒色の付着物がある。なお251-6・14・15・16・18の底部は露胎であり、9・17は畳付きを除き、全面に施釉されている。

##### ②白磁(第252図4・5)

2点（個体）出土した。4は碗の口縁である。口縁は先細りで外反する。胎土は緻密で釉が薄く均等にかかる。口縁にはやや青みを帯びた釉がかかる。5は高台付の皿である。S E 242井戸跡から出土した。胎土は粗く白色の釉がかかり、釉には貫入がみられる。

##### ③染付(第253図1～3)

いわゆる青花であり、遺構外より3点出土した。3点とも皿と考えられ、外面と見込み部分に文様が描かれる。3は全面に施釉した後、畳付きの釉が削り取られている。

##### ④朝鮮陶器(第253図4・5)

遺構外から2点出土した。2点とも皿あるいは碗の底部である。5は全面に施釉されているが、外面が白く変色しており、二次的に被熱した可能性が考えられる。

#### （2）国産陶磁

国産陶磁としたものは、瀬戸・美濃、珠洲、越前・瓷器系、瓦器・土器の中世陶器と近世陶磁器がある。

##### ①瀬戸・美濃(第254～258図、第270図1)

瀬戸・美濃は107点出土し、49点を図示している。堀・溝跡や井戸跡から多く出土している。1基の井戸跡(S E 484)からまとめて確認されているものも見られる(257-6・258-2～4)。器種では灰釉の仏花瓶・卸皿・折縁小皿・中皿・緑釉小皿・腰折皿・柄付片口・花瓶・鉢・平碗・浅碗・盤・天目・端反皿・丸皿・内禿皿、鉄釉では仏花瓶・天目茶碗・稜皿がみられる。また播鉢(270-1)や志野丸皿(254-11)も各1点確認されている。丸皿内面には炭化物が付着し、灯明皿として使用した

と考えられる。

②珠洲（第259～269図）

本遺跡出土の陶磁器類では最も多く出土しているものが珠洲である。器種では播鉢・甕・壺があるが、圧倒的に播鉢が多く、壺は極端に少ない。

播鉢（第259～264図） 播鉢は約220点出土し、うち49点を図示する。底部の残るものを観察した限りでは、底部の切り離しは全て静止糸切りによる。井戸跡、堀・溝跡から多く出土している。260-1はS E 540井戸側内の底部に置かれていて、その上には底板の残る曲物容器が入り込んでいた。264-6は口縁部に擦痕がみられる。破損したものを擦って口縁部を作り出し、再利用している。また卸目が擦り減っているものが多く見られ、長い間大切に使用した後に廃棄されていたようである。259-5は底部に径7～7.5cm程の穿孔が見られる。炭化物は259-4・6、261-2、264-1・2は内面に付着し、また外面に見られるものも多く煮炊具としても利用されていた可能性がある。

甕（第265～267図） 甕は約170点出土し、49点を図示している。なお甕のうち1/4にあたる41点（小破片が多い、この他に播鉢・壺破片も各数点含む）は、S E 583井戸跡から出土したものである。これは井戸を廃棄する際の祭祀的な行為の一つとして小割後に投げ入れられたものと考えられる。

壺（第265図1～5、第268図1・2） 壺は口縁部資料5点、体部～底部資料12点出土している。前者は肩部にタタキをもち、後者は内外面にロクロ調整痕が顕著に認められる。268-1は外面胴部に炭化物が帯状に付着し、2は外面に製作者の指紋が多く残る。タタキをもつ壺はS E 583井戸跡から、ロクロ壺は2個体ともS D 706堀跡から出土している。

③越前・瓷器系陶器（第269・270図）

越前あるいは瓷器系陶器は、越前播鉢12点(269-1～12)、瓷器系の播鉢2点(269-14・15)、同甕5点(270-2～6)図示している。270-2は、堀跡のS D 49とS D 706から出土したものが接合している。

④瓦器・土器(第269図13、第270図7～9)

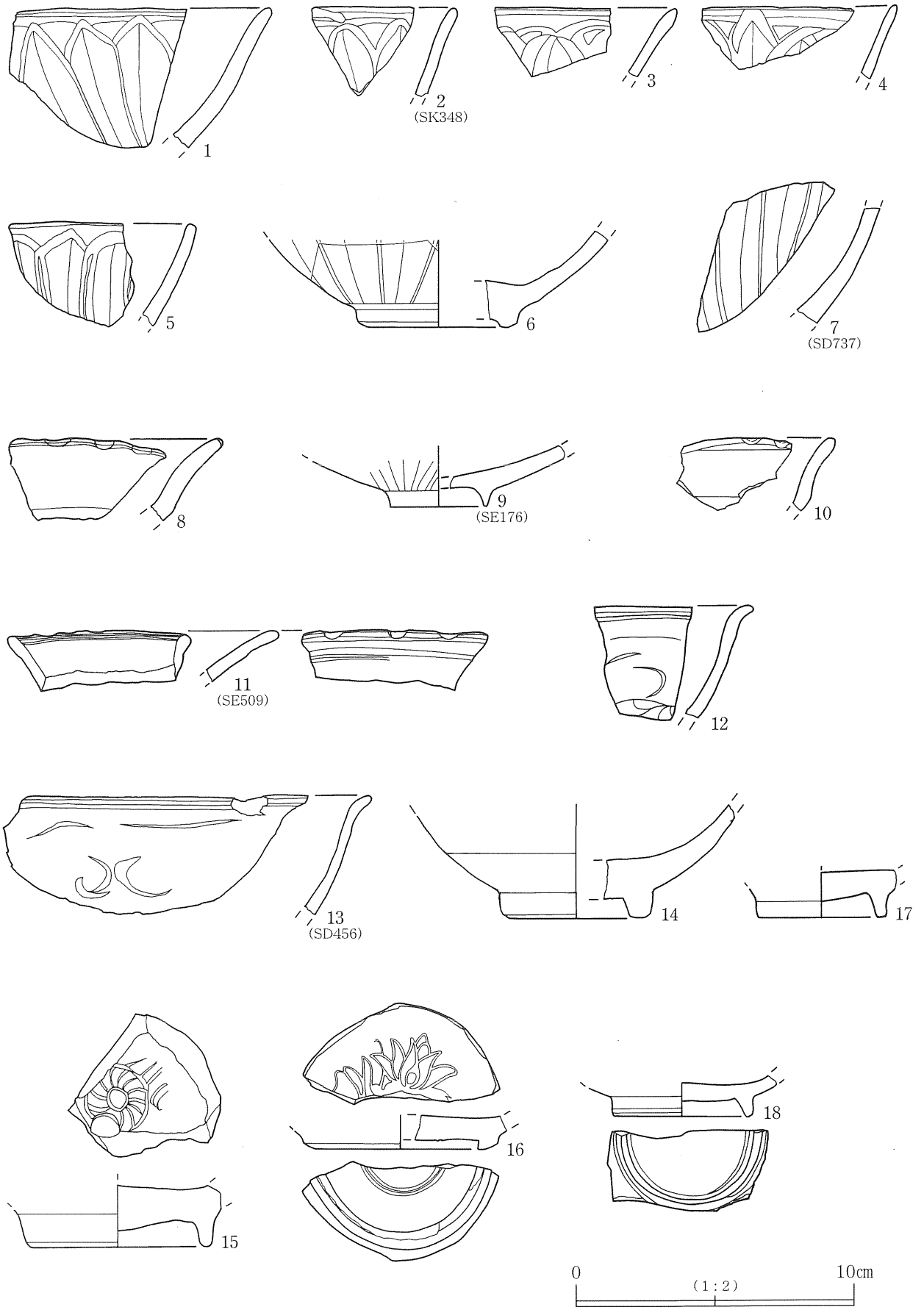
瓦器は4点出土している。播鉢1点、火鉢3点である。13の播鉢は越前の影響を受けたものようである。7の表面には巴文が施され、8は内面に突起が貼り付けられている。

10～12は手捏土器<sup>てづくね</sup>である。10は形態から未使用の埴塼である可能性があるが、付着物等は見られない。外面は赤褐色、内面は黒褐色を呈する。11・12は口縁が内湾する皿状の土器であるが、用途は不明である。内外面に調整時の指頭圧痕が残る。これらの土器はいわゆる、かわらけとは形状的に異なり、時期を含め検討が必要である。

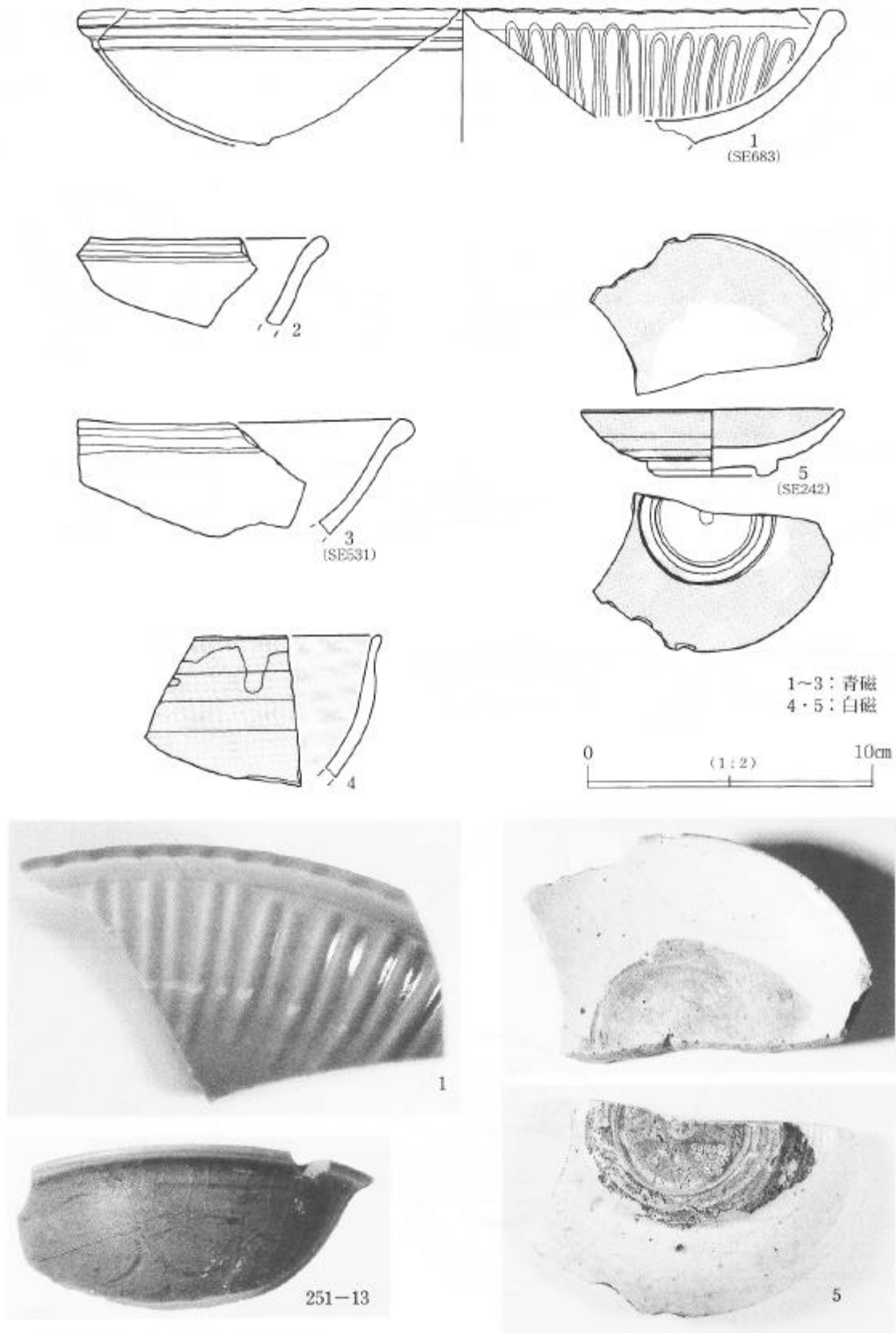
⑤近世陶磁器(第271・272図)

20点図示している。井戸跡や堀・溝跡から出土しているものもあるが、ほとんどが遺構外である。

271-1は波佐見青磁の皿の一部で内面に梅花と枝が貼り付けられており、貼花梅樹文であると考えられる。271-2～10は染付である。2は皿で、断面には漆が付着しており、補修して使用していたと考えられる。2・4～10は全面に施釉しているものがほとんどであるが、畳付きはすべて露胎である。高台内も露胎のもの(271-5)や、見込みにドーナツ形に露胎の部分が残るもの(271-4・5・7)がある。さらに、見込み中央には五弁花文(271-6・7)等の文様が施される。272-1～9は陶器の碗あるいは皿である。8は底部に「三」の墨書が見られる。9は筒形で口縁部方向に真っ直ぐ立ちあがる。第272-10は小型七輪キャフロの一部である。S K I 686竪穴状遺構内から出土した。



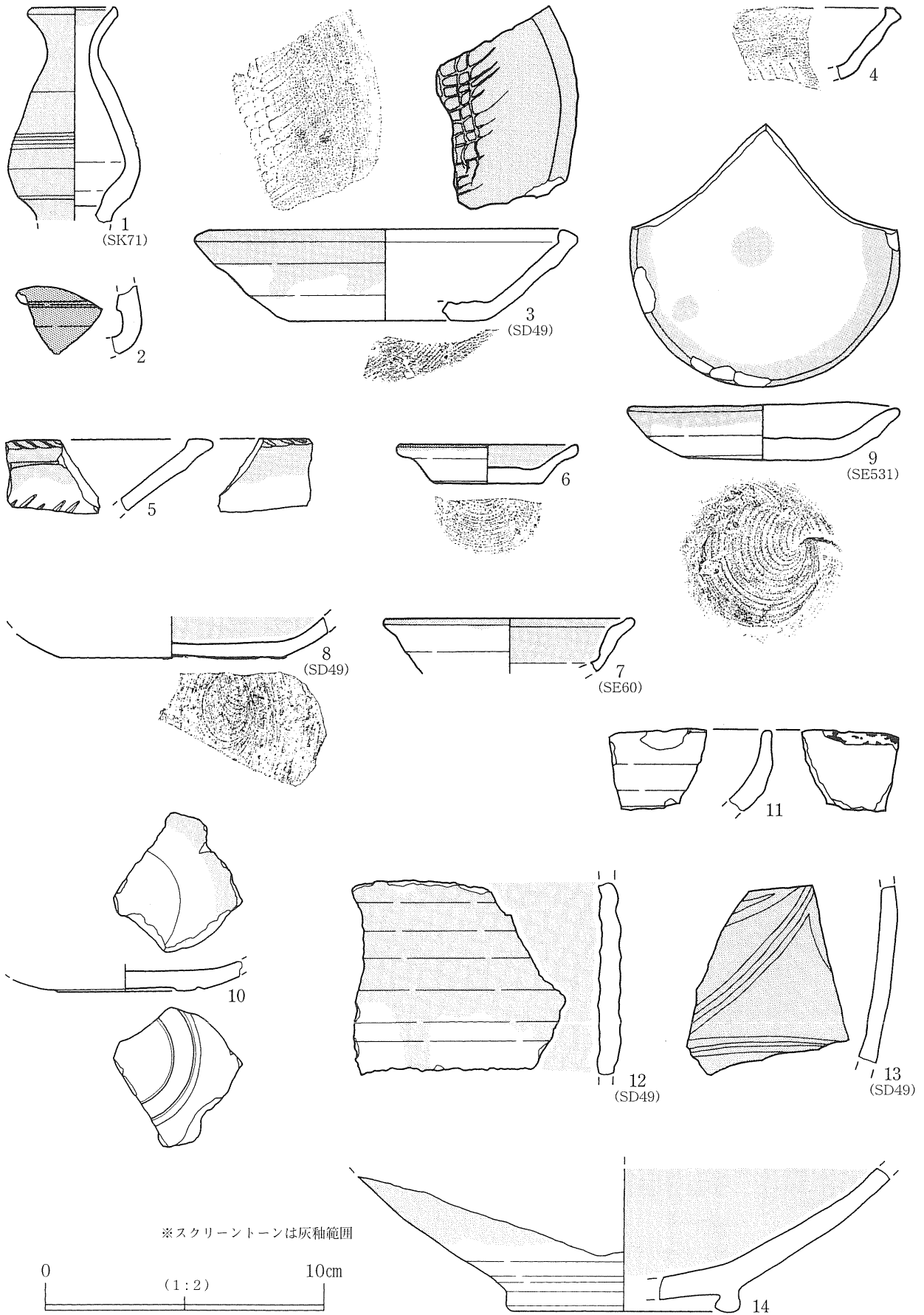
第251図 出土遺物 (1) 貿易陶磁 (1) 青磁



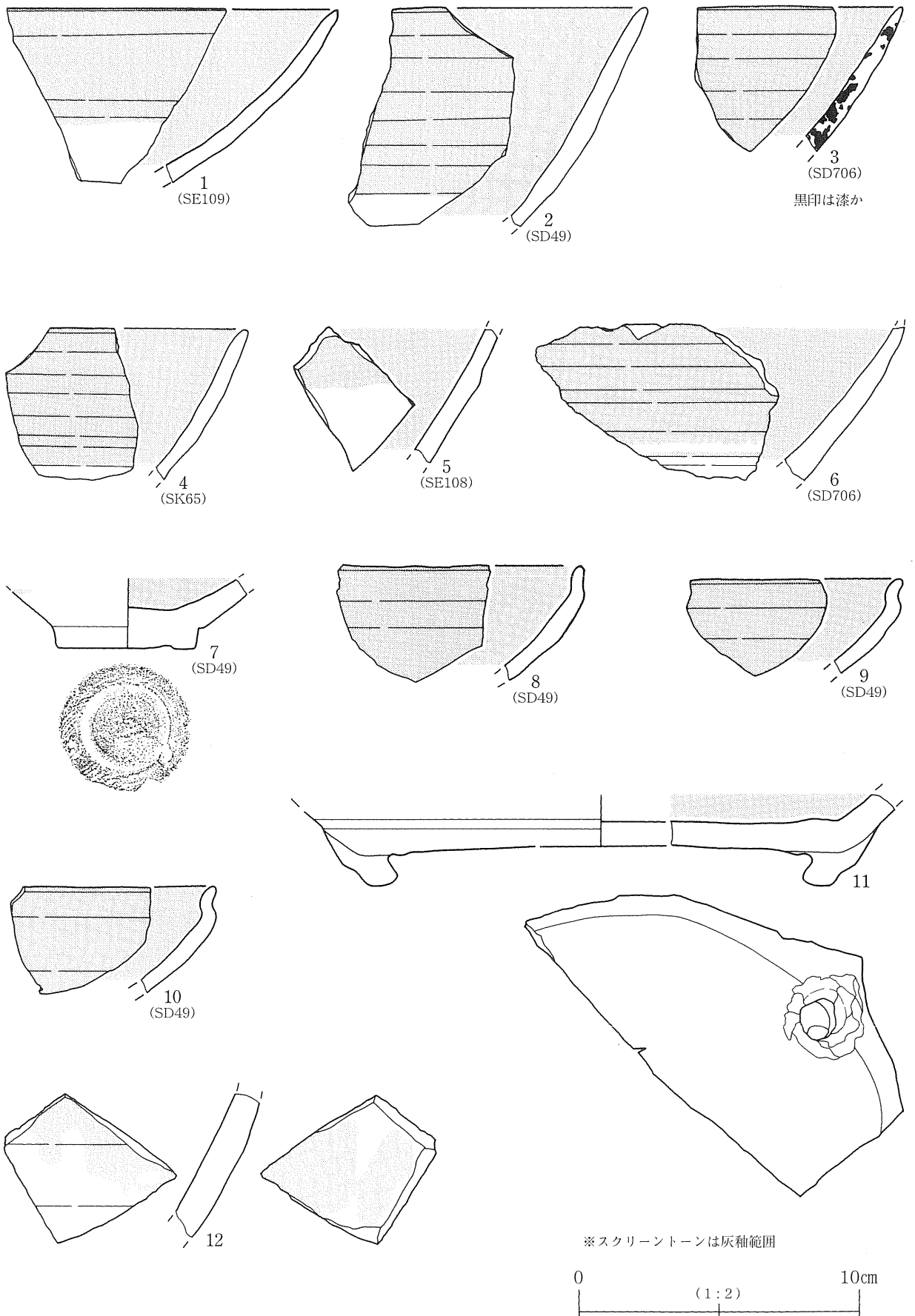
第252図 出土遺物(2) 貿易陶磁(2) 青磁・白磁



第253図 出土遺物(3) 貿易陶磁(3) 染付・朝鮮

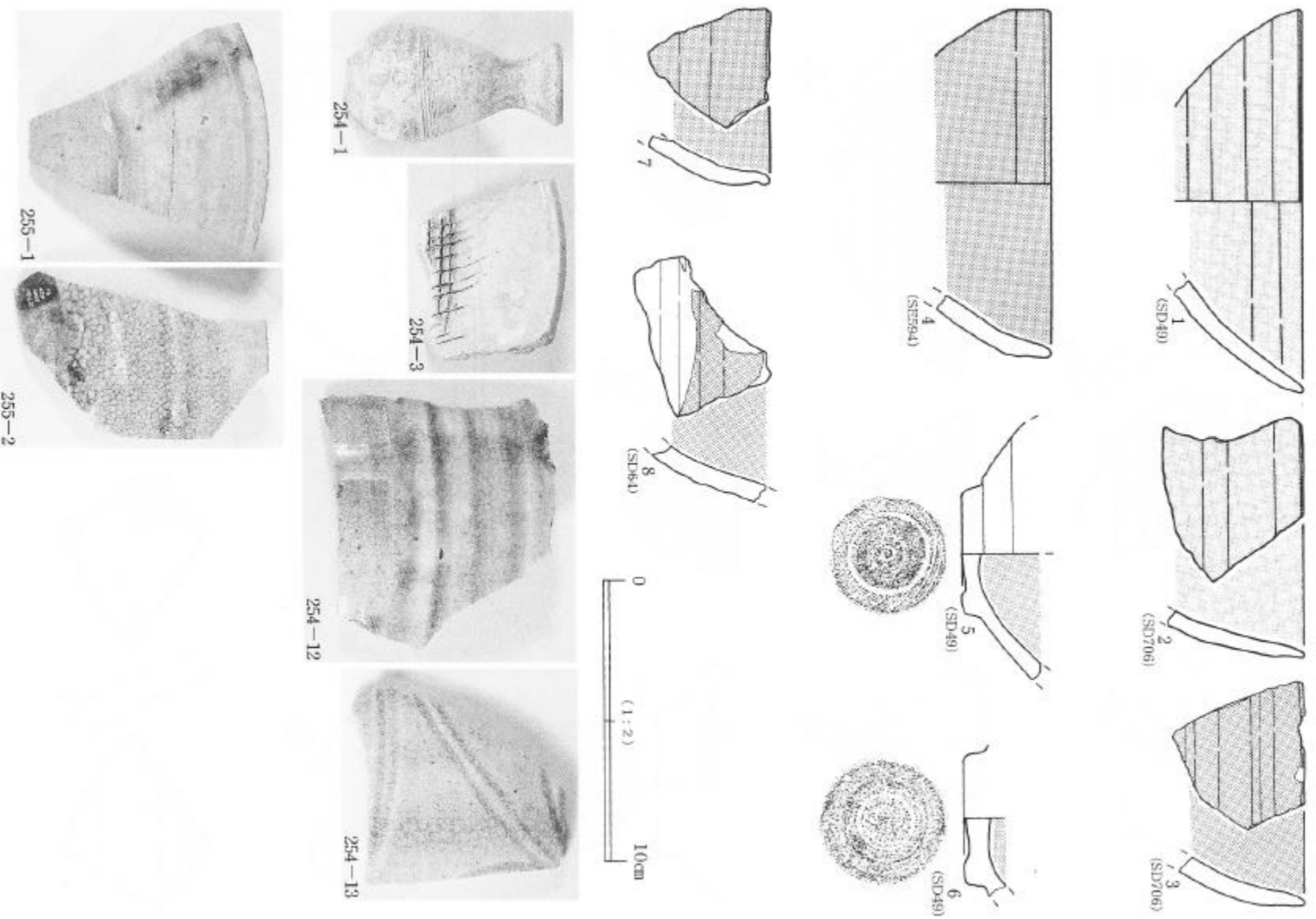


第254図 出土遺物(4) 国産陶器(1) 瀬戸美濃(1)



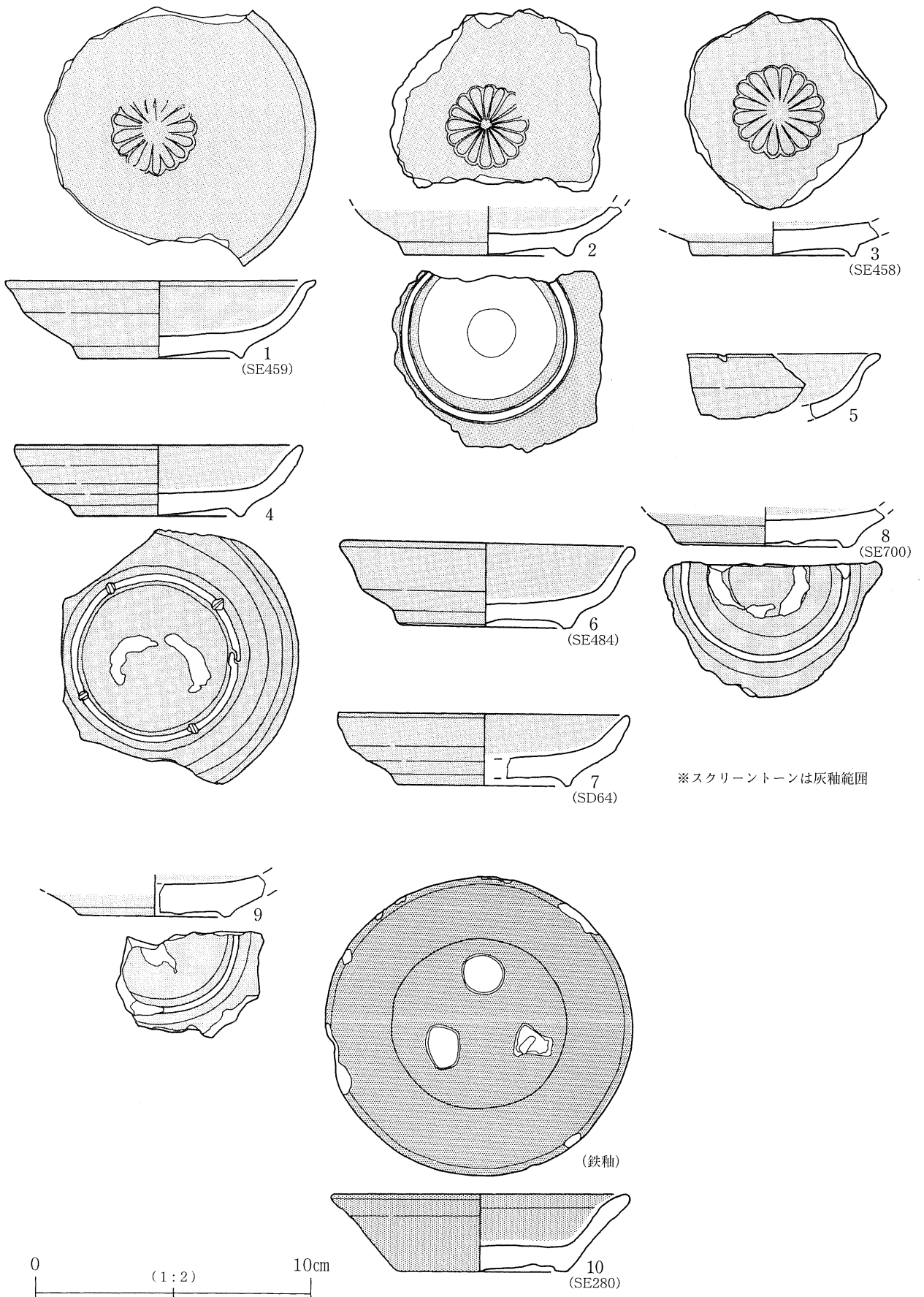
第255図 出土遺物 (5) 国産陶器 (2) 瀬戸美濃 (2)

第5節 中世・近世の出土遺物



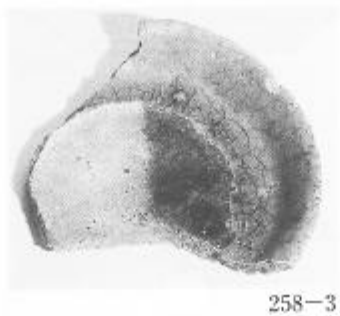
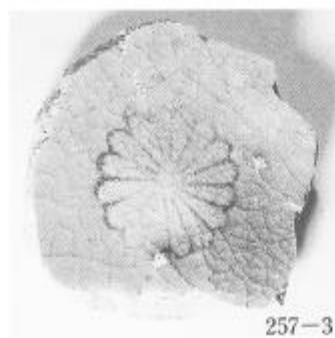
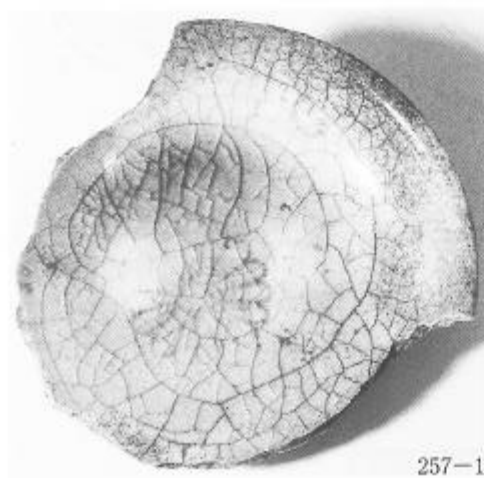
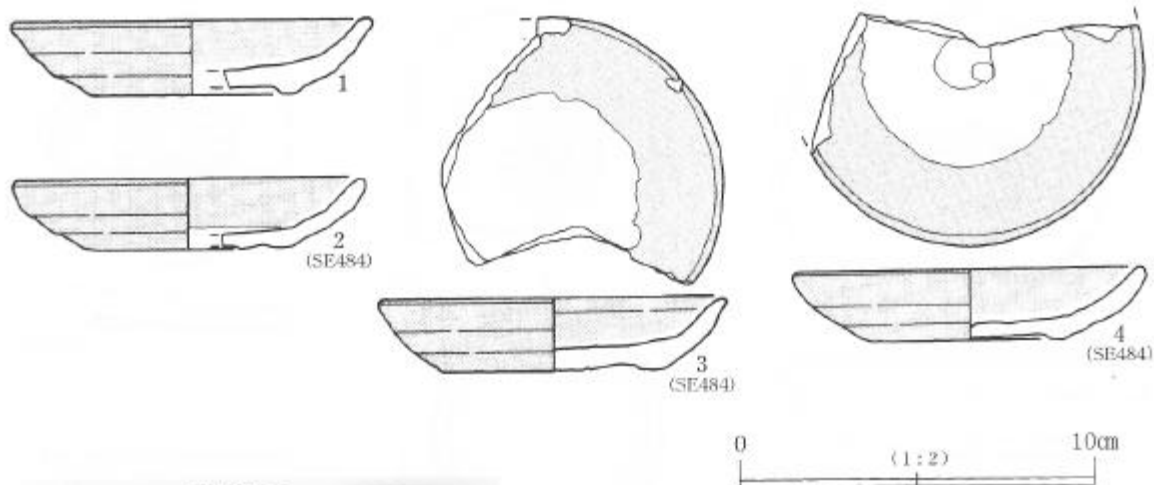
第256図 出土遺物 (6) 国産陶器 (3) 瀬戸美濃 (3)



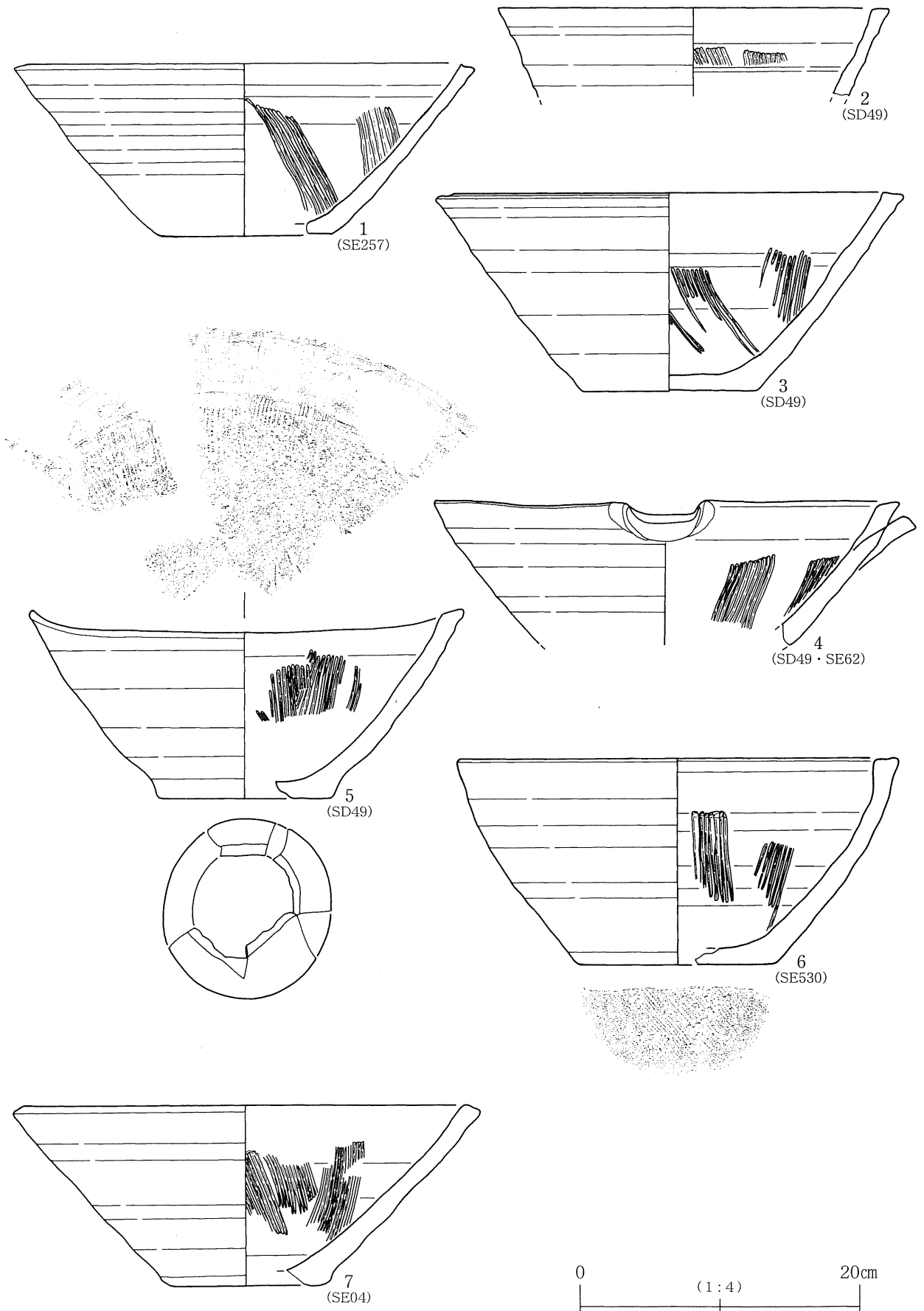


第257図 出土遺物 (7) 国産陶器 (4) 瀬戸美濃 (4)

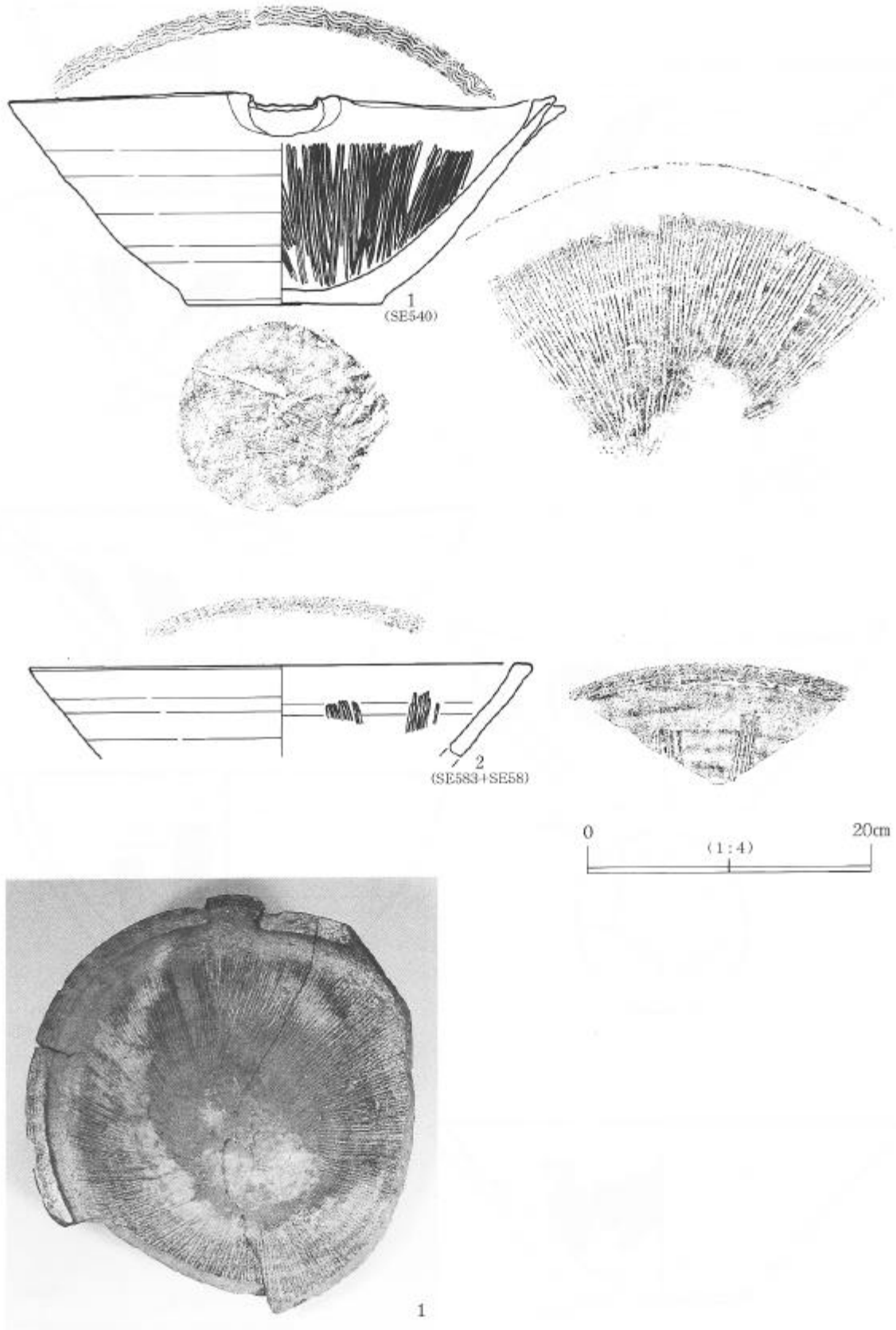
第5節 中世・近世の出土遺物



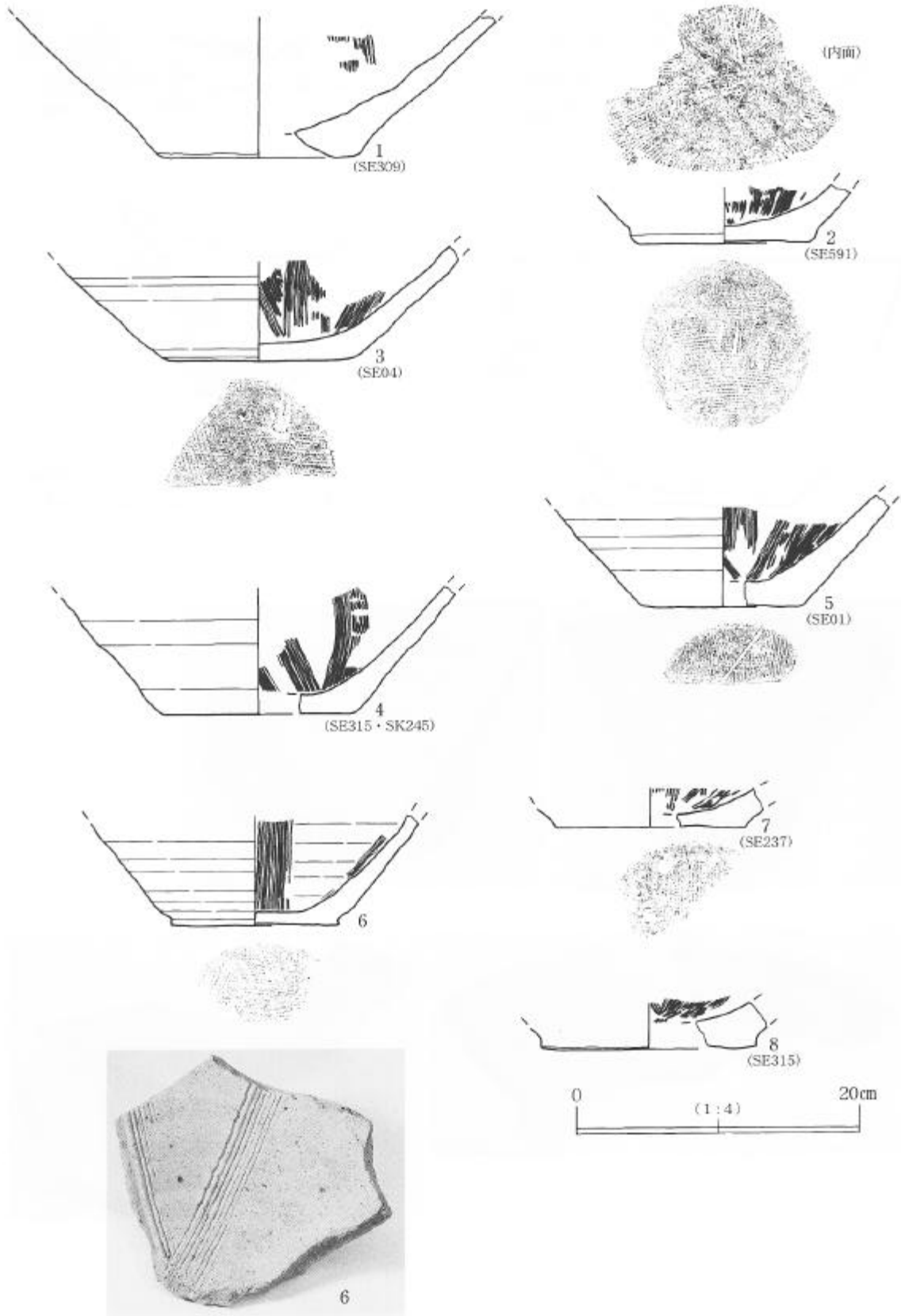
第258図 出土遺物 (8) 国産陶器 (5) 瀬戸美濃 (5)



第259図 出土遺物 (9) 国産陶器 (6) 珠洲 (1)

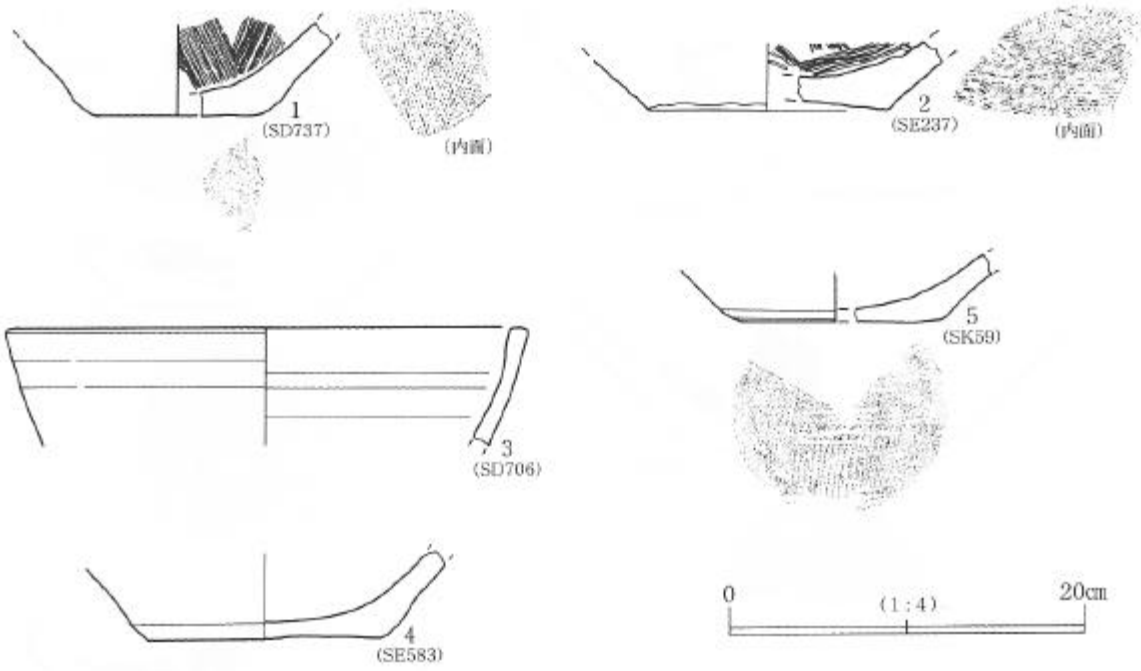


第260図 出土遺物 (10) 国産陶器 (7) 珠洲 (2)



第261図 出土遺物 (11) 国産陶器 (8) 珠洲 (3)

第5節 中世・近世の出土遺物



259-1



259-3



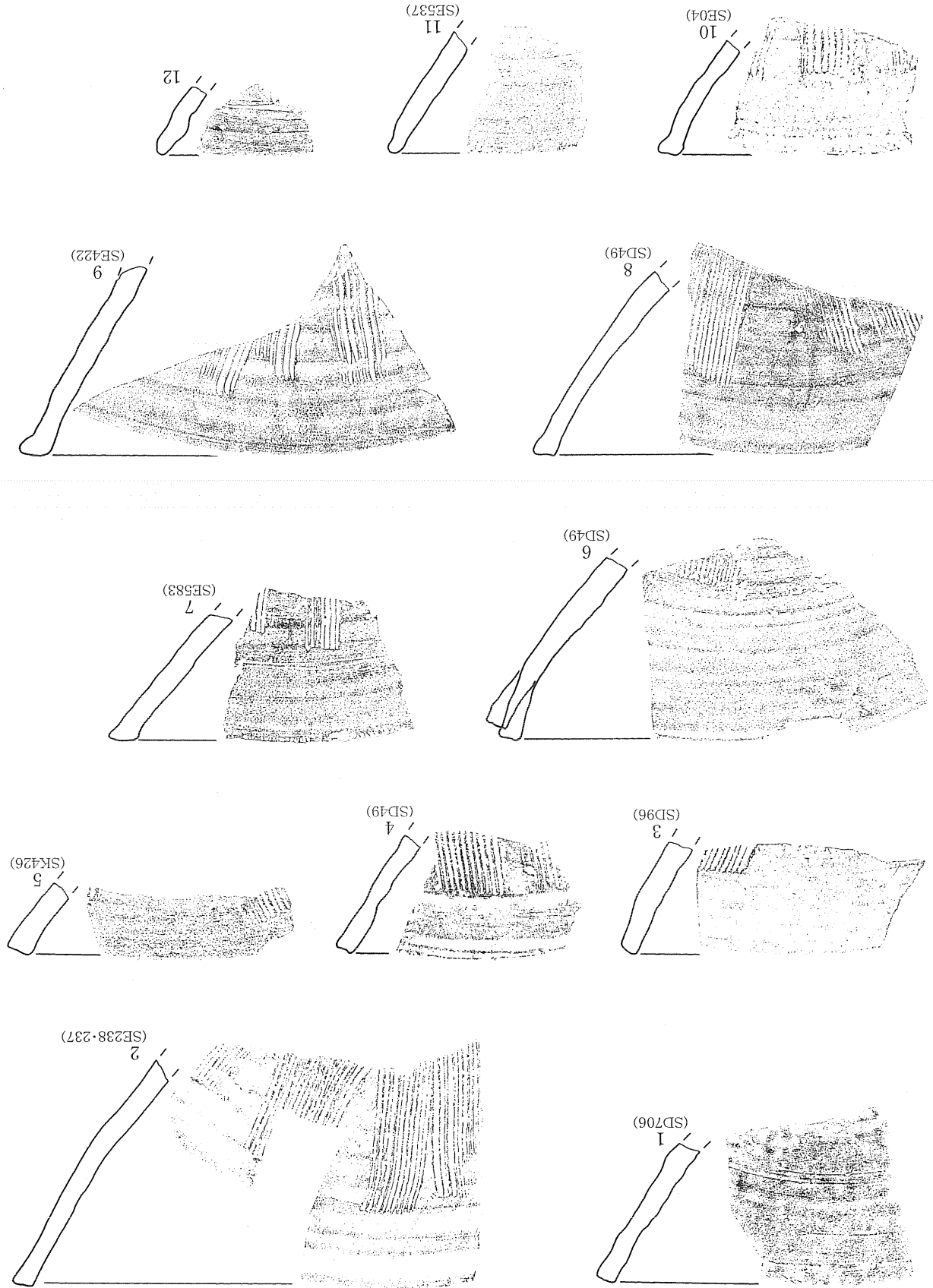
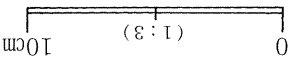
259-4

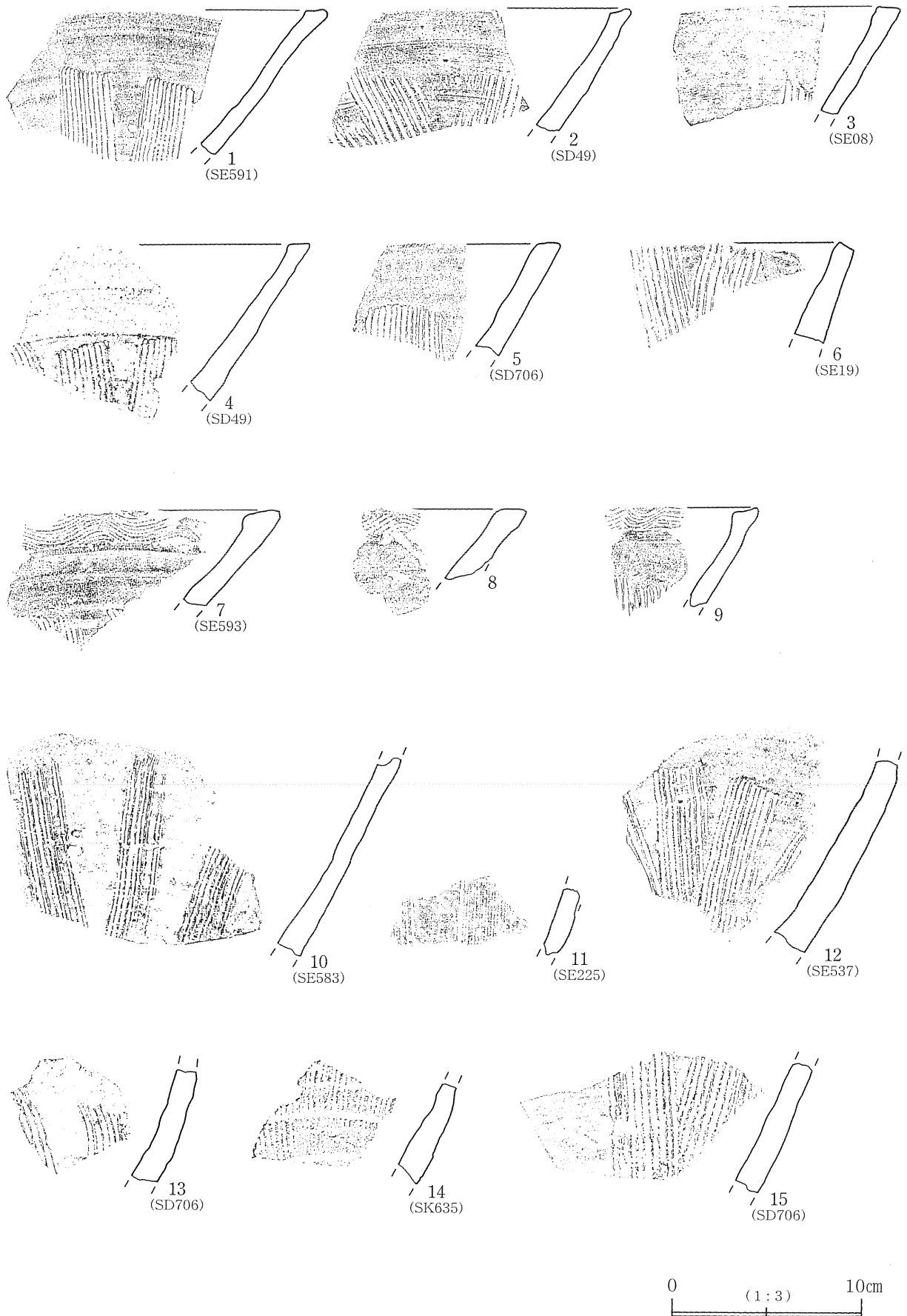


259-6

第262図 出土遺物 (12) 国産陶器 (9) 珠洲 (4)

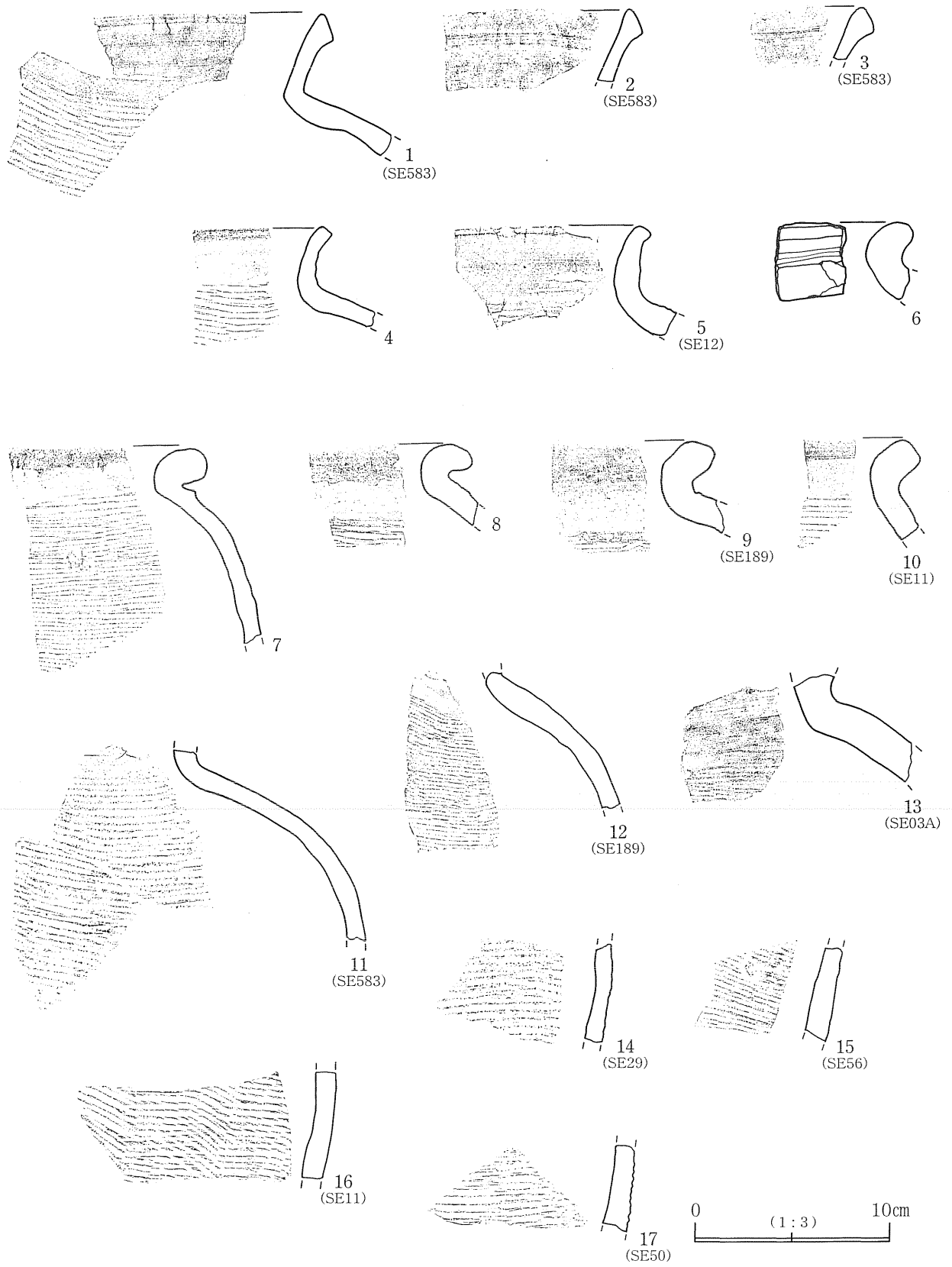
第263図 出土遺物 (13) 国産陶器 (10) 珠洲 (5)



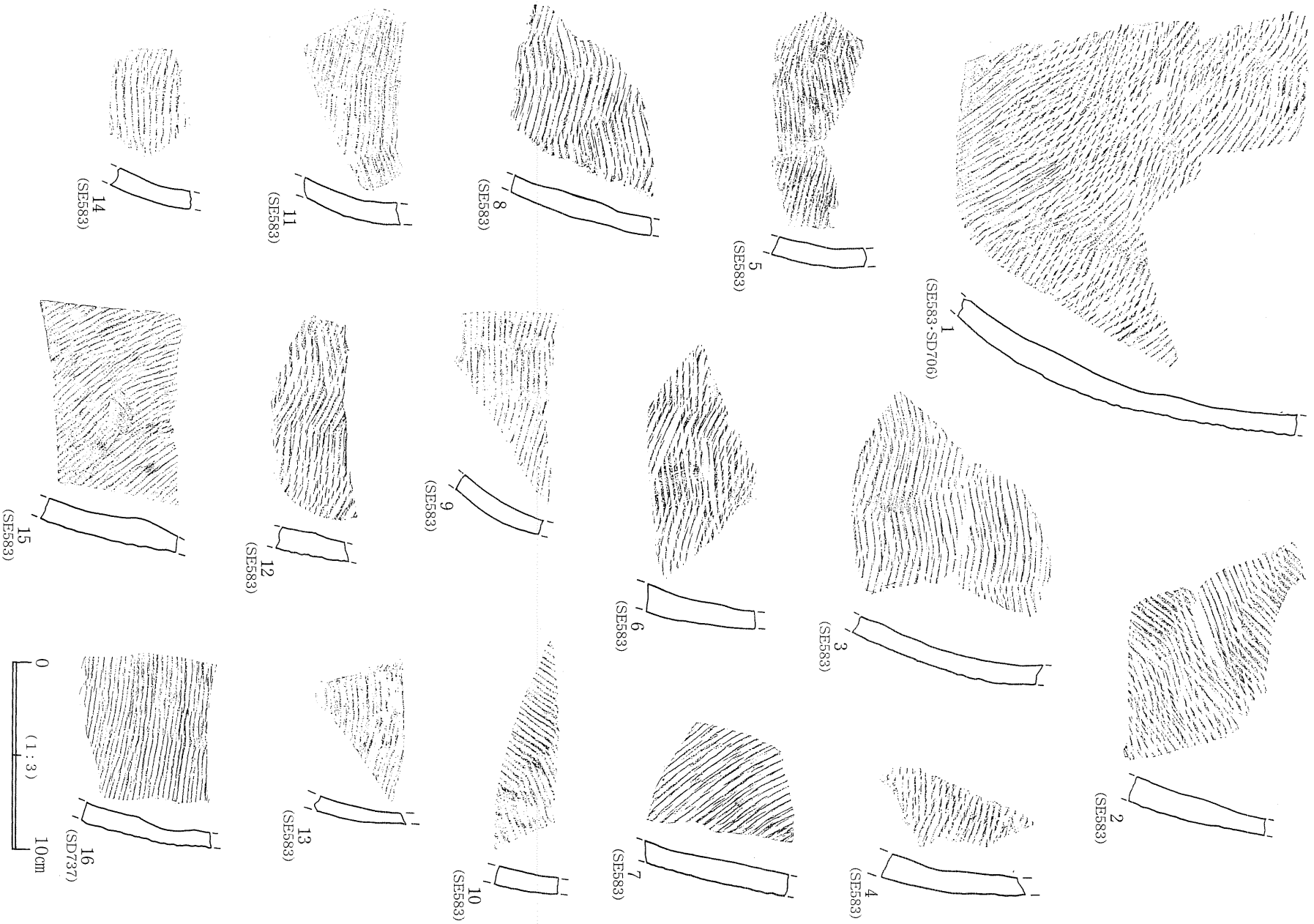


第264図 出土遺物 (14) 国産陶器 (11) 珠洲 (6)

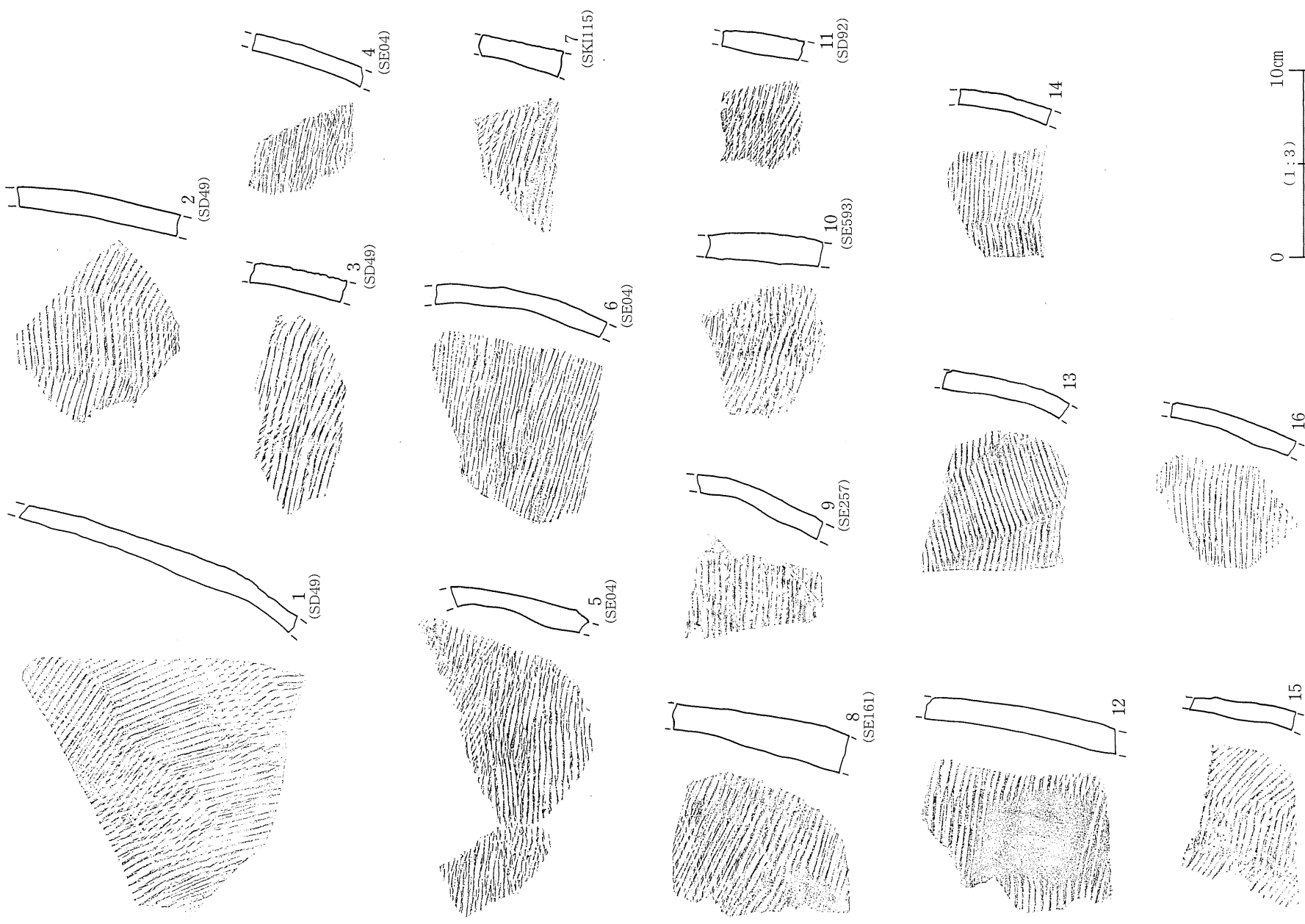




第265図 出土遺物 (15) 国産陶器 (12) 珠洲 (7)

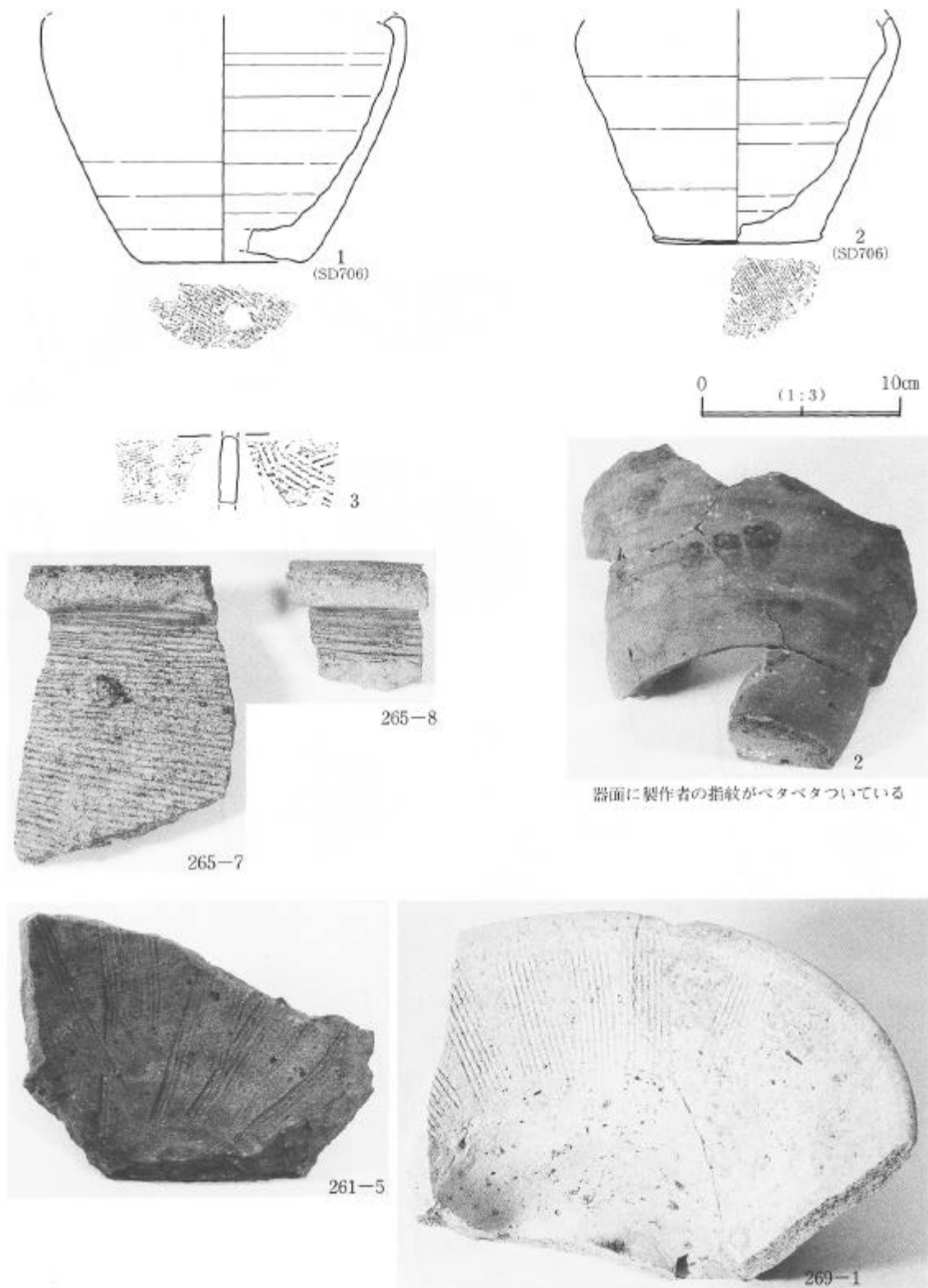


第266図 出土遺物 (16) 国産陶器 (13) 珠洲 (8)

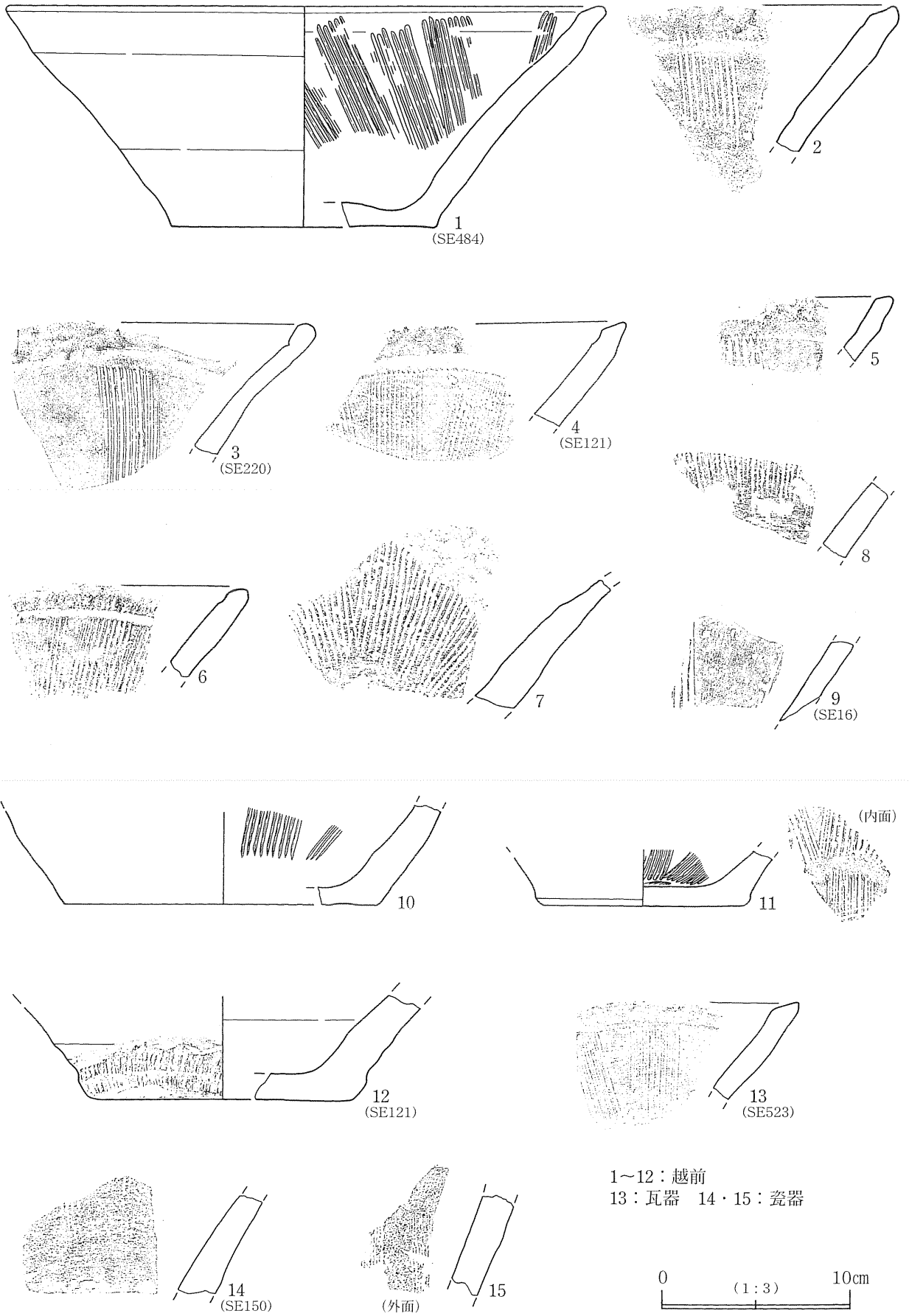


第267図 出土遺物 (17) 国産陶器 (14) 珠洲 (9)

第5節 中世・近世の出土遺物

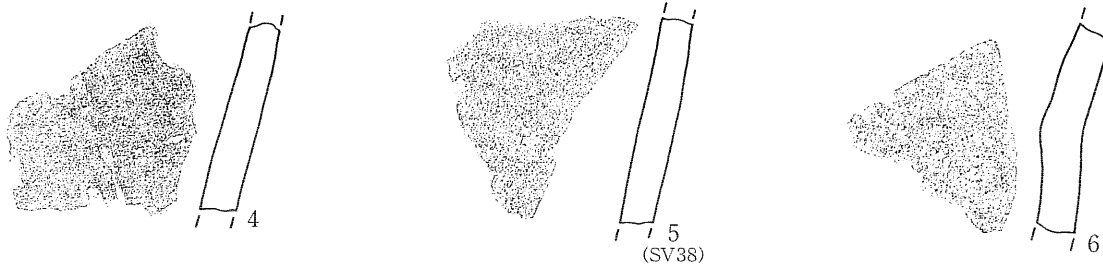


第268図 出土遺物 (18) 国産陶器 (15) 珠洲 (10)

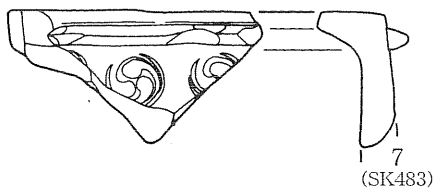
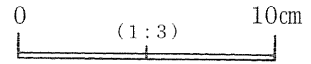


第269図 出土遺物 (19) 国産陶器 (16) 越前・瓦器・瓷器系挿鉢

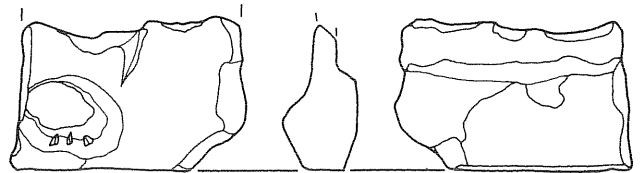
第5節 中世・近世の出土遺物



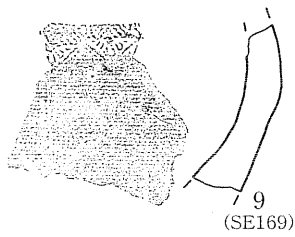
(2~6: 拓本は外面)



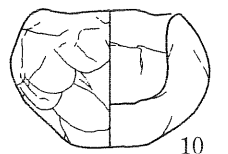
(SK483)



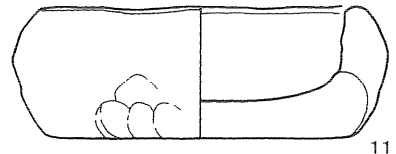
8  
(SKI191)



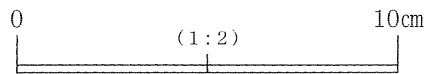
(SE169)



10  
(SD744)



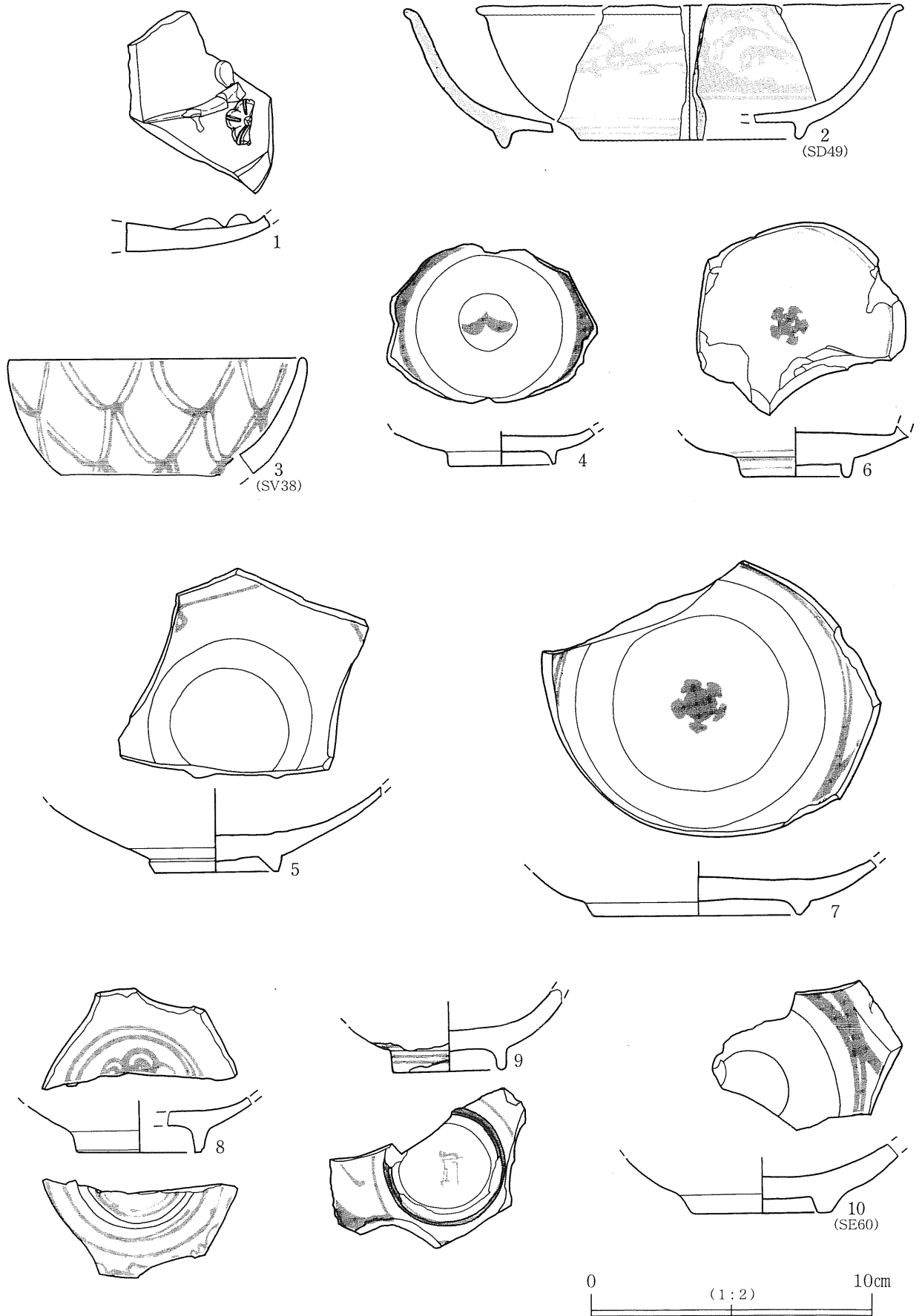
11



12

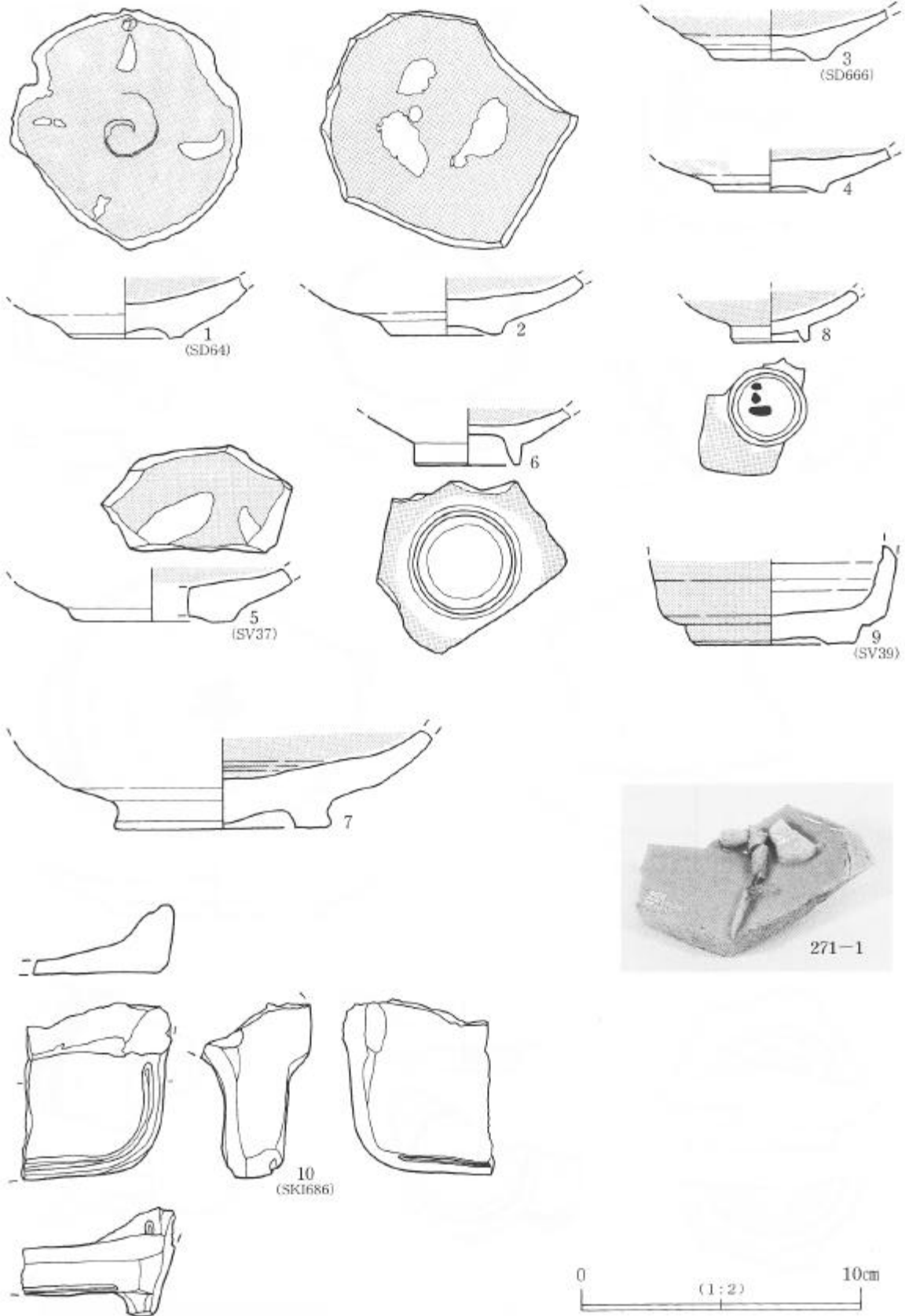
1: 瀬戸播鉢 2~6: 瓷器  
7~9: 瓦器 10~12: 土器

第270図 出土遺物 (20) 国産陶器 (17) 瀬戸・瓷器・瓦器・土器



第271図 出土遺物 (21) 近世陶磁器 (1)

第5節 中世・近世の出土遺物



第272図 出土遺物 (22) 近世陶磁器 (2)



第8表 出土陶器属性表

挿図	番号	器種	出土位置	法量・備考	時期	挿図	番号	器種	出土位置	法量	
254	1	灰釉小型仏花瓶	SK71	口3.6高(7.7)	古瀬戸前Ⅲ期	259	1	珠洲播鉢	SE257	口31.0高11.9底12.3	
	2	鉄釉小型仏花瓶	MH53		古瀬戸中Ⅰ-Ⅱ期		2	珠洲播鉢	SD49	口28.0高(6.4)	
	3	灰釉鉢皿	SD49	口13.0高3.3底13.0	古瀬戸中Ⅳ期		3	珠洲播鉢	SD49	口30.4高12.4底15.2	
	4	灰釉鉢皿	表採		古瀬戸中Ⅲ期		4	珠洲播鉢	SD49、SE62	口32.8高(10.2)	
	5	灰釉鉢皿	NQ76		古瀬戸後Ⅳ期古		5	珠洲播鉢	SD49	口30.6高14.5底12.2	
	6	灰釉折縁小皿	MF53	口6.2高1.4底3.9	古瀬戸中Ⅳ期		6	珠洲播鉢	SE530	口30.8高14.8底14.0	
	7	灰釉折縁小皿	SE66	口9.0高(2.0)	古瀬戸後(Ⅱ)Ⅲ期		7	珠洲播鉢	SE04	口31.6高12.9底10.6	
	8	灰釉中皿	SD49	底8.4高(1.6)	古瀬戸中Ⅲ-Ⅳ期		260	1	珠洲播鉢	SE540	口38.7高15.1底13.0
	9	灰釉緑釉小皿	SE531	口9.5高2.1底4.8	古瀬戸後Ⅳ期古:灯明皿に使用			2	珠洲播鉢	SE58	口35.6高(6.5)
	10	灰釉腰折皿	MF55	底5.0	古瀬戸後Ⅳ期新		261	1	珠洲播鉢	SE309	底14.6高(10.0)
	11	志野丸皿	表採	灯明皿に使用	登窯第1小期か			2	珠洲播鉢	SE591	底12.0高(4.0)
	12	灰釉柄付片口	SD49		古瀬戸後Ⅰ(Ⅱ)期			3	珠洲播鉢	SE04	底13.8高(8.0)
	13	灰釉花瓶か	SD49		古瀬戸後Ⅰ(Ⅱ)期			4	珠洲播鉢	SE295・315	底13.7高(8.9)
	14	灰釉鉢	MD73	底8.2高(5.2)				5	珠洲播鉢	SE01	底11.0高(7.0)
255	1	灰釉平碗	SE109		古瀬戸後Ⅱ期	6		珠洲播鉢	表採	底12.0高(7.8)	
	2	灰釉平碗	SD49		古瀬戸中Ⅲ期	7		珠洲播鉢	SE237	底13.4高(2.8)	
	3	灰釉平碗	SD706	断面に漆付着		8		珠洲播鉢	SE315	底13.6高(3.2)	
	4	灰釉平碗	SK65		古瀬戸後Ⅰ期	262	1	珠洲播鉢	SD737	底9.2高(5.2)	
	5	灰釉平碗	SE108		古瀬戸後Ⅰ-Ⅱ期		2	珠洲播鉢	SE237	底13.4高(3.8)	
	6	灰釉平碗	SD706		古瀬戸後Ⅰ-Ⅱ期		3	珠洲播鉢	SD706	口27.6高(6.7)	
	7	灰釉平碗	SD49	底4.8高(2.5)	古瀬戸後Ⅱ期		4	珠洲播鉢	SE583	底13.2高(4.8)	
	8	灰釉浅碗	SD49		古瀬戸後Ⅰ-Ⅱ期		5	珠洲播鉢	SK59、SD630	底12.0高(3.9)	
	9	灰釉浅碗	SD49		古瀬戸後Ⅰ-Ⅱ期	268	1	珠洲壺	SD706	底8.4高(12.6)	
	10	灰釉浅碗	SD49		古瀬戸後Ⅰ-Ⅱ期		2	珠洲壺	SD706	底8.7高(11.6)	
	11	灰釉盤類	表採	底16.2高(2.7):脚付	古瀬戸後Ⅰ-Ⅱ期	269	1	越前播鉢	SE484	口31.6底14.2高11.9	
	12	灰釉盤類	表採		古瀬戸後Ⅰ-Ⅱ期か		10	越前播鉢	MR65	底16.8高(5.0)	
256	1	灰釉天目	SD49	口13.4高(4.6)	古瀬戸後Ⅰ期		11	越前播鉢	表採	底10.8高(3.0)	
	2	灰釉天目	SD706			12	越前播鉢	SE121	底14.0高(5.7)		
	3	天目茶碗	SD706		古瀬戸後Ⅰ期						
	4	天目茶碗	SE594	口12.2高(4.1)	大窯3						
	5	天目茶碗	SD49	底4.5高(2.4)	古瀬戸後Ⅰ期						
	6	天目茶碗	SD49	底4.4高(1.5)	古瀬戸後Ⅰ期						
	7	天目茶碗	LP60		大窯3後半						
	8	天目茶碗	SD64		古瀬戸後Ⅳ期か						
257	1	灰釉端反皿	SE459	口11.1高2.8底6.0	大窯1						
	2	灰釉端反皿	NI70	底6.0高(1.8)							
	3	灰釉端反皿か	SE458	底5.9高(1.2)	大窯1か						
	4	灰釉端反皿	表採	口10.3高2.6底6.0	大窯1						
	5	灰釉丸皿	MK50		大窯2						
	6	灰釉丸皿	SE484	口10.2高3.1底6.1	大窯3前						
	7	灰釉丸皿	SD64	口10.4高2.6底6.3	大窯3前						
	8	灰釉丸皿	SE700	底6.2高(1.5)							
	9	灰釉丸皿	33トレ	底5.6高(1.5)							
	10	鉄釉稜皿	SE280	口10.6高2.8底6.1	大窯3前						
258	1	灰釉内禿皿	24トレ	口10.2高2.7底5.8							
	2	灰釉内禿皿	SE484	口9.8高2.0底5.5	大窯3						
	3	灰釉内禿皿	SE484	口9.5高2.0底6.1	大窯3						
	4	灰釉内禿皿	SE484	口9.8高2.0底5.5							

(単位cm)

(単位cm)

2 木製品

本遺跡の出土遺物のなかでもっとも数多く、バラエティーに富んでいるのがこの木製品である。低湿地のため保存状態が良く、堀跡・井戸跡を中心に、当時の暮らしぶりを垣間見ることのできるたくさんの資料が出土している。一部に竹製品や広葉樹と思われる材を含むが、ほとんどが杉材であり、在地の「秋田杉」を使用して道具を製作していたことがわかる。

遺物の掲載にあたっては、下記のように分類表を作成し、配列を定め記述もこれに従う。本分類は、佐助ヶ谷遺跡発掘調査団（編）『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』（1993年刊行）の「佐助ヶ谷遺跡木製品分類表」を手本・基本とし、洲崎遺跡独自と判断される資料については、新たに項目を立て表化しているものである。

挿 図	大 項 目	小 項 目
273、 25、73	木筒等	木筒（273-1～10）、墨書曲物（273-11） 人魚供養札（25）、墨書板（73）
274～ 286	飲食器	漆塗り皿（274-1～7）、漆塗り蓋（274-8・9）、漆塗り碗（274-10～13、275～280）、箸（281）、板杓子（282）、折敷（283～286-1～4）、折敷台（286-5）
287～ 289	調理・炊事具	蓋（287-1～7）、ささら（287-9）、俎板（288、289-1）、柄杓（289-2～5）
290～ 295	容器	曲物容器（290）・曲物底板（291～293）、蓋（294-1）、箱（294-2～10）、把手（287-8、294-11～13）、栓（295）
296、 297	装身具	櫛（296-1～3）、扇子骨（296-4～7） 刀子柄（297-1～8）、刀子鞘（297-9～13）
298～ 306	履物	下駄（298～302-3、302-5～303-2）、田下駄（302-4、303-3）、下駄差歯（303-4～6）、草履芯（304～306）
307	建具	障子格子（307-1～11）、敷居（307-12）、楔（307-13）
307	調度具	膳脚（307-14～16）
308	火処具	自在鉤（308-1）、火鑽臼（308-2）
308	染・織具	糸巻（308-3）、紡錘車（308-4・5）、手押木（308-6・7）
309	呪術具	用途不明（309-1）、的（309-2）、サバマス（309-3～7） 斎串（309-8）
310～ 312	形代	鳥形（310-1）、人形（310-2～11）、刀子形（310-12～16） 刀形（310-17）、杓子形（311-1・2） その他形代（310-18～20、311-3～312）
313	遊戯具	笛（313-1）、羽子板（313-2・3）
313	計量具	物差し（313-4）
313	運搬具	荷札（313-5）、天秤棒（313-6）
313	工具	篋（313-7）、砥石台（313-8～10）
314	農具	鍬（314-1）、横槌（314-2）、柄振（314-3）
315	漁具	浮子（315-1～5）、オサ（315-6・7）、櫂（315-8）
316	編物	結び（316-1）、編物（316-2）
296、 317～ 327	用途不明具	漆塗り製品（296-8～10）、板状方形木製品（317・318）、棒状木製品（319～322）、板状・その他（323～327）

## (1) 木簡等 (第273図1～11、第25・73図、巻頭図版6-1～3)

木簡は10点(1～10)出土しており、8は折敷から転用されたものである。その他に曲物片に墨書したもの(11)、絵・記号状のもの(25・73図)も本項に含めて紹介する。

4は表面に「一斗二升□□[取<sup>おしき</sup>了]」、裏面に「二百五十□[文<sup>おしき</sup>刼] 小印」と記される。その他では釈文の判然とするものはないが、1は「□可以さワ」とし、冒頭の□を「こ」とすれば、「こかいさわ」か。最後の文字の判読も検討が必要である。この裏面にも薄く墨書が認められ、中央の文字は表面3文字目と同じ「以」のようである。2は頂部が圭頭形を呈する木簡である。4文字記されるが、最初は梵字のバン(金剛界大日如来)、次は「大」のようである。3も圭頭形を呈するものであろう。5は「三」以下は判読できない。8は表面に2文字の墨書がある。これは折敷からの切断転用で、裏面に細かい刃物痕が見られることから、折敷→俎板→木簡と様態が変化していったことが分かる。以上10点の木簡の出土遺構は、SD49堀跡4点、SKI115竪穴状遺構3点、SE150井戸跡2点、SE216井戸跡1点である。

25図はSE587井戸跡から出土した墨書板であり、「人魚供養札」の名称を付している。これは丸木舟を切断転用した井戸側と楕円形を呈する水溜用の曲物との狭い隙間から検出されたものである。文字と絵は板の上半部にのみ墨書され、下半・裏面にはない。絵は上に僧侶、下に人魚が描かれ、人魚の両側には3行の文字がある。釈文は「アラツタナヤ互(テ)ウチ く(繰返し符号、互ウチ)ニトテ候 そわ可」あるいは「アラツタナヤミウチ 人ニトテ候 そわ可」との解釈が並立するが、現段階では前者を支持している。また僧侶の右には、刀子等で刻まれた文字らしきものが確認できる。また同様に人魚絵を囲むような線と、これを消すような線刻も確認できる。この資料については、まとめにおいて詳述する。

73図はSE205井戸跡から出土した墨書板である。井戸側内の曲物を北側で押さえる横板として使用されていたものである。墨書は一辺1.9～4.0cmの方形が連続・連結して描かれている。方形が屋敷地、その間の細長い空隙が道路とも思われ、集落の様子を描いた「町割図」の可能性もある。墨書は板の両端まで及んでいることから、本来はもっと大きな板に墨書していたものを細長く切断したと判断される。

## (2) 飲食器

食膳に使用する器は、挽物の皿・蓋・椀・盤があり、全て漆が塗られている製品である。割物や白木のもの認められなかった。なお材質については、いずれも未分析のため不詳である。

## ① 漆塗り皿 (第274図1～7)

皿は11点確認しており、うちSD49堀跡から7点出土した。ここでは7点を図示する。2・3は内面に赤色漆塗りとなる。1は底部外面の中央付近に「の」字状の削り込みと貫通孔があり、皿としての使用後に転用された可能性がある。1・6は削り出しによる低い輪高台が作出される。

## ② 漆塗り蓋 (第274図8・9)

蓋は2点出土した。8はつまみ部分の内部に「\*」状の浅い刻みを施す。内面は赤色漆塗りである。274-9はつまみ部分の内部に赤色漆で屋号様の記号(あるいは文字か)が記される。

## ③ 漆塗り椀 (第274図10～13、第275～280図)

椀は54点確認しており、うちSD49堀跡から28点出土した。ここでは33点を図示する。底面は削

り出しによる輪高台を持つものが大半を占め、明らかに無台は275-1・2、280-3のみである。279-3、280-1は足高の高台となる。

椀は地に黒色漆が塗られているものがほとんどである。漆塗りの範囲は全面にわたるものと、底部を除いて塗られているものとの2種類に分けられる。また内面に赤色漆が塗られているもの(275-7・9、277-3・4)、内外面に赤色漆が塗られているもの(280-4)がある。276-1・3・4、277-1・2は底部に「十」「一」等の線刻が、280-4は体外面に線刻がそれぞれ認められる。また14点には赤色漆による文様が施されている。275-9は2羽並んで飛ぶ千鳥が、277-2の内面見込みには扇が描かれている。278-1は外面に2種類の花が交互に、278-2も外面3箇所には花火状の意匠が描かれる。この2は、中央とその周辺に数個の貫通孔が見られ、柄杓等に転用された痕跡を示すものかもしれない。280-3は底面に「二」の赤漆文字が見られ、もう1点の漆塗り椀と共にSK223土坑から出土した。この土坑は形態と埋土から墓と考えられ、椀は副葬品であった可能性がある。275-11の椀は炭化している。その他1点ではあるが、大型の盤となるであろう破片も出土している。SE529井戸跡出土であり、内外面とも赤色漆が塗られる。

#### ④箸(第281図)

箸は総数で9,821本出土しており、本遺跡の木製品の中では一番多く確認されたものである。両端を細く削っており、現在の両口箸とほぼ同じ形状をしている。完形のもは全体の1/3である。長さは19~21cm、幅は0.5~0.7cm、厚さは0.4~0.6cmの範囲にほぼ収まり、強い規格性を持って作られていることがわかる。断面形は五角形、六角形が多く全体のほぼ8割を占めている。箸はSD706堀跡から5,822本(59%)、SD49堀跡から3,204本(33%)と全体の92%が2つの堀跡から出土している。また一箇所にとまとまった状態でみつかるとも多く(特にSD706)、一括で廃棄される機会があったと考えられる。

#### ⑤板杓子(第282図)

板杓子は7点出土した。形状からI・II類に分類できる。

##### I類(第282図1~5)角の丸いもの

本類は身の部分の形状が丸いもので、周縁部の全体に面取りがみられる。1は小型で身と柄の境は比較的はっきりしている。2~4は身幅と柄幅の差があまりなく、身と柄の境がなだらかである。何かを混ぜたりするような籠的な使われ方をしていたと考えられる。3は表面に細かい刃物痕がみられる。5は身と柄の境が明瞭である。

##### II類(第282図6・7)羽子板状のもの

本類は身の部分の形状が角型で、周縁部の全体に面取りがみられる。6は身の先端部をやや薄くする加工が施される。

#### ⑥折敷(第283~286図)

折敷は食器を載せる台で、少なくとも60点出土しているが、うち32点を図示した。20点に細かい刃物痕が残り、高い頻度で俎板等に転用していたものと考えられる。平面形状は隅を切った方形となり、各辺は直線的となるが、283-4・5は丸みがつく。285-8を除き、柾目の薄い板材を使用し、桜の樺で縁を縫い止めていたと思われる。283-1は高さ1cmの縁が完残しているが、樺等の結合材は確認できなかった。283-2には表面に手斧痕が明確に見られる。285-8は板目のやや厚い材を使用し、

孔に木釘が残ることから箱として使用されていた可能性がある。285-9は墨で2本の平行線が引かれ、図示面の上端で切断している。

#### ⑦折敷台（第286図5）

折敷台と思われるものは1点出土した。両側に2段の孔がありそれぞれ木釘が残っている。

#### （3）調理・炊事具（第287～289図）

##### ①蓋（第287図1～7）

調理・炊事に使用する鍋・釜等の蓋は7点出土した。1～3は円形またはそれに近い形状で、孔が穿けられている。この孔がつまみに係ると判断し、本項に含めた。4・5は中心に角孔が、5はその周囲にも小さい孔が穿けられている。6は板状のつまみが残存し、つまみと直交する方向に7つの小孔がみられる。また割口にも一部木釘の残る小孔があり、これらの孔は蓋が2つに割れてしまった後の補修孔であると考えられる。7は板状のつまみ部分である。1・2・4は細かい刃物痕があり、俎板に転用されていたものと考えられる。また4・5・6は黒色の付着物が認められる。

##### ②ささら（第287図9）

ささらは1点出土した。薄い板を束ねて使用した。曲物や桶などを洗うときに細かいごみなどを払い落とすためのたわしのようなものである。これはS E 27井戸跡曲物の中から出土した（286図下の写真参照）。

##### ③俎板（第288図1・第289図1）

俎板は2点出土した。折敷等からの転用は多いが、俎板として使用する目的で作られたものは次の2点のみである。288-1は柾目の杉板を使用し、板の四隅を切り落として俎板にしている。刃物痕は両面に見られる。年輪年代測定により板の伐採年は1287年と判明している。この俎板は使用後に井戸側（S E 291）の縦板に転用されている。289-1は柾目の杉材を使用し、側面には手斧による加工がある。刃物痕は片面のみにみられる。使用後は井戸側（S E 307）の横板に転用されている。

##### ④柄杓（第289図2～5）

柄杓は4点出土し、いずれも径10cm前後の小型曲物を用いている。4は先端の尖った柄（太さ1.2cm）が残った状態で出土した。この柄は径5mm、長さ4.5cmの棒で固定されている。2は銭貨（洪武通寶）が中に入った状態で井戸内（S E 154）に埋め置かれていた。これは井戸の廃棄に伴う祭祀行為のひとつであったと考えられる。

#### （4）容器（第290～295図）

ものを入れる器は様々なものがあるが、ここでは曲物・曲物容器、曲物底板、箱を本項に含めた。また容器の付属品である把手、栓も集録した。

##### ①曲物・曲物容器（第290図1～5）

曲物は前述の柄杓を除いて82点確認している。その多くは井戸内部の水溜に使用された中型（口径30～45cm程度）・大型のもの（口径約45cm以上）であるが、底板をもつ小型の曲物容器（口径15～30cm程）も見られる。これらは原則的に出土した井戸跡の遺構図・写真と同頁に集録したが、割付の関係で収まりきらないものを290図に掲載した。1～4が曲物容器、5・6が水溜に使用の曲物である。なお、これらの曲物については、まとめて若干ふれる。

曲物底板は36点を図示した。曲物底板は以下のⅠ～Ⅲ類に分類できる。

Ⅰ類（第291図1～9）側面に孔（一部木釘残る）がある円板

側面に孔があり、木釘によって曲物の側板に固定していたと考えられる。1・2は小型で柄杓等の底板として使用されていたものであろう。5は側面に孔があり、平面にも4つの孔がある。またこの底板は被熱によって一部炭化している。9は細かい刃物痕があり、俎板に転用していたと考えられる。3・9の表面（内面）には、中心から側縁に向かう大きな刻みがある。この刻みは底板の残る曲物で観察したところ（S E 300出土、第91図写真参照）、曲物側板の結合部に対応しており、おそらく底板を先に製作し、側板を底板の形・大きさに合わせて作る際の目印としてつけられたものと推測される。

Ⅱ類（第292図1～17、第293図1～6、10）孔などの加工が特にみられない円板

孔・釘などの特にみられない円板である。292-1～9は小型で柄杓等の底板として使用していたものである。292-13、293-5は被熱によって一部炭化している。5は柱穴の礎板に転用されていた。292-8は漆が塗られ、292-5・9には黒色の付着物がみられる。292-4・7・8・11は刃物痕とは異なる刻みがみられるが、これは前述したⅠ類、291-3・9にみられる刻みと同様のものと考えられる。

Ⅲ類（第293図4・7～9）その他の底板

4・7・8は円形でなく他の用途で使用されていた可能性がある。9は方形の削りがあり、また他に比べてやや厚い。

③箱・箱蓋（第294図1～10）

1は長方形の箱蓋である。二方棧蓋で、内側の両脇に木釘で棧が付けられている。外面には細かい刃物痕がたくさんあり見られ、被熱によって一部炭化している。2～10は箱である。2は被熱により炭化している。また底面に細かい刃物痕がたくさんあり、俎板に転用されていたものと考えられる。3は板目の材を使用しており、表面には手斧痕が木目に斜行して残る。図示面右側縁下部の切れ込みが制作時のものとするれば、箱ではなく別の部材等であった可能性がある。5は黒色漆が全面に塗られており、側面に木釘が残っている。8～10は箱の側板・筋交であり、3点とも同一井戸内（S E 03A）から検出されている。一つの箱となるものかもしれない。

④把手（第287図8、第294図11～13）

把手は2種4点出土した。287-8は緩いU字形を呈する作りのしっかりした把手である。両端部にV字の切り込みがあり、現在でも同型のものが曲物容器の把手として使用されている。切り込みの位置からすると径22cm程の曲物に伴う把手であったと考えられる。これはS E 121井戸跡水溜の曲物中から出土している。294-11・12は、棒状の端部に挟りを入れる型の把手である。12は一端が被熱による炭化で欠損している。13は挟りが明確ではなく、全く別の部材の可能性もある。

⑤栓（第295図1～8）

容器の栓として用いたと想定されるものは8点出土している。1は一端に向かい細く削り下ろし、4は下端を細くしている。6は中央に段があり、下部は細く加工している。7は断面方形で、下端に削りがある。栓は樽蓋の止栓に伴う道具と考えられるが、本遺跡では曲物はあっても明確な桶・樽類の出土はない。ただ遺構外出土ではあるが桶・樽類らしき側板小破片を1点確認している。こ

## (5) 装身具 (第296図1～7・第297図)

## ①櫛 (第296図1～3)

櫛は3点出土した。3点ともに横櫛で1・3は黒色漆が塗られている。1は歯の密度が高く、山の部分に赤色漆で模様を描かれている。SD49堀跡2点、SE238井戸跡1点の出土である。

## ②扇子 (第296図4～7)

扇子は骨のみが4点出土した。先端部分まで残っているものはないが、基部に穿った孔の部分に木釘を差し込み固定して使用していたと思われる。4点ともに非常に薄く、基部の端は丸く仕上げられている。これはSD49堀跡から一括出土したものである。

## ③刀子柄 (第297図1～8)

刀子柄は8点出土した。刀子柄、鞘は通常1本の木を柄状に削り込んだ後にこれを縦に割り、刀身に合わせて割り込みを行い、再びこれを合わせて使用する。1～5は内面に刀身にあわせて割り込みがある。1・2は内部に刀身が残る。1は木釘で接合されている。いわゆる「吞入式」と呼ばれる合わせ方は1・3・4にみられ、鞘との合わせ方向の端部が長円状に突き出る。他は直線的に切られ、5は半円状に削り込まれている。3は表面全体に黒色漆が塗られている。

## ④刀子鞘 (第297図9～13)

刀子鞘は5点出土した。9～12は吞入式の合わせ構造のため合わせ部は半円状に削り込まれている。すべて内側に刀子に合わせた割り込みがある。鞘は木釘等の接合材が残っておらず、布等の補助的な接合材があったのではないかと考えられる。13は鞘の未製品である。刀子に合わせた割り込みを入れた後に幅を調整し、合わせ部を加工していたことが推測できる。刀子柄・鞘ともその多くはSD49堀跡から出土している。

## (6) 履物 (第298～306図)

## ①下駄・田下駄 (第298～303図)

下駄は前緒1つ、横緒2つを穿った台部に鼻緒をすげて、2枚の歯を有する鼻緒履物類の1種である。古くはアシダ(足駄)・ボクリ(木履)と呼ばれていた。歯の特徴から、台部と歯部とを一木で作る連歯下駄と、台部に別材の歯部を差し込む差歯下駄とに大別できる。連歯下駄は晴天に、差歯下駄は雨天や雨上がりに多く用いる。また絵巻物にみる下駄を使用する階層は僧・庶民であるが、なかでも外出時の女の服装として使用されている。<sup>(註1)</sup>連歯下駄34点・田下駄2点、差歯3点を図示した。多くの下駄は歯部の摩滅が著しい。指先、指の根元というような力が入っていたところに凹みが出てきているものも多い。また通常鼻緒孔は3つであるが301-4～6、302-1、303-1・2のように5～6つの孔が穿たれているものもある。これはサイズが合わなくなった等の補修の跡と推測される。歯の摩滅、補修等から長い間大切に使用し、履けなくなった時点で廃棄されているようである。出土位置はほとんどが井戸跡、もしくは堀跡である。

また台部には押印や線刻なども見られる。300-1は踵の当たる部分に◎印が6個押され、299-5は放射状の直線が、301-3では方形様の削り込みが認められる。298-1、300-5・6には未貫通の小孔が穿たれている。301-1・4・5、302-3には台部上面に細かい刃物痕がみられる。302-5は台部上面のほぼ全範囲が火を受け炭化している。298-7は下駄の一部であるが後歯が完全に削り取られている。301-3、302-2はSE16井戸側内の底面近くに並んだ状態で出土した。302-4、303-1・

2は長さが30cm前後の大型のものであり、田下駄であった可能性もある。

302-4は板型の田下駄である。鼻緒孔は3つと推定される。303-3は横長田下駄で、鼻緒孔は4つである。4孔の田下駄は孔に通した紐で足の甲や踵を縛りつけて使用するものようである。

303-4～6は差歯の一部である。歯部の側面は丁寧に面取りされる。歯底部には砂を噛んだ痕跡が明瞭であり、その減り方は3点ともにほぼ水平である。

## ②草履芯（第304～306図）

板草履は2枚の薄板を芯にして表裏に藁か藁を編み、これに鼻緒をつけた履物と考えられている。芯となる薄板は、先端部内寄りの一ヶ所に小孔をあけ、側縁部やや後方に方形の切取部があることを特徴とする。この薄板2枚を左右対称に組み合わせて片足分の草履芯となる。草履芯は43点を図示した。形状からⅠ～Ⅴ類に分類できる。

### Ⅰ類（第304図1～3）切取部、後端部の削りがないもの

3点とも全体的に丸みを帯びた形をし、後端部にかけてややふくらみをもっている。

### Ⅱ類（第304図4～12）切取部の削りがなく・後端部に山形の切り込みがあるもの

この類に属するものは、後端部に山形の切り込みがみられる。側縁部がふくらみ、側縁部の真中付近に最大幅を持つ。9～11は後端部付近の合わせ部に小孔を穿っている。

### Ⅲ類（第304図13～17、第305図1・2）切取部の削りがあり・後端部に削りがないもの

この類に属するものは、切取部が方形に削り取られ、後端部は丸みを帯びている。304-16・17、305-1・2は前端部が角張り、後端部が丸みを帯びている。304-14・15・17、305-1・2は繊維が残る。

### Ⅳ類（第305図3～11）切取部の削りがあり・後端部に山形の切り込みがあるもの

この類に属するものは切取部が方形に削り取られ、後端部は山形に切りこまれている。側縁部の切取り部より後方は丸みを帯びて後端部に向かうもの（305-6・9・10）と直線的に後端部に向かうもの（305-7・8・11）の2種類がある。7・8・11は後端部近くの合わせ部に小孔が穿たれる。7・9・11は繊維が残っている。

### Ⅴ類（第305図12～第306図）欠損等によりⅠ～Ⅳ類に分類不能のものをまとめた。

## （7）建具（第307図1～13）

### ①格子（第307図1～11）

格子戸の材である。1～7は格子子<sup>こうしこ</sup>、8～11は横棧であり、格子子の凹み（組手仕口）に横棧を組み合わせて格子として使用していたものである。格子子には釘穴が貫通しているものが多い。

### ②敷居（第307図12）

12は敷居の一部である。両側が切断されている。角材に2本の溝がみられる。

### ③楔（第307図13）

楔は井戸側隅柱のほぞ穴に横棧を固定するため、あるいは木製品において別部材を固定するために打ち込まれた状態で出土している。前者例は少なくとも21基の井戸で確認している。後者ではサバマス（309-7）・柄振（314-3）・棒状木製品（322-15）に見られる。ここではS E159井戸跡で使用していた1点を図示する。断面長方形で先端に向かって薄く尖るように加工された製品である。

## （8）調度具（第307図14～16）

### ①膳脚（第307図14～16、第296図11）



膳脚は3点出土した。猫脚状の脚で断面形は、14が五角形、他の2点は方形である。本体に接合する円柱状の凸部を持つ。14は火を受け、先端部が一部炭化している。

また調度具に属すると思われるものに296-11の台がある。この台は全体に黒色漆が塗られ、赤色漆で文様のようなものが施されている。半円形で直線的な部分を下にし、割り込みを入れている。両側に木釘が残っている。

#### (9) 火処具 (第308図1・2)

囲炉裏等<sup>いろり</sup>で火を使用する際の道具を本項に含めた。自在鉤、火鑽臼<sup>かぎ ひきりうす</sup>の2点が出土している。いずれもSD49堀跡出土である。また遺構外ではあるが銅製の火箸(331-3)もみつまっている。

##### ①自在鉤 (第308図1)

囲炉裏の上に吊るし鍋などを掛ける鉤で、掛けた容器を自在に上下でき、火力の調節を容易にする。下部にかけて火を受けた跡がみられる。また、上下調節のために横木を使用することがあるが、326-18はこれに類似するものである。

##### ②火鑽臼 (第308図2)

回転摩擦式の発火具で、この火鑽臼を下に置き、丸棒(火鑽杵)の先端を押し当てて回転させることによって発火させる。この摩擦によってできるくぼみは火鑽穴というが、この製品は火鑽穴が貫通している。この火鑽穴の周囲には焼け焦げた跡がある。

#### (10) 染・織具 (第308図3～7)

##### ①糸巻 (第308図3)

糸巻は1点出土した。糸を巻き取る、または巻いた糸を保持する道具である。糸巻は数本の柾木とそれを固定する横木と、横木の芯にとおす軸棒からなる。この製品は柾木の部分である。腹面に横木をかみ合わせる挟りが2箇所に入る。

##### ②紡錘車 (第308図4・5)

円板の中心に糸巻棒をとおす紡錘車はSD49堀跡から2点出土した。糸巻棒は残っていない。308-4は上面に面取りを施した跡が残る。308-5は丁寧に成形され、両面に黒色漆が見られる。漆塗り碗の底部から転用された可能性がある。

##### ③手押木 (第308図6・7)

手押木は2点出土した。撚りかけ道具と呼ばれる、麻糸を撚るために用いた半月状の道具である。麻糸を紡錘車にかけ紡錘車を長方形の木台(手押台)にのせ、半月状の木(手押木)でこすって回転させ撚り<sup>(註2) しぎさん</sup>をかける。『信貴山縁起絵巻』『石山寺縁起絵巻』には「手すりつむ」の様子として描かれている。糸巻・紡錘車・手押木いずれもSD49堀跡出土である。

#### (11) 呪術具 (第309図1～7)

##### ①用途不明 (第309図1)

1は棒状の柄とその上部に薄い板をはめ込む形で遺存していたものである。多角形状に面取りされた柄の先端部には、十字の切れ込みが細工され、ここに板を挟み込む。この板は下端の一部しか残っていないため詳細は不明であるが、扇形あるいは菱形のものであったと考えられる。また柄の下端は一段細くなり、別の棒状のものと組み合わせて使用していた可能性がある。SD49堀跡から出土した。本遺物は精緻な作りであり、何か宗教儀式・祭祀の場で使用された道具のように思え、

用途不明としながら一応呪術具の項に入れているものである。

②的 (第309図2)

S D49堀跡から出土した径21.8cm程の円形的の一部である。中心には径3mmの貫通孔がある。薄い板材にコンパスのようなもので同心円状の刻線を施し、その間に三重の縞状に墨を入れている。短冊状に加工されており、最終的には別の用途に転用された可能性がある。『粉河寺縁起』には的こかわでらを軒先に掲げ、魔除けとしている様子が描かれている(註3) (第353図8)。

③サバマス (第309図3～7)

サバマスは八郎瀧周辺に伝わる風習で、死人がでた知らせを寺・親戚および近隣に伝える「死シラセ」がでた後に玄関口に立てていたものである(第352図右上参照)。このサバマスは仏飯の茶碗を洗うときに、茶碗の底についた飯を集めて盃に入れて乗せ、忌明けとともに川に流していたよう(註4)である。方形の板が上部の台になるように、長さ1m程の棒に乗せた状態で使用する。棒は楔で固定されている。棒は下端が尖り、地面に刺しやすいように加工している。本遺跡では5点出土し、いずれも集落を区画する堀跡(3はS D630、4～7はS D49)から見つかった。

④齋串 (第309図8)

齋串は結界をあらわし、地面に突き刺して聖なる空間とケガレの世界とを分ける機能を有していたものと考えられている。8は細長い板材の上端を圭頭状に削り、両側に2段の切り込みが入る。下部は欠損しているが、やや細くなっている。S K I 191竪穴状遺構から出土している。

(12) 形代かたしろ (第310～312図)

形代とは実際の器物や動物等を模したもので、祭祀の場においてその都度用いられたものである。本遺跡からは人形、鳥形、刀形、刀子形などさまざまな形代が出土している。人形は一撫一吻し、川や溝に流すことにより罪穢や悪気を祓い流すもの、鳥形は穢を負わせた人形を他界へと運ぶもの、刀形、刀子形は武器として災いや鬼を追い払う役割を果たすものと捉えられていたようである。

これら各種の形代は、S D49・706やS K I 115・191の堀跡・竪穴状遺構等から多く出土しており、井戸跡からする事例は少ない。

①鳥形とりがた (第310図1)

鳥形は1点出土した。この鳥形は一枚の板材によって、翼をたたんだ鳥の側面形を表現したものである。これは平成9年の範囲確認調査時に出土したものであるが、その位置は調査区北西端部であり、後述する遺跡西端を画する堀跡の東岸あたりとなる。

②人形ひとがた (第310図2～11)

人形は10点出土した。2～5は立体人形である。2～4は堀跡(S D49)から出土している。棒状の材の上部に括れ部分がある。310-5は断面長方形の材に括れがあり、その括れの上部に貫通孔がある。その他に細かい刃物痕がみられる。6～11は偏平な板材を加工した人形である。6・7は正面像、8～11は側面像である。

③刀子形・刀形とうすがた かたながた (第310図12～17)

刀子形は5点出土した。16は折敷からの転用である。細かい刃物痕がある。

④杓子形しゃくしがた (第311図1・2)

杓子形は2点出土した。1は実際の杓子と形状はあまり変わらないが、薄手で実用には適さない。

2は細かい刃物痕がある。

なお、310-18~20、311-3~312も形代と思われるが詳細は不明である。

#### (13) 遊戯具 (第313図1~3)

##### ① 笛 (第313図1、巻頭図版6-4)

笛は1点出土した。竹製の縦笛である。破損が激しく実測図上ではずれが生じているが、実際にはしっかり接合すると考えられる。上部に節があり、指孔はほぼ円形で表2、裏1の3孔である。指孔の径は5mm程である。SD49堀跡から出土した。これは、一乗谷朝倉氏遺跡から出土している中世尺八の「一節切」に類似するものである。

##### ② 羽子板 (第313図2・3)

羽子板は2点出土した。羽子板は中世には「胡鬼板」と呼ばれ、羽根突きは「胡鬼子勝負」といわれた。この遊戯具は、我国にきた鬼が疫病や災害をもたらすと、当時の人が考えてきたことを物語るものである。鬼が取りつかないように相互に払うまじないとして正月に羽根突きが行われ、額に墨が塗られるのは鬼が取りついたことを示している。ちなみに羽根が飛んでいく様が蚊を食べる赤とんぼに似ているところから、やがて来る夏の日に子供が蚊に刺されないためのまじないともいわれる。<sup>(註6)</sup>本遺跡出土の羽子板(2・3)は折敷として使用されていた板を俎板として転用し、その後羽子板として作り直したものと考えられ、板には細かい刃物痕が多数見られる。左右対称でなくやや雑な作りである。2点とも井戸側内部(SE04・508)から出土している。

#### (14) 計量具

##### ① 物差し (第313図4)

物の分量をはかる道具として物差しが1点出土した。長さ15cm(欠損しており本来はもっと長い)の棒状具に細かい目盛りがほぼ等間隔(0.2~0.3cm)で刻まれている。SD706堀跡出土である。

#### (15) 運搬具 (第313図5・6)

##### ② 荷札 (第313図5)

この荷札は長方形の板の両側面からV字の挟りが入り、両平面は非常に丁寧に削られている。

##### ③ 天秤棒 (第313図6)

6は運搬に使用する天秤棒の一部である。端部上面に切り込みがあり、この部分に担ぎ紐を掛けて使用したと考えられる。現存する長さは32.7cmでありSK I 679から出土している。

#### (16) 工具 (第313図7~10)

##### ① 篋 (第313図7)

篋と確認できたものは1点出土した。柁目の板を棒状に加工し、先端を偏平に削り下ろしている。先端の加工は片面のみ、斜めに削り尖らせている。

##### ② 砥石台 (第313図8~10)

砥石台は3点出土した。8は砥石を乗せる部分に貫通孔があり、使用時の水抜き孔と推測される。9は棒状に削られた握り部分がある。10は近世民俗資料の砥石台と同様の形状で、他部材からの転用でなく専用の工具として作られたものようである。その砥石を乗せる台の高さから仕上砥用のものであり、16世紀以降の製品であることがわかっている。この砥石台は裏面に細かい刃物痕が残る。なお本項については汐見一夫氏(鎌倉考古学研究所)のご教示を得た。

(17) 農具 (第314図1～3)

① 鋤 (第314図1)

1は木製の柄・台に鉄の刃先を装着する「風呂鋤」の柄・風呂台(鋤台)である。通常、柄と風呂台は分かれているが、この鋤は風呂台と柄が一体となっている。これは自然の立木の幹とそれから出ている角度の良い枝を切り、それを削って作っていたと考えられる。この一本作りの風呂台は「作り木」という。鋤は作業方式の違いで打ち鋤(刃を打ち込み、土を耕起する作業のために使用)・引き鋤(土をさらえて引くために使用)・打ち引き鋤(打ち込み・耕起と土を攪拌する両方のために使用)に3(註7)大別される。それぞれの鋤身と柄の斜角(着柄角度)は60～85°、35～40°、50°が適するという。本鋤の場合、着柄角度は55°であり、「打ち鋤」、もしくは「打ち引き鋤」として使用されていたと考えられる。風呂台の側面と先端部は刃先を装着するため面取りされ鋭角に加工されている。

② 横槌 (第314図2)

2は一本作りの横槌である。身(敲打部)に大きく欠けた跡が見られる。身の側面には敲打による使用痕がある。また身のほぼ全面に細かい刃物痕がある。鋤・横槌ともにSD49堀跡出土である。

③ 柄振 (第314図3)

3は柄振である。台木の真中に引棒を差込むための角孔がある。その両側に2本ずつ、計4本の歯が植えこまれている。歯は断面が方形で、4本の歯のうち2本は楔を打ち込んで台木に歯を固定している。SE03A井戸跡から出土した。

(18) 漁具 (第315図1～8)

① 浮子うき (第315図1～5)

浮子は5点出土した。1は断面長方形の板の両端に袢りを入れている。2～5は棒状の材の両端を一段細くし、この部分を網につけていたと考えられる。

② オサ (第315図6・7)

オサとはオシタモ操業に用いられた道具の一部である。オシタモ操業とは、八郎潟で伝統的に行われていた漁法である(第352図参照)。オサにワ(竹製の輪)をつけた網口に2mほどの袋網を付け、オシボウを差したオシタモを湖底に押し付けて海老などを捕る漁法である。(註8)

6のオサは中央にオシボウを刺す穴を持ち、その両側に9箇所の網を取りつけるための貫通孔が残る。7は中央に穴はみられないが、14箇所の貫通孔が認められる。これら孔の内部は黒く焦げていることから、熱した鉄箸(径4mm程か)を押し当て穿孔したと思われる。2点ともに同じ井戸側(SE576)の横棧として転用されていたものである。

③ 櫂かい (第315図8)

櫂と思われるものは1点出土している。水かきの先端を両面から削って尖らせている。柄と水かきが一体となった一木式の櫂である。SE274井戸跡出土である。

(19) 編物 (第316図、巻頭図版6-5)

1は薄く加工した木板を11枚重ねている結びである。結び方は水引の基本結びである鮑結びあわびと同一である。(註9) 2は薄く細い木板を1～4本おきに組み編みしている。樺で図示面上部を留めている。右上部には1と同じ結びが付けられている。籠あるいは履物として利用されていた可能性がある。2点ともにSD49堀跡から出土した。(註10)

## (20) 用途不明具 (第296図8～10、第317～327図)

用途の特定できない製品をここに集めた。使用痕が明瞭であったり、同一形状のものが複数個体出土しており、今後、用途不明でくくっているこれら製品についての再検討が必要である。

## ① 漆塗り製品 (第296図8～10)

8は全面に漆が塗られている棒状の製品である。断面は逆扇形で、山の部分から両脇に細かく丁寧な加工が並んで施されている。9・10は漆塗りの板である。黒色漆地に赤色漆で絵・文様が描かれる。

## ② 板状方形木製品 (第317・318図)

この製品は26点を図示している。方形の薄い板の四隅に切り込みを入れ、菱形もしくは六角形になるように折り取られている。製作途中のものも多く出土している。大きさは一辺が8～9cm程度でほぼ揃っており、強い規格性をもって作られているようである。大半がS D49堀跡から出土している。

## ③ 棒状木製品 (第319～322図)

棒状を呈するもののうち、上記項目に収まらない製品を集成した。これらを観察すると、上下端部における平坦・尖状・面取り加工や穿孔・切り取り等が認められることから、細分は可能である。しかし一方で、分類基準を明示できない遺物も多くあり、ここでは列記に留める。

319-1～11は下部が尖状、上部が平坦・斜めに面取り加工があり、横断面が長方形に近いものである。319-12～17、320-1～5は、下部が尖状（一部丸みをもつ）を呈し、横断面が方形に近いものである。319-12、320-1・2は被熱で一部炭化している。

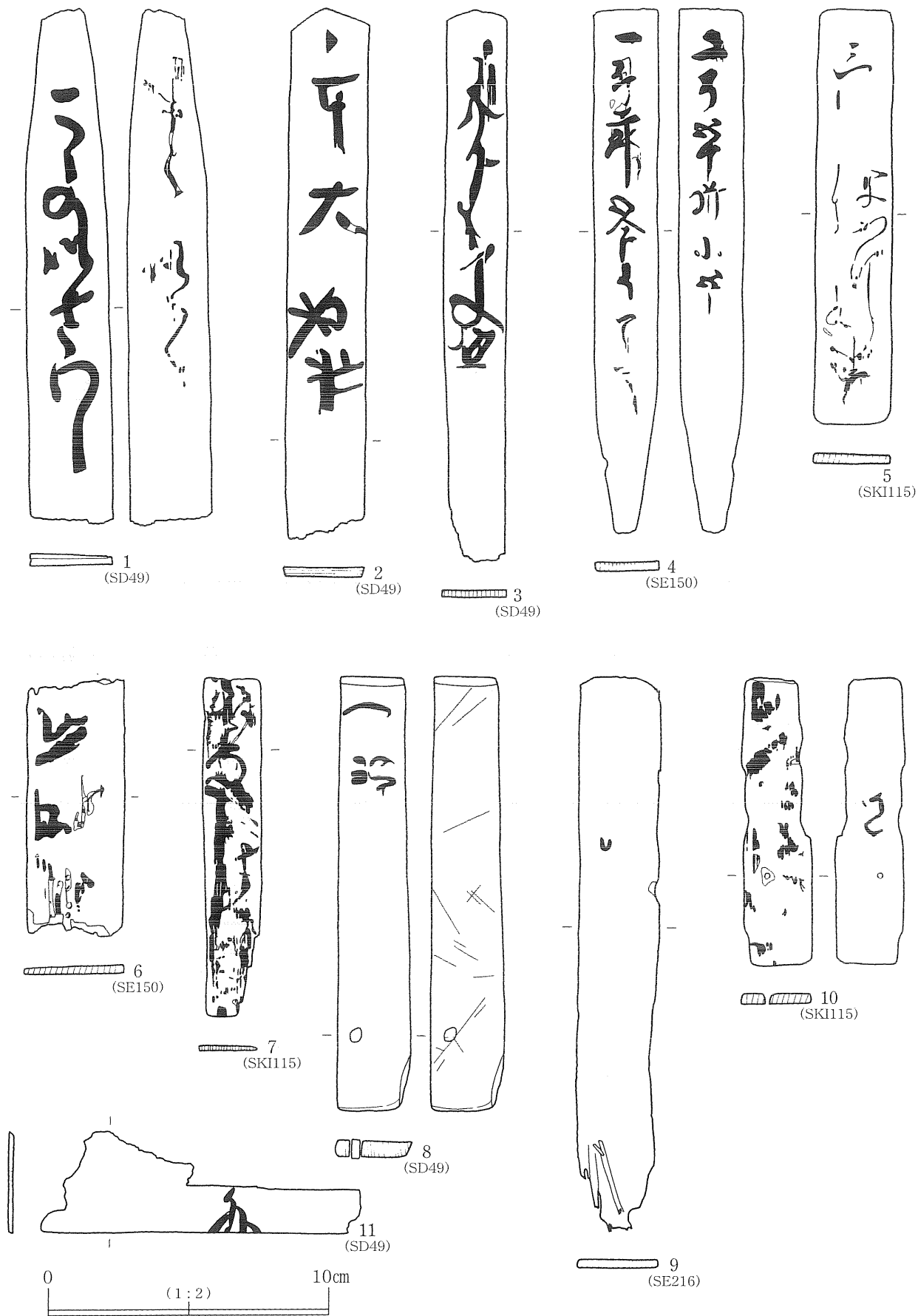
320-6～16は先端を細くする加工のないものである。7は被熱で一部炭化している。321-1～16は、上下端を細くする加工が見られるものである。これらは平面形状的には箸と同一であるが、箸としたものは、側面における面取りが丁寧になされるが、ここに挙げたものは比較的雑な仕上がりである。また法量的にも近似した数値を示す箸を逸脱する。

第321-17～22は、断面形が四角で両端が平坦となるものである。長さは13～17cm程の間にほぼまとまり、規格性の強いものである。これらはS K I 244竪穴状遺構から60点近く出土している。

322-7・8は端部に抉りが入り把手であった可能性がある。322-9は棒状というより幅広の板状であるが両端部に各1個の孔をもつ。322-12は横断面半円状で下端部が尖る。中央部には木釘が残る孔が見られる。322-15は下端部が丸みを持つように加工され、上端部に小さな板が付された製品である。この板は楔で多角形に面取りされた棒と固定される。

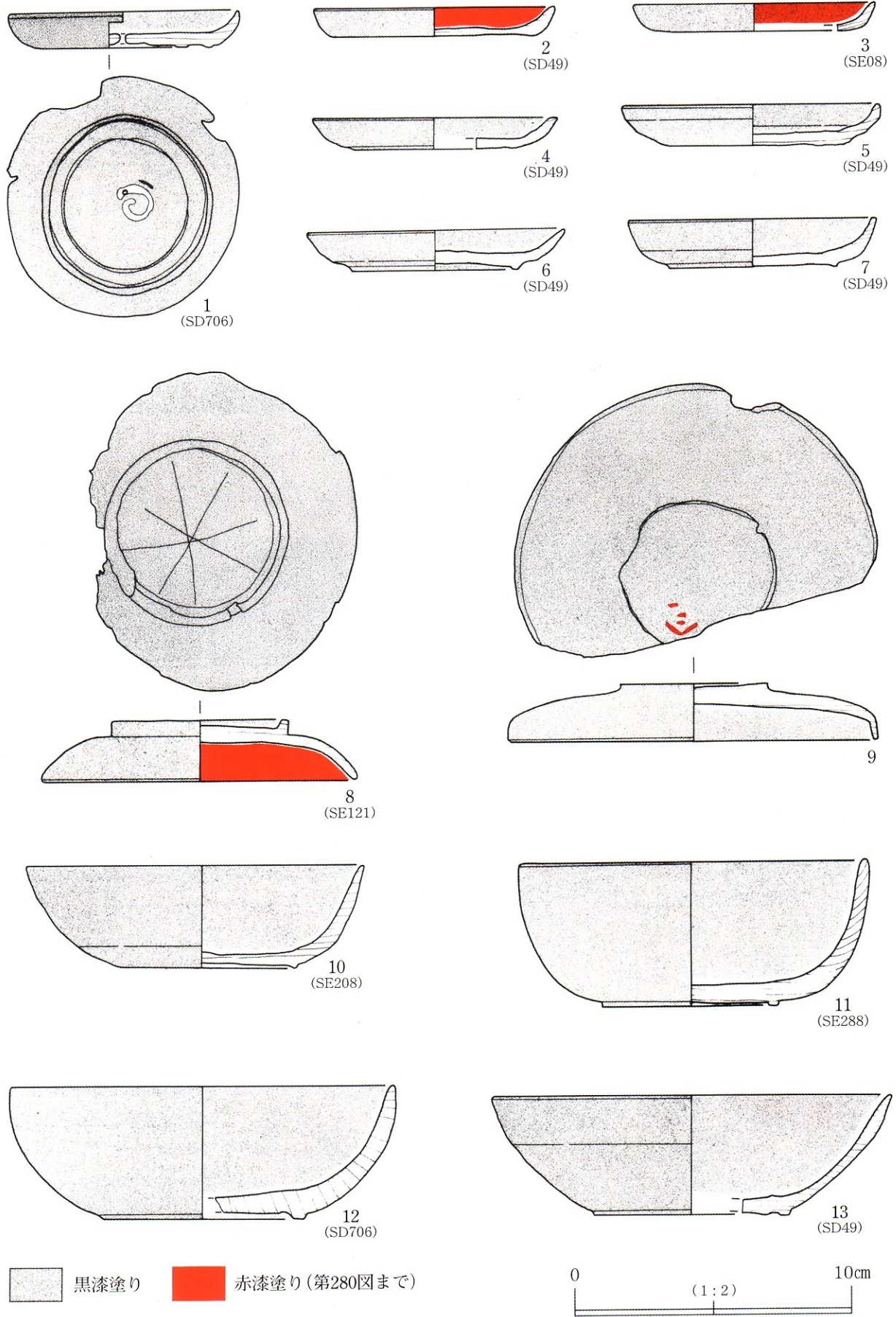
## ④ 板状・その他の木製品 (第323～327図)

323-1～10の10点は板材を片歯状に加工しているものである。10は折敷を転用している。324-6は板の一端に握手が付されるものであり、火を受け炭化箇所が広く残る。324-13は、その形状から織機の部材と見られるちよ（機織りの横糸を通す道具）の可能性はある。325は方形・長形状に加工された板であり、箱の側板・蓋としての使用も考えられる。327-3・4は桜の樺である。これを加工し曲物、折敷等を留める道具として利用されていたものであろう。



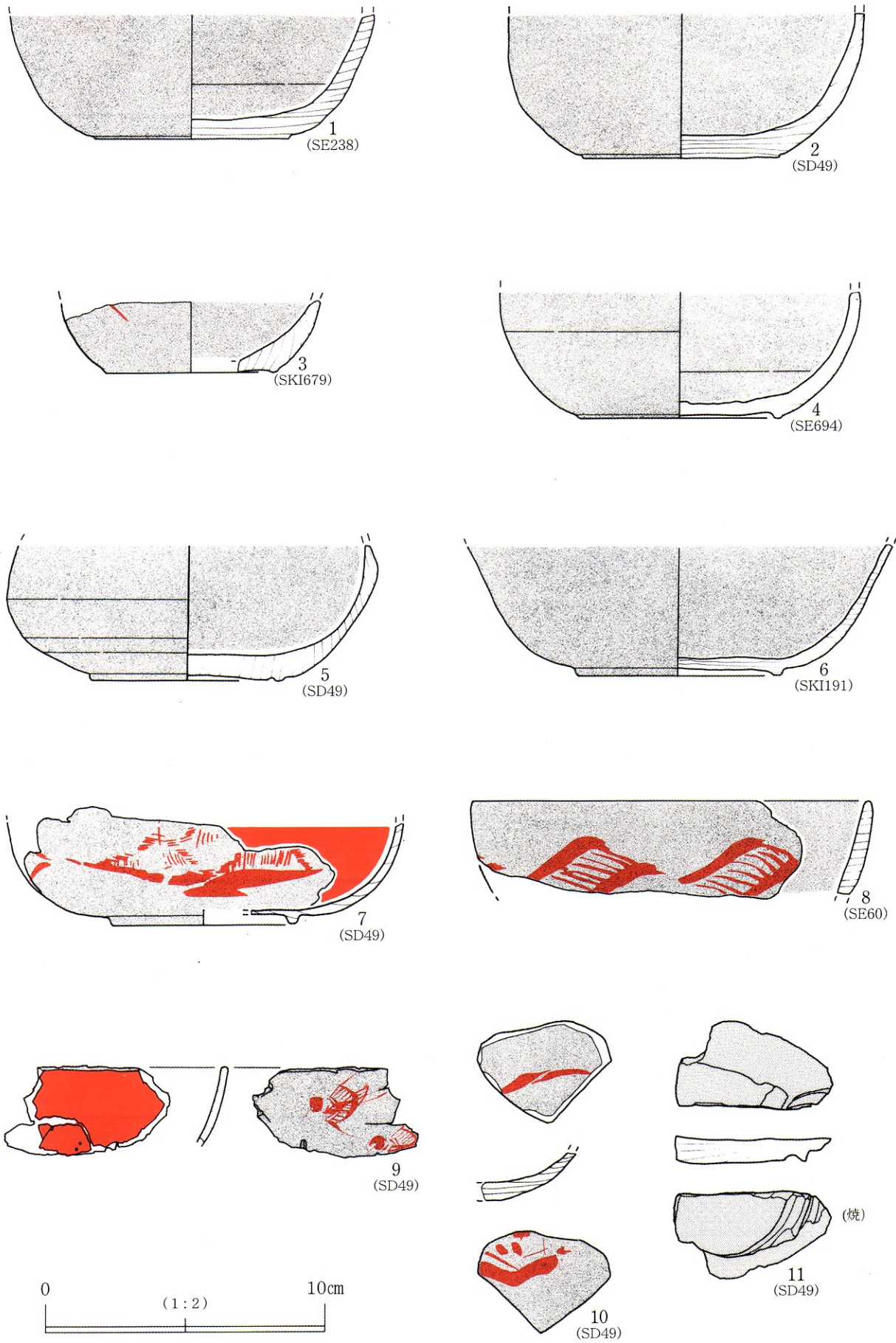
第273図 出土遺物 (23) 木製品：木簡等





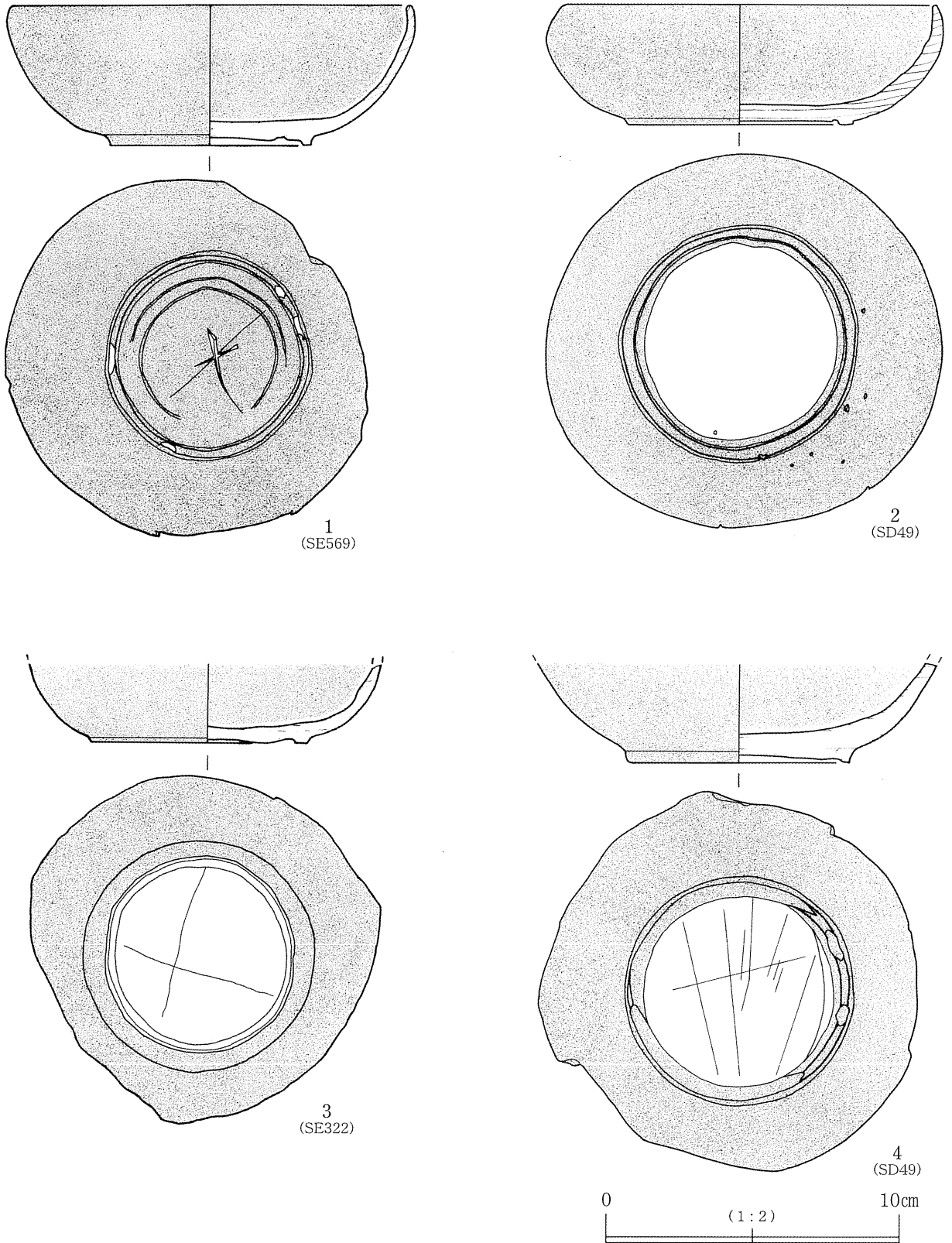
第274図 出土遺物 (24) 木製品：飲食器 (1) 漆塗り皿・蓋・椀 (1)

第5節 中世・近世の出土遺物

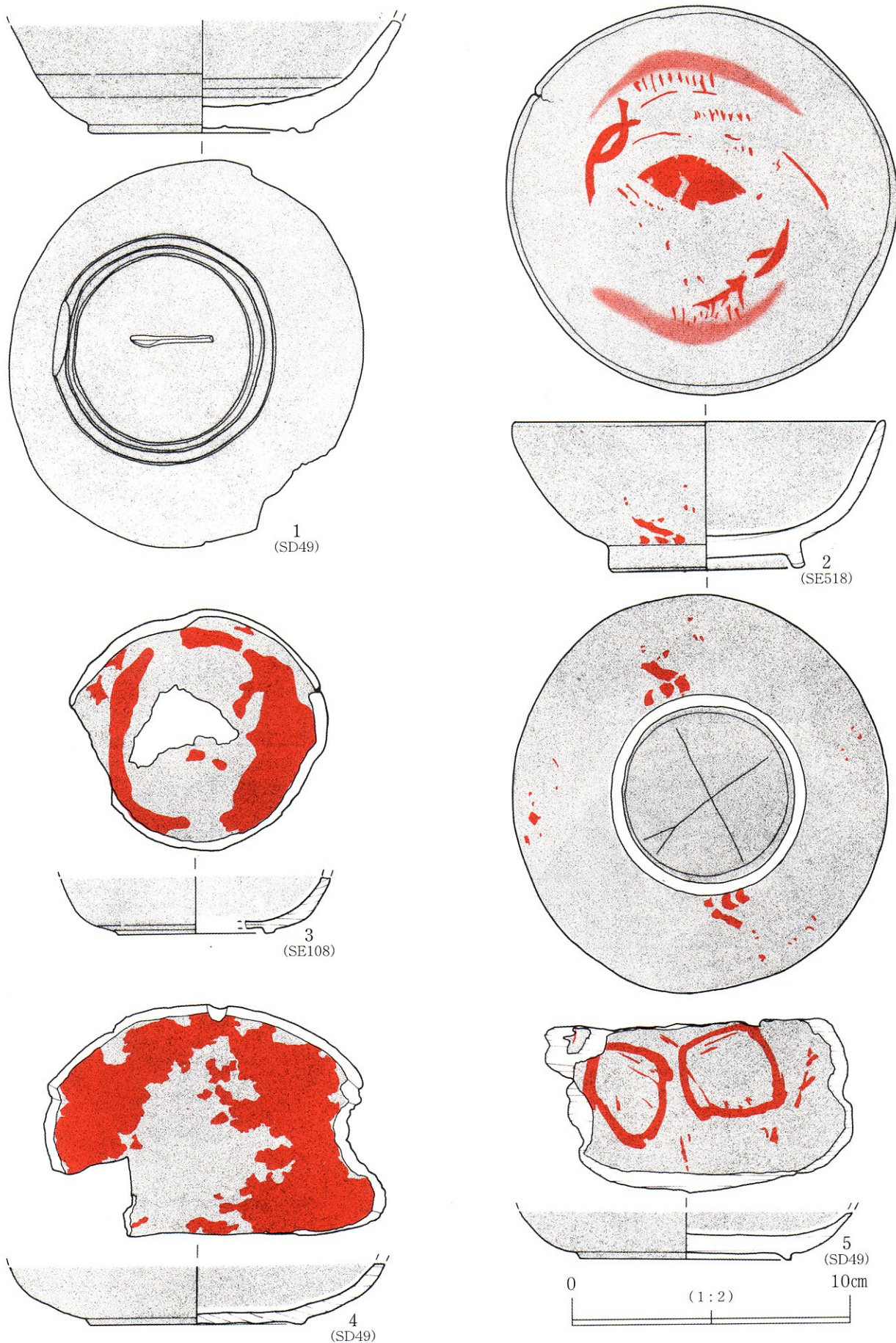


第275図 出土遺物 (25) 木製品：飲食器 (2) 漆塗り椀 (2)



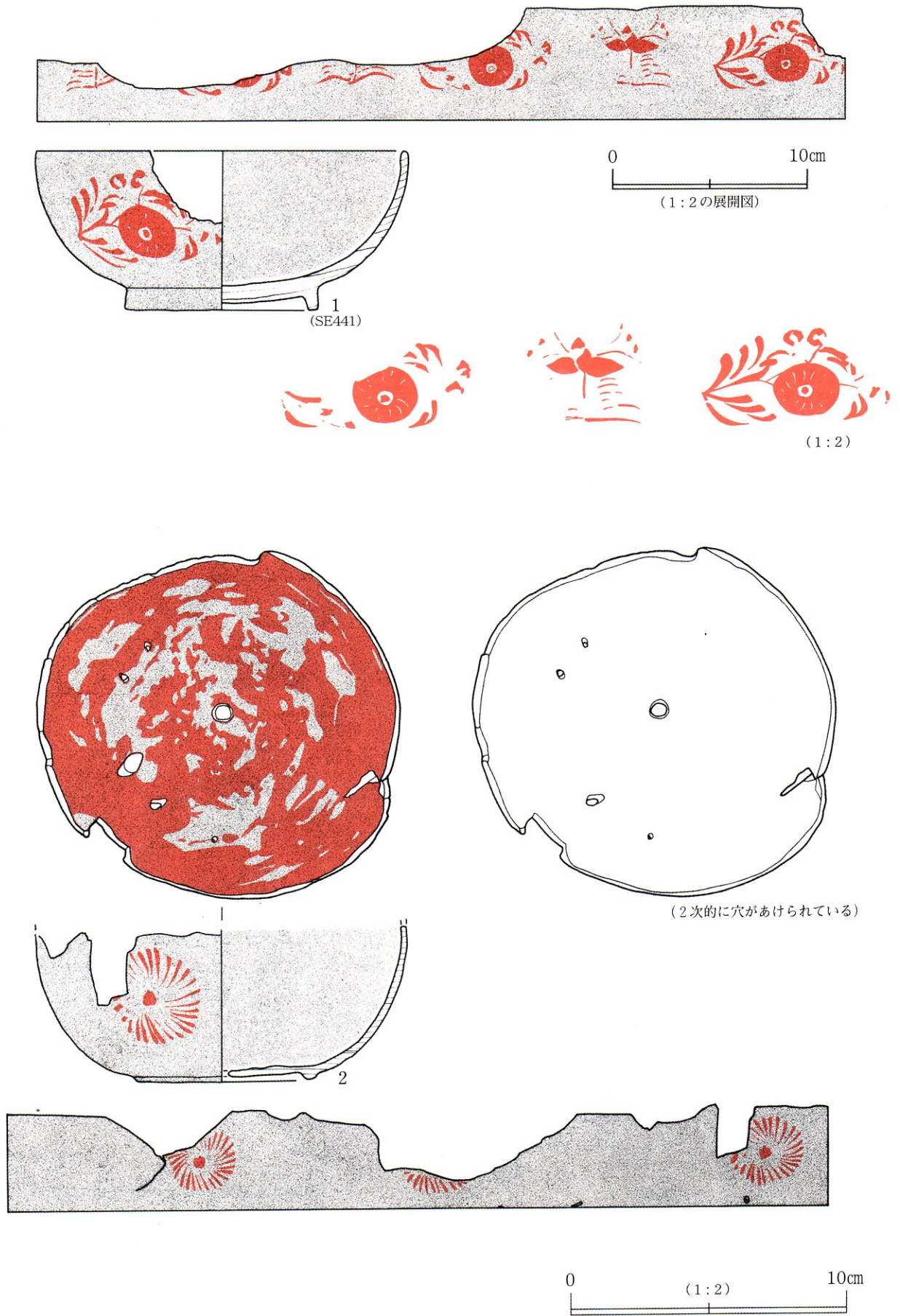


第276図 出土遺物(26) 木製品：飲食器(3) 漆塗り椀(3)



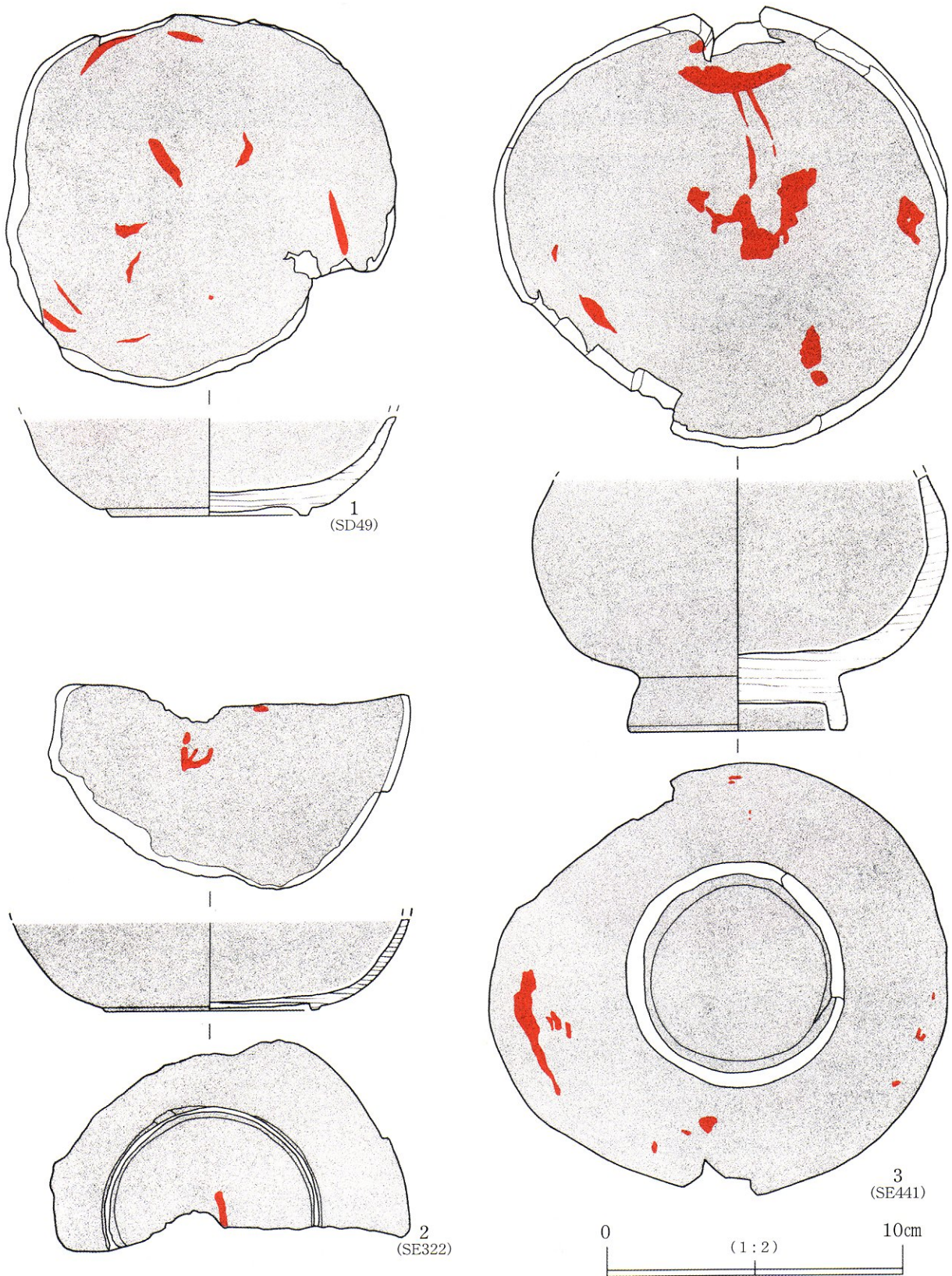
第277図 出土遺物 (27) 木製品：飲食器 (4) 漆塗り椀 (4)





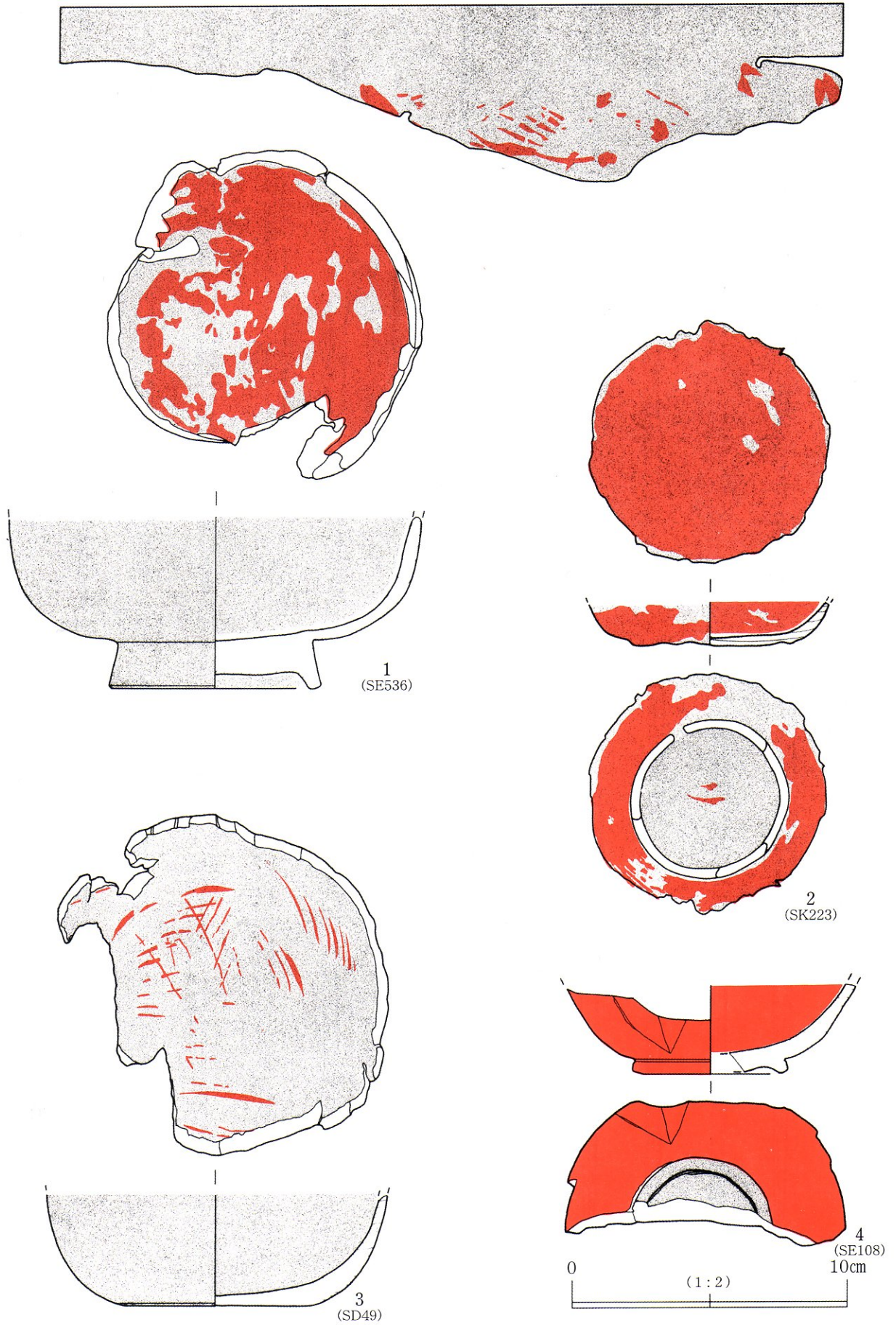
第278図 出土遺物 (28) 木製品：飲食器 (5) 漆塗り椀 (5)



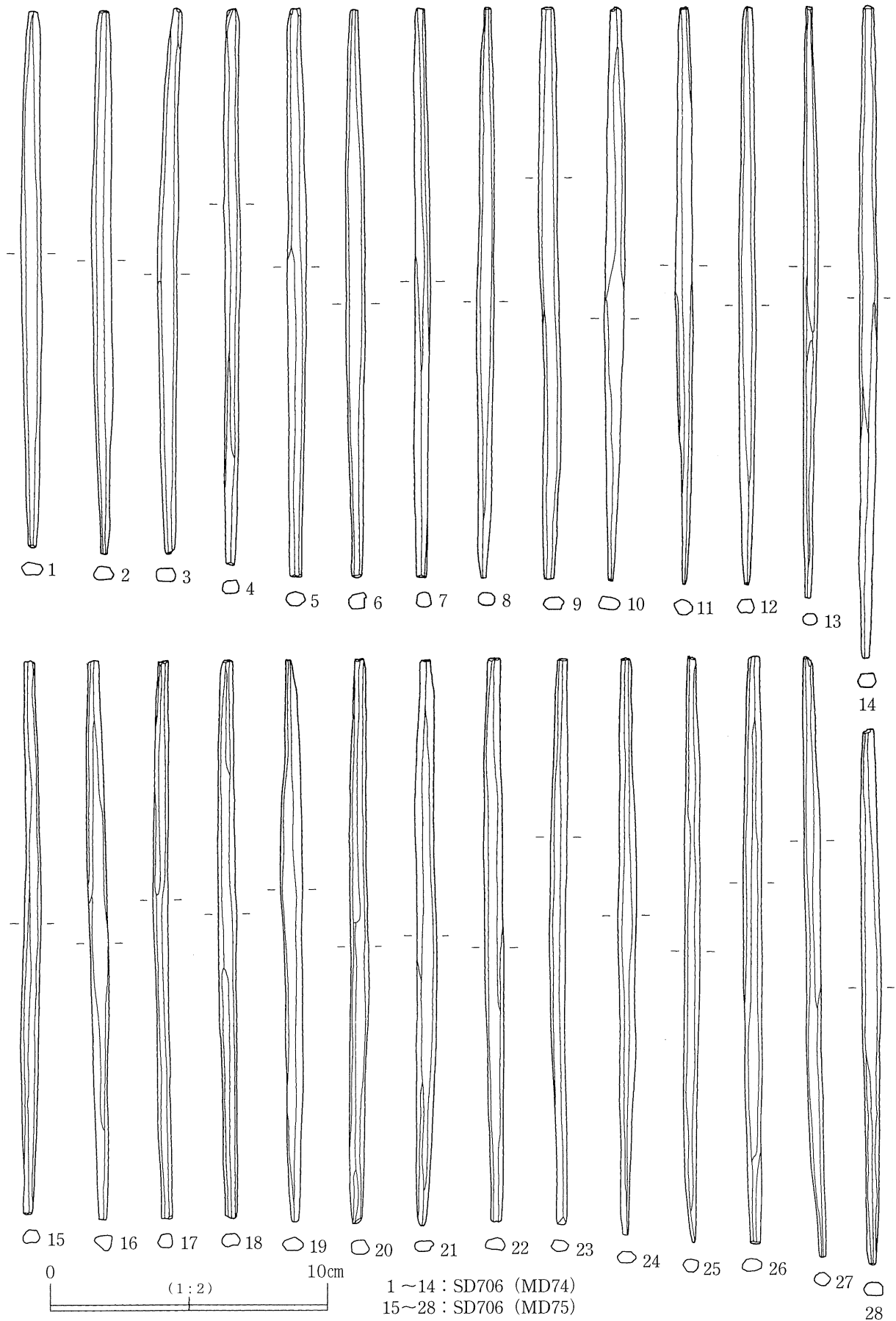


第279図 出土遺物 (29) 木製品：飲食器 (6) 漆塗り椀 (6)

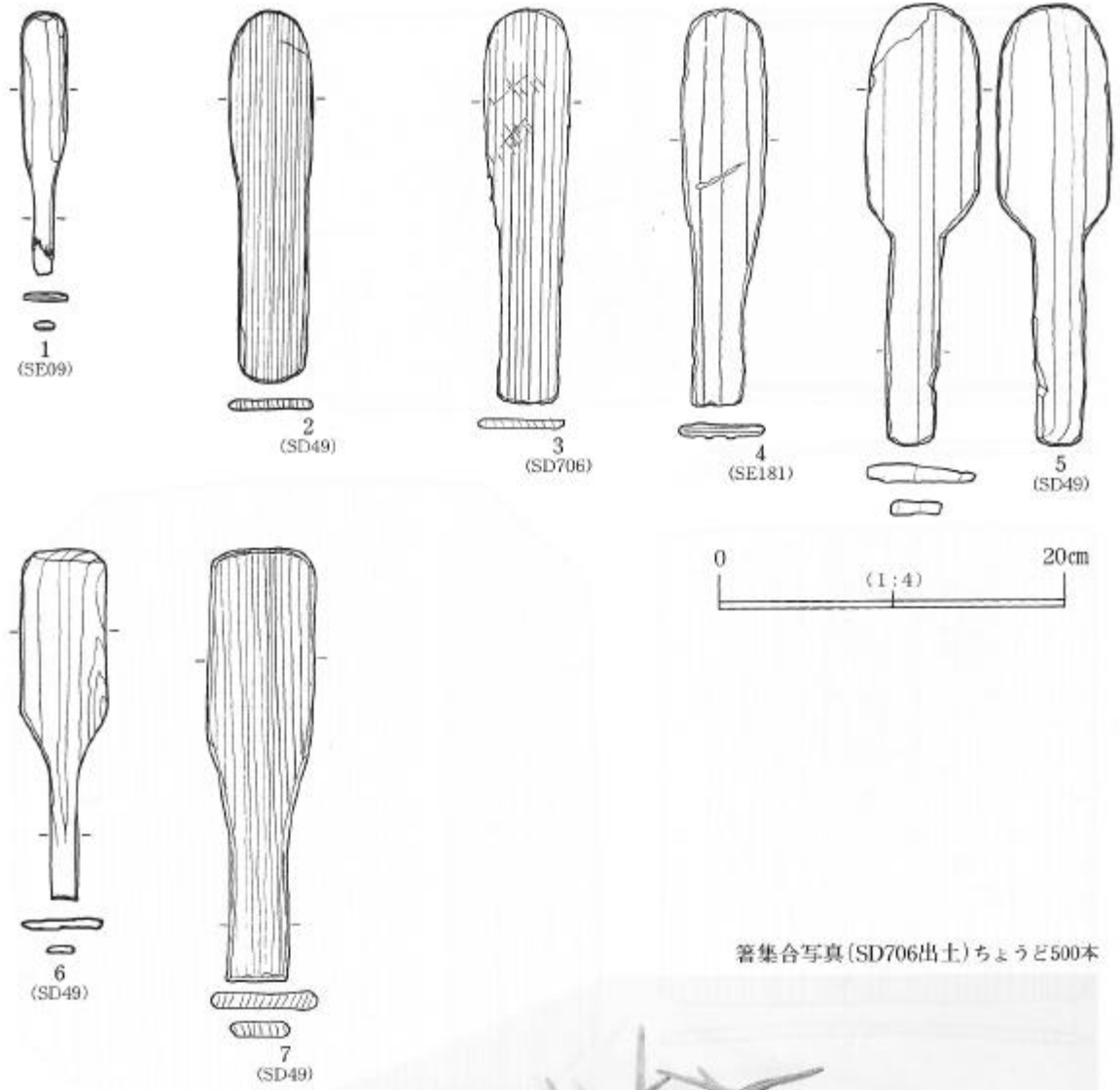




第280図 出土遺物 (30) 木製品：飲食器 (7) 漆塗り椀 (7)



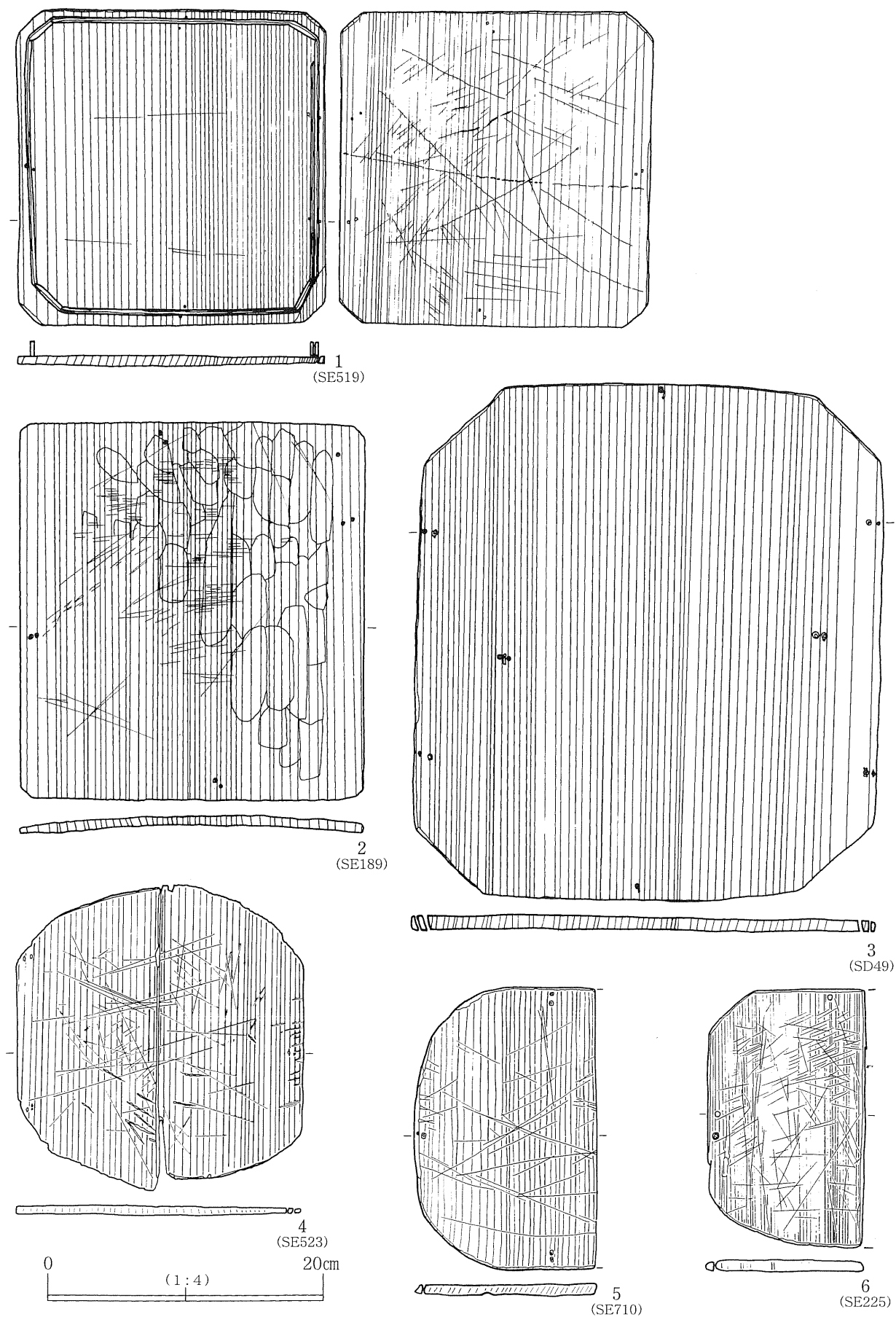
第281図 出土遺物 (31) 木製品：飲食器 (8) 箸



箸集合写真 (SD706出土) ちょうど500本



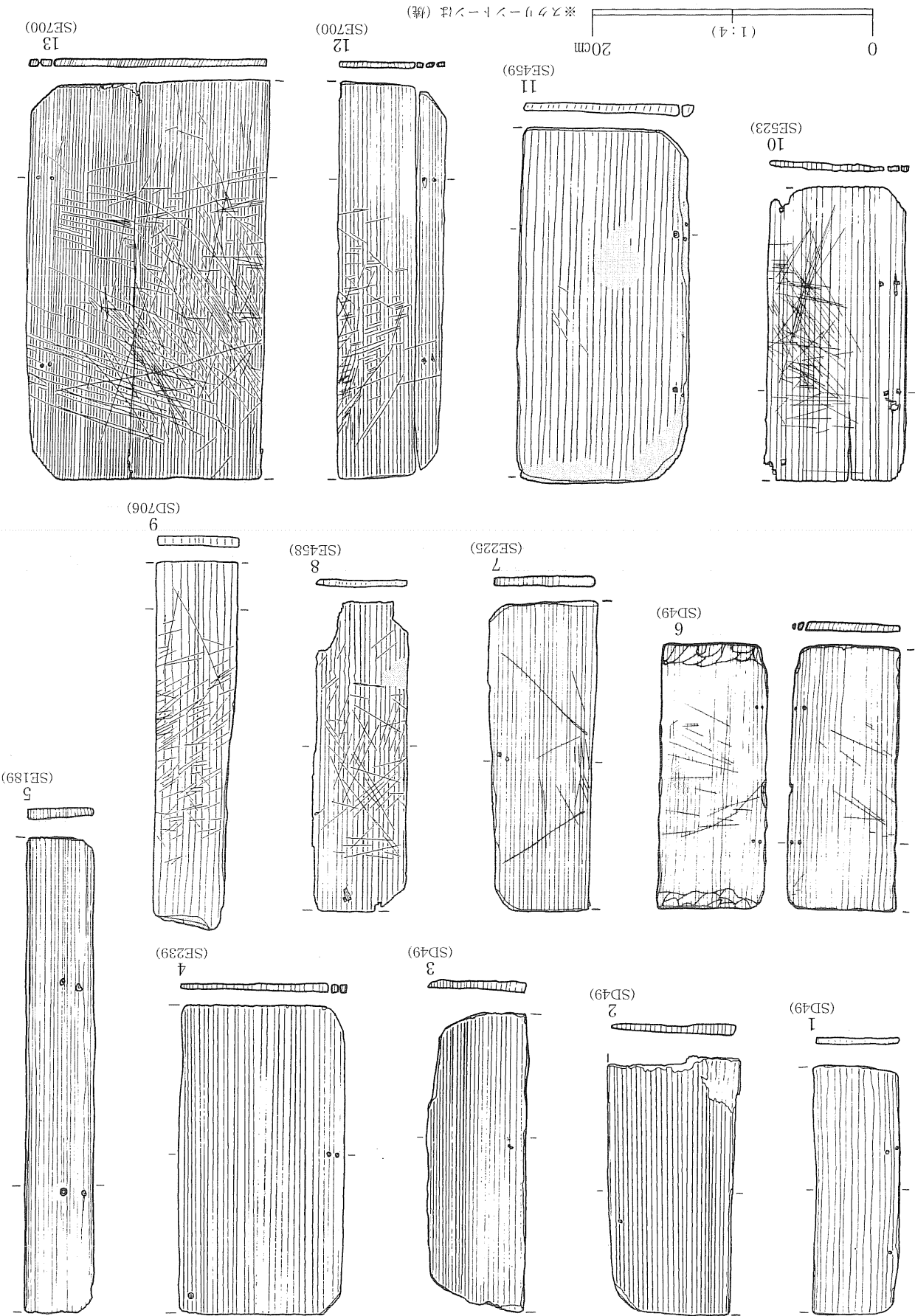
第282図 出土遺物 (32) 木製品：飲食器 (9) 板杓子

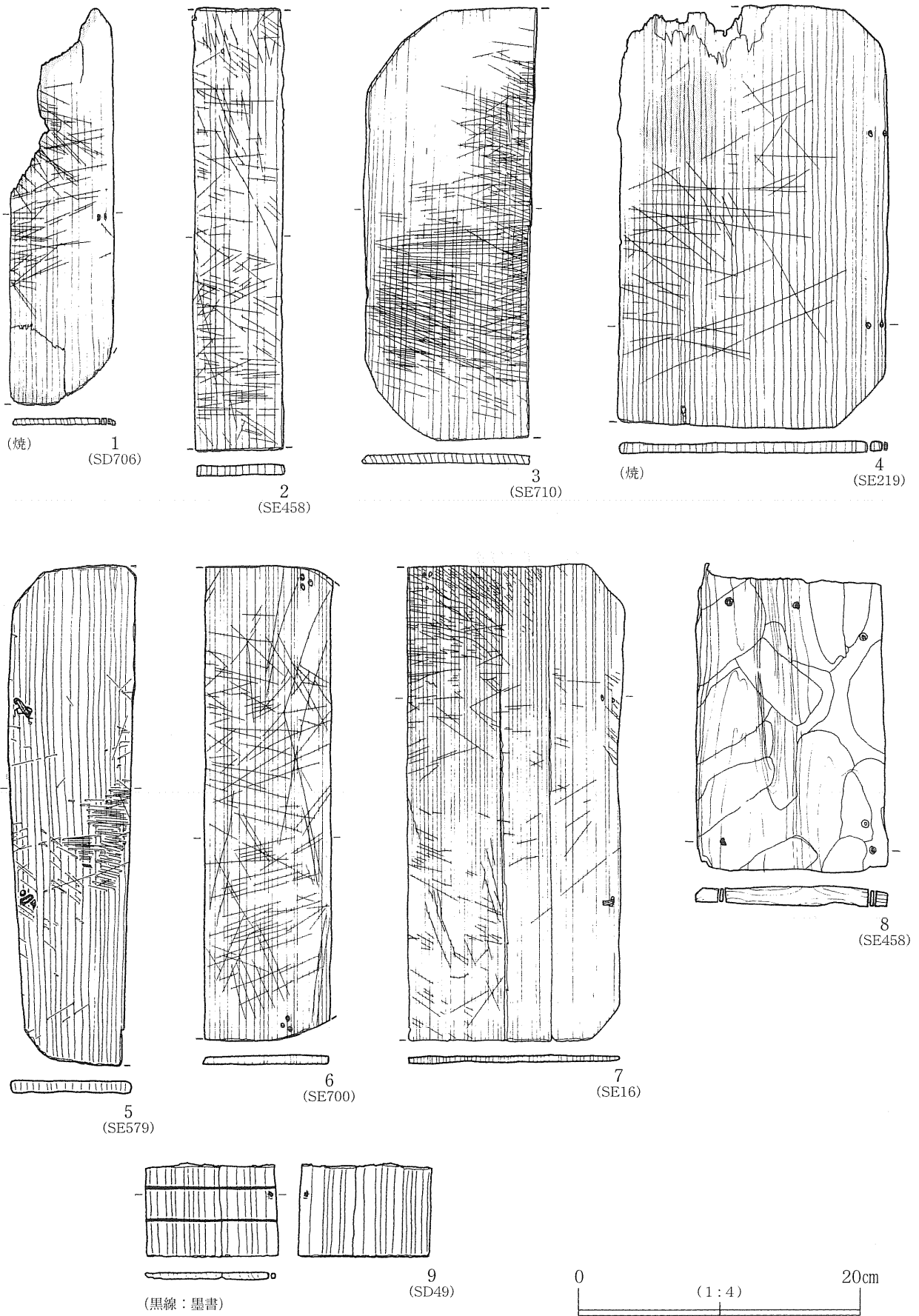


第283図 出土遺物 (33) 木製品：飲食器 (10) 折敷 (1)

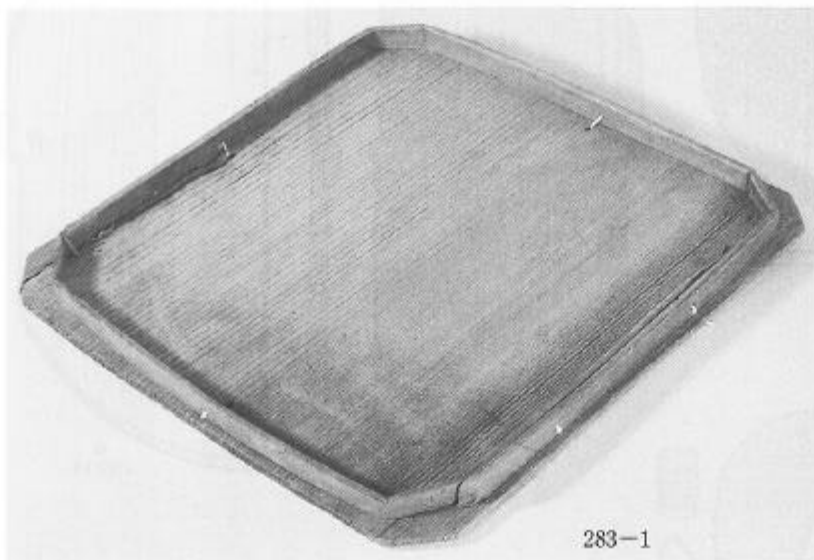
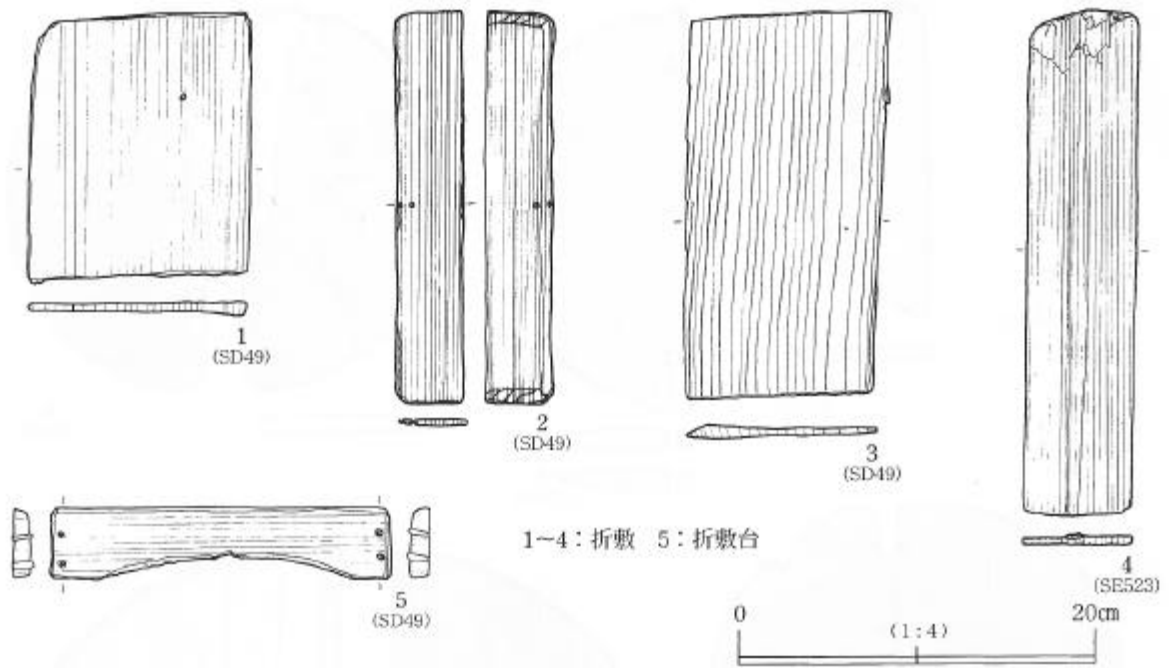


第284図 出土遺物 (34) 木製品：飲食器 (11) 折敷 (2)

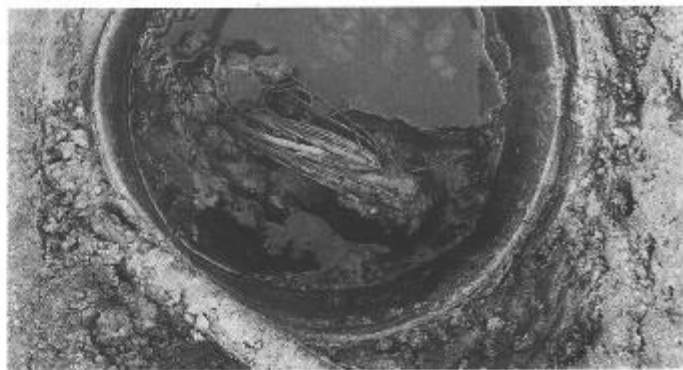




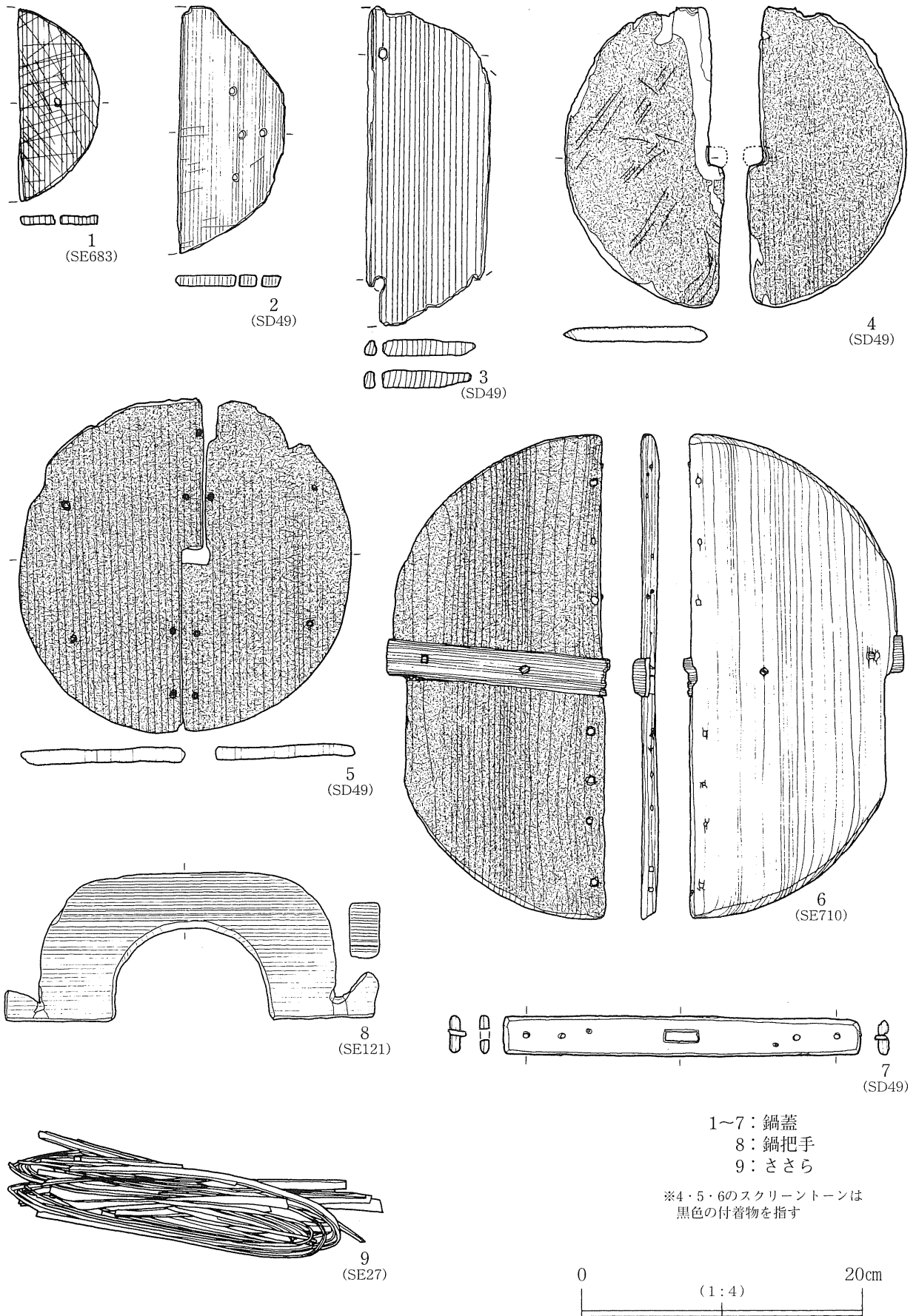
第285図 出土遺物 (35) 木製品：飲食器 (12) 折敷 (3)



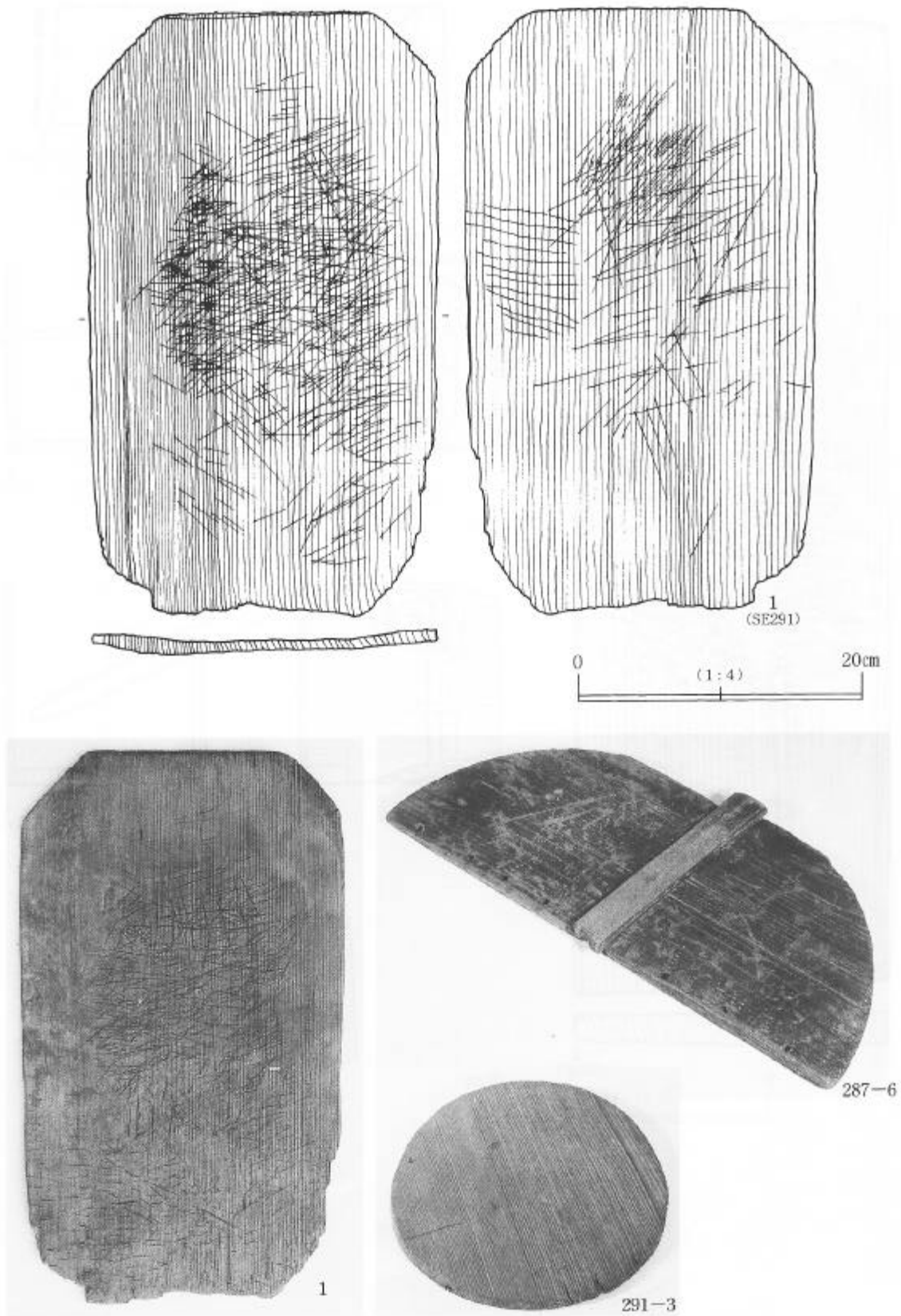
ささら(287-9)出土状況  
SE27 曲物内出土



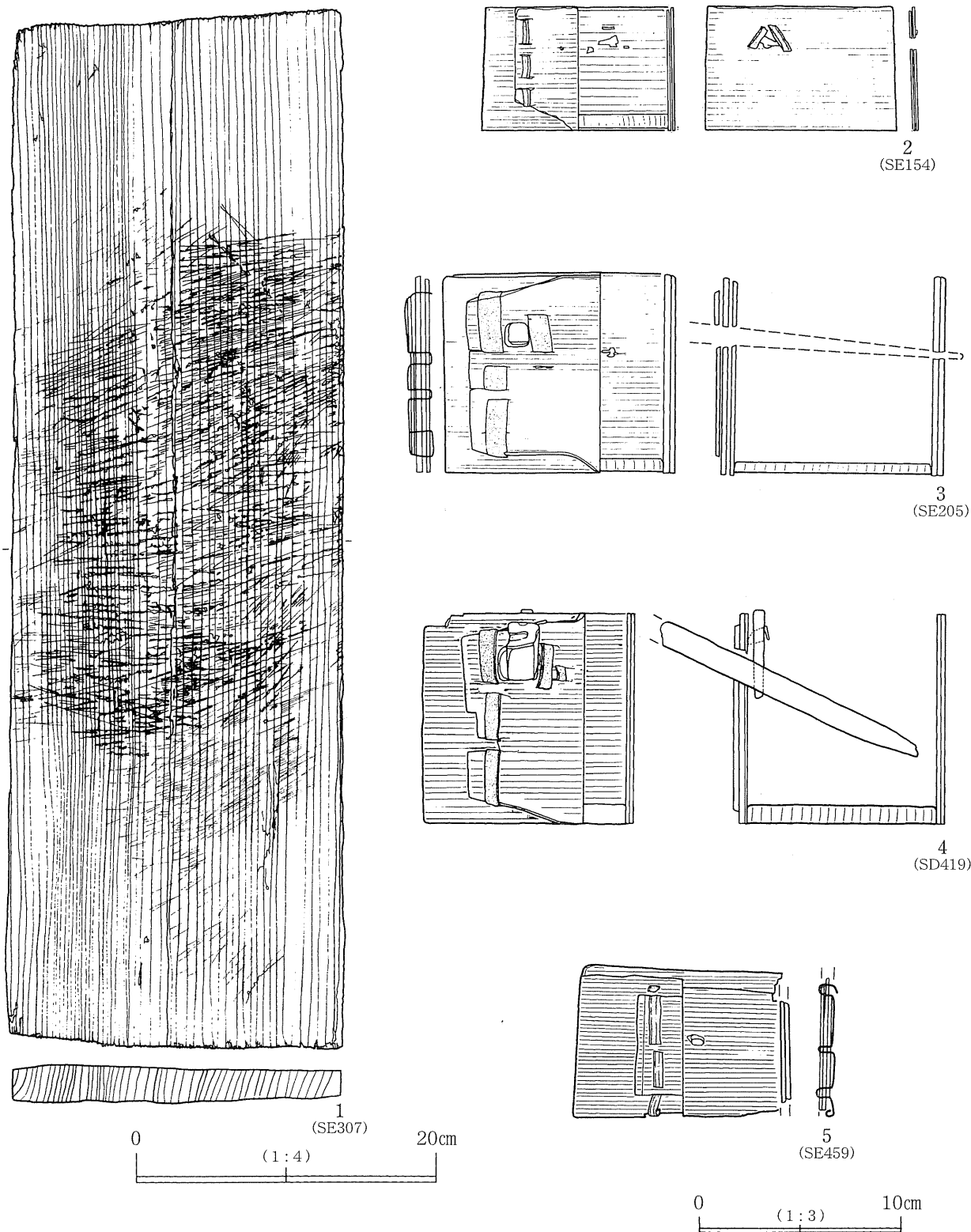
第286図 出土遺物(36) 木製品: 飲食器(13) 折敷(4)・折敷台



第287図 出土遺物 (37) 木製品：調理・炊事具 (1) 鍋蓋・鍋把手・ささら

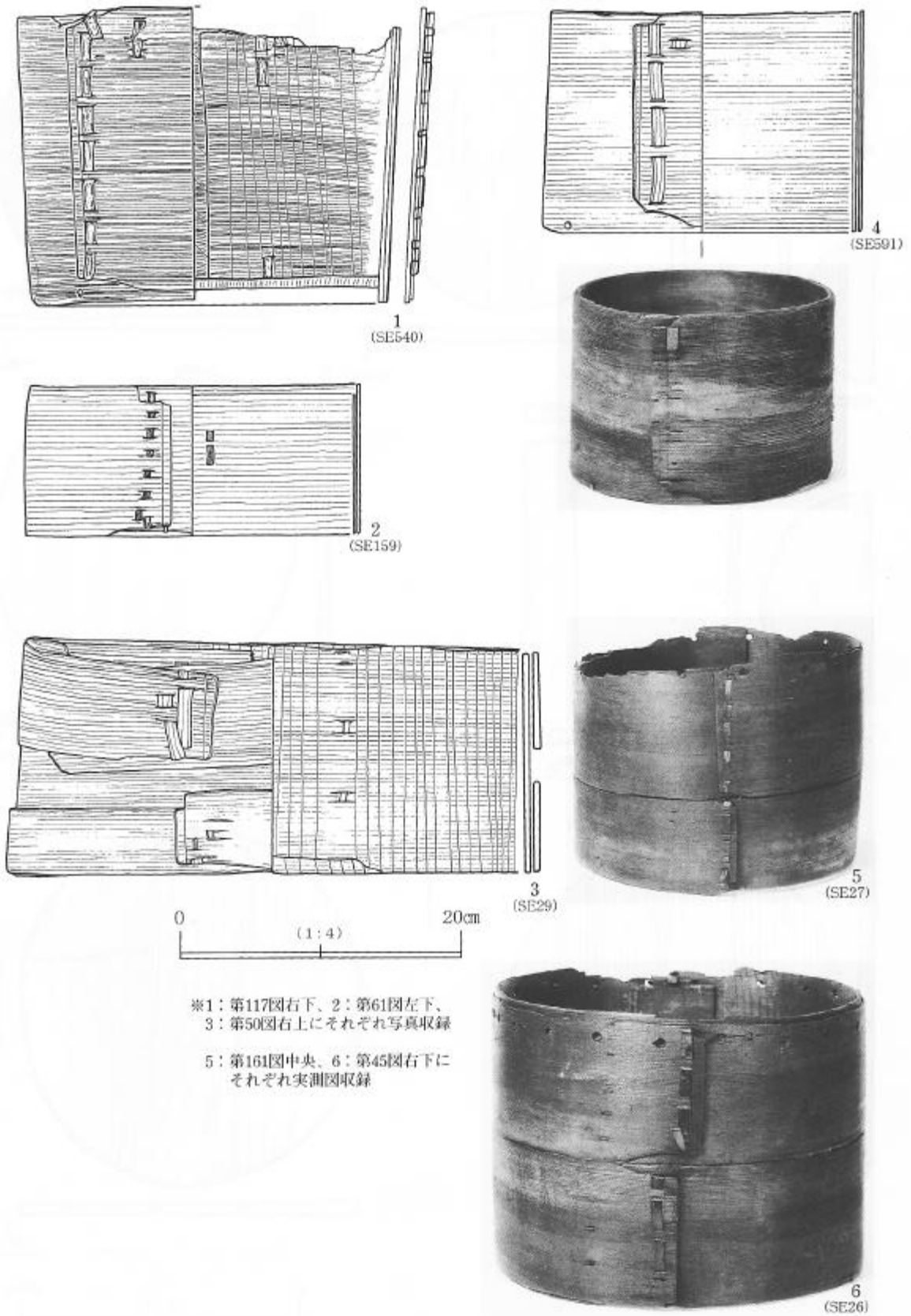


第288図 出土遺物 (38) 木製品：調理・炊事具 (2) 組板 (1)



1：俎板  
2～5：柄杓

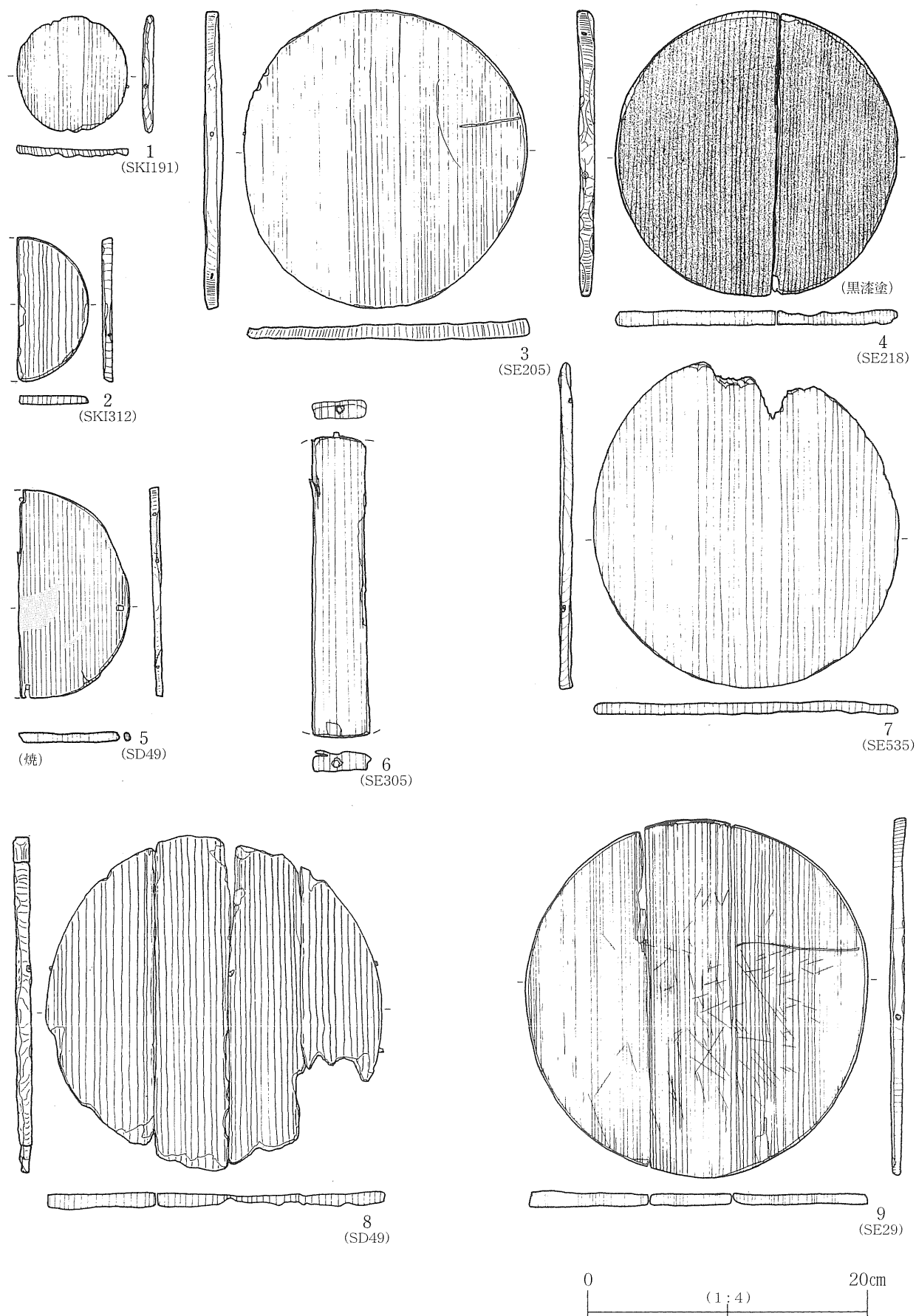
第289図 出土遺物 (39) 木製品：調理・炊事具 (3) 俎板 (2)・柄杓



※1：第117図右下、2：第61図左下、  
 3：第50図右上にそれぞれ写真収録  
 5：第161図中央、6：第45図右下に  
 それぞれ実測図収録

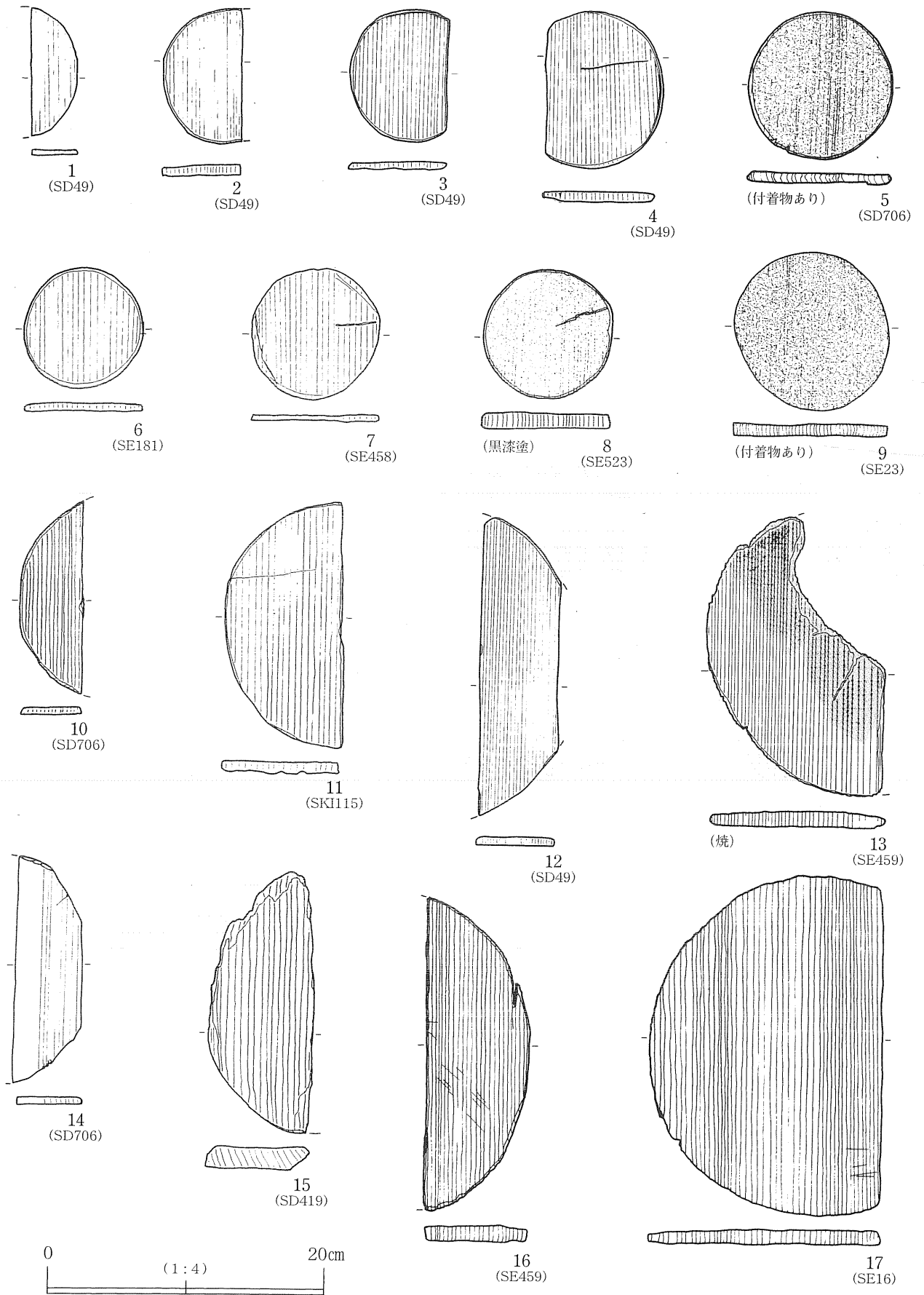
第290図 出土遺物 (40) 木製品：容器 (1) 曲物・曲物容器



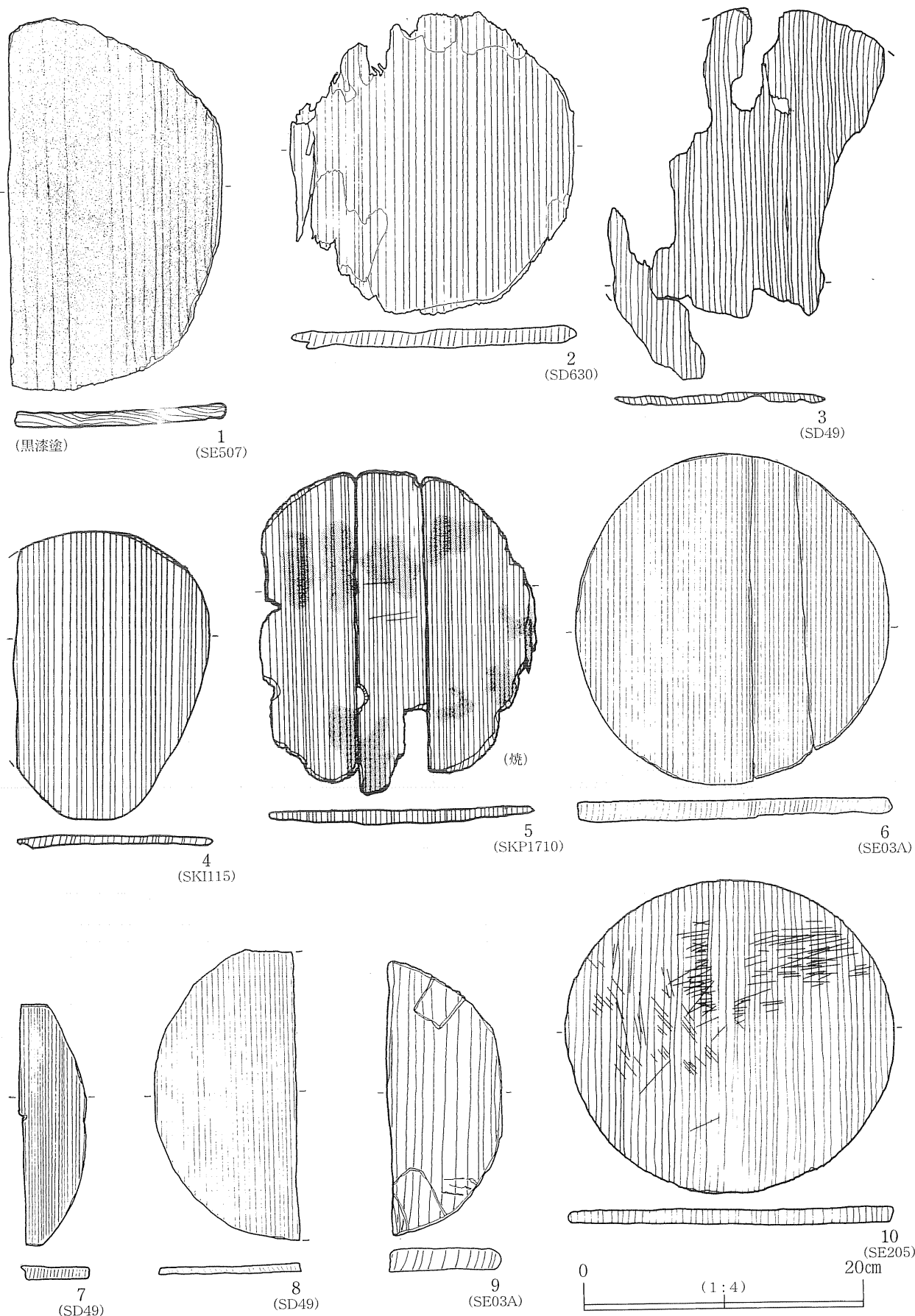


第291図 出土遺物 (41) 木製品：容器 (2) 曲物底板 (1)



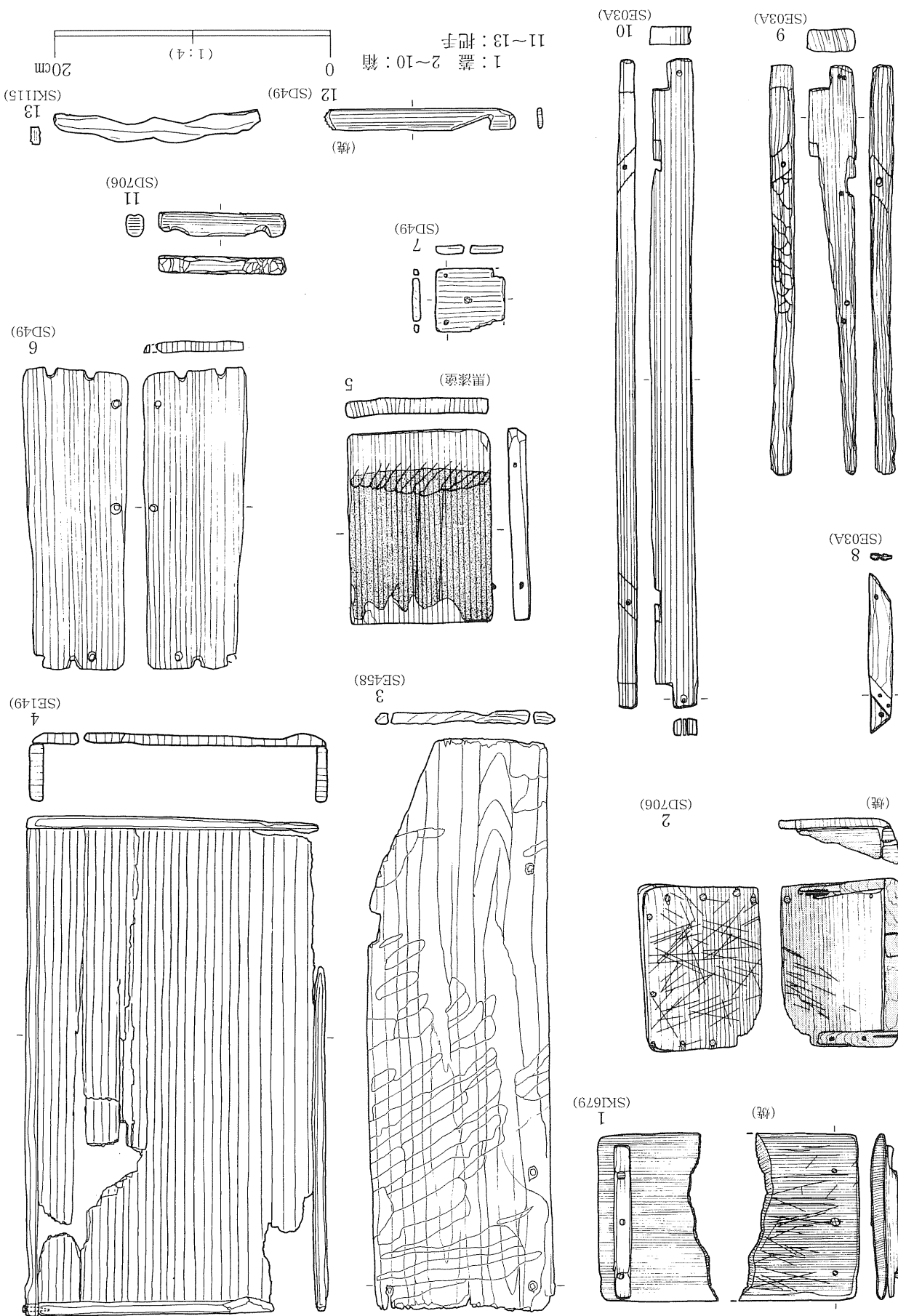


第292図 出土遺物 (42) 木製品：容器 (3) 曲物底板 (2)

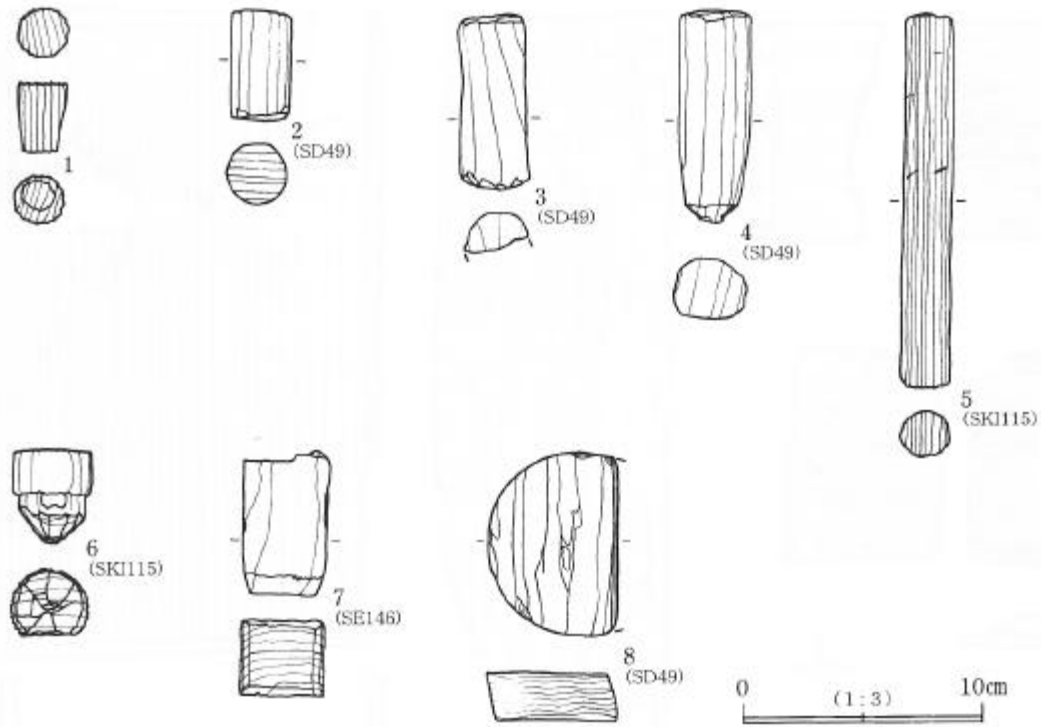


第293図 出土遺物 (43) 木製品：容器 (4) 曲物底板 (3)

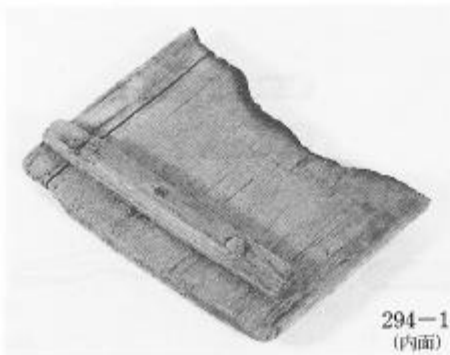
第294図 出土遺物 (44) 木製品：容器 (5) 蓋・箱・把手



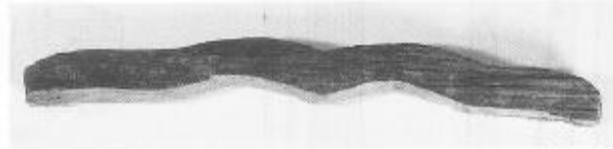
第5節 中世・近世の出土遺物



294-2  
(左：内面、右：外面)



294-1  
(内面)



294-13

第295図 出土遺物(45) 木製品：容器(6) 栓